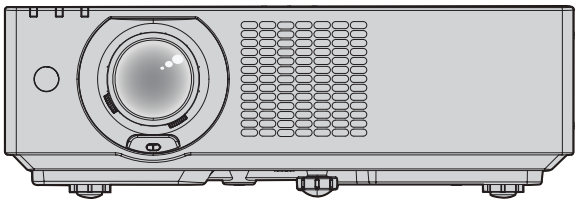
Panasonic

取扱説明書
詳細編

液晶プロジェクター　業務用

品番　PT-VMZ82J
PT-VMZ72J
PT-VMZ62J





このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- ■ 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ■ ご使用の前に“安全上のご注意”（☞ 5 ～ 8 ページ）を必ずお読みください。
- ■ 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
- ■ 製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体の製造番号をお確かめください。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

SOLID SHINE LASER

JAPANESE

W0225JZ3096 -PT
DPQP1557WA/X1

もくじ

安全上のご注意 5

第 1 章　はじめに

ご使用になる前に 13
製品の意図する使い方 13
本機の運搬について 13
本機の設置について 13
設置上のご注意 14
使用上のご注意 15
セキュリティーに関するお願い 16
無線 LAN に関するお願いとお知らせ 17
DIGITAL LINK について 17
本機が対応するアプリケーションソフトについて 18
保管について 18
廃棄について 18
本機の取り扱いについて 18
付属品の確認 20
別売品 20
各部の名称とはたらき 21
リモコン 21
本体 22
リモコンの準備 25
電池を入れる、取り出す 25
本機を複数台使用するときは 25

第 2 章　準備

設置する 27
使用可能なコンセント 27
設置形態 27
設置オプション（別売品）について 28
投写関係 28
接続する 32
接続の前に 32
映像機器との接続（例） 32
コンピューターとの接続（例） 33
DIGITAL LINK での接続（例） 34

第 3 章　基本的な使い方

電源を入れる / 切る 37
電源コードを接続する 37
電源インジケーターについて 37
電源を入れる 38
初期設定画面が表示されたら 38
管理者アカウント設定画面が表示されたら 41
調整・選択をする 42
電源を切る 43
投写する 44
投写する映像を選択する 44
フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する 45
アジャスター脚の調整 46
レンズシフト範囲について 46
USB メモリーを使う 47
使用上のお願い 47
本機で使える USB メモリー 47
USB メモリーを取り付ける 47
USB メモリーを取り外す 47
リモコンで操作する 48
シャッター機能を使う 48
消音機能を使う 48
音量を調整する 49
静止機能を使う 49
オンスクリーン表示機能を使う 49
オートセットアップ機能を使う 49
スクリーン補正機能を使う 50
デジタルズーム機能を使う 50
映像の縦横比を切り換える 51
プレゼンテーションタイマー機能を使う 51
ファンクションボタンを使う 52
内蔵テストパターンを表示する 52
ステータス機能を使う 52
ECO マネージメント機能を使う 53
HDMI CEC 機能を使う 53
リモコンの ID ナンバーを設定する 53

第 4 章　調整と設定

オンスクリーンメニューについて 56
メニュー画面の操作方法 56
メインメニュー 57
サブメニュー 57
[映像調整] メニューについて 60
[映像モード] 60
[コントラスト] 60
[明るさ] 60
[色の濃さ] 61
[色あい] 61
[シャープネス] 61
[色温度設定] 61
[ガンマ選択] 62
[アドバンスドメニュー] 62
[デイライトビュー] 62
[デジタルシネマリアリティー] 63
[ダイナミックコントラスト] 63
[RGB/YC_BC_R] / [RGB/YP_BP_R] 64

［RGB システム］ 64
［位置調整］ メニューについて 66
［リアルタイム台形補正］ 66
［スクリーン補正］ 66
［シフト］ 72
［ドットクロック］ 72
［クロックフェーズ］ 73
［オーバースキャン］ 73
［アスペクト］ 73
［フレームロック］ 74
［クランプ位置］ 74
［ズーム］ 74
［表示言語］ メニューについて 76
表示言語を切り換える 76
［表示オプション］ メニューについて 77
［オンスクリーン表示］ 77
［HDMI IN］ 78
［DIGITAL LINK IN］ 79
［スクリーン設定］ 79
［スタートアップロゴ］ 80
［シャッター設定］ 80
［オートセットアップ設定］ 80
［入力検出］ 81
［バックカラー］ 81
［プレゼンテーションタイマー］ 81
［ユニフォーミティー］ 82
［その他の機能］ 84
［プロジェクター設定］ メニューについて 86
［ステータス］ 86
［プロジェクター ID］ 87
［起動方法］ 87
［投写方式］ 88
［ECO マネージメント］ 88
［RS-232C］ 92
［レンズ遮蔽検知］ 93
［ファンクションボタン］ 94
［音声設定］ 94
［テストパターン］ 96
［フィルターカウンター］ 96
［スケジュール］ 97
［日付と時刻］ 99
［HDMI CEC］ 99
［ユーザーイメージ］ 102
［ユーザーアップデート］ 103
［データクローニング］ 103
［全設定初期化］ 103
［セキュリティー］ メニューについて 104
［パスワード設定］ 104
［パスワード変更］ 104
［テキスト設定］ 104
［テキスト変更］ 105
［操作設定］ 105
［操作設定パスワード変更］ 106
［ネットワーク］ メニューについて 107
［イーサネットタイプ］ 107
［DIGITAL LINK］ 107
［有線 LAN］ 109
［プロジェクター名］ 110
［ネットワークステータス］ 110
［管理者アカウント］ 111
［ネットワークセキュリティー］ 113
［ネットワークコントロール］ 114
［PJLink］ 114
［メモリービューワー］ 116
［初期化］ 117

第 5 章　機能の操作

MEMORY VIEWER 入力で表示する 120
メモリービューワー機能で投写できる画像 120
メモリービューワー画面を表示する 120
静止画を再生する 121
スライドショーを実行する 121
メモリービューワーを終了する 121
NETWORK 入力で表示する 122
使用できるアプリケーションソフト 122
端末を接続する 122
端末との接続を終了する 122
ネットワーク接続について 123
有線 LAN で接続する 123
無線 LAN で接続する 125
「Presenter Light ソフトウェア」について 129
Web 制御機能を使用する 130
設定に使用できるコンピューター 130
Web ブラウザーからのアクセスのしかた 130
Web 設定について 134
ダウンロード（Presenter Light ソフトウェアダウンロードページ） 144
Web 情報（ライセンスダウンロードページ） 145
［ホーム］ について 146
［ステータス］ について 149
［設置調整］ について 150
［ネットワーク調整］ について 154
データクローニング機能を使用する 166
LAN を経由して他のプロジェクターにデータをコピーする場合 166
USB を使用して他のプロジェクターにデータをコピーする場合 168
HDMI CEC 機能を使う 170
CEC 対応機器を接続する 170
本機と CEC 対応機器の設定 170

本機のリモコンで CEC 対応機器を操作する 170
電源連動の動作について 171
ファームウェアをアップデートする 172
LAN を経由してファームウェアをアップデートする場合 172
USB メモリーを使用してファームウェアをアップデートする場合 177

第 6 章　点検とお手入れ

光源 / 温度インジケーター 180
インジケーターが点灯したら 180
お手入れ / 部品交換 181
お手入れ / 部品交換の前に 181
お手入れ 181
部品交換 184
故障かな！？ 185
自己診断表示について 187

第 7 章　その他

付録 190
PJLink 機能を使用する 190
LAN 経由の制御コマンドについて 191
〈SERIAL IN〉端子について 194
〈COMPUTER IN〉端子のピン配列と信号名 197
仕様 198
外形寸法図 201
対応信号リスト 202
天つり金具取り付け時の注意事項 206
さくいん 208
保証とアフターサービス 210
保証書 210
補修用性能部品の保有期間 210
修理のご依頼について 210

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 警告

電源について

異常・故障時には直ちに使用を中止する


電源プラグを抜く

■ 異常があったときは、電源プラグを抜く
[内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき、落下などで外装ケースが破損したとき、煙や異臭、異音が発生したとき]
（そのまま使用すると、火災や感電の原因になったり、視力障害を引き起こす原因になったりします。）
⇒ 異常の際、電源プラグをすぐに抜けるように、コンセントを本機の近くに取り付けるか、配線用遮断装置を容易に手が届く位置に設置してください。
⇒ 本機を電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜く必要があります。
⇒ お買い上げの販売店にご相談ください。



■ 電源プラグ（コンセント側）や、電源コネクター（本体側）は、根元まで確実に差し込む
（差し込みが不完全であると、感電や発熱による火災の原因になります。）
⇒ 傷んだプラグやゆるんだコンセントのまま使用しないでください。

■ 電源プラグのほこりなどは、定期的にとる
（プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災や感電の原因になります。）
⇒ 半年に一度はプラグを抜いて、乾いた布で拭いてください。
⇒ 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。



■ 電源コード・プラグが破損するようなことはしない
[傷つける、加工する、高温部や熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど]
（傷んだまま使用すると、火災や感電、ショートの原因になります。）
⇒ 電源コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない
（たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。）

■ 付属の電源コード以外は使用しない
（付属以外の電源コードを使用すると、ショートや発熱により、感電・火災の原因になることがあります。また、付属の電源コードを使い、コンセント側でアースを取らないと感電の原因になります。）


ぬれ手禁止

■ ぬれた手で電源プラグや電源コネクターに触れない
（感電の原因になります。）

⚠ 警告（つづき）

電源について

接触禁止

■ **雷が鳴り出したら、本機や電源プラグには触れない**
（感電の原因になります。）

ご使用・設置について

■ **放熱を妨げない**
［布や紙などの上に置かない（吸気口に吸着することがあります）、風通しが悪く狭い所に押し込まない］
（内部が高温になり、火災の原因になることがあります。）
⇒ 吸排気を妨げないよう、周辺の壁やものから十分に離して設置してください。
⇒ 詳しくは、“設置上のご注意”（☞ 14 ページ）をご覧ください。

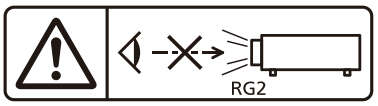
■ **カーペットやスポンジマットなどのやわらかい面の上で本機を使用しない**
（内部に熱がこもり、本機の故障、火災ややけどの原因になることがあります。）

■ **湿気やほこりの多い所、油煙や湯気が当たるような所に置かない**
（火災や感電の原因になることがあります。また、油により樹脂が劣化し、天井取り付け設置などの場合に落下するおそれがあります。）

■ **荷重に耐えられない場所や不安定な場所に設置しない**
（落下などによる本機の破損・変形や、大きな事故やけがの原因になります。）

■ **人が通る場所にプロジェクターを設置しない**
（ぶつかったり、電源コードに足を引っかけたりして、火災や感電、けがの原因になることがあります。）

■ **使用中は投写レンズを絶対にのぞかない**
■ **光学器具（ルーペや反射鏡など）を使用して、投写光束内に進入しない**
（投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因になります。）
⇒ 使用中に本機から離れる場合は、電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。



「本体に表示したマーク」

■ **投写レンズとスクリーンの間の投写範囲内に人がいるときは、投写を開始しない**
（プロジェクターの電源を入れる、またはシャッターを開けて投写を開始すると、投写範囲内にいる人の目に突然光が入り、目を傷めるおそれがあります。）
⇒ 離れた場所からこれらの操作を行う場合は、投写範囲内に人がいないことを確認してから行ってください。
⇒ 特にコマンドやアプリケーションソフトで遠隔制御する場合はご注意ください。

■ **内部に金属類や燃えやすいものなどを入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない**
（ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。）
⇒ 機器の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
⇒ 水などの液体が内部に入ったときは、販売店にご相談ください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。

⚠ 警告（つづき）

ご使用・設置について

分解禁止

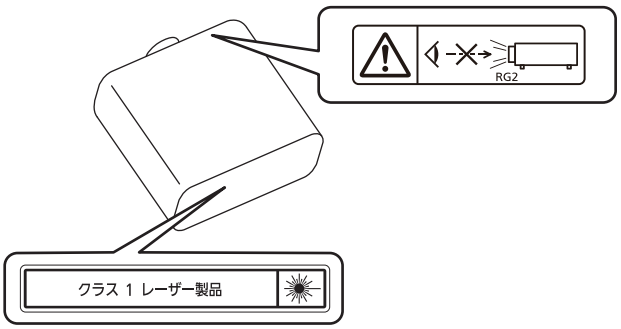
■ **分解や改造をしない**
（内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。また、使用機器の故障の原因になります。）
⇒ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。

⚠ 警告

感電のおそれあり
サービスマン以外の方は
ケースをあけないでください。
内部には高電圧部分が数多くあり、万一さわると危険です。

「本体に表示した事項」

（危険なレーザー放射にさらされる原因になることがあります。）
⇒ 本機はレーザーモジュールを内蔵しています。
取扱説明書に指定した手順で操作や調整を行ってください。



■ **天井取り付けなどの設置工事は、工事専門業者または販売店に依頼する**
（工事の不備により、落下事故の原因となります。）

■ **パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が指定した天つり金具を使用する**
（天つり金具の不備により、落下事故の原因となります。）
⇒ 天つり金具に付属のワイヤーで落下防止の処置を行ってください。

付属品・消耗品について

■ **電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない**
[液が目に入ったら目をこすらない]
（失明のおそれや、液が身体や衣服に付着した場合、皮膚の炎症やけがの原因になります。）
⇒ すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

■ **電池は誤った使い方をしない**
- **指定された電池以外は使用しない。**
- **乾電池は充電しない。**
- **加熱・分解したり水などの液体や火の中へ入れたりしない。**
- **＋と－を針金などで接続しない。**
- **＋と－を逆に入れない。**
- **ネックレスやヘアピンなど金具が使用されているものと一緒に持ち運んだり保管したりしない。**
- **新旧の電池や違う種類の電池を混ぜて使わない。**
- **被覆のはがれた電池は使わない。（電池には安全のために被覆がかぶせてあります。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。）**

（液漏れ・発熱・破裂・発火の原因になります。）

■ **付属の乾電池は、乳幼児の手の届く所に置かない**
（誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。）
⇒ 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

■ **使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す**
（そのまま機器の中に放置すると、電池の液漏れや、発熱・破裂の原因になります。）

⚠ 注意

電源について

電源プラグを抜く

■ **長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く**
（電源プラグにほこりがたまり、火災・感電の原因になることがあります。）

■ **お手入れ、部品交換の際は、電源プラグをコンセントから抜く**
（感電の原因になることがあります。）

■ **電源コードを取り外すときは、必ず電源プラグ（コンセント側）や、電源コネクター（本体側）を持って抜く**
（コードを引っ張るとコードが破損し、感電、ショートによる火災の原因になることがあります。）

ご使用・設置について

■ **本機の上に重いものを載せたり、乗ったりしない**
（バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。また、本機の破損や変形の原因になることがあります。）

■ **異常に温度が高くなる所に置かない**
（外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。）
⇒ 直射日光の当たる所や、熱器具などの近くには、設置・保管をしないでください。

■ **塩害が発生する所、腐食性ガスが発生する所に設置しない**
（腐食による落下の原因になることがあります。また、本機の故障の原因になることがあります。）

■ **使用中は投写レンズの前に立たない**
（投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前に立つと衣服を傷めたり、やけどの原因になることがあります。）

■ **使用中は投写レンズの前にものを置かない**
■ **投写レンズの前にものを置いて遮光しない**
（投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前にものを置くと、火災やものの破損、本機の故障の原因になることがあります。）



「本体に表示したマーク」

■ **〈AUDIO OUT〉端子には、ヘッドホンやイヤホンを接続しない**
（ヘッドホンやイヤホンからの過剰な音圧により、難聴の原因になることがあります。）

■ **移動させる場合は、必ず接続線を外す**
（コードの破損などにより、火災や感電の原因になることがあります。）

■ **天つり設置する場合は、取り付けねじや電源コードが天井内部の金属部と接触しないように設置する**
（天井内部の金属部と接触して、感電の原因になることがあります。）

付属品・消耗品について

■ **長期間使用しない場合は、リモコンから電池を取り出す**
（電池の液漏れ、発熱、発火、破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。）

お手入れについて

■ **エアフィルターユニットは、ぬれたまま本体に取り付けない**
（感電や故障の原因になります。）
⇒ エアフィルターユニットを洗浄したあとは、十分に乾燥させてから取り付けてください。

■ **使用時間 20 000 時間ごとを目安に、内部の清掃を販売店に依頼する**
（本機の内部にほこりがたまったままで使用を続けると、火災の原因になることがあります。）
⇒ 特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。
⇒ 内部清掃費用については販売店にご相談ください。

■商標などについて

- SOLID SHINE はパナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社の商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。
- PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。
- Crestron Connected、Crestron Connected ロゴ、Crestron Fusion、XiO Cloud は、Crestron Electronics, Inc. の、米国および / または各国での商標または登録商標です。
- HDBaseT™ は HDBaseT Alliance の商標です。
- Windows、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac、macOS、iPadOS、iPad、iPhone、iPod touch、Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- IOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Android および Google Chrome は Google LLC の商標です。
- QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。
- Adobe、Acrobat および Adobe Reader は Adobe の商標です。
- オンスクリーンメニューに使用しているフォントの一部は、株式会社リコーが製作･販売した、リコービットマップフォントです。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。
  なお、本文中では ® や ™ マークは明記していません。

■当製品に関するソフトウェア情報

本製品は、以下の種類のソフトウェアから構成されています。

（1）パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が独自に開発したソフトウェア

（2）第三者が保有しており、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社にライセンスされたソフトウェア

（3）Crestron 社が保有しており、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社にライセンスされた Crestron Connected ソフトウェア（Crestron XiO Cloud Service に対応）

（4）GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.0（GPL V2.0）に基づきライセンスされたソフトウェア

（5）GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.1（LGPL V2.1）に基づきライセンスされたソフトウェア

（6）GPL V2.0、LGPL V2.1 以外の条件に基づきライセンスされたオープンソースソフトウェア

上記（4）～（6）に分類されるソフトウェアは、これら単体で有用であることを期待して頒布されますが、「商品性」または「特定の目的についての適合性」についての黙示の保証をしないことを含め、一切の保証はなされません。

詳細は、各オープンソースソフトウェアのライセンス条件をご参照ください。

オープンソースソフトウェアライセンスは本製品のファームウェアに格納されており、Web ブラウザーを使用して本機にアクセスすることでダウンロードできます。詳しくは“Web 制御機能を使用する”（☞ 130 ページ）をご覧ください。

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社は、本製品の発売から少なくとも 3 年間、以下の問い合わせ窓口にご連絡いただいた方に対し、実費にて、GPL V2.0、LGPL V2.1、またはソースコードの開示義務を課すその他の条件に基づきライセンスされたソフトウェアに対応する完全かつ機械読取り可能なソースコードを、それぞれの著作権者の情報と併せて提供します。

問い合わせ窓口（E メール）：**oss-cd-request@gg.jp.panasonic.com**

「Presenter Light」は下記のソフトウェアを使用します。

A portion of this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

■本書内のイラストについて

- プロジェクター本体、メニュー画面（OSD）などのイラストは、実際とは異なることがあります。
- ご使用のコンピューターの機種、OS や Web ブラウザーの種類によって、実際にコンピューターの画面に表示されるものとは異なることがあります。

■参照ページについて

- 本書では、参照ページを（☞ 00 ページ）のように示しています。

■用語について

- 本書では付属品の「ワイヤレスリモコン」を「リモコン」と記載しています。
- 同じ機能を搭載するボタンの名称は、リモコンとコントロールパネルで異なることがあります。本書のメニュー画面の操作手順では、リモコンの操作を基本として記載しています。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

JIS C 61000-3-2 適合品
本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

本機は、IEC 60825-1:2014 に適合したクラス 1 レーザー製品です。



これらのシンボルマークは、ヨーロッパ連合（EU）をはじめとするリサイクルシステムを備えた国にのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。



本機の特長

柔軟な設置性

▶ 軽量コンパクト設計で高輝度 *1 出力を実現

▶ ワイドアスペクト（21：9）対応で多彩な空間に対応

▶ 次世代 Crestron Connected 対応でシステムの互換性が向上

▶ 1.6 倍ズームレンズ、水平 / 垂直レンズシフト機能に加え、デジタルズーム拡張機能と 6 点補正機能を搭載。限られたスペースでの設置だけでなく、従来よりも遠距離からの投写、コーナーへの投写などにも対応します。

*1 PT-VMZ82J の場合は 8 000 lm で約 7.4 kg です。
PT-VMZ72J の場合は 7 300 lm で約 7.0 kg です。
PT-VMZ62J の場合は 6 500 lm で約 6.9 kg です。

簡単な設置&使用

▶ グリッド補正対応で画面のゆがみの微調整も便利

▶ LAN または USB 経由でのデータクローン機能により、設置の手間を軽減

▶ ユーザーが USB 経由でファームウェアアップデート実施可能

▶ スケジュール、オートパワーオンなどの新機能搭載で毎日未使用時のコストの無駄を抑える

環境に配慮した商品設計

▶ 高効率光学設計と、新機能［映像連動］をはじめとする複数の機能で消費電力を抑える

▶ エコ部材採用し、環境への影響を最小限に抑える

投写するまでの手順

詳しくは各ページをご覧ください。

1. 本機を設置する
（☞ 27 ページ）

2. 本機と外部機器を接続する
（☞ 32 ページ）

3. 電源コードを接続する
（☞ 37 ページ）

4. 電源を入れる
（☞ 38 ページ）

5. 初期設定をする
（☞ 38 ページ）
- 本機をご購入後、初めて電源を入れてご使用になる場合に行う手順です。

6. 投写する映像を選択する
（☞ 44 ページ）

7. 映像の映り具合を調整する
（☞ 45 ページ）

第 1 章 はじめに

ご使用の前に知っておいていただきたい内容やご確認いただきたい内容について説明しています。

ご使用になる前に

製品の意図する使い方

本機は、映像機器やコンピューターからの映像信号を、静止画や動画としてスクリーンなどに投写することを目的としています。

本機の運搬について

- 運搬の際は、本機の底面を持つようにし、過度の振動や衝撃を加えないようにお取り扱いください。内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- アジャスター脚を伸ばした状態で運搬しないでください。アジャスター脚が破損するおそれがあります。
- 別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を装着した状態で本機を移動したり運搬したりしないでください。ワイヤレスモジュールが破損するおそれがあります。

本機の設置について

■屋外に設置しないでください

本機は室内でご使用ください。

■以下の場所には設置しないでください

- 車両・船舶など、振動や衝撃が加わる場所：内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- 海の近くや腐食性ガスが発生する場所：腐食により製品が落下するおそれがあります。また、部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になることがあります。
- エアコンの吹き出し口の近く：使用環境によっては、排気口からの熱せられた空気や、空調からの温風・冷風の影響で、まれに画面に「ゆらぎ」が発生することがあります。本機の前面に自機、あるいは他機の排気や、空調からの風が回り込むような設置がないように注意してください。
- 照明器具（スタジオ用ランプなど）の近くなどの温度変化が激しい場所：光源の寿命などに影響を及ぼすおそれや、熱により本体が変形し、故障の原因になることがあります。
  本機の使用環境温度をお守りください。
- 高圧電線や動力源の近く：妨害を受けることがあります。

■天井取り付けなどの設置工事は、必ず工事専門業者、または販売店にご依頼ください

本機を天つり設置する場合や、高所へ設置する場合は、性能、安全確保のため、工事専門業者またはお求めの販売店に施工を依頼してください。

■DIGITAL LINK 接続用のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください

工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像や音声が途切れたり乱れたりする原因となります。

■放送局や無線機からの強い電波により、正常に動作しないことがあります

近くに強い電波を発生する設備や機器がある場合は、それらの機器から十分に離して設置してください。または、両端で接地された金属箔あるいは金属配管で〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している LAN ケーブルを覆ってください。

■設置後の映像調整について

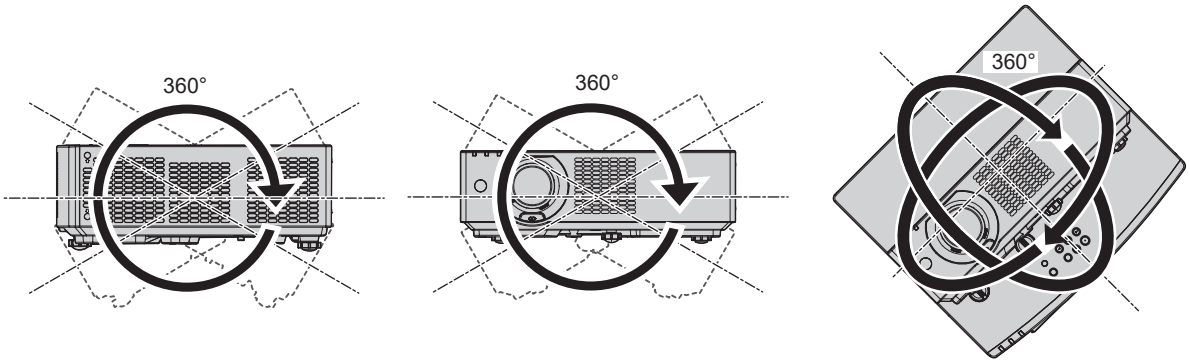
プロジェクターの投写映像は、本機周囲の温度や、光源からの光による内部温度上昇の影響など受け、特に投写開始直後は安定しません。フォーカスの調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。

■海抜 2 700 m 以上の場所に設置しないでください

■周囲温度が 45 ℃を超える場所で使用しないでください

本機を使用する場所の海抜高度が高すぎたり、周囲温度が高すぎたりすると、部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になることがあります。
ただし、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けている場合は、周囲温度が 40 ℃を超える場所で使用しないでください。

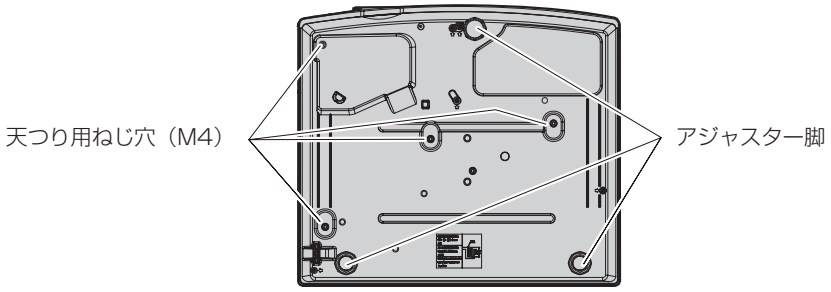
■360˚全方位への投写が可能です



垂直 360˚　　水平 360˚　　傾斜 360˚
（垂直と水平の組み合わせ）

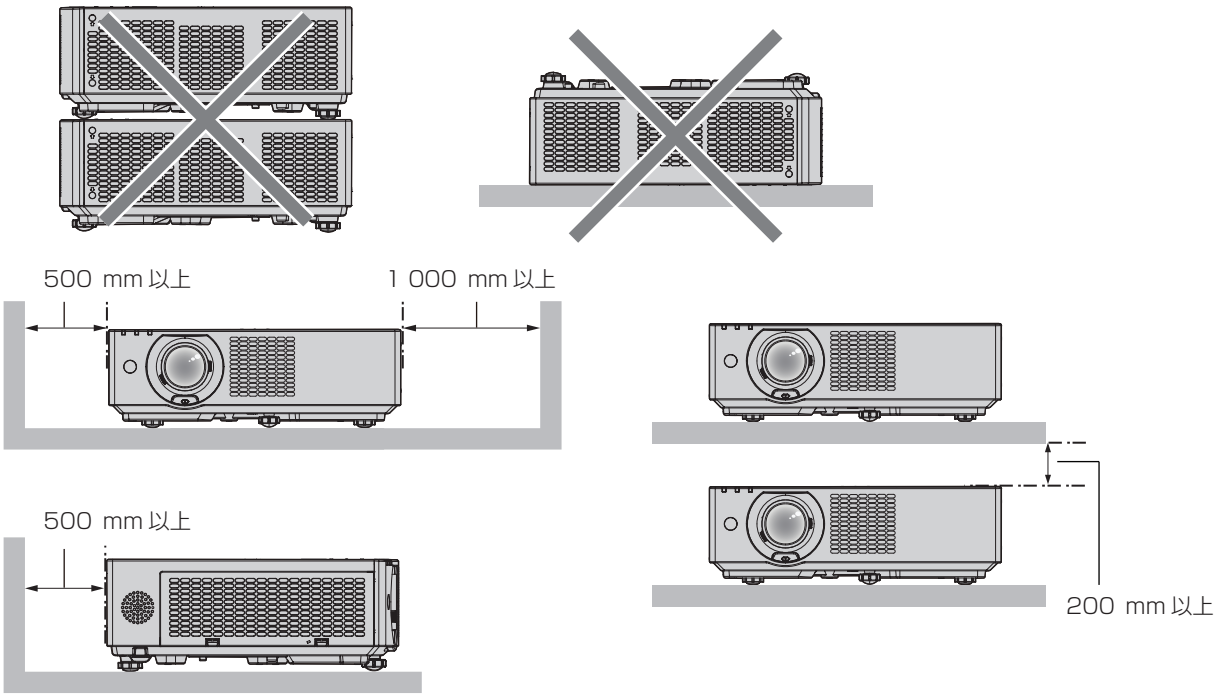
設置上のご注意

- アジャスター脚は、床置き設置およびその際の角度調整にのみ使用してください。それ以外の用途で使用すると、本機が破損するおそれがあります。
- プロジェクターをアジャスター脚による床置き設置や天つり金具による天つり設置以外の方法で設置して使用する場合は、プロジェクターの固定を天つり用ねじ穴（図示）4 か所を使用して行ってください。
  またその際は、スペーサー（金属製）を挟むなどの方法で、プロジェクター底面の天つり用ねじ穴と設置面との間にすき間が生じないようにしてください。
- 固定ねじの締めつけの際は、トルクドライバーまたは、六角トルクレンチを使用し、規定値内のトルクで締めつけてください。電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。
  （ねじ径：M4、プロジェクター内部ねじ穴深さ：8 mm、ねじの締めつけトルク：1.25 ± 0.2 N·m）



天つり用ねじ穴（M4）とアジャスター脚の位置

- 本機を積み重ねて使用しないでください。
- 本機を天面で支えて使用しないでください。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。
- 空調の冷風や温風が、本機の吸気口・排気口に直接当たらないように設置してください。



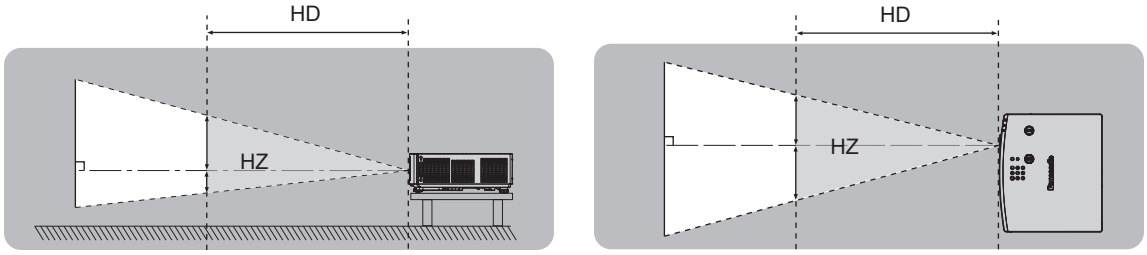
- 本機を密閉した空間に設置しないでください。
  密閉した空間に設置する場合は、別途、空調設備、換気設備を設けてください。換気が不十分な場合、排気熱が滞留することで、本機の保護回路がはたらくことがあります。
- 設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であってもパナソニック プロジェクター& ディスプレイ株式会社は責任を負いかねますのでご注意ください。

使用上のご注意

■障害距離（IEC 62471-5：2015）

被ばく放出量が、リスクグループ 2 の被ばく放出限界（AEL）と一致する投写レンズ面からの距離を、障害距離（HD）または安全距離といいます。また、被ばく放出量が、リスクグループ 2 で許容されている被ばく放出限界を超える領域を障害区域（HZ）といいます。

障害距離の内側となる障害区域では、プロジェクターからの投写光を絶対にのぞき込まないでください。瞬間的であっても直接照射により目を痛める可能性があります。障害区域外からであれば、プロジェクターからの投写光を意図的にのぞき込むことを除いて、どんな状況でも安全であるとみなされます。



■リスクグループ

障害距離が 1 m 以下である場合、そのプロジェクターはリスクグループ 2 に分類されます。障害距離が 1 m を超える場合はリスクグループ 3 に分類され、民生用ではなく業務用になります。

リスクグループ 3 の場合、障害区域内で投写光をのぞき込むと、瞬間的であっても直接照射により目を痛める可能性があります。

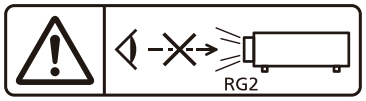
リスクグループ 2 の場合、意図的に投写光をのぞき込む場合を除いて、すべての状況で目を痛めることなく安全に使用できます。

本機は、リスクグループ 2 に分類されます。

■使用中は投写レンズを絶対にのぞかないでください（RG2 IEC 62471-5:2015）

■光学器具（ルーペや反射鏡など）を使用して、投写光束内に進入しないでください

投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因になります。



「本体に表示したマーク」

セキュリティーに関するお願い

本製品をご使用になる場合、次のような被害に遭うことが想定されます。

- 本製品を経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意の第三者による本製品の不正操作
- 悪意の第三者による本製品の妨害や停止

セキュリティー対策を十分に行ってください。

- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社およびその関係会社が、お客様に対して直接パスワードを照会することはありません。直接問い合わせがあっても、パスワードを答えないでください。
- ファイアウォールなどの設定により、安全性が確保されたネットワークでご使用ください。

■無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューターなどと無線アクセスポイントとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波が届く範囲内であれば障害物（壁など）を越えてあらゆる場所からアクセスできるため、セキュリティー設定に不足があると、次のような問題が発生するおそれがあります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、次のような通信内容を盗み見られる可能性があります。
  - ID やパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
  - メールの内容
- 不正に侵入される
  悪意ある第三者により個人や会社内のネットワークへ無断でアクセスされ、次のような不正行為を受ける可能性があります。
  - 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
  - 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  - 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  - コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本来、無線 LAN アダプターや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティーの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティーに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティーに関する設定が行われていない場合があります。お客様がセキュリティー問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN 機器をご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティーに関するすべての設定を、それぞれの無線 LAN 機器の取扱説明書に従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティー設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

本機を無線 LAN で使用する際のセキュリティー設定について、お客様ご自身で対処できない場合には、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」（☞ 17 ページ）までお問い合わせください。

セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

無線 LAN に関するお願いとお知らせ

本機の無線 LAN 接続機能使用時は、2.4 GHz 帯域の電波を使用します。無線局の免許は必要ありませんが、以降の内容を十分理解してご使用ください。
本機で無線 LAN 機能を使用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付ける必要があります。

■ほかの無線機器の近くでは使用しないでください

次の機器は、本機と同じ帯域の電波を使用している可能性があります。これらの近くで本機を使用すると、電波の干渉により通信できなくなったり、通信速度が遅くなったりする場合があります。

- 電子レンジなど
- 産業・科学・医療用機器など
- 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局
- 特定小電力無線局

■本機の近くでは、携帯電話・テレビ・ラジオをできるだけ使用しないでください

携帯電話・テレビ・ラジオなどは、本機とは違う帯域の電波を使用していますので、無線 LAN の通信や、これらの機器の送受信には影響ありません。しかし、本機からの電波により、音声や映像にノイズが発生することがあります。

■鉄筋・金属・コンクリートなどは、無線 LAN 通信の電波を通しません

木材やガラス（金属メッシュ入りガラスを除く）などの壁や床を通して通信することはできますが、鉄筋・金属・コンクリートなどの壁や床を通して通信することはできません。

■静電気が多く発生するような場所では、できるだけ本機を使用しないでください

静電気やノイズが多く発生するような場所で本機を使用する場合、無線 LAN、または有線 LAN での通信が切れやすくなります。
まれに静電気やノイズにより LAN 接続ができなくなる場合がありますので、その場合は本機の電源を切ったあとに電源プラグをコンセントから抜き、問題となる静電気やノイズ源を取り除いたあとに本機の電源を入れ直してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

  パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター：0120-872-601

DIGITAL LINK について

「DIGITAL LINK（デジタルリンク）」は、HDBaseT Alliance により策定された通信規格 HDBaseT™ をベースに、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社独自の機能を追加した、映像・音声・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送する技術です。
本機は、DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）や、同じく HDBaseT™ 規格をベースとした他社製周辺機器（Extron 社製「XTP トランスミッター」などのツイストペアケーブル伝送器）に対応しています。本機で動作確認済みの他社製機器については、次の Web サイトをご覧ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector
他社製機器の動作確認は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が独自に取り決めた項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

本機が対応するアプリケーションソフトについて

本機は、次のアプリケーションソフトに対応しています。
- 複数台監視制御ソフトウェア
- Presenter Light ソフトウェア
- Wireless Projector
- プロジェクターネットワーク設定ソフトウェア

「複数台監視制御ソフトウェア」、「Presenter Light ソフトウェア」、「Wireless Projector」の詳細やダウンロードについては、次の Web サイトをご覧ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector
「プロジェクターネットワーク設定ソフトウェア」の詳細やダウンロードについては、次の「パナソニック 業務用ディスプレイ / プロジェクター テクニカルサポートサイト」をご覧ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector/pass
なお、「パナソニック 業務用ディスプレイ / プロジェクター テクニカルサポートサイト」から詳細を確認したりダウンロードしたりするには、PASS*1 へ会員登録いただいたうえでログインする必要があります。
また、本機に対応するアプリケーションソフトおよびその機能は、予告なく追加または変更される可能性があります。

*1「PASS」とは、パナソニック 業務用ディスプレイ / プロジェクター テクニカルサポートサイトの名称です。

保管について

本機を保管しておく場合は、乾燥した室内に保管してください。

廃棄について

製品を廃棄する際は、最寄りの市町村窓口または販売店に、正しい廃棄方法をお問い合わせください。
なお、製品を分解せずに廃棄してください。

本機の取り扱いについて

■美しい映像をご覧いただくために

より高いコントラストで美しい映像をご覧いただくには、適切な環境を整えてください。スクリーン面に外光や照明などの光が入らないように、窓のカーテンやブラインドなどを閉め、スクリーン面近くの照明を消してください。

■投写レンズについて

- 投写レンズ面は素手でさわらないでください

投写レンズ面に指紋や汚れが付着すると、それらが拡大されてスクリーンに映り、美しい映像をご覧いただくための妨げとなります。

- 投写中にレンズをふかないでください

投写中にレンズの前面をふくと、レンズに異物が固着したり、レンズの表面を傷つけたりすることがあります。



「本体に表示したマーク」

■液晶パネルについて

液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で製造されていますが、まれに画素の欠けや、常時点灯する画素が発生する場合があります。これらの現象は故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
また、静止画を長時間投写すると、液晶パネルに映像の残像が生じる場合がありますので、その場合は全白のテストパターンを 1 時間以上投写してください。なお、残像が完全に消えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
テストパターンについて、詳しくは“[テストパターン]”（☞ 96 ページ）をご覧ください。

■光学部品について

ご使用になる環境温度が高い場合や、ほこり、たばこなどの煙が多い環境下では、1 年未満のご使用でも、液晶パネルや偏光板などの光学部品の交換サイクルが短くなる場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

■動作中に移動させたり、振動や衝撃を与えたりしないでください

内部部品の寿命が早まったり、故障したりするおそれがあります。

■光源について

本機の光源には、レーザーダイオードを使用しており、下記のような特性があります。

- 使用環境温度によって、光源の輝度が低下します。
  温度が高くなるほど、光源の輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間にともない、光源の輝度が低下します。
  明るさが著しく低下した場合や、光源が点灯しなくなった場合は、内部清掃または光源ユニットの交換を販売店に依頼してください。

■コンピューターや外部機器との接続について

コンピューターまたは外部機器を接続する際は、電源コードやシールドされたケーブルの使用も含め、本書の内容をよくご確認のうえ実施してください。

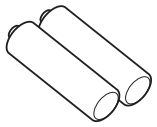
付属品の確認

以下の付属品が入っていることを確認してください。＜　＞は個数です。

ワイヤレスリモコン <1>
(N2QAYA000260)

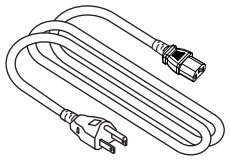


単 4 形乾電池 <2>



（リモコン用）

電源コード <1>
(K2CG3YY00246)



お願い

- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理してください。
- 付属の電源コードは本機以外の機器では使用しないでください。
- 付属品を紛失してしまった場合、販売店にご相談ください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かない所に適切に保管してください。

お知らせ

- 付属品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

別売品

別売品（品名）	品番
天つり金具	ET-PKL100H（高天井用）、ET-PKL100S（低天井用）、ET-PKV400B（取付用ベース金具）
交換用フィルターユニット	ET-RFV500
ワイヤレスモジュール	AJ-WM50GT

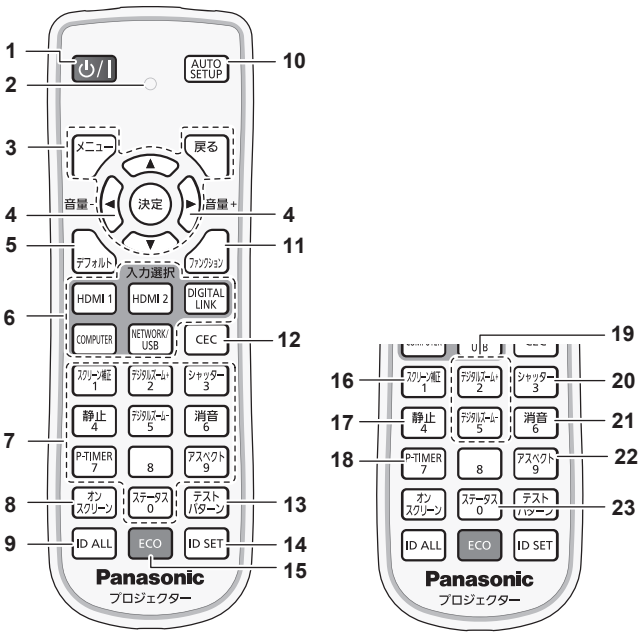
お知らせ

- ワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）は、本機への取り付けを含めて 0 ℃ ～ 40 ℃の環境下でご使用ください。
- デジタルリンクスイッチャー（品番：ET-YFB200）、デジタルインターフェースボックス（品番：ET-YFB100）もご使用いただけます。
- 別売品の品番は、予告なく変更する可能性があります。
- 本機に対応する別売品は、予告なく追加または変更される可能性があります。
  最新の情報については、次の Web サイトをご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector

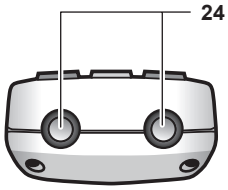
各部の名称とはたらき

リモコン

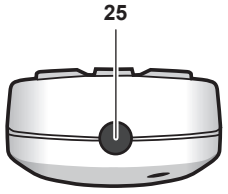
■ 正面



■ 天面



■ 底面



1　電源〈⏻/|〉ボタン（⏻：スタンバイ、|：電源入）
投写状態のとき、本機の電源を切った状態（スタンバイ状態）にします。また、電源が切れている状態（スタンバイ状態）のとき、本機を投写状態にします。

2　リモコン操作インジケーター
リモコンのボタンを押すと点滅します。

3　〈メニュー〉ボタン、〈戻る〉ボタン、〈決定〉ボタン、▲▼◀▶ ボタン
メニュー画面の操作に使用します。（☞ 56 ページ）
また、▲▼◀▶ ボタンは［セキュリティー］のパスワード入力や文字の入力にも使用します。

4　〈音量 –〉ボタン / 〈音量 +〉ボタン
内蔵スピーカーまたは音声出力の音量を調整します。（☞ 49 ページ）

5　〈デフォルト〉ボタン
サブメニューの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。（☞ 57 ページ）

6　入力選択（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈COMPUTER〉、〈NETWORK/USB〉）ボタン
投写する入力を切り換えます。（☞ 44 ページ）

7　数字（〈0〉～〈9〉）ボタン
本体を複数台使用する環境で ID ナンバーを入力する場合や、パスワードを入力する場合などに使用します。

8　〈オンスクリーン〉ボタン
オンスクリーン表示機能のオン（表示）/ オフ（非表示）を切り換えます。（☞ 49 ページ）

9　〈ID ALL〉ボタン
本体を複数台使用する環境で、1 つのリモコンで同時制御する場合に使用します。（☞ 53 ページ）

10　〈AUTO SETUP〉ボタン
映像を投写中に、オートセットアップ機能を用いて自動調整します。（☞ 49 ページ）

11　〈ファンクション〉ボタン
よく使う操作を割り当て、ショートカットボタンとして使用します。（☞ 52 ページ）

12　〈CEC〉ボタン
HDMI CEC 操作画面を表示します。（☞ 99 ページ）

13　〈テストパターン〉ボタン
テストパターンを表示します。（☞ 52 ページ）

14　〈ID SET〉ボタン
本体を複数台使用する環境で、リモコンの ID ナンバーを設定する場合に使用します。（☞ 53 ページ）

15　〈ECO〉ボタン
ECO マネージメントに関する設定画面を表示します。（☞ 53 ページ）

16　〈スクリーン補正〉ボタン
デジタルズーム拡張機能を使用する場合、または映像のゆがみを補正したい場合に使用します。（☞ 50 ページ）

17　〈静止〉ボタン
映像を一時的に静止し、音声を消したい場合に使用します。（☞ 49 ページ）

18　〈P-TIMER〉ボタン
プレゼンテーションタイマー機能を操作します。（☞ 51 ページ）

19　〈デジタルズーム +〉ボタン / 〈デジタルズーム -〉ボタン
映像を拡大および縮小します。（☞ 50 ページ）

20　〈シャッター〉ボタン
映像と音声を一時的に消したい場合に使用します。（☞ 48 ページ）

21　〈消音〉ボタン
音声を一時的に消したい場合に使用します。（☞ 48 ページ）

22　〈アスペクト〉ボタン
映像のアスペクト比を切り換えます。（☞ 51 ページ）

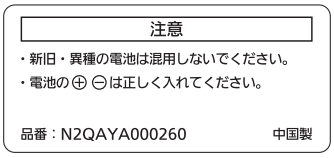
23　〈ステータス〉ボタン
本体の情報を表示します。（☞ 52 ページ）

24　リモコン発信部

25　本機では使用しません。

お願い

- リモコンは落とさないようにしてください。
- リモコンに液状のものをかけないでください。
- リモコンを分解・修理しないでください。
- リモコン裏面の注意書きに記載されている次の内容をお守りください。
  1. 新旧・異種の電池は混用しない。
  2. 電池の極性（+、−）を正しく入れる。
- このほか、“安全上のご注意”に記載されている電池に関する内容をお読みください。



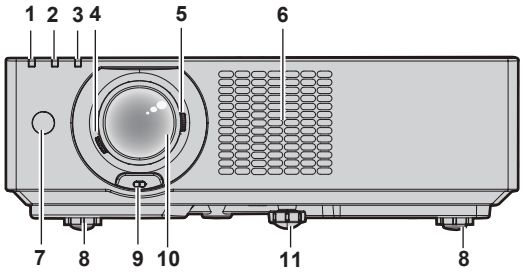
リモコン裏面の注意書き

お知らせ

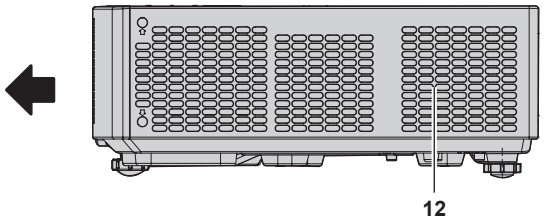
- リモコンを直接本体のリモコン受信部に向けて操作する場合は、リモコン受信部正面より約 30 m 以内で操作してください。また、上下左右に± 30° まで操作できますが、操作可能距離が短くなることがあります。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると、正しく動作しないことがあります。
- リモコンからの信号を、スクリーンに反射させて本機を操作できます。ただし、スクリーン特性による光反射ロスにより、操作有効範囲が制限されることがあります。
- 本体のリモコン受信部に蛍光灯などの強い光が当たっていると、操作できなくなることがあります。できるだけ光源から離して設置してください。
- 本体がリモコンの信号を受信すると電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が点滅します。
  ただし次の場合、電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉は点滅しません。
  – ［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］→ ［スタンバイモード］を［ECO］に設定し、本機がスタンバイ状態の場合

本体

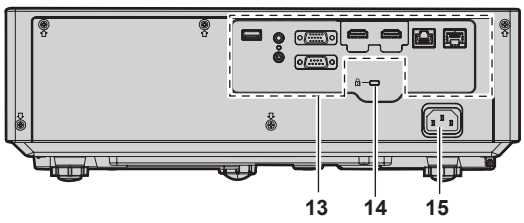
■ 前面

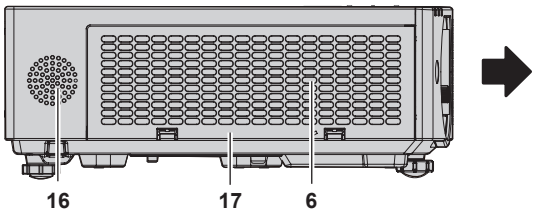


■ 側面



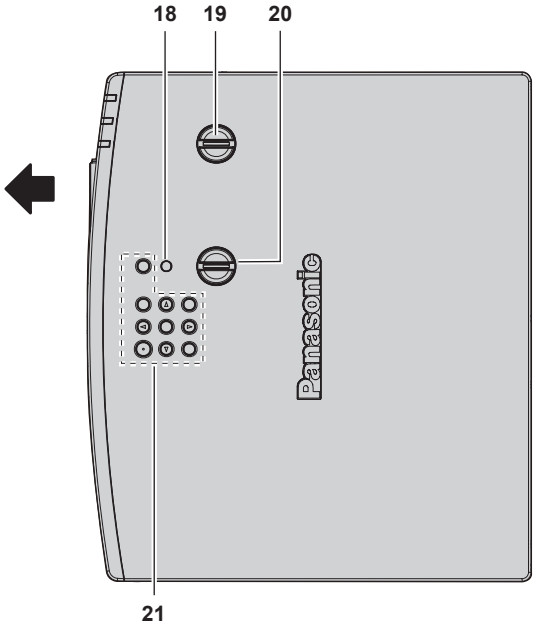
■ 後面



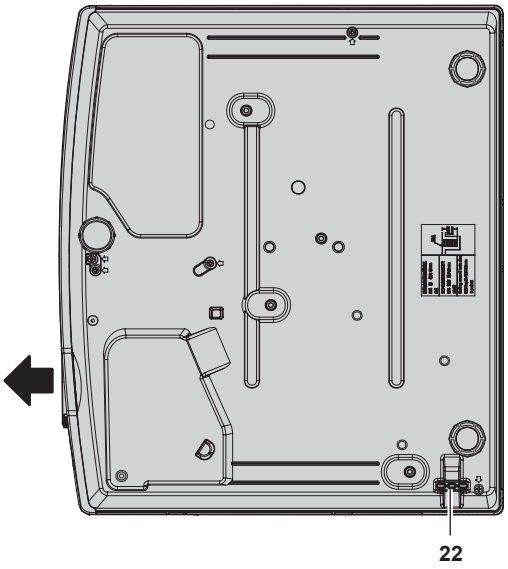


: 投写方向

■ 天面



■ 底面



: 投写方向

1　電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉
電源の状態を表示します。

2　光源インジケーター〈LIGHT〉
光源の状態を表示します。

3　温度インジケーター〈TEMP〉
内部温度の状態を表示します。

4　フォーカスレバー
フォーカスを調整します。

5　ズームレバー
ズームを調整します。

6　吸気口

7　リモコン受信部

8　後方アジャスター脚
設置姿勢を調整します。

9　レンズ遮蔽検知センサー（☞ 93 ページ）

10　投写レンズ

11　前方アジャスター脚
設置姿勢を調整します。

12　排気口

13　接続端子部（☞ 24 ページ）

14　セキュリティースロット
このセキュリティースロットは、Kensington 社製セキュリティーケーブルに対応しています。

15　〈AC IN〉端子
付属の電源コードを接続します。

16　スピーカー

17　エアフィルターカバー
内部にエアフィルターユニットがあります。

18　照度センサー

19　垂直レンズシフトダイヤル
垂直方向の投写位置（垂直シフト）を調整します。

20　水平レンズシフトダイヤル
水平方向の投写位置（水平シフト）を調整します。

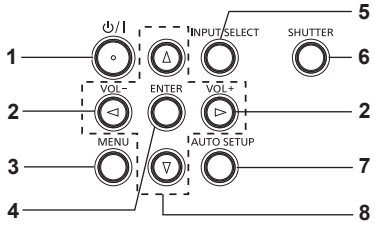
21　本体操作部（☞ 23 ページ）

22　セキュリティーバー
盗難防止用にワイヤーなどを取り付けることができます。

お願い

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。
  本機内部の冷却が妨げられることで、部品が早期に劣化するおそれがあります。

■ 本体操作部



1　電源〈⏻/I〉ボタン（⏻：スタンバイ、I：電源入）
投写状態のとき、本機の電源を切った状態（スタンバイ状態）にします。また、電源が切れている状態（スタンバイ状態）のとき、本機を投写状態にします。

2　〈VOL-〉ボタン / 〈VOL+〉ボタン
（〈音量 -〉ボタン / 〈音量 +〉ボタン）
内蔵スピーカーまたは音声出力の音量を調整します。
（☞ 49 ページ）

3 〈MENU〉ボタン
(〈メニュー〉ボタン)
メインメニューを表示したり、消したりします。(☞ 56 ページ)
サブメニューが表示されているときは、1 つ前の画面に戻ります。

4 〈ENTER〉ボタン
(〈決定〉ボタン)
メニュー画面の項目の決定や実行をします。

5 〈INPUT SELECT〉ボタン
(入力選択ボタン)
投写する入力を切り換えます。(☞ 44 ページ)

6 〈SHUTTER〉ボタン
(〈シャッター〉ボタン)
映像と音声を一時的に消したい場合に使用します。(☞ 48 ページ)

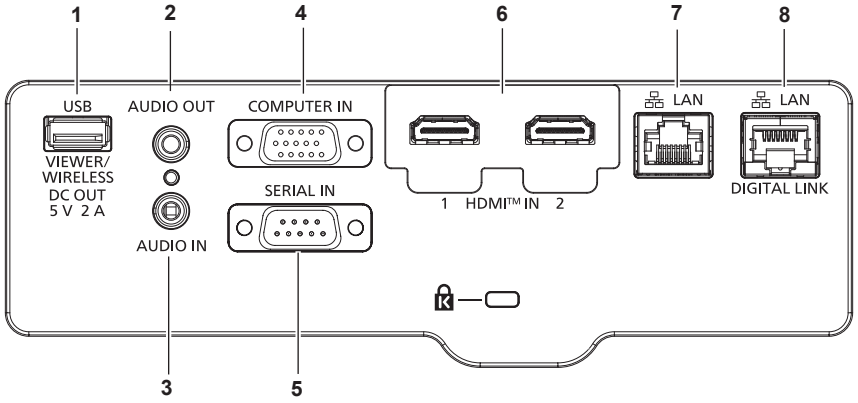
7 〈AUTO SETUP〉ボタン
映像を投写中に、オートセットアップ機能を用いて自動調整します。(☞ 49 ページ)

8 ▲▼◀▶ ボタン
メニュー画面の項目選択や、設定の切り換えおよびレベルの調整をします。
また、[セキュリティー] メニューのパスワード入力や文字の入力にも使用します。

お知らせ

- リモコンには () 内の名称が印字されています。

■ 接続端子部



1 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子
ユーザーイメージを登録する場合、メモリービューワー機能を使用する場合、データクローニング機能およびユーザーアップデート機能を使用する場合などに (☞102、120、166、172 ページ)、USB メモリーを取り付ける端子です。
また、無線 LAN 機能を使用するときに、別売品のワイヤレスモジュール (品番:AJ-WM50GT) を直接取り付ける端子です。(☞ 125 ページ)
さらに、給電用 (DC5V、最大 2A) としても使用できます。

2 〈AUDIO OUT〉端子
本機に入力された音声信号を出力する端子です。

3 〈AUDIO IN〉端子
音声信号を入力する端子です。

4 〈COMPUTER IN〉端子
RGB 信号または YC_BC_R/YP_BP_R 信号を入力する端子です。

5 〈SERIAL IN〉端子
コンピューターを接続して本機を外部制御するための RS-232C 準拠の入力端子です。

6 〈HDMI IN 1〉端子 / 〈HDMI IN 2〉端子
HDMI 信号を入力する端子です。

7 〈LAN〉端子
ネットワーク接続する LAN 端子です。
画像転送用アプリケーションソフトからの、画像転送にも対応しています。(☞ 123 ページ)

8 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子
LAN 端子経由で映像信号や音声信号を送出する機器を接続するときの端子です。または、ネットワーク接続する LAN 端子です。

お願い

- [プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ノーマル] に設定している場合、本機がスタンバイ状態でも、〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子を使用して給電できます。[ECO] に設定している場合は、スタンバイ状態で給電できません。
- <USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)> 端子に定格 (DC5 V、最大 2 A) を超える外部機器を接続した場合、エラーを検出して給電を停止します。給電が停止した場合は、外部機器を取り外したうえで本機の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントに接続し直してください。
- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。
ノイズや配線長の影響で信号が劣化するおそれがあります。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子を使用してイーサネット・シリアル制御信号を伝送する場合は、[ネットワーク] メニュー → [イーサネットタイプ] を [DIGITAL LINK] または [LAN & DIGITAL LINK] に設定してください。
- 〈LAN〉端子を使用してイーサネット信号を伝送する場合は、[ネットワーク] メニュー → [イーサネットタイプ] を [LAN] または [LAN & DIGITAL LINK] に設定してください。
- [ネットワーク] メニュー → [イーサネットタイプ] を [LAN & DIGITAL LINK] に設定すると、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子が本機の内部で接続された状態になります。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子を直接 LAN ケーブルで接続しないでください。
また、スイッチングハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。

リモコンの準備

電池を入れる、取り出す

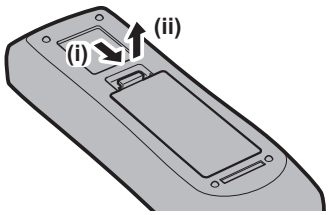


図1

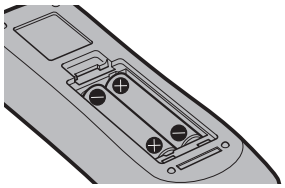


図2

1)　ふたを開ける（図 1）

2)　電池を入れ、ふたを閉じる（⊖ 側から先に入れます）（図 2）

- 電池を取り出す場合は、逆の手順で行います。

本機を複数台使用するときは

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

ID ナンバーを設定して使用する場合は、初期設定終了後、まず本体の ID ナンバーを設定し、次にリモコンの ID ナンバーを設定します。初期設定については、“初期設定画面が表示されたら”（☞ 38 ページ）をご覧ください。

工場出荷時、本機（本体とリモコン）の ID ナンバーは［オール］に設定されていますので、そのままお使いいただけます。必要に応じて、本体とリモコンの ID ナンバーを設定してください。

リモコンの ID ナンバーの設定について、詳しくは“リモコンの ID ナンバーを設定する”（☞ 53 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 本体の ID ナンバーは、［プロジェクター設定］メニュー → ［プロジェクター ID］（☞ 87 ページ）で設定してください。

第２章　準備

設置や接続など、ご使用前に行っていただく内容について説明しています。

設置する

使用可能なコンセント

本機を使用する際は、100 V/15 A に対応した接地コンセントが必要になります。
次のイラストは、使用可能なコンセントの形状例です。



2 極(接地形) 15 A 125 V

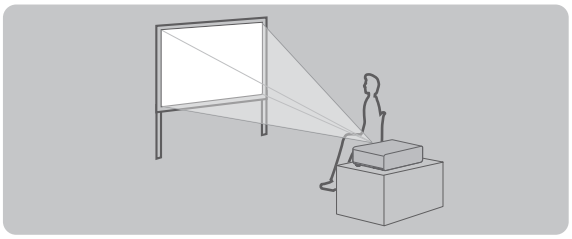
お願い

- 付属の電源コードを使い、コンセント側でアースを取ってください。
- 変換プラグを使用せず、電源プラグを直接コンセントに接続してください。変換プラグを使用すると、電源プラグの差し込みが不完全になり、発熱による火災の原因になることがあります。

設置形態

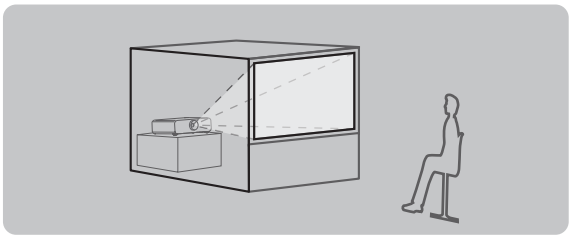
本機の設置形態は次のとおりです。設置形態に応じて［プロジェクター設定］メニュー →［投写方式］（☞ 88 ページ）を設定してください。

床置き設置で前方に投写する場合



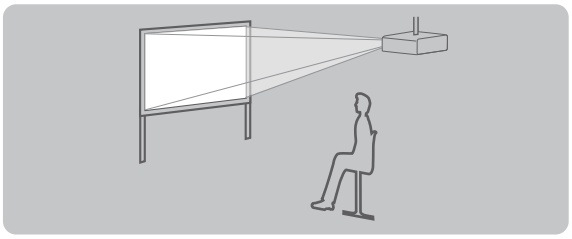
メニュー項目	設定値
［投写方式］	［オート］または ［フロント / 床置き］

床置き設置で後方から投写する場合
（透過式スクリーン使用）



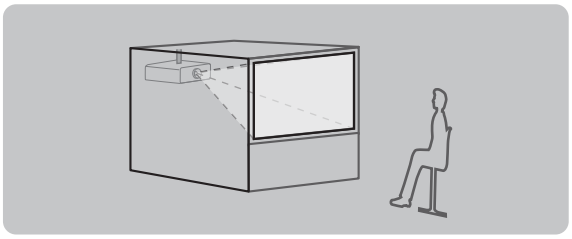
メニュー項目	設定値
［投写方式］	［リア / 床置き］

天つり設置で前方に投写する場合



メニュー項目	設定値
［投写方式］	［オート］または ［フロント / 天つり］

天つり設置で後方から投写する場合
（透過式スクリーン使用）



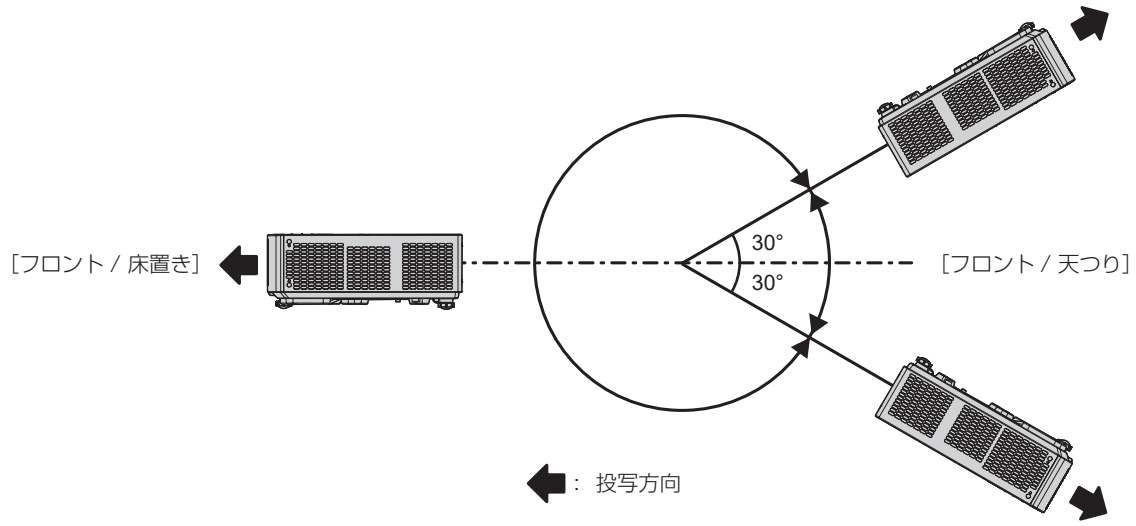
メニュー項目	設定値
［投写方式］	［リア / 天つり］

お知らせ

- 本機は角度センサーを内蔵しています。フロント投写の場合、［プロジェクター設定］メニュー →［投写方式］を［オート］に設定すると、本機の姿勢を自動的に検出します。リア投写の場合は、［投写方式］を［リア / 床置き］または［リア / 天つり］に設定してください。

■ 角度センサーについて

本機内蔵の角度センサーで検出する設置姿勢の範囲は、次のとおりです。



設置オプション（別売品）について

別売品の天つり金具が必要です。天つり金具(品番:ET-PKL100H(高天井用)または ET-PKL100S(低天井用))と、天つり金具（品番：ET-PKV400B（取付用ベース金具））を組み合わせて設置してください。

品番：ET-PKL100H（高天井用）、ET-PKL100S（低天井用）、ET-PKV400B（取付用ベース金具）

- 必ず、本機専用の天つり金具をご使用ください。
- 本機の取り付けおよび設置については、天つり金具の施工説明書をご覧ください。

お願い

- 天つり金具の取り付け工事は、性能、安全確保のため、必ずお求めの販売店または工事専門業者に施工を依頼してください。

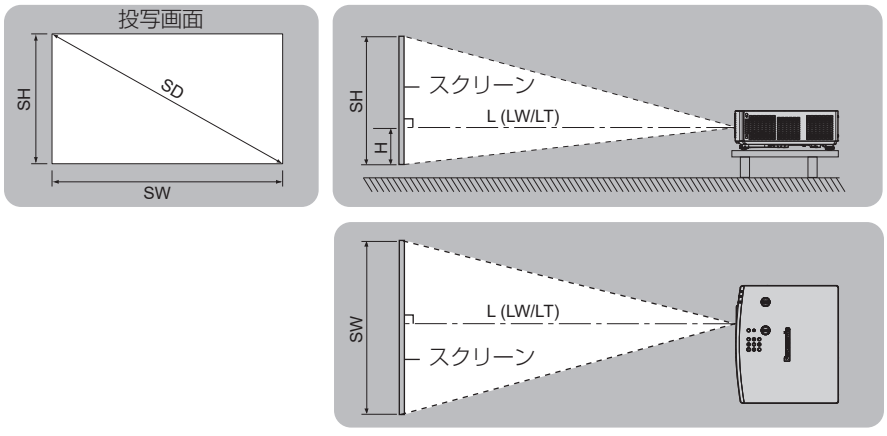
投写関係

本機の設置は、スクリーンサイズや投写距離を参考にして設置してください。

お願い

- 設置する前に“ご使用になる前に”（☞ 13 ページ）をお読みください。

投写関係図



お知らせ

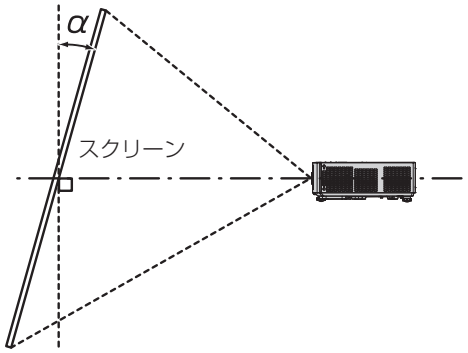
- このイラストは、投写画面のサイズと位置をスクリーンいっぱいに合わせることを前提に表現しています。
- このイラストは正確な縮尺ではありません。

L（LW/LT）*1*2	投写距離
SH	投写画面高さ
SW	投写画面幅
H	レンズセンターから投写画面下端までの距離
SD	投写画面サイズ

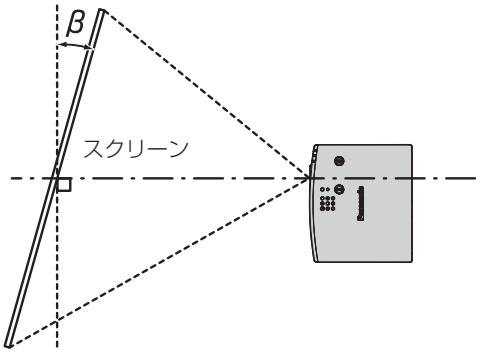
*1 投写距離の求め方について、詳しくは“投写距離計算式”（☞ 31 ページ）をご覧ください。
*2 LW：最短投写距離
LT：最長投写距離

［スクリーン補正］による投写範囲

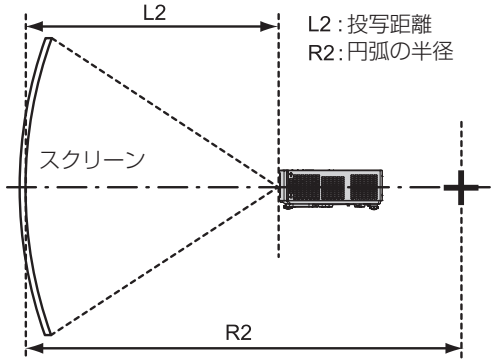
［垂直］（横から見たとき）



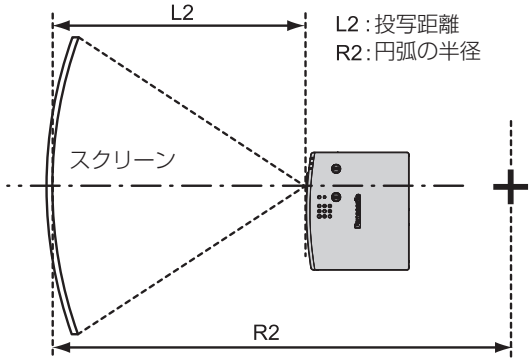
［水平］（真上から見たとき）

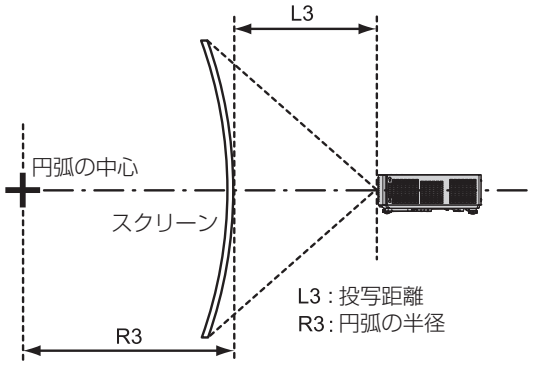


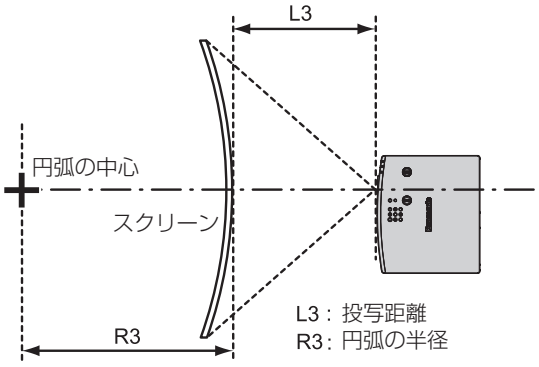
垂直弧の補正（横から見たとき）



水平弧の補正（真上から見たとき）







［台形補正］のみ		［曲面スクリーン補正］のみ	
垂直台形補正角α（°）	水平台形補正角β（°）	R2/L2 の最小値	R3/L3 の最小値
± 25	± 35	0.6	0.7

お知らせ

- ［スクリーン補正］を使用した場合、補正量が大きくなるとフォーカスが画面全体では合わない場合があります。
- 曲面のスクリーンは、真円の一部を切り取った円弧の形状にしてください。

投写距離

記載の投写距離は± 5 % の誤差が発生します。
また、［スクリーン補正］使用時は、所定の画面サイズよりも小さくなる方向で補正されます。

お知らせ

- デジタルズーム拡張機能を使用すると、解像度が低下する場合があります。デジタルズーム拡張機能について、詳しくは［位置調整］メニュー → ［スクリーン補正］ → ［デジタルズーム拡張］（☞ 67 ページ）をご覧ください。

■ 画面アスペクト比 16：10 のとき

（単位：m）

スローレシオ	光学ズーム 1.09-1.77：1		デジタルズーム拡張 1.09-2.21：1*1（換算値）	レンズセンターから投写画面下端までの距離（H）*3
対角（SD）	最短投写距離（LW）	最長投写距離（LT）	最長投写距離 *2（LT）	
0.76（30 型）	0.68	1.12	1.40	0.022 - 0.201
1.02（40 型）	0.93	1.51	1.89	0.030 - 0.270
1.27（50 型）	1.16	1.89	2.37	0.037 - 0.337
1.52（60 型）	1.39	2.26	2.84	0.045 - 0.403
1.78（70 型）	1.64	2.66	3.33	0.052 - 0.472
2.03（80 型）	1.87	3.03	3.80	0.060 - 0.538
2.29（90 型）	2.12	3.43	4.29	0.067 - 0.607
2.54（100 型）	2.35	3.80	4.76	0.075 - 0.673
3.05（120 型）	2.83	4.57	5.73	0.090 - 0.808
3.81（150 型）	3.54	5.72	7.16	0.112 - 1.010
5.08（200 型）	4.73	7.64	9.56	0.150 - 1.346
6.35（250 型）	5.92	9.56	11.96	0.187 - 1.683
7.62（300 型）	7.11	11.48	14.35	0.224 - 2.019

*1 光学ズームを併用した場合
*2 ［拡張レシオ］を［80%］に設定した場合
*3 光学ズームのみ

■ 画面アスペクト比 16：9 のとき

（単位：m）

スローレシオ	光学ズーム 1.09-1.77：1		デジタルズーム拡張 1.09-2.21：1*1（換算値）	レンズセンターから投写画面下端までの距離（H）*3
対角（SD）	最短投写距離（LW）	最長投写距離（LT）	最長投写距離 *2（LT）	
0.76（30 型）	0.70	1.15	1.44	0.002 - 0.186
1.02（40 型）	0.95	1.55	1.95	0.003 - 0.250
1.27（50 型）	1.19	1.94	2.43	0.004 - 0.311
1.52（60 型）	1.43	2.33	2.92	0.005 - 0.372
1.78（70 型）	1.69	2.73	3.42	0.005 - 0.436
2.03（80 型）	1.93	3.12	3.91	0.006 - 0.497
2.29（90 型）	2.18	3.52	4.41	0.007 - 0.561
2.54（100 型）	2.42	3.91	4.90	0.008 - 0.622
3.05（120 型）	2.91	4.70	5.89	0.009 - 0.747
3.81（150 型）	3.64	5.88	7.36	0.012 - 0.933
5.08（200 型）	4.86	7.85	9.83	0.015 - 1.245
6.35（250 型）	6.09	9.83	12.29	0.019 - 1.556
7.62（300 型）	7.31	11.80	14.75	0.023 - 1.867

*1 光学ズームを併用した場合
*2 ［拡張レシオ］を［80%］に設定した場合
*3 光学ズームのみ

■ 画面アスペクト比 4：3 のとき

（単位：m）

スローレシオ	光学ズーム 1.31-2.12：1		デジタルズーム拡張 1.31-2.66：1*1（換算値）	レンズセンターから投写画面下端までの距離（H）*3
対角（SD）	最短投写距離（LW）	最長投写距離（LT）	最長投写距離 *2（LT）	
0.76（30 型）	0.78	1.27	1.59	0.025 - 0.228
1.02（40 型）	1.05	1.71	2.15	0.034 - 0.306
1.27（50 型）	1.32	2.14	2.68	0.042 - 0.381
1.52（60 型）	1.58	2.57	3.22	0.051 - 0.456
1.78（70 型）	1.86	3.01	3.77	0.059 - 0.534
2.03（80 型）	2.12	3.44	4.31	0.068 - 0.609
2.29（90 型）	2.40	3.88	4.86	0.076 - 0.687
2.54（100 型）	2.67	4.31	5.40	0.085 - 0.762
3.05（120 型）	3.21	5.18	6.49	0.102 - 0.915
3.81（150 型）	4.01	6.48	8.11	0.127 - 1.143
5.08（200 型）	5.36	8.65	10.83	0.169 - 1.524
6.35（250 型）	6.71	10.83	13.54	0.212 - 1.905
7.62（300 型）	8.05	13.00	16.25	0.254 - 2.286

*1　光学ズームを併用した場合
*2　［拡張レシオ］を［80%］に設定した場合
*3　光学ズームのみ

■ 画面アスペクト比 21：9 のとき

（単位：m）

スローレシオ	光学ズーム 1.09-1.77：1		デジタルズーム拡張 1.09-2.21：1*1（換算値）	レンズセンターから投写画面下端までの距離（H）*3
対角（SD）	最短投写距離（LW）	最長投写距離（LT）	最長投写距離 *2（LT）	
0.76（30 型）	0.74	1.22	1.53	-0.047 - 0.148
1.02（40 型）	1.01	1.64	2.06	-0.063 - 0.198
1.27（50 型）	1.26	2.05	2.57	-0.078 - 0.247
1.52（60 型）	1.52	2.46	3.09	-0.094 - 0.295
1.78（70 型）	1.78	2.89	3.62	-0.110 - 0.346
2.03（80 型）	2.04	3.30	4.13	-0.125 - 0.395
2.29（90 型）	2.30	3.73	4.67	-0.141 - 0.445
2.54（100 型）	2.56	4.14	5.18	-0.156 - 0.494
3.05（120 型）	3.08	4.97	6.22	-0.188 - 0.593
3.81（150 型）	3.85	6.22	7.78	-0.235 - 0.740
5.08（200 型）	5.14	8.30	10.39	-0.313 - 0.987
6.35（250 型）	6.44	10.39	12.99	-0.391 - 1.234
7.62（300 型）	7.73	12.47	15.60	-0.469 - 1.481

*1　光学ズームを併用した場合
*2　［拡張レシオ］を［80%］に設定した場合
*3　光学ズームのみ

投写距離計算式

本書に記載のない画面サイズでご使用の場合は、投写画面サイズ SD（m）をご確認のうえ、それぞれの計算式で投写距離を求めてください。
式の単位はすべて m です。（次の計算式で求められる値には、若干の誤差があります。）
投写距離を、画面サイズ呼称（インチ数値）を用いて計算する場合は、インチ数値を 0.0254 倍したものを投写距離計算式の SD に代入してください。

アスペクト比			16：10	16：9	4：3	21：9
投写距離（L）*1	光学ズーム	最短（LW）	=0.9371 × SD – 0.0294	=0.9632 × SD – 0.0294	=1.0609 × SD – 0.0294	=1.0182 × SD – 0.0294
		最長（LT）	=1.5103 × SD – 0.0319	=1.5523 × SD – 0.0319	=1.7098 × SD – 0.0319	=1.6410 × SD – 0.0319
	デジタルズーム拡張	最短（LW）	=0.9371 × SD / X - 0.0294	=0.9632 × SD / X - 0.0294	=1.0609 × SD / X - 0.0294	=1.0182 × SD / X - 0.0294
		最長（LT）	=1.5103 × SD / X - 0.0319	=1.5523 × SD / X - 0.0319	=1.7098 × SD / X - 0.0319	=1.6410 × SD / X - 0.0319

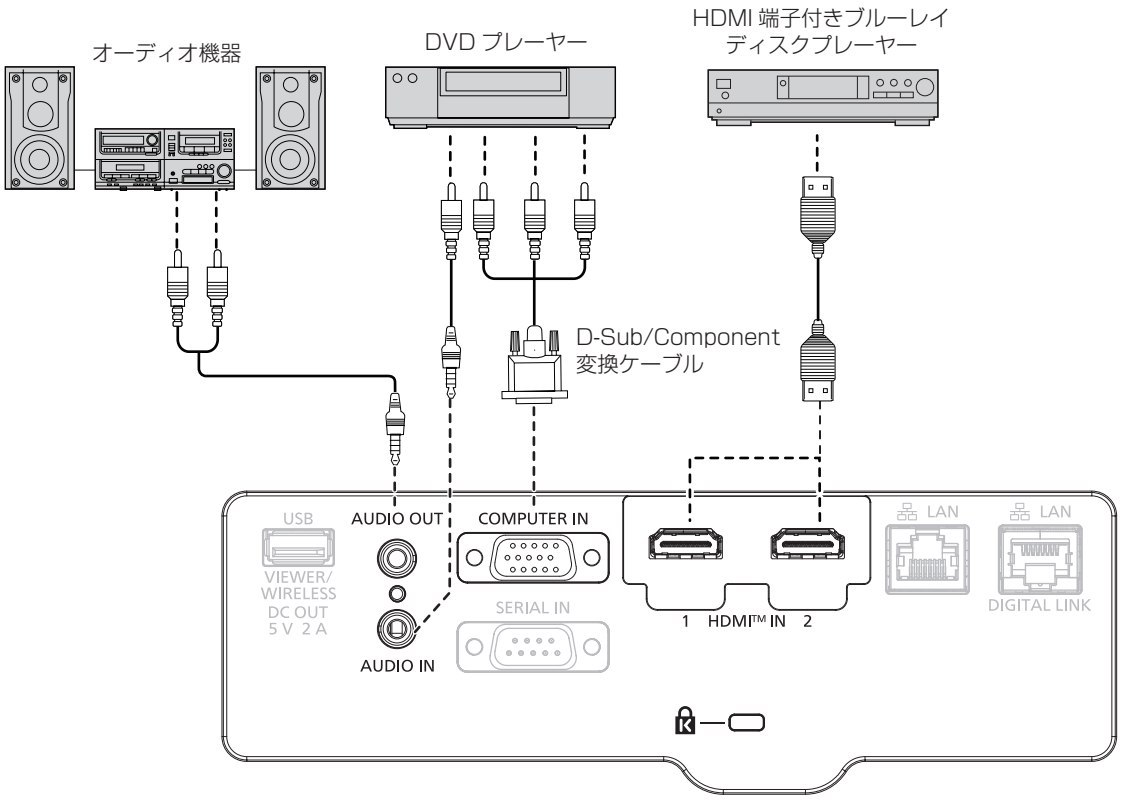
*1　Xに［拡張レシオ］で設定した数値を代入してください。
（100%=1.00, 99%=0.99,…）

接続する

接続の前に

- 接続の前に、本機と接続する外部機器の取扱説明書もよくお読みください。
- 各機器の電源を切ってからケーブルの接続をしてください。
- 次に示す内容に注意して、ケーブルを接続してください。行わない場合、故障の要因になります。
  - ケーブルを本機、あるいは本機と接続する外部機器に接続するときは、事前に周辺の金属に触れるなどして身体から静電気を除去してください。
  - 本機と、本機に接続する機器とを接続するケーブルは、必要以上に長くしないでください。長くするほどノイズの影響を受けやすくなります。巻いた状態で使用するとアンテナになりますので、さらにノイズの影響を受けやすくなります。
  - ケーブル接続時は、GND が先に接続されるように、接続する機器の接続端子部にまっすぐに挿入してください。
- システム接続に必要な接続ケーブルは、各機器の付属品、別売品がない場合は接続される外部機器に合わせて準備してください。
- 映像機器からの映像信号にジッター成分が多い場合は、画像がふらつくことがあります。この場合はタイムベースコレクター（TBC）の接続が必要です。
- コンピューターの機種やご使用のグラフィックスカードによっては、本機と接続して使用できないものもあります。
- 本機を映像機器から離れた場所に設置する場合は、延長器などを使用して接続してください。長いケーブルを使用して直接本機に接続すると、本機が正常に映像を表示できないことがあります。
- 本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト”（☞ 202 ページ）をご覧ください。

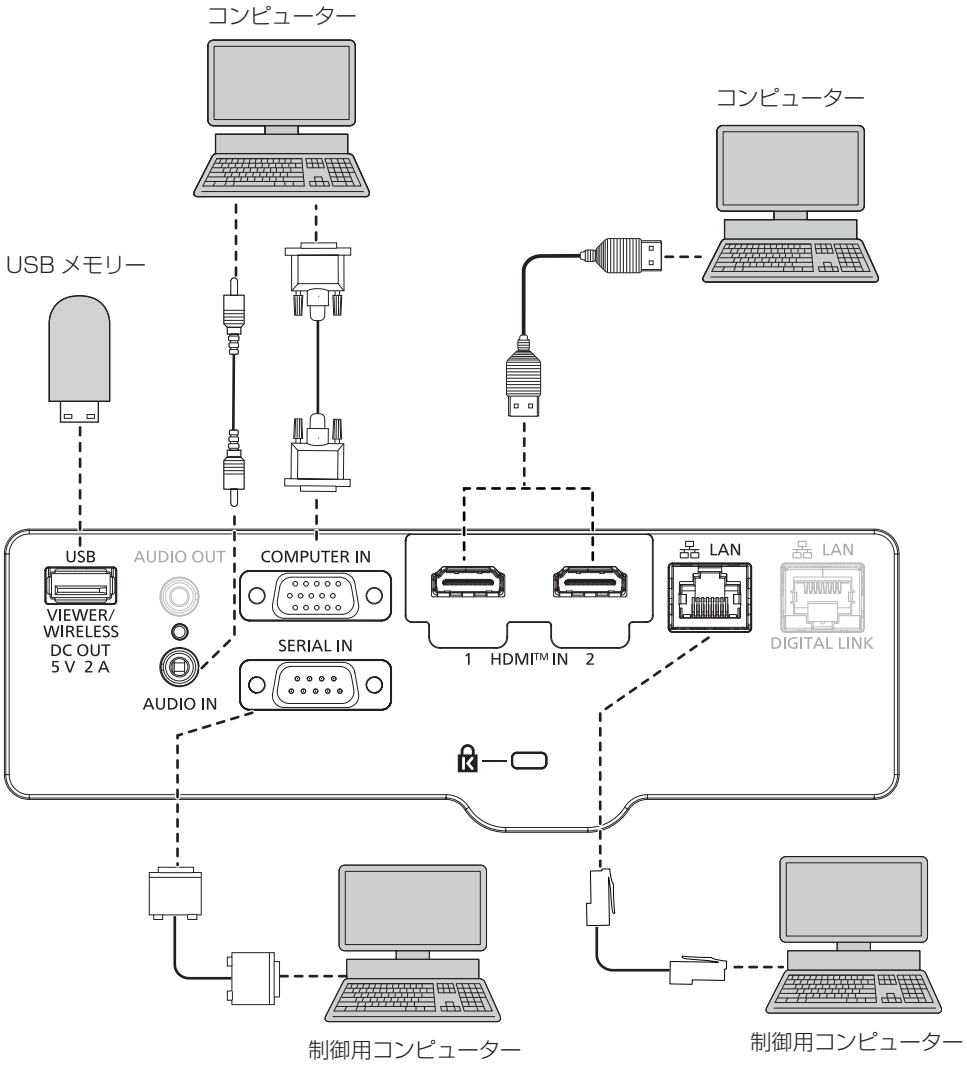
映像機器との接続（例）



お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。また、4K 映像信号を入力する場合は、4K 映像信号の伝送に対応した HDMI ケーブルをご使用ください。使用している HDMI ケーブルの対応伝送速度を超える映像信号を入力した場合、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- 本機の〈HDMI IN 1〉端子 /〈HDMI IN 2〉端子は、HDMI/DVI 変換ケーブルを使用することで、DVI-D 端子がある外部機器とも接続できます。ただし、一部の外部機器では、映像がでないなど正常に動作しないことがあります。
- 音声を出力する場合は、［プロジェクター設定］メニュー →［音声設定］→［音声入力選択］を正しく設定してください。
- 〈AUDIO OUT〉端子にケーブルを接続すると、内蔵スピーカーから音声はでません。

コンピューターとの接続（例）



お願い

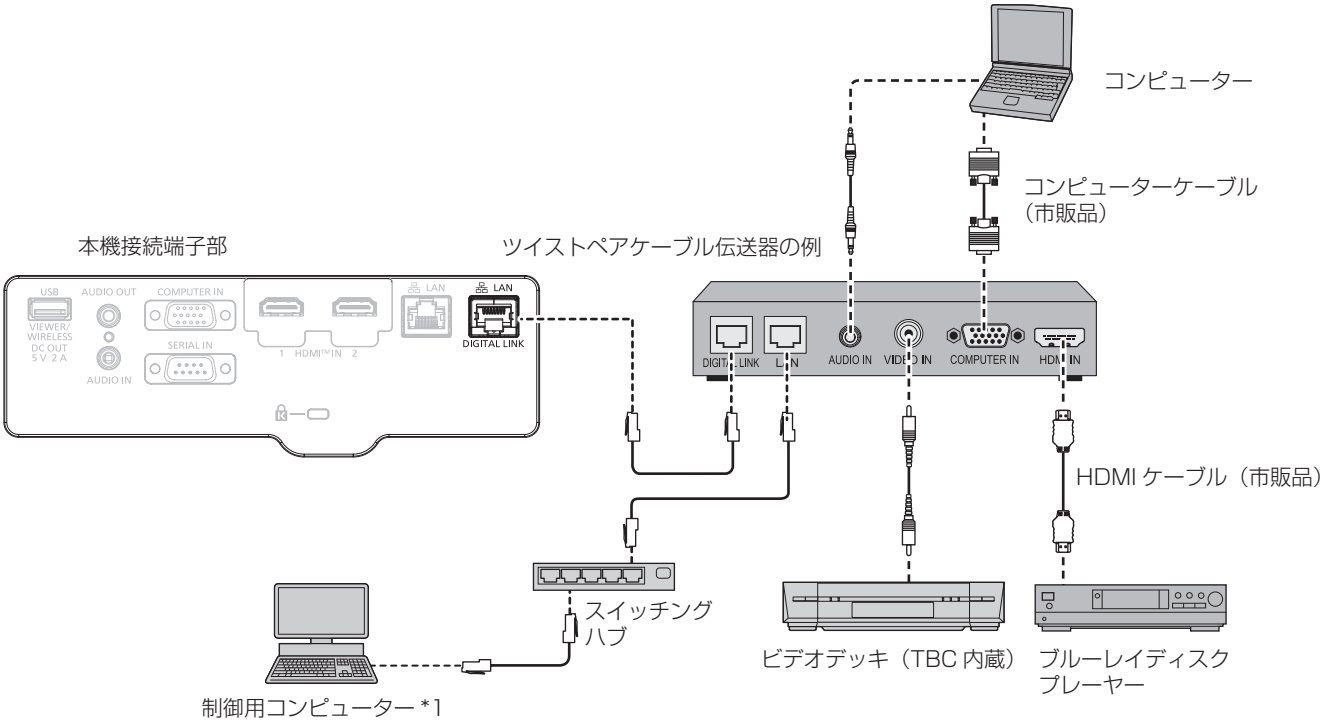
- コンピューターや外部機器に接続する際、それぞれの機器に付属の電源コードと、シールドされた市販のケーブルを使用してください。

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。また、4K 映像信号を入力する場合は、4K 映像信号の伝送に対応した HDMI ケーブルをご使用ください。使用している HDMI ケーブルの対応伝送速度を超える映像信号を入力した場合、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- 本機の〈HDMI IN 1〉端子 /〈HDMI IN 2〉端子は、HDMI/DVI 変換ケーブルを使用することで、DVI-D 端子がある外部機器とも接続できます。ただし、一部の外部機器では、映像がでないなど正常に動作しないことがあります。
- レジューム機能（ラストメモリー）を持つコンピューターを使用して本機を動作させるには、レジューム機能のリセットが必要になることがあります。

DIGITAL LINK での接続（例）

DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）をはじめ、通信規格 HDBaseT™ をベースとしたツイストペアケーブル伝送器は、入力された映像・音声・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送するもので、本機はそのデジタル信号を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力できます。



*1　制御対象は本機、またはツイストペアケーブル伝送器になります。ツイストペアケーブル伝送器によっては制御そのものができない場合がありますので、接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

お願い

- ビデオデッキを接続するときは、必ず、次のどちらかを使用してください。
  - タイムベースコレクター（TBC）内蔵のビデオデッキを使用する
  - 本機とビデオデッキの間にタイムベースコレクター（TBC）を使用する
- バースト信号が非標準の信号を接続すると、映像が乱れる場合があります。その場合は、本機と外部機器との間にタイムベースコレクター（TBC）を接続してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください。工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
  - CAT5e 以上の規格に適合
  - シールドタイプ（コネクターを含む）
  - ストレート結線
  - 単線
  - 芯線の直径が AWG24 以上の太さ（AWG24、AWG23 など）
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。
  途中に中継コネクターを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にスイッチングハブを使用しないでください。
- 他社製ツイストペアケーブル伝送器（受信器）を使用して本機に接続を行うとき、他社製ツイストペアケーブル伝送器と本機の間に別のツイストペアケーブル伝送器（送信器）を経由させないでください。映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子を使用してイーサネット・シリアル制御信号を伝送する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［DIGITAL LINK］または［LAN & DIGITAL LINK］に設定してください。
- 〈LAN〉端子を使用してイーサネット信号を伝送する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［LAN］または［LAN & DIGITAL LINK］に設定してください。
- ［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［LAN & DIGITAL LINK］に設定すると、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子が本機の内部で接続された状態になります。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子を直接 LAN ケーブルで接続しないでください。また、スイッチングハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないようにしてください。
- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かずに引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後に［ネットワーク］メニュー → ［DIGITAL LINK］ → ［DIGITAL LINK ステータス］で［信号品質］の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。（☞ 108 ページ）

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のものを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- デジタルインターフェースボックス（品番：ET-YFB100）と、デジタルリンクスイッチャー（品番：ET-YFB200）は、4K 映像信号の入出力には対応していません。
- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。ただし、ロングリーチの通信方式の場合に本機が受像できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。これらを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。最長伝送距離以上でのご使用は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社のサポートの対象外となりますので、ご注意ください。なお、ロングリーチで接続する場合、ツイストペアケーブル伝送器の仕様によって伝送できる映像信号や距離が制限されることがあります。
- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、次の Web サイトをご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector
  他社製機器の動作確認は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が独自に取り決めた項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

第３章　基本的な使い方

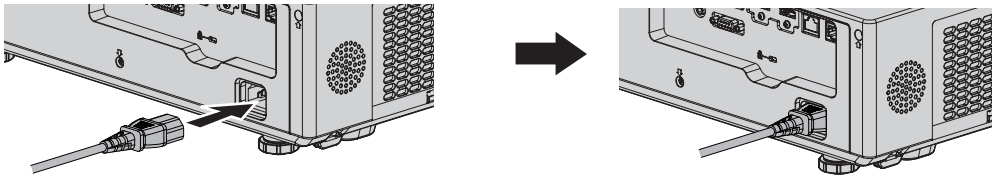
まず使っていただくための操作方法について説明しています。

電源を入れる / 切る

電源コードを接続する

付属の電源コードを使用して、本体の〈AC IN〉端子に奥までしっかりと差し込んでください。
電源コードの詳しい取り扱いについては“安全上のご注意”（☞ 5 ページ）、コンセント形状については“使用可能なコンセント”（☞ 27 ページ）をご覧ください。

取り付け方



1)　本体後面の〈AC IN〉端子と、電源コードのコネクターの形状を確認し、向きを合わせて奥までしっかりと差し込む

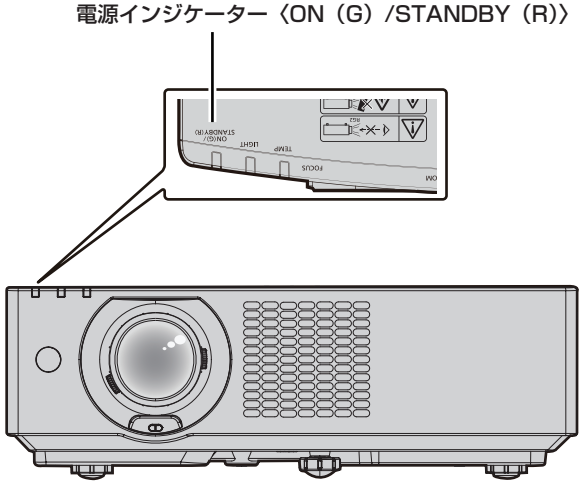
取り外し方

1)　本機がスタンバイ状態になっていることを確認し、コンセントから電源プラグを抜く

2)　本体の〈AC IN〉端子から電源コードのコネクターを持って抜く

電源インジケーターについて

電源の状態を表示します。電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉の状態をよく確認し、操作してください。



点灯状況		本機の状態
消灯		電源プラグがコンセントに接続されていません。
赤色	点灯	電源が切れています。（スタンバイ状態です。） 電源〈⏻/I〉ボタンを押すと、本機は投写を開始します。 ● 光源インジケーター〈LIGHT〉、温度インジケーター〈TEMP〉点滅時は電源〈⏻/I〉ボタンを押しても投写を開始しないことがあります。（☞ 180 ページ）
緑色	点灯	投写状態です。
オレンジ色	点灯	電源を切る準備をしています。 しばらくすると、電源が切れます。（スタンバイ状態になります。）

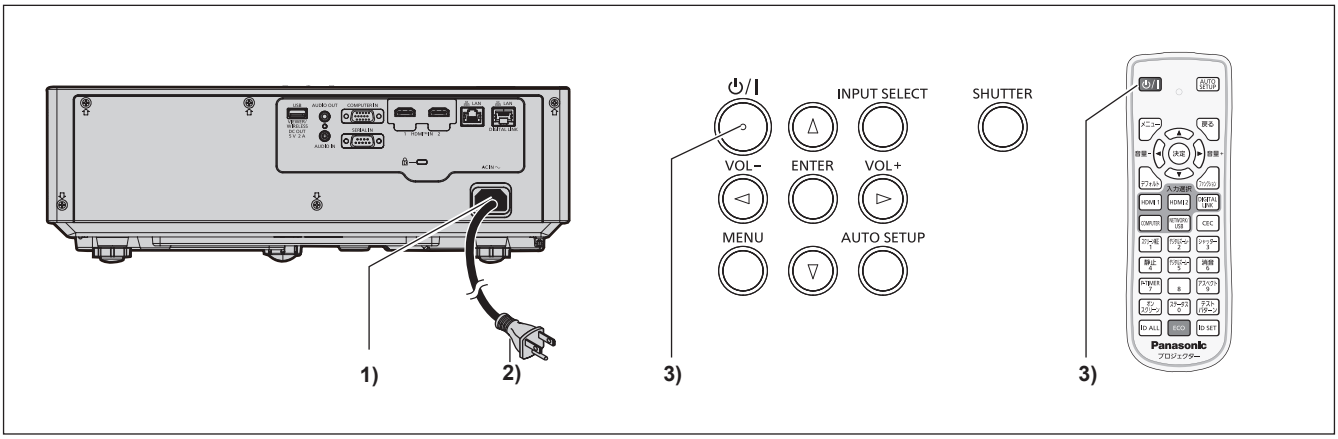
お知らせ

- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉がオレンジ色に点灯中は、ファンが回転し、本機を冷却しています。
- 電源を切ったあとの約 5 秒間は、電源を入れても点灯しません。電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯してから、電源を入れ直してください。
- スタンバイ状態（電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯）でも、電力を消費しています。消費電力については、“待機消費電力”（☞ 200 ページ）をご覧ください。
- 本体がリモコンの信号を受信すると、本機の状態に応じて電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が、次の色で点滅します。
  - 本機が投写状態の場合：緑色
  - 本機がスタンバイ状態の場合：オレンジ色

  ただし、［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］ → ［スタンバイモード］を［ECO］に設定している場合は、スタンバイ状態では赤色点灯のままで、点滅しません。
- 次の場合、電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉がゆっくりと緑色点滅します。
  - シャッター機能を使用中（シャッター：クローズ）の場合
  -［プロジェクター設定］メニュー →［ECO マネージメント］ →［パワーマネージメント］を［待機］に設定している場合

電源を入れる

電源を入れる前に、“接続する”（☞ 32 ページ）を参考に、外部機器との接続を確認してください。



1)　本体に電源コードを接続する

2)　電源プラグをコンセントに接続する

- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が点灯してスタンバイ状態になります。

3)　電源〈⏻/I〉ボタンを押す

- 電源**〈⏻/I〉**ボタンを押すと、電源ボタン操作音が鳴ります。
- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が緑色に点灯し、しばらくすると映像が投写されます。

お知らせ

- 電源ボタン操作音の有効 / 無効を設定する場合、“電源ボタン操作音を設定する場合”（☞ 95 ページ）をご覧ください。
- ［プロジェクター設定］メニュー →［ECO マネージメント］ →［スタンバイモード］を［ECO］に設定した場合、［ノーマル］設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでに時間がかかります。
- ［プロジェクター設定］メニュー →［ECO マネージメント］ →［高速スタートアップ］を［オン］に設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過するまでに電源を入れると、電源を入れてから約 1 秒後に映像が投写されます。
  所定の時間とは、［プロジェクター設定］メニュー →［ECO マネージメント］ →［高速スタートアップ］ →［有効期間］で設定した時間です。

初期設定画面が表示されたら

本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、投写開始後に**［初期設定］**画面、**［管理者アカウント］**画面が表示されます。［プロジェクター設定］メニュー →［全設定初期化］を実行した場合、投写開始後に**［初期設定］**画面が表示されます。［ネットワーク］メニュー →［初期化］を実行した場合、投写開始後に**［管理者アカウント］**画面が表示されます。ご使用になる場合や状況に応じて設定してください。

それ以外の場合でも、メニュー操作で設定を変更できます。

なお、**［初期設定］**画面を表示中に〈メニュー〉ボタンまたは〈戻る〉ボタンを押すと、1 つ前の画面に戻ることができます。

お知らせ

- 初回使用の際は、メニュー画面をはっきり表示させるため、本体の投写レンズ部分にあるズームレバー、フォーカスレバー（☞ 22 ページ）での調整が必要になる場合があります。詳しくは“フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する”（☞ 45 ページ）をご覧ください。

初期設定（表示言語）

オンスクリーンに表示させる言語を選択してください。
初期設定終了後は、［表示言語］メニューで言語を変更できます。

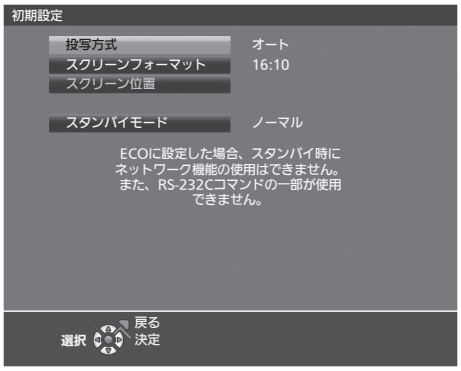
1)　▲▼◀▶ ボタンで表示言語を選択する



2)　〈決定〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（本体設定）

必要に応じて各項目の設定を変更してください。



1)　▲▼ ボタンで項目を選択する

項目	概要
［投写方式］	設置形態に応じて［投写方式］を設定します。
［スクリーンフォーマット］	スクリーンのフォーマット（縦横比）を設定します。
［スクリーン位置］	スクリーンの表示位置を設定します。
［スタンバイモード］	スタンバイ時の動作モードを設定します。

2)　◀▶ ボタンで設定を切り換える

- すべての設定が終わったら、手順 **3)** に進みます。

3)　〈決定〉ボタンを押す

- 設定値を確定し、初期設定を終了します。

［投写方式］を設定する場合

画面表示が上下逆になったり、反転して映ったりしている場合に、設定を変更してください。詳しくは、“設置形態”（☞ 27 ページ）をご覧ください。
初期設定終了後は、［プロジェクター設定］メニュー → ［投写方式］で設定を変更できます。

1)　▲▼ ボタンで［投写方式］を選択する

2)　◀▶ ボタンで設定を切り換える

- ［オート］に設定すると、内蔵の角度センサーで本機の姿勢を検出し、［フロント / 床置き］または［フロント / 天つり］に自動的に切り換えます。スクリーン前方に設置するフロント投写の場合は、通常は［オート］に設定して使用してください。
- 本機をスクリーン後方（透過式スクリーン使用）に設置する場合は、［リア / 床置き］または［リア / 天つり］を選択してください。

［スクリーンフォーマット］および［スクリーン位置］を設定する場合

ご使用のスクリーンに合わせて、スクリーンのフォーマット（縦横比）と表示位置を設定してください。初期設定終了後は、[表示オプション］メニュー → ［スクリーン設定］→ ［スクリーンフォーマット］/ ［スクリーン位置］で設定を変更できます。

1)　▲▼ ボタンで［スクリーンフォーマット］を選択する

2)　◀▶ ボタンでスクリーンのフォーマット（縦横比）を選択する

3)　▲▼ ボタンで［スクリーン位置］を選択する

- ［16：10］を選択した場合、［スクリーン位置］は変更できません。

4)　◀▶ ボタンで映像位置を選択する

- ［中央］/ ［高］/ ［低］または［中央］/ ［左］/ ［右］の中から選択してください。

［スタンバイモード］を設定する場合

スタンバイ時の動作モードを設定してください。初期設定終了後は、［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］→ ［スタンバイモード］で設定を変更できます。

1)　▲▼ ボタンで［スタンバイモード］を選択する

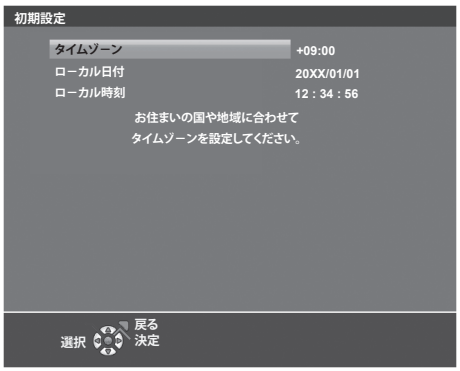
2)　◀▶ ボタンで動作モードを選択する

- 工場出荷時の設定は、スタンバイ時にもネットワーク機能を使用できる［ノーマル］です。
- スタンバイ時の消費電力を低く抑える場合は、［ECO］に設定してください。

初期設定（タイムゾーン）

ご使用の国または地域に応じて［タイムゾーン］を設定してください。日本のタイムゾーンは +09:00 です。初期設定終了後は、［プロジェクター設定］メニュー → ［日付と時刻］で設定を変更できます。［ローカル日付］と［ローカル時刻］には、現在設定されている内容が表示されます。

1)　◀▶ ボタンで設定を切り換える



2)　〈決定〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（日付と時刻）

ローカル日時を設定してください。初期設定終了後は、［プロジェクター設定］メニュー → ［日付と時刻］で設定を変更できます。

自動で日時を設定する場合は、“自動で日時を設定する場合”（☞ 99 ページ）をご覧ください。

1)　▲▼ ボタンで項目を選択する



2)　◀▶ ボタンで設定を切り換える

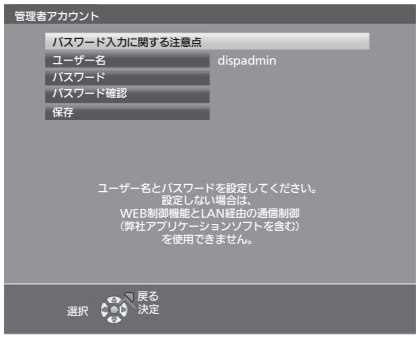
3)　〈決定〉ボタンを押す

- 設定値を確定し、初期設定を終了します。

管理者アカウント設定画面が表示されたら

本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、投写開始後に **［初期設定］** 画面、**［管理者アカウント］** 画面が表示されます。［プロジェクター設定］メニュー → ［全設定初期化］を実行した場合、投写開始後に **［初期設定］** 画面が表示されます。［ネットワーク］メニュー → ［初期化］を実行した場合、投写開始後に **［管理者アカウント］** 画面が表示されます。ご使用になる場合や状況に応じて設定してください。

本機のネットワーク機能を使用する場合は、管理者アカウントのユーザー名とパスワードを設定してください。あとで［ネットワーク］メニュー → ［管理者アカウント］で設定することもできます。

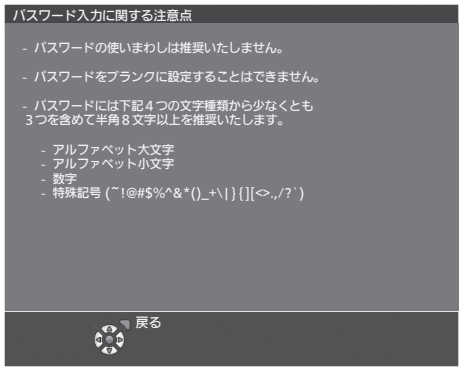


［パスワード入力に関する注意点］

管理者アカウントのパスワードに関する注意点を表示します。

1)　▲▼ ボタンで［パスワード入力に関する注意点］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **［パスワード入力に関する注意点］** 画面が表示されます。
- 〈メニュー〉ボタンを押すと、**［管理者アカウント］** 画面に戻ります。



管理者アカウントを設定する場合

管理者権限を持つアカウントのユーザー名とパスワードを設定します。

1) ▲▼ボタンで［ユーザー名］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［ユーザー名］**画面が表示されます。
- 工場出荷時、管理者アカウントのユーザー名は「dispadmin」に設定されています。

2) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 最大 16 文字を入力できます。

3) ユーザー名の入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［管理者アカウント］**画面が表示されます。

4) ▲▼ボタンで［パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード］**画面が表示されます。

5) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 最大 16 文字を入力できます。
- ブランクには設定できません。

6) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［管理者アカウント］**画面が表示されます。

7) ▲▼ボタンで［パスワード確認］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード確認］**画面が表示されます。

8) 手順 5) で入力したパスワードを入力する

9) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［管理者アカウント］**画面が表示されます。

10) ▲▼ボタンで［保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

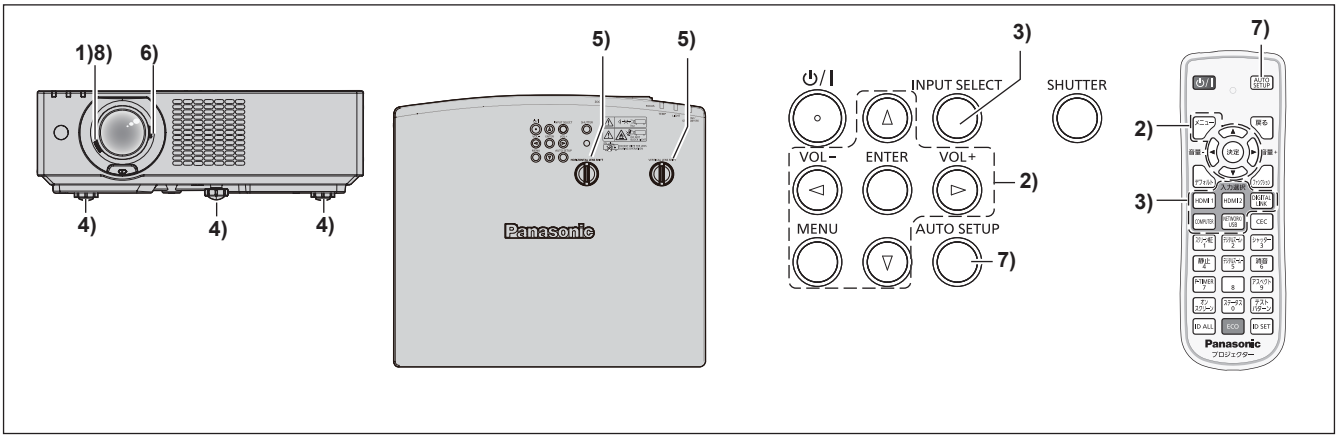
11) ◀▶ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- パスワードに設定できる文字列の制約については、“［パスワード入力に関する注意点］”（☞ 41 ページ）をご覧ください。
- **［管理者アカウント］**画面で〈メニュー〉ボタンを押すことで、管理者アカウントのパスワードを設定せずに次の操作に進むことができますが、本機のネットワーク機能は使用できません。Web 制御機能を使用したり、LAN 経由で通信制御（アプリケーションソフトでの操作を含む）をしたりする場合は、パスワードを設定してください。
- **［管理者アカウント］**画面で〈メニュー〉ボタンを押した場合、次回以降、電源を入れたときに **［管理者アカウント］**画面は表示されません。ネットワーク機能を使用する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［管理者アカウント］でパスワードを設定してください。
- 管理者アカウントのユーザー名とパスワードは、Web 制御画面の“［アカウント設定］（管理者アカウントでアクセスした場合）”（☞ 134 ページ）でも変更できます。
- 管理者権限を持たない標準ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードは、Web 制御画面の“［アカウント設定］（管理者アカウントでアクセスした場合）”（☞ 134 ページ）で設定できます。

調整・選択をする

フォーカス調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。



1) フォーカスレバーを操作して、投写画面のフォーカスをおおまかに合わせる（☞ 45 ページ）

2) **設置形態に応じて、［プロジェクター設定］メニュー → ［投写方式］の設定を変更する（☞ 27 ページ）**
- メニューの操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

3) **リモコンの入力選択ボタンまたは本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力を選択する（☞ 44 ページ）**
- リモコンで使用できるボタンは、次のとおりです。
  〈HDMI 1〉ボタン、〈HDMI 2〉ボタン、〈DIGITAL LINK〉ボタン、〈COMPUTER〉ボタン、〈NETWORK/USB〉ボタン

4) **本体の前後左右の傾きをアジャスター脚で調整する（☞ 46 ページ）**

5) **水平 / 垂直レンズシフトダイヤルを操作して、投写画面の水平 / 垂直方向の位置を調整する（☞ 45 ページ）**

6) **ズームレバーを操作して、投写画面の大きさをスクリーンに合わせる（☞ 45 ページ）**

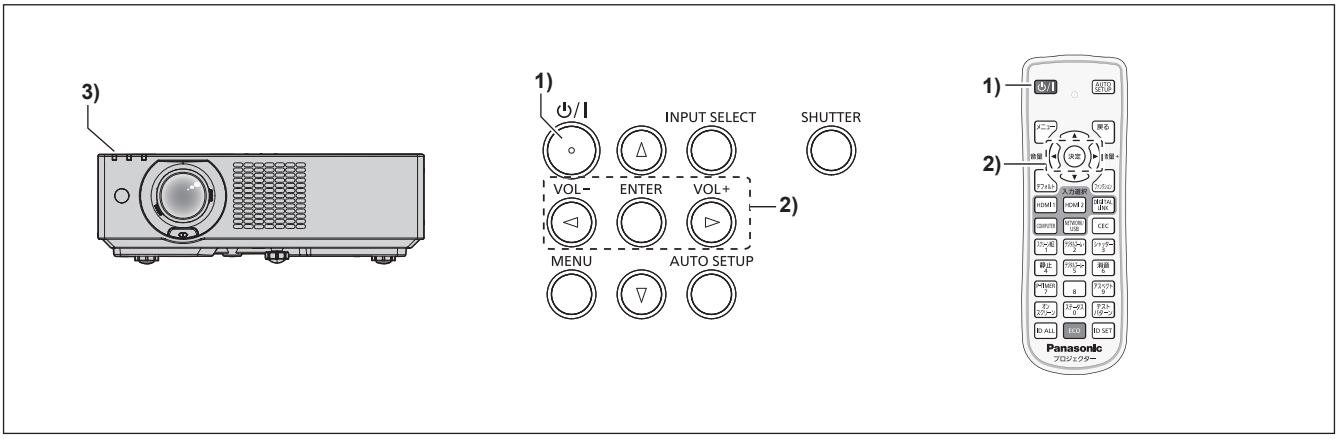
7) **入力信号がアナログ RGB 信号の場合は、〈AUTO SETUP〉ボタンを押す**

8) **再度、フォーカスレバーでフォーカスを調整する**

お知らせ

- ［デジタルズーム拡張］で映像の縮小率と位置を調整できます。詳しくは“デジタルズーム拡張機能を使用する場合”（☞ 67 ページ）をご覧ください。ただし、デジタルズーム拡張機能を使用すると、映像の縮小率に応じて画質が劣化します。
- 本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、投写開始後に **［初期設定］**画面、**［管理者アカウント］**画面が表示されます。［プロジェクター設定］メニュー → ［全設定初期化］を実行した場合、投写開始後に **［初期設定］**画面が表示されます。［ネットワーク］メニュー → ［初期化］を実行した場合、投写開始後に **［管理者アカウント］**画面が表示されます。詳しくは、“初期設定画面が表示されたら”（☞ 38 ページ）、“管理者アカウント設定画面が表示されたら”（☞ 41 ページ）をご覧ください。

電源を切る



1) **電源〈⏻/I〉ボタンを押す**
- **［電源オフ］**確認画面が表示されます。

2) **◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す（または、電源〈⏻/I〉ボタンを再度押す）**
- 映像の投写が停止し、電源ボタン操作音が 2 回鳴り、本体の電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉がオレンジ色に点灯します。（ファンは回転したままです。）

3) **本体の電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色に点灯するまで待つ**
- 電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉が赤色の点灯に変わりスタンバイ状態になります。

4) **コンセントから電源プラグを抜く**

お知らせ

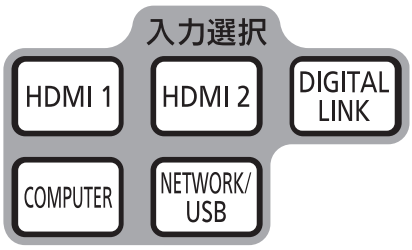
- 電源ボタン操作音の有効 / 無効を設定する場合、“電源ボタン操作音を設定する場合”（☞ 95 ページ）をご覧ください。
- 電源を切ったあとの約 5 秒間は、電源を入れても点灯しません。
- **電源〈⏻/I〉ボタンを押して電源を切っても、電源プラグをコンセントに接続していると、電力が消費されます。**
  ［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］→ ［スタンバイモード］を［ECO］に設定した場合、一部機能の利用が制限されますが、スタンバイ時の消費電力を節約できます。
- 投写中に電源プラグをコンセントから抜いたり、天つり設置時などに電源ブレーカーで電源を落としたりすることができるダイレクトパワーオフに対応しています。しかし、電源を切る直前に行った設定や調整内容が反映されないことがあります。

投写する

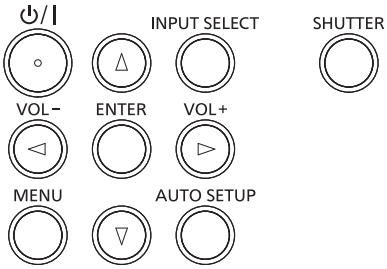
外部機器の接続（☞ 32 ページ）、電源コードの接続（☞ 37 ページ）を確認し、電源を入れる（☞ 38 ページ）と投写を開始します。投写する映像を選択し、映像の映り具合を調整してください。

投写する映像を選択する

投写する映像の入力を切り換えます。入力の切り換え方法は、次のとおりです。
- リモコンの入力選択ボタンを押して、投写する映像の入力を直接指定する。
- 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力ガイドを表示し、投写する映像の入力を選択する。



リモコン



本体操作部

リモコンでダイレクトに入力を切り換える

リモコンの入力選択ボタンで、投写する映像の入力を直接指定して切り換えることができます。

1) 入力選択（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈COMPUTER〉、〈NETWORK/USB〉）ボタンを押す

リモコンボタン	入力	用途
〈HDMI 1〉	HDMI1	HDMI 1 に入力を切り換えます。 〈HDMI IN 1〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈HDMI 2〉	HDMI2	HDMI 2 に入力を切り換えます。 〈HDMI IN 2〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈DIGITAL LINK〉	DIGITAL LINK	DIGITAL LINK に入力を切り換えます。 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈COMPUTER〉	COMPUTER	COMPUTER に入力を切り換えます。 〈COMPUTER IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈NETWORK/USB〉	MEMORY VIEWER	MEMORY VIEWER または NETWORK に入力を切り換えます。すでにいずれかの入力が選択されている場合は、ボタンを押すごとに入力が切り換わります。 • MEMORY VIEWER：メモリービューワー機能を用いて、USB メモリーに記録されている静止画を表示します。（☞ 120 ページ） • NETWORK：パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社の画像転送用のアプリケーションソフトを用いて、端末から無線 LAN/ 有線 LAN で伝送される映像を表示します。（☞ 122 ページ）
	NETWORK	

- 入力切り換え時に、一時的に詳細表示または簡易表示の入力ガイドが表示されます。入力ガイドについては、“本体操作部で入力を切り換える”（☞ 45 ページ）および［表示オプション］メニュー → ［オンスクリーン表示］→［入力ガイド］をご覧ください。

お願い

- 外部機器や再生するブルーレイディスク、DVD などによっては、正常に映像が映らないことがあります。その場合は、入力している信号に応じて次のメニュー項目を設定してください。
  - ［映像調整］メニュー →［RGB/YC_BC_R］
  - ［映像調整］メニュー →［RGB/YP_BP_R］
  - ［映像調整］メニュー →［RGB システム］
- 投写するスクリーンと映像の縦横比を確認し、［位置調整］メニュー →［アスペクト］で最適な縦横比に切り換えてください。

お知らせ

- NETWORK 入力は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社の画像転送用のアプリケーションソフトを用いて、コンピューター（iPad/iPhone/iPod touch、Android 端末を含む）から有線 LAN/ 無線 LAN を介して本機に画像を転送して表示する場合に選択します。画像転送用のアプリケーションソフト「Presenter Light ソフトウェア」、「Wireless Projector」については、次の Web サイトを参照してください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector

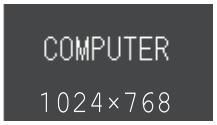
- DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合は、〈DIGITAL LINK〉ボタンを押すごとに、DIGITAL LINK 出力対応機器側の入力が切り換わります。また、RS-232C の操作コマンドでも入力の切り換えができます。
  他社製ツイストペアケーブル伝送器の場合は、DIGITAL LINK 入力に切り換えたうえで、ツイストペアケーブル伝送器側の入力切り換えを行ってください。
  RS-232C の操作コマンドについて、詳しくは“〈SERIAL IN〉端子について”（☞ 194 ページ）をご覧ください。

本体操作部で入力を切り換える

本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンで、投写する映像の入力を切り換えることができます。
〈INPUT SELECT〉ボタンを押すと、詳細表示または簡易表示の入力ガイドが表示されます。



入力ガイド表示例（詳細表示）



入力ガイド表示例（簡易表示）

1)　本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押す

- 入力ガイドが表示されます。

2)　再度〈INPUT SELECT〉ボタンを押す

- 〈INPUT SELECT〉ボタンを押すごとに、切り換え可能な入力が切り換わります。
- 詳細表示の入力ガイドを表示中は、本体操作部またはリモコンの ▲▼ ボタンで入力を選択することもできます。

お知らせ

- 入力ガイドの詳細表示 / 簡易表示の切り換えは、[表示オプション] メニュー → [オンスクリーン表示] → [入力ガイド] で設定できます。
- [表示オプション] メニュー → [オンスクリーン表示] → [入力ガイド] を [オフ] に設定している場合、入力ガイドは表示されません。

フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する

本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像や位置がずれている場合は、フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整してください。

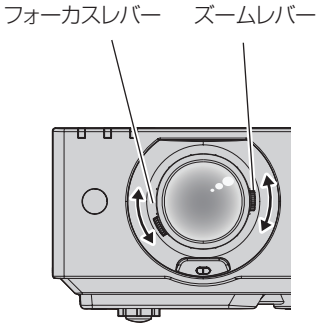


図 1

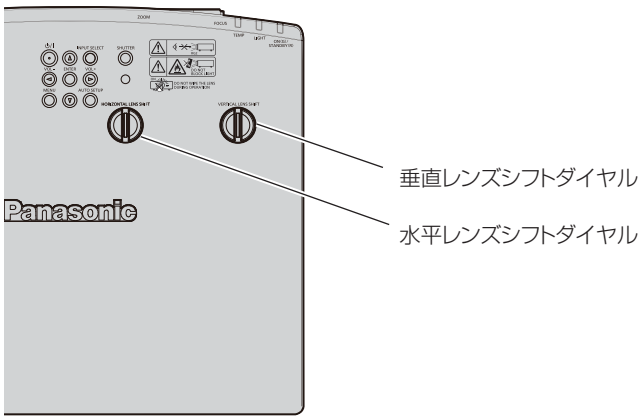


図 2

1)　フォーカスとズームを調整する（図 1）

- フォーカスレバーを操作して、フォーカスを合わせます。
- ズームレバーを操作して、投写画面の大きさをスクリーンに合わせます。

2)　レンズシフトを調整する（図 2）

- 水平レンズシフトダイヤルまたは垂直レンズシフトダイヤルを回して、水平方向または垂直方向の投写位置をスクリーンに合わせます。詳しくは“レンズシフト範囲について”（☞ 46 ページ）をご覧ください。

お知らせ

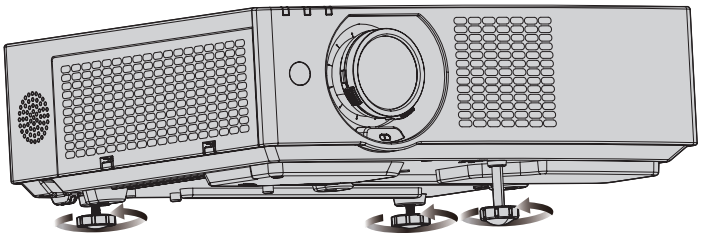
- フォーカス調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。
- フォーカスを調整すると、投写画面の大きさも若干変化します。映像の映り具合に応じて、手順 **1)** と **2)** の操作を繰り返して最良の状態になるよう調整してください。
- 投写映像にゆがみが発生している場合は、［位置調整］メニュー → ［スクリーン補正］で補正してください。
- フォーカスレバーまたはズームレバーを操作して調整する場合、レンズが手で遮られると本体の光出力が下がります。光出力を戻したい場合は手をレンズから離れてください。詳しくは［プロジェクター設定］メニュー → ［レンズ遮蔽検知］（☞ 93 ページ）をご覧ください。

アジャスター脚の調整

投写画面が長方形になるよう、プロジェクターは、その前面がスクリーン面と平行になるように水平な場所に設置してください。

スクリーンが上向きまたは下向きに傾いている場合は、前方アジャスター脚および後方アジャスター脚を伸ばして投写画面が長方形になるように調整します。プロジェクターが水平方向に傾いている場合も、後方アジャスター脚で水平になるように調整します。

図のようにアジャスター脚を回すと脚を伸ばすことができます。また、逆に回すと元に戻すことができます。



最大調整可能量

前方アジャスター脚：37 mm
各後方アジャスター脚：7.5 mm

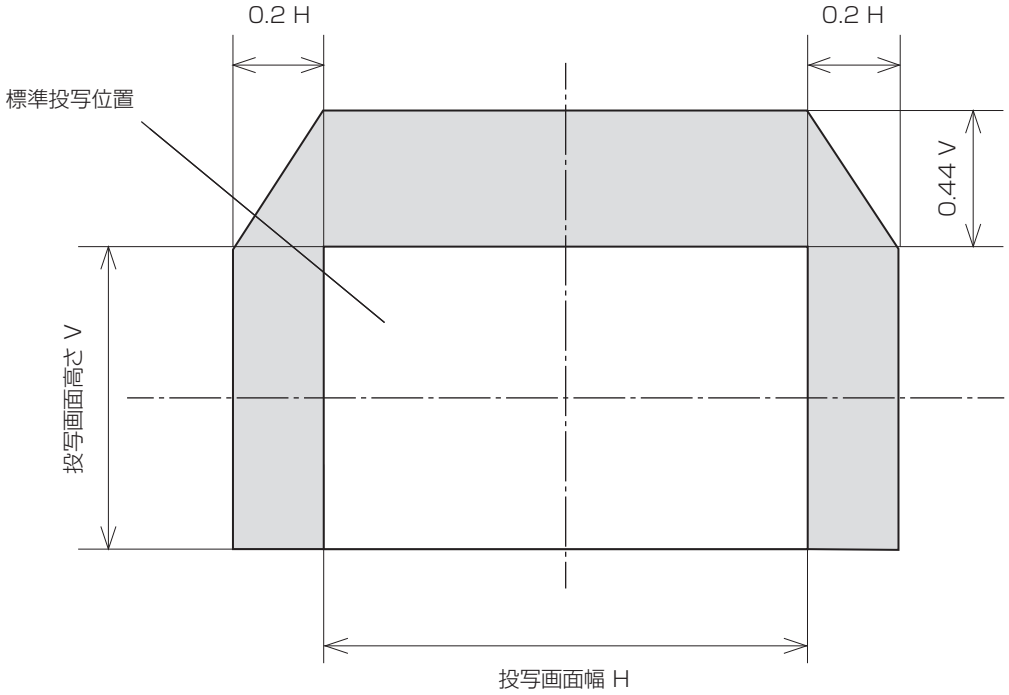
お願い

- 光源点灯中にアジャスター脚を調整するときは、手などで吸排気を妨げないよう注意してください。（☞ 22 ページ）

レンズシフト範囲について

本機は水平方向および垂直方向のレンズシフト機能を備えており、標準投写位置を基準に、次の図の範囲で投写位置を調整できます。

次のイラストは、本機を床置きで設置した場合のレンズシフト範囲を示しています。



お知らせ

- 標準投写位置とは、レンズシフト調整をしていない状態での投写画面の位置を表します。

USB メモリーを使う

本機は、USB メモリーの取り付けに対応しています。ユーザーイメージを登録する場合、メモリービューワー機能、データクローニング機能やユーザーアップデート機能などを使用する場合などに、〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に USB メモリーを取り付けます。

お知らせ

- ユーザーイメージの登録については、“ユーザーイメージを登録する場合”（☞ 102 ページ）をご覧ください。
- メモリービューワー機能については、“MEMORY VIEWER 入力で表示する”（☞ 120 ページ）をご覧ください。
- ユーザーアップデート機能については、［プロジェクター設定］メニュー → ［ユーザーアップデート］（☞ 103 ページ）をご覧ください。
- データクローニング機能については、［プロジェクター設定］メニュー → ［データクローニング］（☞ 103 ページ）をご覧ください。

使用上のお願い

次のことをお守りください。

- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 水などの液体をかけたりぬらしたりしないでください。
- 端子部分に異物を入れないでください。
- 手や金属で金属端子に触れないでください。
- 湿度の高いところ、ほこりの多いところに置かないでください。
- 静電気や電磁波が発生するところに置かないでください。
- 乳幼児の手が届かない所に適切に保管してください。
- 発煙や異臭に気が付いたときは、直ちに USB メモリーを本機から取り外し、製造元に連絡してください。
- データの読み出し中や書き込み中は、本機から取り外さないでください。

本機で使える USB メモリー

FAT16 または FAT32 でフォーマットされた市販の USB2.0 対応の USB メモリーに対応しています。

- シングルパーティション構成にのみ対応しています。

USB メモリーを取り付ける

1) 〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に、USB メモリーをしっかりと奥まで挿す

お願い

- USB メモリーを挿す際は、端子の向きに注意して傷めないようにしてください。
- USB 延長ケーブルや USB ハブを使用せずに、USB メモリーを本機の〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に直接挿してください。

お知らせ

- 本機の電源が入っているときでも USB メモリーを取り付けできます。

USB メモリーを取り外す

1) USB メモリー上のインジケーターが点滅していないことを確認して取り外す

お願い

- 本機に取り付けている USB メモリーのインジケーターが点滅しているときは、本機が USB メモリーにアクセス中（読み出し中または書き込み中）であることを示しています。インジケーターが点滅中は、USB メモリーを本機から取り外さないでください。
- インジケーターなどのモニター機能を備えていない USB メモリーを使用している場合は、USB メモリーへのアクセス状況を確認することができません。この場合は、次のいずれかののちに USB メモリーを取り外してください。
  - 本機の電源を切る。
  - メモリービューワー機能を終了している場合
  - ユーザーイメージの登録を行った場合は、登録が完了していることをメニュー画面で確認する。
  - データクローニング機能を使用している場合は、USB メモリーへのデータ保存またはデータの読み出しが終了していることをメニュー画面で確認する。
  - ユーザーアップデート機能を使用している場合は、アップデートを開始後に本機が自動的にスタンバイ状態になるのを待つ。

リモコンで操作する



シャッター機能を使う

会議の休憩時間や準備などの一定時間だけ本機を使用しない場合には、映像と音声を一時的に消すことができます。

シャッター 3 ボタン

1) 〈シャッター〉ボタンを押す

- 映像と音声が消えます。
- 本体操作部の〈SHUTTER〉ボタンを押しても操作できます。

2) 再度〈シャッター〉ボタンを押す

- 映像と音声がでます。

お知らせ

- シャッター機能を使用中（シャッター：クローズ）は、電源インジケーター〈ON（G）/STANDBY（R）〉がゆっくりと緑色点滅します。
- シャッター機能を使用中（シャッター：クローズ）でも、電源〈⏻/I〉ボタン、入力選択（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈COMPUTER〉、〈NETWORK/USB〉）ボタンの操作ができます。
- 使用環境温度が 0 ℃付近でシャッター機能を使用すると、ウォームアップのため、光源が薄暗く点灯することがあります。

消音機能を使う

音声を一時的に消すことができます。

消音 6 ボタン

1) 〈消音〉ボタンを押す

- 音声が消えます。

2) 再度〈消音〉ボタンを押す

- 音声がでます。

音量を調整する

内蔵スピーカーおよび音声出力の音量を調整できます。



ボタン

1)　リモコンの〈音量 –〉ボタン /〈音量 +〉ボタンを押す

〈音量 +〉	音を大きくします。
〈音量 –〉	音を小さくします。

お知らせ

- 本体操作部の〈VOL-〉ボタン /〈VOL+〉ボタンでも操作できます。

静止機能を使う

外部機器の再生に関係なく、一時的に投写映像を静止し、音声を消すことができます。

静止 4 ボタン

1)　〈静止〉ボタンを押す

- 映像が静止し、音声が消えます。

2)　再度〈静止〉ボタンを押す

- 映像の静止が解除され、音声がでます。

お知らせ

- 静止中は、投写画面の左下に［静止］と表示されます。
- 動画の静止を解除したときに、映像が一時的に消えたり、乱れたりすることがあります。

オンスクリーン表示機能を使う

メニューや入力名などのオンスクリーン表示を視聴者に見せたくない場合に、オンスクリーン表示機能をオフ（非表示）にします。

オン スクリーン ボタン

1)　〈オンスクリーン〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示が消えます。

2)　再度〈オンスクリーン〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示がでます。

お知らせ

- オンスクリーン表示がオフ（非表示）の状態で、本体操作部の〈MENU〉ボタンを 3 秒以上長押しすると、オンスクリーン表示の非表示状態を解除します。

オートセットアップ機能を使う

コンピューター信号のようなドット構成されたアナログ RGB 信号入力時のドットクロック、クロックフェーズ、映像位置を自動で調整できます。
自動調整時は、最外郭が明るい白枠で、白黒がはっきりしたキャラクター文字などを含む画像を入力することをお勧めします。写真や CG のような中間調を含む画像は適しません。

AUTO SETUP ボタン

1)　〈AUTO SETUP〉ボタンを押す

お知らせ

- 本体操作部の〈AUTO SETUP〉ボタンでも操作できます。
- 自動調整してもクロックフェーズがずれていることがあります。このときは、［位置調整］メニュー → ［クロックフェーズ］（☞ 73 ページ）で調整してください。
- 画面の端がわからないような画像や暗い画像を入力すると、自動調整をしても正しく調整できていないことがあります。このときは、次の設定を調整してください。
  - ［位置調整］メニュー → ［ドットクロック］（☞ 72 ページ）
  - ［位置調整］メニュー → ［クロックフェーズ］（☞ 73 ページ）
  - ［位置調整］メニュー → ［シフト］（☞ 72 ページ）
- コンピューターのモデルや入力信号によっては自動調整できないことがあります。
- 自動調整中、数秒間画像が乱れる場合がありますが、異常ではありません。
- 自動調整中にリモコンのいずれかのボタンを押すと、自動調整を取り消すことができます。
- オートセットアップが可能な信号であっても、動画映像が入力されている状態でオートセットアップ機能を使用した場合、正しく調整できていないことがあります。

スクリーン補正機能を使う

投写映像の多様なゆがみを補正します。独自の画像処理技術により特殊な形状のスクリーンにスクエアな映像を投写できます。
また、デジタルズーム拡張機能を使用して、映像を縮小して表示位置を調整することができます。設置環境の都合上、通常より離れた位置から投写しなければならない場合にご使用ください。

スクリーン補正 1 ボタン

1) 〈スクリーン補正〉ボタンを押す

- **［スクリーン補正］**画面が表示されます。

2) ◀▶ ボタンで調整する項目を選択する

［台形補正］	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
［デジタルズーム拡張］	デジタルズーム拡張機能を使用して映像を縮小している場合に、その表示位置を調整します。コーナー補正を行うこともできます。
［コーナー補正］	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
［曲面スクリーン補正］	投写映像が曲面にゆがむ場合に調整します。
［6 点補正］	投写映像が柱の角や奥まった角を含む面でゆがむ場合に調整します。

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **［台形補正］**画面、**［デジタルズーム拡張］**画面、**［コーナー補正］**画面、**［曲面スクリーン補正］**画面、**［6 点補正］**画面が表示されます。

お知らせ

- 詳しくは、［位置調整］メニュー → ［スクリーン補正］（☞ 66 ページ）をご覧ください。

デジタルズーム機能を使う

映像を拡大したり、映像の拡大場所を移動したりします。

デジタルズーム+ 2

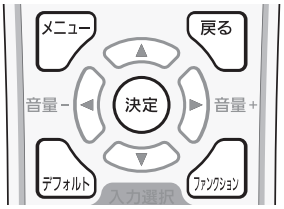
デジタルズーム- 5 ボタン

1) 〈デジタルズーム –〉ボタン / 〈デジタルズーム +〉ボタンを押す

- 移動画面が表示されます。

2) 次のボタン操作で拡大場所を移動したり、倍率を調整したりする

- 〈デジタルズーム –〉ボタン / 〈デジタルズーム +〉ボタンを 3 秒以上押すとデジタルズーム機能が解除されます。

操作メニュー / ボタン	操作	変化内容
 移動画面  リモコン操作ボタン	▲ ボタンを押す	画像が下へ移動します。
	▼ ボタンを押す	画像が上へ移動します。
	◀ ボタンを押す	画像が右へ移動します。
	▶ ボタンを押す	画像が左へ移動します。
	〈メニュー〉ボタンを押す	左上端を表示します。
	〈戻る〉ボタンを押す	右上端を表示します。
	〈決定〉ボタンを押す	中心を表示します。
	〈デフォルト〉ボタンを押す	左下端を表示します。
	〈ファンクション〉ボタンを押す	右下端を表示します。
	〈デジタルズーム +〉ボタンを押す	倍率が上がります。
	〈デジタルズーム –〉ボタンを押す	倍率が下がります。

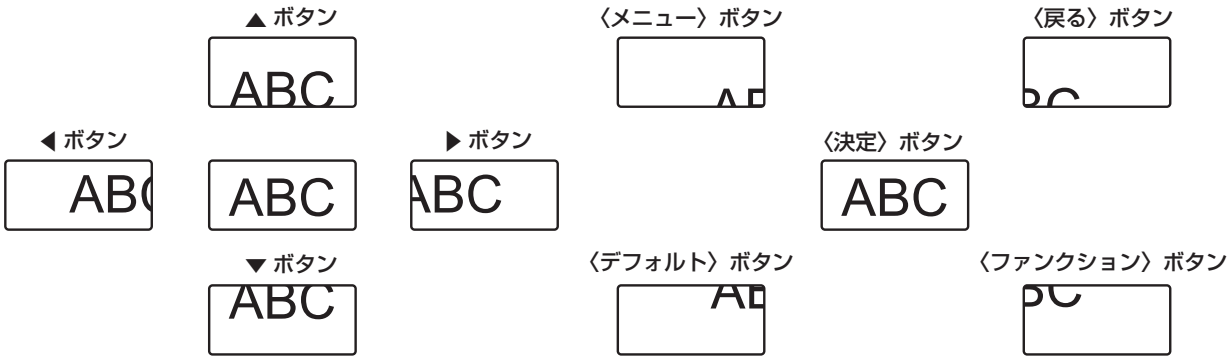


図1　ボタン操作後の画面表示位置

お知らせ

- 移動画面に倍率は表示されません。
- デジタルズーム中に入力信号の種類が変わると、デジタルズームの調整値が解除されます。
- デジタルズーム中は、静止機能は無効になります。
- 一部のコンピューター系信号ではデジタルズームは動作しません。
- デジタルズーム機能は、メニュー操作からでも使用できます。詳しくは、[表示オプション] メニュー → [その他の機能] → “デジタルズーム機能を使う”（☞ 85 ページ）をご覧ください。

映像の縦横比を切り換える

入力に応じて映像の縦横比（アスペクト比）を切り換えることができます。

アスペクト 9 ボタン

1) 〈アスペクト〉ボタンを押す

- ◀▶ボタンを押すごとに、設定が切り換わります。

お知らせ

- 詳しくは、[位置調整] メニュー → [アスペクト]（☞ 73 ページ）をご覧ください。

プレゼンテーションタイマー機能を使う

プレゼンテーションタイマーを操作できます。
経過時間、または設定した時間に対する残り時間を確認しながらプレゼンテーションなどを行うことができます。

P-TIMER 7 ボタン

1) 〈P-TIMER〉ボタンを押す

- カウントを開始します。

2) 再度〈P-TIMER〉ボタンを押す

- カウントを停止します。

お知らせ

- プレゼンテーションタイマーを使用中は、投写画面の右下に経過時間または残り時間が表示されます。
- カウント停止中に〈P-TIMER〉ボタンを押すと、カウントを再開します。
- 〈P-TIMER〉ボタンを 3 秒以上長押しすると、プレゼンテーションタイマーを終了します。
- プレゼンテーションタイマー機能の設定など詳細については、［表示オプション］メニュー → ［プレゼンテーションタイマー］（☞ 81 ページ）をご覧ください。

ファンクションボタンを使う

リモコンの〈ファンクション〉ボタンによく使うメニュー項目を割り当てることで、簡単なショートカットボタンとして使用できます。



ボタン

1) 〈ファンクション〉ボタンを押す

〈ファンクション〉ボタンへの割り当てを設定する場合

1) 〈メニュー〉ボタンを押して、割り当てたいメニュー項目（メインメニュー、サブメニュー、または詳細メニュー）を表示させる

- メニューの操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

2) 〈ファンクション〉ボタンを 3 秒以上押し続ける

お知らせ

- 設定が完了すると、割り当てたメニュー項目がメニュー下部の操作ガイド部分に、［割り当て機能］として表示されます。
- 割り当ての解除は、［プロジェクター設定］メニュー → ［ファンクションボタン］（☞ 94 ページ）で行います。

内蔵テストパターンを表示する

本体の状態を確認するために、内蔵テストパターンを表示させることができます。テストパターンを表示させる場合は、次の手順で操作してください。



ボタン

1) 〈テストパターン〉ボタンを押す

2) ◀▶ ボタンでテストパターンを選択する

お知らせ

- ［プロジェクター設定］メニュー → ［テストパターン］（☞ 96 ページ）でも設定できます。
- 位置、サイズなどの設定内容はテストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

ステータス機能を使う

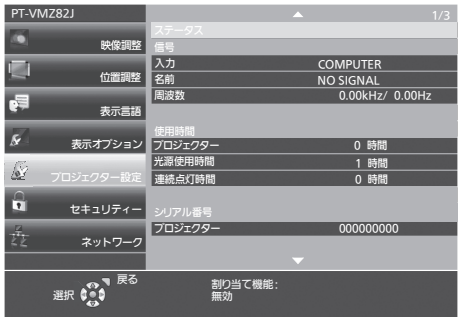
本体の情報を表示します。



ボタン

1) 〈ステータス〉ボタンを押す

- **［ステータス］**画面が表示されます。



お知らせ

- メニュー操作でも本体の状態を表示できます。詳しくは、［プロジェクター設定］メニュー → ［ステータス］（☞ 86 ページ）をご覧ください。

ECO マネージメント機能を使う

ECO マネージメントに関する設定画面を表示できます。

ECO **ボタン**

1)　〈ECO〉ボタンを押す

お知らせ

- 詳しくは、［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］（☞ 88 ページ）をご覧ください。

HDMI CEC 機能を使う

HDMI CEC 操作画面を表示できます。

CEC **ボタン**

1)　〈CEC〉ボタンを押す

- **HDMI CEC 操作**画面が表示されます。

お知らせ

- 詳しくは、［プロジェクター設定］メニュー → ［HDMI CEC］（☞ 99 ページ）をご覧ください。

リモコンの ID ナンバーを設定する

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。
本体の ID ナンバーを設定したあと、同じ ID ナンバーをリモコンに指定してください。
本機の ID ナンバーは、工場出荷時、［オール］に設定されています。1 台だけでご使用の場合は、リモコンの〈ID ALL〉ボタンを押してください。また、本体の ID がわからない場合でも、リモコンの〈ID ALL〉ボタンを押せば制御できます。

ID ALL **ボタン** ID SET **ボタン**

1)　〈ID SET〉ボタンを押す

2)　5 秒以内に、本体側で設定した 1 桁または 2 桁の ID ナンバーを、数字（〈0〉～〈9〉）ボタンを押して設定する

- 〈ID ALL〉ボタンを押した場合は、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。

お願い

- リモコンの ID ナンバー指定は、本体がなくても可能なため、リモコンの〈ID SET〉ボタンは不用意に押さないでください。〈ID SET〉ボタンを押した場合は、5 秒以内に数字（〈0〉～〈9〉）ボタンを押さないと〈ID SET〉ボタンを押す以前の ID ナンバーに戻ります。
- リモコンに入力された ID ナンバーの指定は、再度指定しない限り記憶しています。ただし、リモコンの電池が消耗したまま放置しておくと消去されます。乾電池を交換した場合は、同じ ID ナンバーを再度設定してください。

お知らせ

- リモコンの ID ナンバーを［0］に設定した場合は、［オール］に設定した場合と同様に、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。
- 本体の ID ナンバーは、［プロジェクター設定］メニュー → ［プロジェクター ID］で設定してください。（☞ 87 ページ）

第４章　調整と設定

オンスクリーンメニューを使ってできる設定や調整方法について説明しています。

オンスクリーンメニューについて

本機の各種設定や調整は、オンスクリーンメニュー（メニュー画面）を使用します。

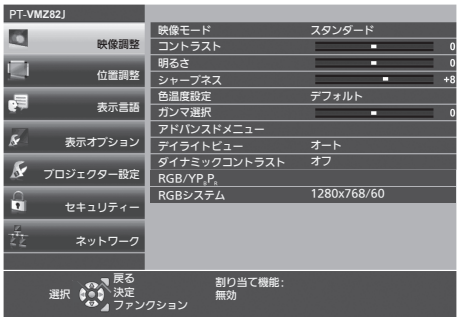
メニュー画面の操作方法

操作の手順

メニュー
ボタン

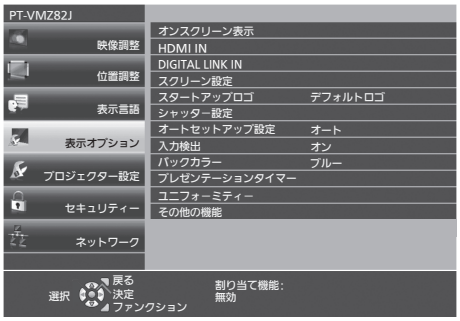
1) リモコンの〈メニュー〉ボタンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- メインメニュー画面が表示されます。



2) ▲▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選択する

- 選択中の項目は黄色のカーソルで表示されます。



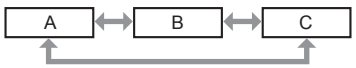
3) 〈決定〉ボタンを押す

- 選択したメインメニューのサブメニューの操作ができます。



4) ▲▼ ボタンを押してサブメニュー項目を選択し、◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押して設定の切り換えや調整を行う

- 項目によっては ◀▶ ボタンを押すごとに、下図のように順繰りに項目が切り換わります。



• 項目によっては ◀▶ ボタンを押すと、下図のようなバースケールの個別調整画面が表示されます。



お知らせ

- メニュー画面を表示中に〈メニュー〉ボタンを押すと、1 つ上の階層のメニュー画面に戻ります。
  〈戻る〉ボタンを押すことでも同様に操作できます。
- 本機に入力してる信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が灰色文字で表示され、その項目の調整や設定はできません。
  なお、メニュー画面の項目が黒色文字で表示され、その項目の調整や設定ができない状態である場合は、該当のメニューを選択した状態で〈決定〉ボタンを押すと、その要因となる項目が表示されます。
- 信号が入力されていない場合でも、調整できるものがあります。
- 約 5 秒間何も操作しないで放置していると、個別調整画面は自動的に消えます。
- メニューの項目については“メインメニュー”（☞ 57 ページ）や“サブメニュー”（☞ 57 ページ）をご覧ください。

調整値を工場出荷時の状態に戻す

リモコンの〈デフォルト〉ボタンを押すと、メニュー項目で調整した値が工場出荷時の状態に戻ります。



ボタン

1)　リモコンの〈デフォルト〉ボタンを押す

お知らせ

- すべての設定を一度に工場出荷時の状態には戻せません。
- サブメニュー項目で調整した値を、一度に工場出荷時の状態に戻すには、［プロジェクター設定］メニュー → ［全設定初期化］で行います。
- リモコンの〈デフォルト〉ボタンを押しても、工場出荷時の状態に戻らない項目もあります。それらの項目は個別に操作してください。

メインメニュー

メインメニューには以下の項目があります。
メインメニューを選択すると、カーソルがサブメニューに移動します。

メインメニュー項目		ページ
	［映像調整］	60
	［位置調整］	66
	［表示言語］	76
	［表示オプション］	77
	［プロジェクター設定］	86
	［セキュリティー］	104
	［ネットワーク］	107

サブメニュー

各サブメニュー項目の設定・調整ができます。

[映像調整]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[映像モード]	[スタンダード]	60
[コントラスト]	[0]	60
[明るさ]	[0]	60
[色の濃さ]	[0]	61
[色あい]	[0]	61
[シャープネス]	[9]	61
[色温度設定]	[デフォルト]	61
[ガンマ選択]	[0]	62
[アドバンスドメニュー]	—	62
[デイライトビュー]	[オート]	62
[デジタルシネマリアリティー]	[オン]	63
[ダイナミックコントラスト]	[オフ]	63
[RGB/YC_BC_R] / [RGB/YP_BP_R]	[オート]	64
[RGB システム]	[1280x768/60] *1	64

*1　入力信号により異なります。

[位置調整]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[リアルタイム台形補正]	[オン]	66
[スクリーン補正]	[台形補正]	66
[シフト]	—	72
[ドットクロック]	[0]	72
[クロックフェーズ]	[0]	73
[オーバースキャン]	[0] *1	73
[アスペクト]	[ノーマル] *1	73
[フレームロック]	[オン]	74
[クランプ位置]	[24] *1	74
[ズーム]	—	74

*1　入力信号により異なります。

[表示言語]

項目の詳細（☞ 76 ページ）

[表示オプション]

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[オンスクリーン表示]	—	77
[HDMI IN]	—	78
[DIGITAL LINK IN]	—	79
[スクリーン設定]	—	79
[スタートアップロゴ]	[デフォルトロゴ]	80
[シャッター設定]	—	80
[オートセットアップ設定]	[オート]	80
[入力検出]	[オン]	81
[バックカラー]	[ブルー]	81
[プレゼンテーションタイマー]	—	81
[ユニフォーミティー]	—	82
[その他の機能]	—	84

［プロジェクター設定］

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
［ステータス］	—	86
［プロジェクター ID］	［オール］	87
［起動方法］	［ラストメモリー］	87
［投写方式］	［オート］	88
［ECO マネージメント］	—	88
［RS-232C］	—	92
［レンズ遮蔽検知］	［オン］	93
［ファンクションボタン］	—	94
［音声設定］	—	94
［テストパターン］	—	96
［フィルターカウンター］	—	96
［スケジュール］	［オフ］	97
［日付と時刻］	—	99
［HDMI CEC］	［オン］	99
［ユーザーイメージ］	—	102
［ユーザーアップデート］	—	103
［データクローニング］	—	103
［全設定初期化］	—	103

［セキュリティー］

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
［パスワード設定］	［オフ］	104
［パスワード変更］	—	104
［テキスト設定］	［オフ］	104
［テキスト変更］	—	105
［操作設定］	—	105
［操作設定パスワード変更］	—	106

［ネットワーク］

サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
［イーサネットタイプ］	［LAN］	107
［DIGITAL LINK］	—	107
［有線 LAN］	—	109
［プロジェクター名］	—	110
［ネットワークステータス］	—	110
［管理者アカウント］	—	111
［ネットワークセキュリティー］	—	113
［ネットワークコントロール］	—	114
［PJLink］	—	114
［メモリービューワー］	—	116
［初期化］	—	117

お知らせ

- 本機に入力される信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。
  調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が灰色文字で表示され、その項目の調整や設定はできません。
- サブメニューの項目、および工場出荷時の値は、選択している入力により表示が異なります。

［映像調整］メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから［映像調整］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

［映像モード］

ご覧になる映像や視聴環境に合わせて最適な映像モードに設定します。

1)　▲▼ ボタンで［映像モード］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **［映像モード］**個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［スタンダード］	ビデオ系全般に適した画像になります。
［ダイナミック］	明るい場所で使用する場合に適した画像になります。
［簡易 DICOM］	DICOM Part14 グレースケール規格に近い画像になります。
［ホワイトボード］	ホワイトボードへの投写に適した画像になります。
［ビビット　グリーン］	グリーンフィールドに適した画像になります。
［シネマ］	映画コンテンツに適した画像になります。
［ナチュラル］	比較的暗い環境で使用する場合に適した画像になります。

お知らせ

- DICOM とは「Digital Imaging and Communication in Medicine」の略称で、医療用画像機器のための規格です。DICOM の名称を用いていますが、本機は医療機器ではありませんので、表示画像を診断などの用途に使用しないでください。

［コントラスト］

色の明暗度を調整します。

1)　▲▼ ボタンで［コントラスト］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **［コントラスト］**個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	–32 ～ +32
◀ ボタンを押す	画面が暗くなります。	

お願い

- ［明るさ］と［コントラスト］を調整する必要がある場合には、［明るさ］を先に調整してください。

［明るさ］

画面の暗い部分（黒色）を調整します。

1)　▲▼ ボタンで［明るさ］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **［明るさ］**個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が明るくなります。	–32 ～ +32
◀ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が暗くなります。	

[色の濃さ]

色の濃さを調整します。

1)　▲▼ ボタンで［色の濃さ］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[色の濃さ]** 個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色が濃くなります。	–32 ～ +32
◀ ボタンを押す	色が薄くなります。	

[色あい]

肌色の部分を調整します。

1)　▲▼ ボタンで［色あい］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[色あい]** 個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が緑色がかります。	–32 ～ +32
◀ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が赤紫色がかります。	

[シャープネス]

映像のシャープ感を調整します。

1)　▲▼ ボタンで［シャープネス］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[シャープネス]** 個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	輪郭がシャープになります。	0 ～ +15
◀ ボタンを押す	輪郭がやわらかくなります。	

[色温度設定]

映像の白色部分が青みがかったり、赤みがかったりする場合に切り換えます。

1)　▲▼ ボタンで［色温度設定］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[色温度設定]** 個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	工場出荷時の状態です。
[高]	青みがかった映像になります。映像の白色部分が赤みがかっている場合に選択します。
[低]	赤みがかった映像になります。映像の白色部分が青みがかっている場合に選択します。

[ガンマ選択]

コントラストのバランスを調整します。

1) ▲▼ ボタンで［ガンマ選択］を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[ガンマ選択]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	中間階調が明るくなります。	–8 ～ +7
◀ ボタンを押す	中間階調が暗くなります。	

[アドバンスドメニュー]

映像をさらに詳細に調整します。

1) ▲▼ ボタンで［アドバンスドメニュー］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［アドバンスドメニュー]**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［コントラスト R］～［ブライト B］を選択する

4) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- 各調整項目の個別調整画面が表示されます。

5) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調整項目	操作	変化内容	調整範囲
[コントラスト R]	▶ ボタンを押す	明るい部分の赤色が強くなります。	–32 ～ +32
	◀ ボタンを押す	明るい部分の赤色が弱くなります。	
[コントラスト G]	▶ ボタンを押す	明るい部分の緑色が強くなります。	–32 ～ +32
	◀ ボタンを押す	明るい部分の緑色が弱くなります。	
[コントラスト B]	▶ ボタンを押す	明るい部分の青色が強くなります。	–32 ～ +32
	◀ ボタンを押す	明るい部分の青色が弱くなります。	
[ブライト R]	▶ ボタンを押す	暗い部分の赤色が強くなります。	–32 ～ +32
	◀ ボタンを押す	暗い部分の赤色が弱くなります。	
[ブライト G]	▶ ボタンを押す	暗い部分の緑色が強くなります。	–32 ～ +32
	◀ ボタンを押す	暗い部分の緑色が弱くなります。	
[ブライト B]	▶ ボタンを押す	暗い部分の青色が強くなります。	–32 ～ +32
	◀ ボタンを押す	暗い部分の青色が弱くなります。	

[デイライトビュー]

明るい照明下で映像を投写する場合でも、映像を最適な鮮やかさに補正します。

1) ▲▼ ボタンで［デイライトビュー］を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[デイライトビュー]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	補正なしの状態です。
[1]	映像の鮮やかさを弱めに補正します。
[2]	映像の鮮やかさを中程度に補正します。
[3]	映像の鮮やかさを強めに補正します。
[オート]	照度センサーで設置環境の明るさを検出して、映像の鮮やかさを自動的に補正します。

お知らせ

- [プロジェクター設定] メニュー → [投写方式] を [リア / 床置き] または [リア / 天つり] に設定している場合、[オート] は設定できません。
- プロジェクターの天面にものなどを置くと照度センサーが陰に入り、明るさを正しく検出できないことがあります。この場合、[オート] に設定していても適切に動作しないことがあります。

[デジタルシネマリアリティー]

次の信号が入力されたとき、シネマ処理をして垂直解像度をさらに上げ、画質を向上させます。
480/60i、576/50i、1080/60i、1080/50i 信号

1) ▲▼ ボタンで［デジタルシネマリアリティー］を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **［デジタルシネマリアリティー］**個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	シネマ処理をしません。
[オン]	シネマ処理をします。

[ダイナミックコントラスト]

映像に合わせて自動的に光源の調光と信号補正を行うことで、最適なコントラストの画像にします。

1) ▲▼ ボタンで［ダイナミックコントラスト］を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **［ダイナミックコントラスト］**個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	ダイナミックコントラスト機能を無効にします。
[1]	光源の調光と信号を弱めに補正します。
[2]	光源の調光と信号を強めに補正します。
[ユーザー]	入力中の映像信号が、ある一定の明るさレベル以下になった場合に一時的に光源を消灯できます。 詳しくは、“光源の消灯条件を設定する場合”（☞ 63 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- ［ダイナミックコントラスト］は、メニュー画面（OSD）などのオンスクリーン表示、テストパターン、警告メッセージを表示されていないときのみ設定が有効になります。

光源の消灯条件を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［ダイナミックコントラスト］を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **［ダイナミックコントラスト］個別調整画面が表示されます。**

3) ◀▶ ボタンで［ユーザー］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す
- **［ダイナミックコントラスト］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで設定したい項目を選択する
- **◀▶ ボタンを押すごとに、その詳細設定の項目が切り換ります。**

設定項目		内容
[消灯検出タイマー] (消灯するまでの時間設定)	[無効]	光源を消灯しません。
	[0.5s] ～ [10.0s]	設定した時間の間、入力中の映像信号の明るさレベルが [消灯検出信号レベル] で設定した値を下回り続けると、光源を消灯します。 項目は、[0.5s] ～ [4.0s]、[5.0s]、[7.0s]、[10.0s] から選択します。 [0.5s] ～ [4.0s] までは、0.5 単位で選択できます。
[消灯検出信号レベル] (消灯する信号の明るさレベルの設定)	[0%] ～ [5%]	[消灯検出タイマー] で光源を消灯する場合の映像信号の明るさレベルを設定します。 1 % 単位で設定できます。(出荷設定値 0 %)

お知らせ

- [消灯検出タイマー] を [無効] に設定している場合、[消灯検出信号レベル] は設定できません。
- [消灯検出タイマー] を [無効] 以外に設定している場合、この機能が働いて光源が消灯した状態から、再び光源が点灯する条件は次のとおりです。
  - 入力中の映像信号の明るさレベルが、[消灯検出信号レベル] で設定した値を超えたとき
  - 入力信号がなくなったとき
  - メニュー画面 (OSD) などのオンスクリーン表示、テストパターン、警告メッセージを表示するとき
- アナログ信号の映像を投写している場合､映像信号の明るさレベルを検出するときに信号ノイズの影響を受けることがあります。この場合、[消灯検出信号レベル] で設定した明るさレベルを下回る映像であっても、信号としては下回っていないものと判別されます。

[RGB/YC_BC_R] / [RGB/YP_BP_R]

本機は入力信号を自動判別しますが、不安定な信号を入力している場合は、手動でシステム方式を設定します。入力信号に合ったシステム方式を設定してください。

1) ▲▼ ボタンで [RGB/YC_BC_R] または [RGB/YP_BP_R] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す

- **[RGB/YC_BC_R]** または **[RGB/YP_BP_R]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。
- 通常は [オート] に設定してください。[オート] で正常に映らない場合は、入力している信号に合わせて [RGB]、[YC_BC_R] または [YP_BP_R] に設定してください。

接続端子	システム方式	
〈COMPUTER IN〉端子	480/60i、576/50i、480/60p、576/50p 信号	[オート]、[RGB]、[YC_BC_R] から選択します。
	上記以外のビデオ系信号	[オート]、[RGB]、[YP_BP_R] から選択します。
〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子	480/60i、576/50i、480/60p、576/50p 信号	[オート]、[RGB]、[YC_BC_R] から選択します。
	上記以外の信号	[オート]、[RGB]、[YP_BP_R] から選択します。

お知らせ

- 本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト”(☞ 202 ページ) をご覧ください。
- 接続する一部の外部機器では、正常に動作しないことがあります。

[RGB システム]

(アナログ RGB 信号入力時のみ)

本機は入力信号を自動判別しますが、入力している信号によっては映像が正常に映らないことがあります。その場合は、入力信号に合った項目に設定してください。

1) ▲▼ ボタンで [RGB システム] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[RGB システム]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで項目を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- 入力している信号によって選択できる項目が異なります。

選択項目	解像度 (ドット)	走査周波数		ドットクロック周波数 (MHz)
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)	
[1280x768/60]	1 280 x 768	47.7	60.0	80.1
[1366x768/60]	1 366 x 768	47.7	60.0	84.7
[1400x1050/60]	1 400 x 1 050	65.2	60.0	122.6
[1680x1050/60]	1 680 x 1 050	65.2	60.0	147.1
[1440x900/50]	1 440 x 900	46.3	50.0	87.4
[1600x900/50]	1 600 x 900	46.3	50.0	97.0
[1440x900/60]	1 440 x 900	55.9	60.0	106.5
[1600x900/60]	1 600 x 900	55.9	60.0	119.0
[1024x768/50]	1 024 x 768	39.6	50.0	51.9
[1280x768/50]	1 280 x 768	39.6	50.0	65.2
[1366x768/50]	1 366 x 768	39.6	50.0	69.9
[1400x1050/50]	1 400 x 1 050	54.1	50.0	99.9
[1680x1050/50]	1 680 x 1 050	54.1	50.0	120.2
[1280x1024/60]	1 280 x 1 024	64.0	60.0	108.0
[1400x1050/60]	1 400 x 1 050	64.0	60.0	108.0

お知らせ

- 接続する一部の外部機器では、正常に動作しないことがあります。

［位置調整］メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから［位置調整］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、シフト、アスペクトの調整は、まず DIGITAL LINK 出力対応機器側のメニューで設定してください。

［リアルタイム台形補正］

本機を傾けて設置している場合に発生する台形ひずみを自動で補正します。

1)　▲▼ ボタンで［リアルタイム台形補正］を選択する

2)　◀▶ または〈決定〉ボタンを押す
- **［リアルタイム台形補正］** 個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで調整する項目を選択する

［オン］	リアルタイム台形補正機能を自動実行します。
［オフ］	リアルタイム台形補正機能を自動実行しません。

お知らせ

- 設置の状況によっては、台形ひずみを完全に補正できないことがあります。その場合は、［位置調整］メニュー →［スクリーン補正］で調整してください。
- 次の場合、［リアルタイム台形補正］は設定できません。
  - ［プロジェクター設定］メニュー →［投写方式］を［フロント / 天つり］または［リア / 天つり］に設定している場合
  - ［プロジェクター設定］メニュー →［投写方式］を［オート］に設定していて、実際の設置状態が天つり設置の場合

［スクリーン補正］

投写映像の多様なゆがみを補正します。独自の画像処理技術により特殊な形状のスクリーンにスクエアな映像を投写できます。
また、デジタルズーム拡張機能を使用して、映像を縮小して表示位置を調整することができます。設置環境の都合上、通常より離れた位置から投写しなければならない場合にご使用ください。

1)　▲▼ ボタンで［スクリーン補正］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

［台形補正］	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
［デジタルズーム拡張］	デジタルズーム拡張機能を使用して映像を縮小している場合に、その表示位置を調整します。コーナー補正を行うこともできます。
［コーナー補正］	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
［曲面スクリーン補正］	投写映像が曲面にゆがむ場合に調整します。
［6 点補正］	投写映像が柱の角や奥まった角を含む面でゆがむ場合に調整します。

お知らせ

- ［台形補正］、［デジタルズーム拡張］、［コーナー補正］、［曲面スクリーン補正］、［6 点補正］は、いずれかの設定のみ有効です。
- 映像の縮小率が大きいほど、ゆがみの補正量が多いほど画質が劣化します。できるだけ補正量が少なくなるように設置してください。
- ［スクリーン補正］で各種調整をすると、映像のサイズも変化します。

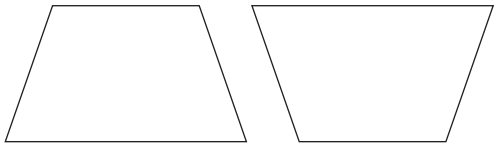
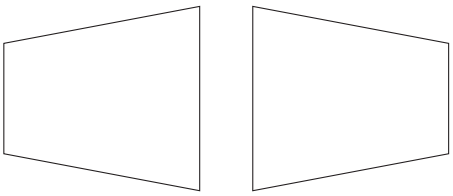
［台形補正］を調整する場合

1)　▲▼ ボタンで［スクリーン補正］を選択する

2)　◀▶ ボタンで［台形補正］を選択する

3)　〈決定〉ボタンを押す
- **［台形補正］** 画面が表示されます。

4)　▲▼◀▶ ボタンで調整する

操作	変化内容	
▲ ボタンを押す	上側が小さくなります。	
▼ ボタンを押す	下側が小さくなります。	
◀ ボタンを押す	左側が小さくなります。	
▶ ボタンを押す	右側が小さくなります。	

お知らせ

- 補正量が多くなればなるほど画質が劣化し、フォーカスが合いにくくなります。できるだけ補正量が少なくなるように設置してください。

デジタルズーム拡張機能を使用する場合

設置環境の都合上、通常より離れた位置から投写しなければならない場合に、映像を縮小して表示位置を調整します。さらに、デジタルズーム拡張機能とともにコーナー補正を行うことができます。

1) ▲▼ ボタンで［スクリーン補正］を選択する

2) ◀▶ ボタンで［デジタルズーム拡張］を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **［デジタルズーム拡張］**画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［拡張レシオ］を選択する

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	ExtenderRatio 設定を無効にします。
［100%］～［80%］	映像の縮小率を設定します。 ボタンを押すごとに、値が 1% 単位で切り換わります。

- ［オフ］または［100%］以外に設定する場合は、手順 **6)** に進みます。

6) ▲▼ ボタンで［デジタル画像シフト］を選択する

7) 〈決定〉ボタンを押す

- **［デジタル画像シフト］**調整画面が表示されます。

8) ▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

操作	変化内容
▶ ボタンを押す	映像位置が右へ移動します。
◀ ボタンを押す	映像位置が左へ移動します。
▲ ボタンを押す	映像位置が上へ移動します。
▼ ボタンを押す	映像位置が下へ移動します。

- 〈決定〉ボタンを押すことで、**［拡張レシオ］**調整画面に戻ります。

お知らせ

- **［拡張レシオ］**調整画面を表示し、［拡張レシオ］を［オフ］または［100%］以外に設定した状態で〈決定〉ボタンを押すと、**［デジタル画像シフト］**調整画面に切り換えます。
- デジタルズーム拡張機能を使用すると、映像の縮小率に応じて画質が劣化します。

［コーナー］で調整する場合

1)　▲▼ ボタンで［コーナー］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［コーナー］**画面が表示されます。
  詳しくは、“［コーナー補正］で調整する場合”（☞ 68 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- ［拡張レシオ］の設定によって、コーナー調整範囲が狭くなる場合があります。
- ［コーナー］の調整を行うと、［拡張レシオ］は自動的に［オフ］に切り換わります。

［コーナー補正］で調整する場合

1)　▲▼ ボタンで［スクリーン補正］を選択する

2)　◀▶ ボタンで［コーナー補正］を選択する

3)　〈決定〉ボタンを押す

- **［コーナー補正］**画面が表示されます。

4)　▲▼ ボタンで調整する項目を選択する

［コーナー］	投写映像が四方角にゆがむ場合に調整します。
［グリッド］	補正するラインを選んで、より細やかに調整できます。

- ［コーナー］を選択した場合は、手順 **5)** に進んでください。
- ［グリッド］を選択した場合は、“［グリッド］で調整する場合”（☞ 68 ページ）をご覧ください。

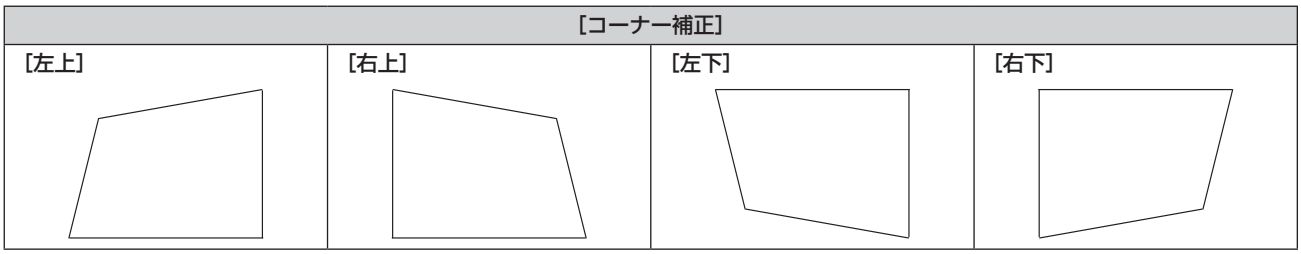
5)　〈決定〉ボタンを押す

- コーナー補正画面が表示されます。

6)　数字ボタン（〈1〉、〈2〉、〈3〉、〈4〉）を押して、調整するコーナーを選択する

- 〈決定〉ボタンを押すことで、調整するコーナーを切り換わることもできます。

7)　▲▼◀▶ ボタンで調整する



お知らせ

- 補正量によっては、映像の縦横比（アスペクト比）が変化することがあります。

［グリッド］で調整する場合

1)　▲▼ ボタンで［グリッド］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を選択する

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	［グリッド］での調整を無効にします。
［オン］	［グリッド］での調整を有効にします。

- ［オン］を選択した場合は、手順 **3)** に進んでください。

3)　〈決定〉ボタンを押す

- **［グリッド］**画面が表示されます。

4)　▲▼ ボタンで［制御点］を選択する

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[水平ライン]	水平方向のグリッド線の中の 1 ライン上にある交差点をすべて選択して、同時に調整する場合に選択します。
[垂直ライン]	垂直方向のグリッド線の中の 1 ライン上にある交差点をすべて選択して、同時に調整する場合に選択します。

6) ▲▼ ボタンで [グリッド幅] を選択する

7) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[1] ～ [10]	グリッド線の幅を選択します。1 ラインから 10 ラインの間で設定できます。 工場出荷時の値：[2]

8) ▲▼ ボタンで [グリッド色] を選択する

9) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[白]	選択した色のパターンを表示します。 （工場出荷時の値：[赤]）
[黒]	
[赤]	
[緑]	
[青]	
[シアン]	
[マゼンタ]	
[イエロー]	
[オフ]	パターンを表示しません。

10) ▲▼ ボタンで [制御点色] を選択する

11) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[白]	制御点を示すマーカーの色を選択します。 制御点を示すマーカーは、制御点選択モード、調整モードで表示されます。 （工場出荷時の値：[白]）
[黒]	
[赤]	
[緑]	
[青]	
[シアン]	
[マゼンタ]	
[イエロー]	

12) ▲▼ ボタンで [実行] を選択する

13) 〈決定〉ボタンを押す

- 制御点選択モードになります。

14) ▲▼◀▶ ボタンで制御点を選択する

- 調整したいグリッド線の交差点上にマーカーを移動してください。
- 手順 **5)** で [水平ライン] を選択した場合は、▲▼ ボタンで選択します。
- 手順 **5)** で [垂直ライン] を選択した場合は、◀▶ ボタンで選択します。

15) 〈決定〉ボタンを押す

- 制御点を確定して、調整モードになります。

16) ▲▼◀▶ ボタンで制御点の位置を調整する

- 制御点の位置を調整することで、隣接する交差点に至るまでの範囲が補正されます。

- 続けてほかの交差点の位置を調整する場合は、〈メニュー〉ボタンまたは〈決定〉ボタンを押して手順 **14)** に戻ってください。
- 〈メニュー〉ボタンを 2 回押すと、[制御点]、[グリッド幅]、[グリッド色]、[制御点色] を選び直すことができます。

お知らせ

- [グリッド] で調整した内容は、[コーナー補正] と [曲面スクリーン補正] の個別の補正データとして保存されます。
- [制御点] を選び直しても、選び直す前に調整した補正データは維持されます。
- 制御点の位置が隣接する交差点を越えると、映像が正しく表示されません。
- [制御点]、[グリッド幅]、[グリッド色]、[制御点色] の設定は、[コーナー補正]、[曲面スクリーン補正] の各項目下の設定項目と共通で連動します。

■ [グリッド] の調整内容を初期化する場合

[グリッド] で調整した補正データを初期化して、工場出荷時の無補正の状態に戻します。同時に、[制御点]、[グリッド幅]、[グリッド色]、[制御点色] の設定を工場出荷時の値に戻します。

1) ▲▼ ボタンで [グリッド] を選択する

2) ◀▶ ボタンで [オン] を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **[グリッド]** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで [初期化] を選択する

5) 〈決定〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

6) ◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- [コーナー補正] と [曲面スクリーン補正] のグリッド補正データを、一度に初期化することはできません。
  すべてのグリッド補正データを初期化する場合は、[コーナー補正] と [曲面スクリーン補正] の [初期化] を両方とも実行してください。
- [プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] を選択して初期化した場合、[コーナー補正] と [曲面スクリーン補正] の [グリッド] のすべての補正データが初期化されます。

[曲面スクリーン補正] で調整する場合

1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する

2) ◀▶ ボタンで [曲面スクリーン補正] を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **[曲面スクリーン補正]** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで調整する項目を選択する

[コーナー]	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
[弧]	投写映像が弧にゆがむ場合に調整します。
[グリッド]	補正するラインを選んで、より細やかに調整できます。

- [コーナー] または [グリッド] を選択した場合は、“[コーナー補正] で調整する場合”（☞ 68 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 曲面のスクリーンは、真円の一部を切り取った円弧の形状にしてください。
  なお、曲面への投写による映像のゆがみを [曲面スクリーン補正] で補正しても、投写画面の中央から周辺にかけての映像の伸び縮みの不均一さにより、部分的に映像の縦横比を再現できない状態になります。

[弧] を調整する

1) ▲▼ ボタンで [弧] を選択する

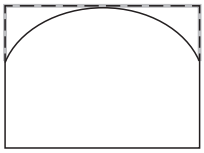
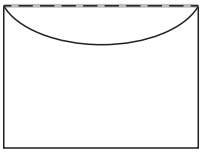
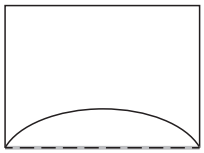
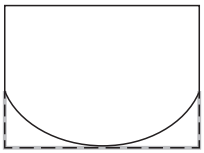
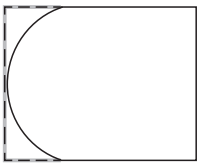
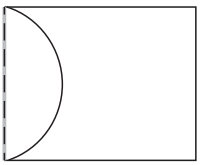
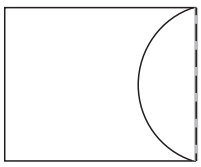
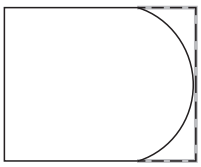
2) 〈決定〉ボタンを押す

- 弧補正画面が表示されます。

3)　数字ボタン（〈1〉、〈2〉、〈3〉、〈4〉）を押して、調整するエッジを選択する

- 〈決定〉ボタンを押すことで、調整するエッジを切り換わることもできます。

4)　▲▼◀▶ ボタンで調整する

項目	操作	変化内容		
[上 - エッジ]	▲▼ ボタンを押す	上のエッジを外側にふくらませたり、内側にふくらませたりします。		
[下 - エッジ]	▲▼ ボタンを押す	下のエッジを外側にふくらませたり、内側にふくらませたりします。		
[左 - エッジ]	◀▶ ボタンを押す	左のエッジを外側にふくらませたり、内側にふくらませたりします。		
[右 - エッジ]	◀▶ ボタンを押す	右のエッジを外側にふくらませたり、内側にふくらませたりします。		

[6点補正] で調整する場合

1)　▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する

2)　◀▶ ボタンで [6点補正] を選択する

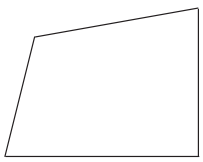
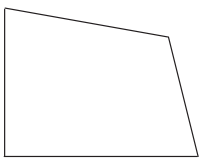
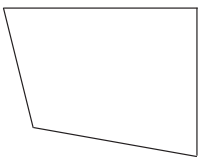
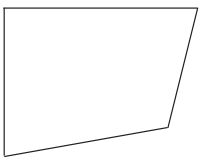
3)　〈決定〉ボタンを押す

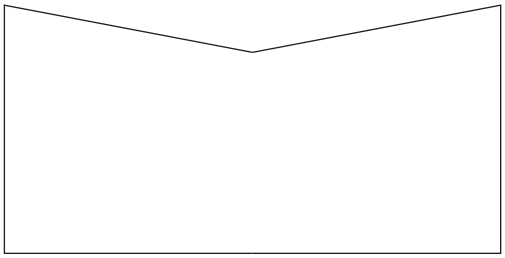
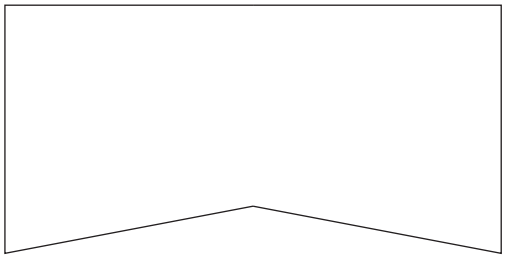
- 6点補正画面が表示されます。

4)　数字ボタン（〈1〉、〈2〉、〈3〉、〈4〉、〈5〉、〈6〉）を押して、調整する点を選択する

- 〈決定〉ボタンを押すことで、調整する点を切り換わることもできます。

5)　▲▼◀▶ ボタンで調整する

[6点補正]			
[左上]	[右上]	[左下]	[右下]
			

[6点補正]	
[中上]	[中下]
	

[シフト]

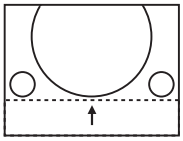
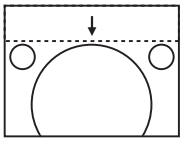
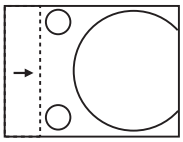
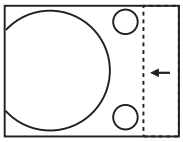
本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像位置がずれている場合は、上下左右に映像位置を移動します。

1)　▲▼ ボタンで［シフト］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［シフト］** 画面が表示されます。

3)　▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

調整方向	操作	変化内容	
垂直位置（上下）調整	▲ ボタンを押す	映像位置が上へ移動します。	
	▼ ボタンを押す	映像位置が下へ移動します。	
水平位置（左右）調整	▶ ボタンを押す	映像位置が右へ移動します。	
	◀ ボタンを押す	映像位置が左へ移動します。	

お知らせ

- ［シフト］調整の際、入力信号によっては有効調整範囲を超え、画像位置が変化しない範囲が存在します。有効調整範囲内でお使いください。

[ドットクロック]

（COMPUTER 入力時のみ）
縦縞模様を投写したときに発生するノイズを軽減する際に調整します。
縞模様を投写したときに、周期的な縞模様（ノイズ）が発生することがあります。この場合にもっともノイズが少なくなるように調整してください。

1)　▲▼ ボタンで［ドットクロック］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す

- **［ドットクロック］** 個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで調整する

- 調整値は、［-32］～［+32］まで変化します。

お願い

- [クロックフェーズ] より先に調整してください。

[クロックフェーズ]

(COMPUTER 入力時のみ)
画像のちらつきや輪郭のにじみが発生しているとき、最適な画像になるように調整します。

1) ▲▼ ボタンで [クロックフェーズ] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[クロックフェーズ]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで調整する
- 調整値は、[-16] ～ [+16] まで変化します。ノイズが少なくなるように調整してください。

お知らせ

- 信号によっては調整できない場合があります。
- 入力しているコンピューターの出力が不安定であると最適値がない場合があります。
- ドットクロック周波数が 162 MHz 以上の映像信号を入力している場合は、[クロックフェーズ] の調整をしてもノイズがなくならないことがあります。

[オーバースキャン]

(ビデオ系信号入力時のみ)
投写映像の周辺で文字や映像が欠ける場合に調整します。

1) ▲▼ ボタンで [オーバースキャン] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[オーバースキャン]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで調整する
- 調整値は、[0] ～ [+3] まで変化します。

[アスペクト]

映像の縦横比（アスペクト比）を切り換えます。
[表示オプション] メニュー → [スクリーン設定] → [スクリーンフォーマット] で選択したスクリーンの範囲内でアスペクトを切り換えます。[スクリーンフォーマット] を先に設定してください。(☞ 79 ページ)

1) ▲▼ ボタンで [アスペクト] を選択する

2) ◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **[アスペクト]** 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ノーマル]	入力信号のアスペクト比のまま表示します。
[ワイド]	標準信号入力時 *1 は、アスペクト比を 16：9 に変換して表示します。ワイド信号入力時 *2 は、入力信号のアスペクト比のまま表示します。
[H フィット]	[スクリーンフォーマット] で選択したスクリーン範囲の幅をすべて使って表示します。[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトよりも縦長のアスペクト比を持つ信号は、画像の上下が切れて表示されます。
[V フィット]	[スクリーンフォーマット] で選択したスクリーン範囲の高さをすべて使って表示します。[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトよりも横長のアスペクト比を持つ信号は、画像の左右が切れて表示されます。
[フル]	[スクリーンフォーマット] で選択したスクリーン範囲全体に映像を表示します。入力信号とスクリーン範囲のアスペクト比が異なる場合は、[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトに変換して表示します。
[リアル]	入力信号の解像度のまま表示します。

*1 標準信号入力時とは、アスペクト比 4：3、5：4 の信号入力時です。
*2 ワイド信号入力時とは、アスペクト比 16：10、16：9、15：9、21：9 の信号入力時です。

お知らせ

- 入力信号によっては、選択できないサイズモードがあります。
- 入力信号と異なるアスペクト比を選択すると、オリジナルの映像と見え方に差が出ます。この点に注意して、アスペクト比を選択してください。
- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店やホテルなどの場所で、本機を使用して画面の圧縮や引き伸ばしなどをすると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがあります。本機のアスペクト調整、ズーム機能などの機能を利用するときはご注意ください。
- ワイド画面ではない従来（通常）の４：３の映像をワイド画面で投写すると、周辺画像が一部見えなくなることや、変形して見えることがあります。制作者の意図を尊重したオリジナルの映像は、４：３の映像でご覧ください。

［フレームロック］

（コンピューター系信号入力時のみ）
一部の信号においてフレームロック機能を設定できます。

1)　▲▼ ボタンで［フレームロック］を選択する

2)　◀▶ ボタンまたは〈決定〉ボタンを押す
- **［フレームロック］**個別調整画面が表示されます。

3)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	フレームをロックします。入力信号の垂直走査周波数に表示映像が同期します。
［オフ］	フレームロック機能をオフにします。フリッカーが気になる場合に設定してください。

［クランプ位置］

映像の黒部分がつぶれている場合や、緑色になっている場合に最良点に調整します。

1)　▲▼ ボタンで［クランプ位置］を選択する

2)　◀▶ ボタンで調整する

状態	最適値の目安	調整範囲
黒部分がつぶれている	黒部分のつぶれが最も改善する点が最適値です。	1 ～ 255
黒部分が緑色になっている	緑色部分が黒くなり、つぶれが改善する点が最適値です。	

お知らせ

- ［クランプ位置］の調整ができるのは、〈COMPUTER IN〉端子に信号を入力した場合のみです。
- 信号によっては調整できない場合があります。

［ズーム］

画像のサイズを調整します。
［位置調整］メニュー → ［アスペクト］の設定によって、［ズーム］の調整内容が異なります。

［アスペクト］を［ノーマル］および［リアル］以外に設定している場合

1)　▲▼ ボタンで［ズーム］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［ズーム］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［連動］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

［オフ］	［垂直］と［水平］のズーム比をそれぞれ設定します。
［オン］	［水平垂直］でズーム比を設定します。垂直と水平を等倍で拡大・縮小できます。

5)　▲▼ ボタンで［垂直］または［水平］を選択する
- ［オン］を選択した場合は、［水平垂直］を選択します。

6)　◀▶ ボタンで調整する

お知らせ

- [位置調整] メニュー → [アスペクト] を [リアル] に設定している場合、[ズーム] は調整できません。

[アスペクト] を [ノーマル] に設定している場合

1) ▲▼ ボタンで [ズーム] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **[ズーム]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[インターナル]	[スクリーンフォーマット] で設定されたアスペクト領域内でサイズを拡大します。
[フル]	[スクリーンフォーマット] で設定された表示エリアの全領域を使って拡大・縮小します。

5) ▲▼ ボタンで [連動] を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	[垂直] と [水平] のズーム比をそれぞれ設定します。
[オン]	[水平垂直] でズーム比を設定します。垂直と水平を等倍で拡大・縮小できます。

7) ▲▼ ボタンで [垂直] または [水平] を選択する
- [オン] を選択した場合は、[水平垂直] を選択します。

8) ◀▶ ボタンで調整する

お知らせ

- [位置調整] メニュー → [アスペクト] を [ノーマル] 以外に設定した場合、[モード] は表示されません。

映像位置を移動する場合

画面サイズを拡大したときに、スクリーンに投写された映像位置がずれている場合は、上下左右に映像位置を移動します。

1) ▲▼ ボタンで [ズーム] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **[ズーム]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [ズームシフト] を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す
- **[ズームシフト]** 画面が表示されます。

5) ▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

項目	操作	変化内容
[水平]	▶ ボタンを押す	映像位置が右へ移動します。
	◀ ボタンを押す	映像位置が左へ移動します。
[垂直]	▲ ボタンを押す	映像位置が上へ移動します。
	▼ ボタンを押す	映像位置が下へ移動します。

お知らせ

- [ズームシフト] の調整範囲は、入力信号と拡大量によって制限されます。有効調整範囲内で調整してください。
- 画面サイズを拡大していない場合は、映像位置を変更することはできません。

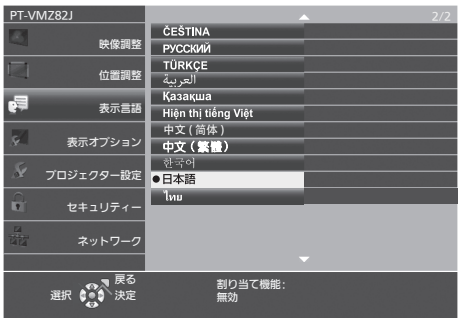
[表示言語] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [表示言語] を選択し、サブメニューを表示させます。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

表示言語を切り換える

オンスクリーン表示の言語を切り換えます。

1)　▲▼ ボタンで表示言語を選択し、〈決定〉ボタンを押す



- 切り換えた言語で各種メニューや設定、調整画面、操作ボタン名などが表示されます。
- 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、スウェーデン語、フィンランド語、ノルウェー語、デンマーク語、ポーランド語、チェコ語、ルーマニア語、ハンガリー語、ロシア語、トルコ語、アラビア語、カザフ語、ベトナム語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語、タイ語への切り換えができます。

お知らせ

- 工場出荷時、および［プロジェクター設定］メニュー →［全設定初期化］を実行した場合、日本語でオンスクリーン表示するように設定されています。

［表示オプション］メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから［表示オプション］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

［オンスクリーン表示］

オンスクリーン表示を設定します。

［入力ガイド］を設定する場合

入力切り換え時に表示する入力ガイドの設定をします。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［オンスクリーン表示］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［入力ガイド］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［詳細表示］	入力名をリストで表示し、選択中の入力信号の解像度を表示します。
［オフ］	入力ガイドを表示しません。
［簡易表示］	選択中の入力名と解像度を表示します。

お知らせ

- ［詳細表示］に設定している場合、入力ガイド表示中に本体操作部またはリモコンの ▲▼ ボタンで入力を選択することができます。

［OSD ポジション］を設定する場合

メニュー画面（OSD）の位置を設定します。この設定に連動して、個別調整画面の表示位置も切り換わります。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［オンスクリーン表示］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［OSD ポジション］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

項目	メニュー画面（OSD）	個別調整画面
［中央］	画面の中央部に設定します。	画面の中央部に表示されます。
［左上］	画面の左上部に設定します。	画面の上部に表示されます。
［右上］	画面の右上部に設定します。	画面の上部に表示されます。
［左下］	画面の左下部に設定します。	画面の下部に表示されます。
［右下］	画面の右下部に設定します。	画面の下部に表示されます。

［OSD サイズ］を設定する場合

メニュー画面（OSD）の表示の大きさを設定します。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［オンスクリーン表示］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［OSD サイズ］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ノーマル］	通常はこちらを選択してください。
［倍角］	［ノーマル］設定時の倍角のフォントサイズでメニュー画面を表示します。メニュー画面のサイズは縦 / 横それぞれ 2 倍になります。

お知らせ

- ［表示オプション］メニュー → ［スクリーン設定］ → ［スクリーンフォーマット］が［21 : 9］に設定されている場合、［OSD サイズ］は設定できません、［ノーマル］に固定されます。

［警告メッセージ］を設定する場合

警告メッセージの表示 / 非表示を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［オンスクリーン表示］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［オンスクリーン表示］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［警告メッセージ］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	警告メッセージを表示します。
［オフ］	警告メッセージを表示しません。

お知らせ

- ［オフ］に設定すると、本機を使用中に［温度警告］などの警告状態を検出しても、投写画面上に警告メッセージが表示されなくなります。フィルターのお手入れ / 交換を促すメッセージも表示されません。

［HDMI IN］

〈HDMI IN 1〉端子または〈HDMI IN 2〉端子に入力する映像信号に合わせて設定します。

［HDMI IN］の［信号レベル］を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［HDMI IN］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［HDMI IN］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［HDMI1］または［HDMI2］の［信号レベル］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オート］	信号レベルを自動的に設定します。
［64-940］	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に入力している場合などに選択します。
［0-1023］	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力を、変換ケーブルなどを使用して〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に入力している場合などに選択します。 コンピューターなどの HDMI 端子出力を、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に入力している場合も同様です。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 信号レベルの表示は、入力が 30 bit 時の表示としています。

［HDMI IN］の［スクリーンフィット］を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［HDMI IN］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［HDMI IN］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［HDMI1］または［HDMI2］の［スクリーンフィット］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	EDID の推奨解像度は［スクリーンフォーマット］の設定によって異なります。
[オフ]	EDID の推奨解像度は 1 920 x 1 200 に固定されています。

[DIGITAL LINK IN]

〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力する映像信号に合わせて設定します。

[DIGITAL LINK IN] の［信号レベル］を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK IN］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[DIGITAL LINK IN]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［信号レベル］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	信号レベルを自動的に設定します。
[64-940]	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力している場合などに選択します。
[0-1023]	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力や HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力している場合などに選択します。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 信号レベルの表示は、入力が 30 bit 時の表示としています。

[DIGITAL LINK IN] の［スクリーンフィット］を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK IN］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[DIGITAL LINK IN]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［スクリーンフィット］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	EDID の推奨解像度は［スクリーンフォーマット］の設定によって異なります。
[オフ]	EDID の推奨解像度は 1 920 x 1 200 に固定されています。

[スクリーン設定]

スクリーンサイズを設定します。
投写映像のアスペクト比変更の際に、設定したスクリーンに合わせて最適な映像位置に補正します。ご使用のスクリーンに合わせて設定してください。

1) ▲▼ ボタンで［スクリーン設定］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[スクリーン設定]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［スクリーンフォーマット］を選択する

4) ◀▶ ボタンで［スクリーンフォーマット］の項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[スクリーンフォーマット]	[スクリーン位置] 選択時の設定項目
[16：10]	設定できません。
[16：9]、[21：9]	垂直位置を［中央］、［高］、［低］から選択します。
[4：3]	水平位置を［中央］、［左］、［右］から選択します。

- ［16：10］に設定した場合、［スクリーン位置］は変更できません。

5) ▲▼ ボタンで［スクリーン位置］を選択する

6) ◀▶ ボタンで映像位置を設定する

［スタートアップロゴ］

電源を入れたときのロゴ表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［スタートアップロゴ］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルトロゴ]	Panasonic ロゴを表示します。
[ユーザーイメージ]	ユーザーが登録した画像を表示します。 ［ユーザーイメージ］を選択して〈決定〉ボタンを押したあと、表示される画面の指示に従って操作を行うと、イメージ画像を登録・削除できます。 詳しくは“［ユーザーイメージ］”（☞ 102 ページ）をご覧ください。
[オフ]	スタートアップロゴ表示を無効にします。

お知らせ

- ［ユーザーイメージ］を選択した場合、スタートアップロゴの表示は約 15 秒間維持されます。
- ［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］ → ［高速スタートアップ］を［オン］に設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過するまでに投写を開始した際はスタートアップロゴを表示しません。
  所定の時間とは、［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］ → ［高速スタートアップ］ → ［有効期間］で設定した時間です。
- Web 制御画面からスタートアップロゴを設定する手順については、“［スタートアップロゴ］”（☞ 152 ページ）をご覧ください。

［シャッター設定］

電源を入れたときに自動でシャッター機能を有効 / 無効（シャッター：クローズ / オープン）にする設定をします。

1) ▲▼ ボタンで［シャッター設定］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［シャッター設定］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［スタートアップ］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	電源を入れたときにシャッター機能無効の状態（シャッター：オープン）で投写状態になります。
[オン]	電源を入れたときにシャッター機能有効の状態（シャッター：クローズ）で投写状態になります。

［オートセットアップ設定］

オートセットアップの自動実行を設定します。
会議などで未登録の信号を頻繁に入力する場合、その都度〈AUTO SETUP〉ボタンを押さなくてもドットクロック、クロックフェーズ、映像位置を自動で調整できます。

1) ▲▼ ボタンで［オートセットアップ設定］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	投写中の映像が、未登録の信号に変わった場合、自動的にオートセットアップを行います。
[ボタン]	〈AUTO SETUP〉ボタンを押したときにオートセットアップを行います。

[入力検出]

入力検出機能の有効 / 無効を設定します。
入力検出機能を有効にすると、電源を入れたときに入力信号がある入力を自動的に選択して投写を開始します。
また、選択中の入力が無信号のときに〈AUTO SETUP〉ボタンを押すと、入力信号がある入力に自動的に切り換わります。

1) ▲▼ ボタンで［入力検出］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	入力検出機能を有効にします。
［オフ］	入力検出機能を無効にします。

お知らせ

- 入力検出中に信号が検出されなかった場合、15 秒以内にユーザー操作が検出されないと、自動的に入力検出が再度実行されます。

[バックカラー]

信号が入力されていないときの投写画面の表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［バックカラー］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ブルー］	投写画面全体に青色を表示します。
［ブラック］	投写画面全体に黒色を表示します。
［デフォルトロゴ］	投写画面に Panasonic ロゴを表示します。
［ユーザーイメージ］	ユーザーが登録した画像を表示します。 ［ユーザーイメージ］を選択して〈決定〉ボタンを押したあと、表示される画面の指示に従って操作を行うと、イメージ画像を登録・削除できます。 詳しくは“［ユーザーイメージ］”（☞ 102 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- Web 制御画面からバックカラーを設定する手順については、“［バックカラー］”（☞ 153 ページ）をご覧ください。

[プレゼンテーションタイマー]

プレゼンテーションタイマー機能の設定と操作をします。

モードを設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［プレゼンテーションタイマー］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［プレゼンテーションタイマー］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［モード］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［カウントアップ］	カウントを開始したときからの経過時間を表示します。
［カウントダウン］	［タイマー］で設定した時間に対する残り時間を表示します。

カウントダウンタイマーを設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［プレゼンテーションタイマー］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［プレゼンテーションタイマー］**画面が表示されます。

3) **▲▼ ボタンで［タイマー］を選択する**

4) **◀▶ ボタンで時間を設定する**

- 1 分から 180 分の間で 1 分刻みで設定できます。
- 工場出荷時の値は 10 分です。

お知らせ

- ［タイマー］は、［モード］を［カウントダウン］に設定している場合に設定できます。

プレゼンテーションタイマーを使用する場合

1) **▲▼ ボタンで［プレゼンテーションタイマー］を選択する**

2) **〈決定〉ボタンを押す**

- **［プレゼンテーションタイマー］**画面が表示されます。

3) **▲▼ ボタンで項目を選択し、〈決定〉ボタンを押す**

［開始］	カウントを開始します。
［ストップ］	カウントを停止します。
［再スタート］	カウントを再開します。
［リセット］	カウントがリセットされます。
［終了］	プレゼンテーションタイマーを終了します。

- ［開始］または［再スタート］を選択した場合、投写画面の右下に、経過時間または残り時間が表示されます。
- ［ストップ］を選択した場合、投写画面の右下に、停止した時の経過時間または残り時間が表示されます。

お知らせ

- プレゼンテーションタイマーの操作は、リモコンの〈P-TIMER〉ボタンでも操作できます。（☞ 51 ページ）
- 経過時間または残り時間を表示中、［セキュリティー］メニュー → ［テキスト設定］（☞ 104 ページ）で設定したセキュリティーメッセージは表示されません。
- メニュー画面表示中は、経過時間または残り時間は表示されません。
- ［モード］を［カウントアップ］に設定している場合、スタート時間は“000:00”になります。
- ［モード］を［カウントダウン］に設定している場合、スタート時間は［タイマー］で設定した値になります。
- タイマーゲージは、［カウントアップ］のときは時計回り、［カウントダウン］のときは反時計回りに回転します。

［ユニフォーミティー］

画面全体の輝度むら、色むらを補正します。

［ユーザー補正］を設定する場合

お好みに合わせて画面全体の輝度むら、色むらを補正します。

1) **▲▼ ボタンで［ユニフォーミティー］を選択する**

2) **〈決定〉ボタンを押す**

- **［ユニフォーミティー］**画面が表示されます。

3) **▲▼ ボタンで［ユーザー補正］を選択する**

4) **◀▶ ボタンで項目を切り換える**

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	ユーザー補正機能を無効にします。
［オン］	ユーザー補正機能を有効にします。

- ［オン］を選択した場合は、手順**5)** に進みます。

5) **〈決定〉ボタンを押す**

- **［ユニフォーミティー：ユーザー補正］**画面が表示されます。

6) **▲▼ ボタンで［調整レベル］を選択する**

7) **◀▶ ボタンで項目を切り換える**

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[1] ～ [8]	信号レベル（調整のターゲットとする明るさ）を選択します。 数値が大きいほど暗くなります。

8) ▲▼ ボタンで［テストパターン］を選択する

9) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	テストパターンを表示します。
［オフ］	テストパターンを表示しません。

10) ▲▼ ボタンで調整位置（［左上］、［右上］、［左下］、［右下］、［上］、［下］、［左］、［右］）の中から調整を行う領域を選択する

11) 〈決定〉ボタンを押す

- 手順 10) で選択した項目の［赤］、［緑］、［青］の調整画面が表示されます。

12) ▲▼ ボタンで［赤］、［緑］、［青］を選択する

13) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調整項目	操作	変化内容	調整範囲
［赤］	▶ ボタンを押す	赤色が濃くなります。	-31 ～ +31 （工場出荷時の値：0）
	◀ ボタンを押す	赤色が薄くなります。	
［緑］	▶ ボタンを押す	緑色が濃くなります。	
	◀ ボタンを押す	緑色が薄くなります。	
［青］	▶ ボタンを押す	青色が濃くなります。	
	◀ ボタンを押す	青色が薄くなります。	

- ［調整レベル］の項目ごとに色むらを補正する場合、手順 6) ～ 13) を繰り返してください。
- 各調整位置の色むらを補正する場合、手順 10) ～ 13) を繰り返してください。

［ユーザー補正］の調整内容を初期化する場合

指定する［調整レベル］におけるすべての調整位置の色むらの設定値を工場出荷時の値に戻します。

1) ▲▼ ボタンで［ユニフォーミティー］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［ユニフォーミティー］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［ユーザー補正］を選択する

4) ◀▶ ボタンで［オン］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **［ユニフォーミティー：ユーザー補正］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで［調整レベル］を選択する

6) ◀▶ ボタンで、初期化したい［調整レベル］を選択する

7) ▲▼ ボタンで［初期化］を選択する

8) 〈決定〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

9) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- ［ユーザー補正］の設定を一度にすべて初期化する場合は、［プロジェクター設定］メニュー →［全設定初期化］を選択して初期化を実行してください。
- ［テストパターン］は初期化されません。

［ズーム補正］を設定する場合

色むらの状態は、レンズのズーム位置によって変わる場合があります。ズーム位置の調整状態に応じて、色むらが最小になるように設定を変更してください。

1) ▲▼ ボタンで［ユニフォーミティー］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［ユニフォーミティー］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［ズーム補正］を選択する

4) ◀▶ ボタンでズーム補正を調整する

[0]	レンズが広角端（W）にあるときに選択すると、色むら補正状態が最良になります。
[1] ～ [7]	色むら補正状態が最良になるように［1］～［7］の中から選択してください。
[8]	レンズが望遠端（T）にあるときに選択すると、色むら補正状態が最良になります。

［その他の機能］

リモコンのボタン操作の代わりにメニュー操作でも同じ機能の操作ができます。

自動位置補正機能を使う

コンピューター信号のようなドット構成されたアナログ RGB 信号入力時の解像度、クロックフェーズ、映像位置を自動で調整できます。

1) ▲▼ ボタンで［その他の機能］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［その他の機能］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［オートセットアップ］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

静止機能を使う

外部機器の再生に関係なく、一時的に投写映像を静止し、音声を消すことができます。

1) ▲▼ ボタンで［その他の機能］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［その他の機能］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［静止］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す
- 映像が静止し、音声が消えます。

お知らせ

- 静止中にもう一度［静止］を選択すると、映像の静止が解除され、音声がでます。
- 静止中は、投写画面の左下に［静止］と表示されます。

シャッター機能を使う

シャッター機能を使用するかどうか（有効（シャッター：クローズ）/ 無効（シャッター：オープン））を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで［その他の機能］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［その他の機能］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［シャッター］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す
- 映像と音声が消えます。

お知らせ

- シャッター機能を使用中（シャッター：クローズ）でも、電源〈⏻/I〉ボタン、入力選択（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈COMPUTER〉、〈NETWORK/USB〉）ボタン、〈INPUT SELECT〉ボタンの操作ができます。

デジタルズーム機能を使う

投写映像を拡大できます。

1)　▲▼ ボタンで［その他の機能］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［その他の機能］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［デジタルズーム］を選択する

4)　〈決定〉ボタンを押す

- 中央部分を 1.5 倍に拡大した映像が表示され、**［デジタルズーム］**個別調整画面が表示されます。

5)　◀▶ ボタンで拡大倍率を調整する

- 1.0 倍から 3.0 倍まで 0.1 単位で拡大倍率を調整できます。

6)　〈決定〉ボタンを押す

- 画面の左下に操作ガイドが表示されます。

7)　拡大場所を移動する

- 拡大倍率が 1.0 倍の場合は移動できません。

お知らせ

- 静止機能を使用中は、デジタルズーム機能を使用できません。
- 入力信号によってはデジタルズーム機能が動作しないことがあります。
- デジタルズーム中に入力信号の種類が変わると、デジタルズームの調整値が解除されます。

[プロジェクター設定] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから［プロジェクター設定］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

［ステータス］

本機の状態を表示します。

1) ▲▼ ボタンで［ステータス］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［ステータス］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンを押してページを切り換える
- ボタンを押すごとに、ページが切り換わります。

［信号］	［入力］	投写映像に使用している入力を表示します。
	［名前］	入力名を表示します。
	［周波数］	入力信号の周波数を表示します。
［使用時間］	［プロジェクター］	プロジェクターの稼働時間を表示します。
	［光源使用時間］	光源の使用時間を表示します。
	［連続点灯時間］	光源が点灯してからの経過時間が表示されます。 シャッター機能を使用するなど光源が一時的に消灯した場合には、経過時間がリセットされます。
［シリアル番号］	［プロジェクター］	本機のシリアル番号を表示します。
［VERSION］	［MAIN］	本機のメインマイコンのバージョンを表示します。
	［SUB］	本機のサブマイコンのバージョンを表示します。
	［LD］	本機の光源モジュールのドライバーバージョンを表示します。
［角度情報］	［ロール角］	本体内蔵の角度センサーの検出結果を基に、左右方向の回転角を表示します。
	［ピッチ角］	本体内蔵の角度センサーの検出結果を基に、前後方向の回転角を表示します。

お知らせ

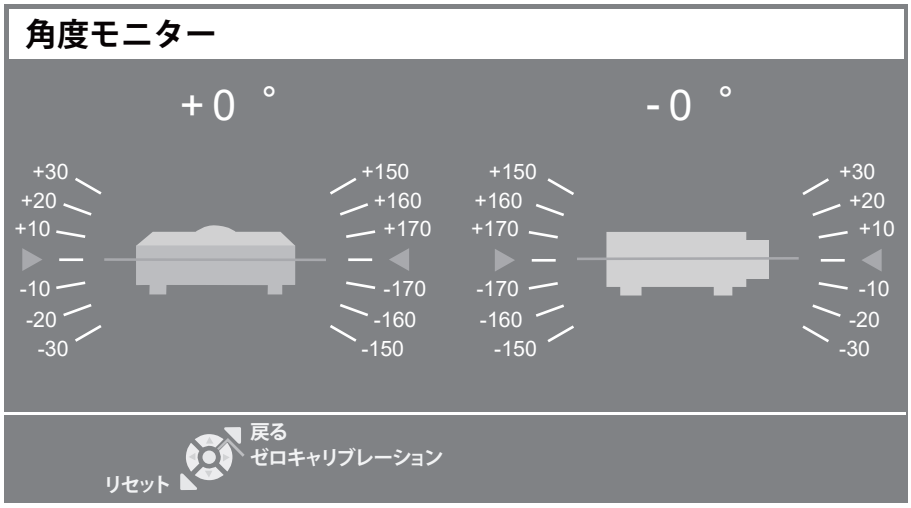
- ネットワークの状態については、［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークステータス］（☞ 117 ページ）をご覧ください。
- ［角度情報］に表示される数値は角度センサーの検出結果を基にしたものであり、実際の本機の姿勢を表す角度とは異なる場合があります。また、表示される数値は目安であり、精度を保証するものではありません。
- ［ロール角］に表示される数値と本機の姿勢との関係は次のようになります。ゼロキャリブレーションリセット状態で、［ピッチ角］が［0°］とした場合の例です。
  - ［-1°］～［-30°］：天面を上にして、スクリーン側を正面に反時計方向に傾いています。
  - ［0°］：天面を上にした姿勢で、水平の状態です。
  - ［+1°］～［+30°］：天面を上にして、スクリーン側を正面に時計方向に傾いています。
  - ［-179°］～［-150°］：天面を下にして、スクリーン側を正面に時計方向に傾いています。
  - ［+180°］：天面を下にした姿勢で、水平の状態です。
  - ［+179°］～［+150°］：天面を下にして、スクリーン側を正面に反時計方向に傾いています。
- ［ピッチ角］に表示される数値と本機の姿勢との関係は次のようになります。ゼロキャリブレーションリセット状態で、［ロール角］が［0°］とした場合の例です。
  - ［-1°］～［-30°］：天面を上にして、投写レンズ側が下方向に向いています。
  - ［0°］：天面を上にした姿勢で、水平の状態です。
  - ［+1°］～［+30°］：天面を上にして、投写レンズ側が上方向に向いています。
  - ［-179°］～［-150°］：天面を下にして、投写レンズ側が下方向に向いています。
  - ［+180°］：天面を下にした姿勢で、水平の状態です。
  - ［+179°］～［+150°］：天面を下にして、投写レンズ側が上方向に向いています。
- **［ステータス］**画面の 3/3 ページの［角度情報］を表示中に〈決定〉ボタンを押すと、本機の姿勢角をグラフィカルに表示した **［角度モニター］**画面が表示されます。詳しくは“［角度モニター］画面について”（☞ 86 ページ）をご覧ください。

［角度モニター］画面について

本体内蔵の角度センサーが検出している角度情報を基に、本機の姿勢角をグラフィカルに表示します。

1) ［ステータス］画面の 3/3 ページを表示中に〈決定〉ボタンを押す

- **[角度モニター]** 画面が表示されます。



2) 〈決定〉ボタンまたは〈デフォルト〉ボタンを押す

- 角度表示の基準が切り換わります。

〈決定〉ボタン	現在の姿勢を基準としたゼロキャリブレーション実行状態の角度を表示します。
〈デフォルト〉ボタン	ゼロキャリブレーションリセット状態の角度を表示します。 ゼロキャリブレーション実行状態をリセットし、角度センサーの検出結果をそのまま表示します。

お知らせ

- **[角度モニター]** 画面内のプロジェクターのシルエット（イメージ図）は回転せず、姿勢の変化に追随しません。
- プロジェクターのシルエットで、ロール角のモニター、ピッチ角のモニターを示しています。
  - 後面側から見たシルエット（左側）：ロール角を表示するモニターです。
  - 側面から見たシルエット（右側）：ピッチ角を表示するモニターです。
- プロジェクターのシルエットと交差している緑色の線は、手順 **2)** で選択した基準に対する角度を示します。左右のゲージを読み取ってください。
- 水平軸上の赤色の ▶◀ マークは、手順 **2)** で選択した基準における水平面（0°、+180°）を表します。
- ロール角のモニター、ピッチ角のモニターのそれぞれの上部に表示される数値は、**[ステータス]** 画面の［ロール角］、［ピッチ角］に表示される数値と共通です。
- 手順 **2)** で選択した基準は、主電源を入れ直しても維持されます。

[プロジェクター ID]

本機には ID ナンバーの設定機能があり、本機を複数台並べて使用する場合、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

1) ▲▼ ボタンで［プロジェクター ID］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[プロジェクター ID]** 画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンでプロジェクター ID を選択する

- ［オール］、［1］～［64］の一覧から選択してください。

［オール］	ID ナンバーを設定しないで制御する場合に設定します。
［1］～［64］	ID ナンバーを指定して個別制御する場合に設定します。

お知らせ

- ID ナンバーを指定して個別制御する場合は、リモコンの ID ナンバーを本機の ID ナンバーに合わせる必要があります。
- ID ナンバーを［オール］に設定すると、リモコンまたはコンピューターで制御の際、ID ナンバーを何番に指定しても本機は動作します。本機を複数台並べて設置する場合、ID ナンバーを［オール］に設定していると、他の ID ナンバーを設定した本機と分けて制御できなくなります。
- リモコンの ID ナンバーを設定する方法は“リモコンの ID ナンバーを設定する”（☞ 53 ページ）をご覧ください。

[起動方法]

電源プラグをコンセントに接続して通電を開始したときの起動方法を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［起動方法］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ラストメモリー］	電源プラグをコンセントから抜いたり、電源ブレーカーで電源を落としたりする前の状態で起動します。
［スタンバイ］	スタンバイ状態で起動します。
［オン］	すぐに投写を開始します。

お願い

- 本機能を使用して投写を開始する前に、投写レンズとスクリーンの間の投写範囲内に人がいないことを必ず確認してください。投写範囲内に人がいる状態で投写を開始すると、突然光が入り、目を傷めるおそれがあります。

［投写方式］

本機の設置状態に合わせて、投写方式を設定します。
画面表示が上下逆になったり、反転して映ったりしている場合は、投写方式を変更してください。

1) ▲▼ ボタンで［投写方式］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オート］	内蔵の角度センサーで本機の姿勢を自動的に検出し、［フロント / 床置き］または［フロント / 天つり］に切り換えます。フロント投写の場合、通常は［オート］に設定して使用してください。
［フロント / 床置き］	スクリーン前方にある机の上などに設置する場合
［フロント / 天つり］	スクリーン前方に、プロジェクター用天つり金具（別売品）を使用して設置する場合
［リア / 床置き］	スクリーン後方（透過式スクリーン使用）にある机の上などに設置する場合
［リア / 天つり］	スクリーン後方（透過式スクリーン使用）に、プロジェクター用天つり金具（別売品）を使用して設置する場合

お知らせ

- 本機内蔵の角度センサーで検出する設置姿勢の範囲ついて、詳しくは“角度センサーについて”（☞ 28 ページ）をご覧ください。

［ECO マネージメント］

消費電力を抑えたり光源寿命を向上させる［ECO マネージメント］を設定します。

［省エネ設定］を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［ECO マネージメント］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［ECO マネージメント］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［省エネ設定］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	省エネ設定を有効にします。
［オフ］	省エネ設定を無効にします。

- ［オン］を選択した場合は、手順 **5)** に進みます。

5) ▲▼ ボタンで［環境照度連動］、［無信号連動］を選択する

［環境照度連動］	環境照度連動機能の設定をします。機能を有効にすると、設置場所の明るさにより、光源の電力を調整します。
［無信号連動］	無信号連動機能の設定をします。機能を有効にすると、無信号時に光源の電力を下げます。
［映像連動］	映像連動機能の設定をします。機能を有効にすると、投写映像が一定時間変化しない場合、光源の電力を下げます。

- ［環境照度連動］または［無信号連動］を選択した場合は、手順 **6)** に進みます。
- ［映像連動］を選択した場合は、“［映像連動］を設定する場合”（☞ 89 ページ）をご覧ください。

6) ◀▶ボタンで設定を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	選択した機能を有効にします。
[オフ]	選択した機能を無効にします。

お知らせ

- [省エネ設定] が [オフ] の場合、[環境照度連動]、[無信号連動]、[映像連動] の設定はできません。
- プロジェクターの天面にものなどを置くと照度センサーが陰に入り、明るさを正しく検出できないことがあります。この場合、[環境照度連動] を [オン] に設定していても適切に動作しないことがあります。

[映像連動] を設定する場合

映像連動機能を有効にしている場合は、[レベル] の設定により、投写映像が [タイマー] で設定した時間内に変化していないと判断されたら、設定時間経過後に映像連動機能が動作し、光出力を下げるまたは光源を消灯することができます。

1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[ECO マネージメント]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [映像連動] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	映像連動機能を無効にします。
[オン (ハーフライト)]	映像連動機能を有効にします。 映像連動機能が動作しているときに、光出力を 50% に下げます。
[オン (ノーライト)]	映像連動機能を有効にします。 映像連動機能が動作しているときに、光源を消灯します。

- [オン (ハーフライト)] または [オン (ノーライト)] に設定する場合は、手順 **5)** に進みます。

5) 〈決定〉ボタンを押す

- **[映像連動]** 画面が表示されます。

6) ▲▼ ボタンで [タイマー] を選択する

7) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[1 分] ～ [99 分]	[レベル] の設定により、投写映像が変化なしと判断された時間を設定します。設定した時間が経過すると、画像検出機能が動作を開始します。(工場出荷時の値 : [1 分]) 設定時間が経過する直前に、画面の右下に 5 秒のカウントダウンタイマーが表示されます。

8) ▲▼ ボタンで [レベル] を選択する

9) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[1] ～ [100]	投写映像の光出力変動を判定する閾値を設定します。 閾値の設定値が小さいほど、画像のピクセル変化の感度が高くなります。(工場出荷時の値 : [1])

お知らせ

- 次の場合、[映像連動] は設定できません。
  - [映像調整] メニュー → [デイライトビュー] を [オート] に設定している場合
  - [映像調整] メニュー → [ダイナミックコントラスト] を [オフ] 以外に設定している場合
  - [プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [省エネ設定] を [オフ] に設定している場合
  - [プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [光源電力] を [ノーマル] 以外に設定している場合
  - [プロジェクター設定] メニュー → [テストパターン] で設定したテストパターンが表示されている場合
  - 入力を COMPUTER に設定している場合
  - 無信号の場合
- 映像連動機能が動作しているときに、いずれかのボタンが押されたり、投写映像の変化と判断された場合、機能は一時的にキャンセルされ、カウントダウンタイマーはリセットされます。

［光源電力］を設定する場合

1) **▲▼ ボタンで［ECO マネージメント］を選択する**

2) **〈決定〉ボタンを押す**

- **［ECO マネージメント］**画面が表示されます。

3) **▲▼ ボタンで［光源電力］を選択する**

4) **◀▶ ボタンで項目を切り換える**

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ノーマル］	高い輝度が必要なときに選択します。光源電力は 100 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間 *1 です。
［ECO］	輝度は［ノーマル］より低下しますが、光源の使用時間に対する輝度低下を抑えたいときに選択します。光源電力 は 70 % で、使用時間の目安は約 24 000 時間 *1 です。
［静音 1］	低騒音での運用を優先する場合に選択します。光源電力は 85 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間 *1 です。
［静音 2］	低騒音での運用を優先する場合に選択します。光源電力は 70 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間 *1 です。
［ユーザー］	お好みの画面の明るさに設定する場合に選択します。

*1 ［映像調整］メニュー → ［ダイナミックコントラスト］を［2］に設定した状態で 0.15 mg/m^3 のほこり環境下で使用した場合に、明るさが出荷時に対しておおよそ半減するまでの時間です。
使用時間の数値は目安であり、保証時間ではありません。

- ［ユーザー］を選択した場合は、手順 **5)** に進みます。

5) **▲▼ ボタンで［光出力］を選択する**

6) **◀▶ ボタンで調整する**

操作	変化内容		調整範囲
	明るさ	使用時間（目安）	
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	使用時間が短くなります。	50 %*1 ～ 100 %
◀ ボタンを押す	画面が暗くなります。	使用時間が長くなります。	

*1 光出力を小さくするほど、画質が劣化する傾向があります。

お知らせ

- 光源それぞれの特性、使用条件、設置環境などの影響を受けて、使用時間の目安に達しないことがあります。
- 使用時間とは、プロジェクターを連続して使い続けた場合に光源の輝度が半減するまでの時間です。使用時間は目安であり、保証期間ではありません。
- 使用時間が 10 000 時間を超えた場合は、本機内部の部品交換が必要となることがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- ［映像調整］メニュー → ［映像モード］を［ビビット　グリーン］に設定した場合、［ECO］と［静音 2］は選択できません。
- ［光源電力］を［ECO］または［静音 2］に設定した場合、［映像調整］メニュー → ［映像モード］を［ビビット　グリーン］に設定すると、［光源電力］が自動的に［静音 1］に変わります。
- ［光源電力］→［ユーザー］に設定して、［光出力］を 85% 以下に設定した場合、［映像調整］メニュー → ［映像モード］を［ビビット　グリーン］に設定すると、［光出力］が自動的に 85% に変わります。

［パワーマネージメント］を設定する場合

入力信号がない状態が続くと、自動的に本機の電源をスタンバイ状態または待機状態にする機能です。スタンバイ状態または待機状態の選択と、パワーマネージメント機能が働くまでの時間を設定できます。

1) **▲▼ ボタンで［ECO マネージメント］を選択する**

2) **〈決定〉ボタンを押す**

- **［ECO マネージメント］**画面が表示されます。

3) **▲▼ ボタンで［パワーマネージメント］を選択する**

4) **◀▶ ボタンで項目を切り換える**

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［シャットダウン］	信号入力がない状態が 30 秒続くとカウントダウンタイマーが表示され、［タイマー］で設定した時間が経過すると、光源が消灯し、クーリングののちにスタンバイ状態になります。
［オフ］	パワーマネージメント機能を無効にします。

［待機］	信号入力がない状態が 30 秒続くとカウントダウンタイマーが表示され、［タイマー］で設定した時間が経過すると、光源が消灯し、クーリングののちに待機状態になります。 待機中に信号を入力すると、またはボタン操作をすると、光源が点灯して投写状態になります。

- ［オフ］以外を選択した場合は、手順 **5)** に進みます。

5)　▲▼ ボタンで［タイマー］を選択する

6)　◀▶ ボタンで設定時間を切り換える

- ボタンを押すごとに、設定時間が切り換わります。
- パワーマネージメント機能が働いて光源が消灯するまでの時間を 5 分から 120 分の間で 5 分刻みで設定できます。

お知らせ

- MEMORY VIEWER の入力でもパワーマネージメント機能が動作します。入力信号がない状態と判別する条件は次のとおりです。
  – 〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子に USB メモリーが取り付けられていない
- NETWORK 入力でパワーマネージメント機能が動作しません。

［スタンバイモード］を設定する場合

スタンバイ時の電力と、［高速スタートアップ］の機能を有効にするかどうかを設定します。

1)　▲▼ ボタンで［ECO マネージメント］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［ECO マネージメント］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［スタンバイモード］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［ノーマル］	スタンバイ時にネットワーク機能を使用する場合に選択します。
［ECO］	スタンバイ時の消費電力を低く抑えたい場合に選択します。

- ［ノーマル］を選択した場合は、手順 **5)** に進みます。

5)　▲▼ ボタンで［高速スタートアップ］を選択する

6)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	［高速スタートアップ］の機能を無効にします。
［オン］	スタンバイ状態になってから［有効期間］で設定した時間が経過するまでの間、［高速スタートアップ］の機能を有効にします。［高速スタートアップ］の機能が有効になっている期間中は、電源を入れてから投写を開始するまでの時間が短縮されます。

- ［オン］を選択した場合は、手順 **7)** に進みます。

7)　〈決定〉ボタンを押す

- **［高速スタートアップ］**画面が表示されます。

8)　◀▶ ボタンで［有効期間］を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［30 分］	スタンバイ状態になってから［高速スタートアップ］の機能を無効にするまでの時間を設定します。 お好みの有効期間を選択してください。
［60 分］	
［90 分］	

お知らせ

- ［スタンバイモード］を［ノーマル］に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能が使えます。
- ［スタンバイモード］を［ノーマル］に設定している場合、本機がスタンバイ状態でも、〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子を使用して給電できます。［ECO］に設定している場合は、スタンバイ状態で給電できません。
- ［スタンバイモード］を［ECO］に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能と音声出力機能が使えません。また、RS-232C コマンドの一部が使えません。
- ［スタンバイモード］を［ECO］に設定した場合、［ノーマル］設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでに時間がかかります。
- ［スタンバイモード］が［ECO］に設定されている場合、［高速スタートアップ］は設定できません。

- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、スタンバイ時の消費電力が高くなります。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、スタンバイ状態になってから [有効期間] で設定した時間が経過すると、[高速スタートアップ] の機能が無効になり、[高速スタートアップ] を [オフ] に設定した場合と同じ起動時間、同じ消費電力になります。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、スタンバイ状態であっても稼働中としてプロジェクター使用時間が加算されます。

[オートパワーオン] を設定する場合

オートパワーオン機能を設定します。プロジェクターがスタンバイ状態のときに、対応する入力信号を検出すると、自動的に電源を入れて投写を開始する機能です。

1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **[ECO マネージメント]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [オートパワーオン] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	オートパワーオン機能を無効にします。
[COMPUTER]	<COMPUTER IN> 端子からの入力信号を検知すると、自動的に電源を入れて投写を開始します。
[HDMI1]	<HDMI IN 1> 端子からの入力信号を検知すると、自動的に電源を入れて投写を開始します。
[HDMI2]	<HDMI IN 2> 端子からの入力信号を検知すると、自動的に電源を入れて投写を開始します。

お願い

- 本機能を使用して投写を開始する前に、投写レンズとスクリーンの間の投写範囲内に人がいないことを必ず確認してください。投写範囲内に人がいる状態で投写を開始すると、突然光が入り、目を傷めるおそれがあります。

お知らせ

- 以下の場合は、[オートパワーオン] を設定できません。
  - [スタンバイモード] を [ECO] に設定している場合
  - [音声設定] メニュー → [スタンバイ時動作] を [オン] に設定している場合

[RS-232C]

〈SERIAL IN〉端子の通信条件を設定します。“〈SERIAL IN〉端子について”（☞ 194 ページ）をご覧ください。

〈SERIAL IN〉端子の通信条件を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [RS-232C] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **[RS-232C]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [接続先選択] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[プロジェクター]	プロジェクター本体の〈SERIAL IN〉端子で RS-232C 通信を行います。
[DIGITAL LINK]	DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）と〈DIGITAL LINK/LAN〉端子を経由して RS-232C 通信を行います。

5) ▲▼ ボタンで [通信速度] を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[9600]	適切な通信速度を選択してください。
[19200]	
[38400]	

7) ▲▼ ボタンで [パリティー] を選択する

8)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［無し］	パリティーの条件を選択してください。
［偶数］	
［奇数］	

お知らせ

- ［接続先選択］を［DIGITAL LINK］に設定した場合は、該当の機器（たとえば、DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200））を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続しているときのみ、そのシリアル端子を使用して通信できます。
- ［接続先選択］を［DIGITAL LINK］に設定した場合は、入力の通信速度は 9 600 bps に固定されます。

既存のプロジェクターの制御コマンドを使用する場合

本機をコンピューターで制御する際に、以前に購入した弊社プロジェクターの制御コマンドを使用する場合に設定します。既存の弊社プロジェクター用制御ソフトウェア等を引き続き使用できます。

1)　▲▼ ボタンで［RS-232C］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［RS-232C］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［エミュレート］を選択する

4)　〈決定〉ボタンを押す

- **［エミュレート］**画面が表示されます。

5)　▲▼ ボタンで項目を選択する

［オフ］	既存のプロジェクターの制御コマンドを使用しません。
［D3500］	D3500 系
［D4000］	D4000 系
［D/W5k シリーズ］	D5700 系、DW5100 系、D5600 系、DW5000 系、D5500 系
［D/W/Z6k シリーズ］	DZ870 系、DW830 系、DX100 系、DZ780 系、DW750 系、DX820 系、DZ770 系、DW740 系、DX810 系、DZ680 系、DW640 系、DX610 系、DW730 系、DX800 系、DZ6710 系、DZ6700 系、DW6300 系、D6000 系、D5000 系、DZ570 系、DW530 系、DX500 系、RZ970 系、RW930 系、RX110 系、RZ770 系、RZ660 系、RW730 系、RW620 系、RZ670 系、RW630 系、RZ575 系、RZ570 系
［L730 シリーズ］	L730 系、L720 系、L520 系
［L780 シリーズ］	L780 系、L750 系
［L735 シリーズ］	L735 系
［L785 シリーズ］	L785 系
［F/W シリーズ］	FW430 系、FX400 系、FW300 系、F300 系、F200 系、FW100 系、F100 系
［LZ370］	LZ370 系
［LB/W シリーズ］	LB3 系、LB2 系、LB1 系、ST10 系、LB90 系、LW80NT 系、LB80 系、LB78 系、LB75 系
［VX500 シリーズ］	VW435N 系、VW440 系、VW430 系、VX505N 系、VX510 系、VX500 系、VW330 系、VX400NT 系、VX400 系、VX41 系
［EZ570 シリーズ］	EZ570 系、EW630 系、EW530 系、EX600 系、EX500 系
［VW431D］	VW431D 系

6)　〈決定〉ボタンを押す

［レンズ遮蔽検知］

レンズ遮蔽検知機能の有効 / 無効を設定します。
レンズ遮蔽検知機能により、レンズ遮蔽検知センサーがレンズ前方の障害物を検出すると、安全性を考慮してプロジェクターは自動的に光出力を低下させます。障害物が取り除かれると、光出力は通常に戻ります。

1)　▲▼ ボタンで［レンズ遮蔽検知］を選択する

2)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	レンズ遮蔽検知機能を有効にします。 前方の障害物を検知するとスクリーンに警告メッセージが表示され、光出力を低下させます。
［オフ］	レンズ遮蔽検知機能を無効にします。 投写レンズの前にものを置いて遮光しても、プロジェクターの光出力は維持します。

お知らせ

- レンズ遮蔽検知機能は、周囲の赤外線機器と干渉する場合があります。［レンズ遮蔽検知］を［オフ］に設定することで、この機能を無効にすることができます。

［ファンクションボタン］

リモコンの〈ファンクション〉ボタンに現在割り当てられている機能を表示します。また、その割り当て設定を解除します。

〈ファンクション〉ボタンへの割り当てを解除する場合

1)　▲▼ ボタンで［ファンクションボタン］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［ファンクションボタン］**画面が表示されます。

3)　〈決定〉ボタンを押す

4)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- オンスクリーンメニューを表示させ、割り当てを解除したいメニュー項目（メインメニュー、サブメニュー、または詳細メニュー）を選択したうえで、〈ファンクション〉ボタンを 3 秒以上押し続けることでも解除できます。

［音声設定］

音声機能の詳細を設定します。

音量を調整する場合

1)　▲▼ ボタンで［音声設定］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［音声設定］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［音量］を選択する

4)　◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	音が大きくなります。	0 ～ 63
◀ ボタンを押す	音が小さくなります。	

消音状態に設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［音声設定］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［音声設定］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［消音］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	音声を出力します。
［オン］	消音します。

スタンバイ状態での音声出力を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［音声設定］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［音声設定］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［スタンバイ時動作］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	スタンバイ時は音声を出力しません。
［オン］	スタンバイ時に音声を出力します。

お知らせ

- ［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］→ ［スタンバイモード］を［ECO］に設定しているときは、スタンバイ状態での音声出力はできません。
- ［スタンバイ時動作］を［オン］に設定している場合、スタンバイ時にリモコンの〈音量 -〉ボタン /〈音量 +〉ボタンまたは本体操作部の〈VOL+〉ボタン /〈VOL–〉ボタンで音量を調整できます。
- ［スタンバイ時動作］を［オン］に設定し、［電源ボタン操作音］を［オン］に設定してスタンバイ状態で音声を出力している場合、プロジェクターの電源をオンにすると、電源ボタン操作音により音声出力が一時的に中断され、電源ボタン操作音の後に音声出力が再開されます。

電源ボタン操作音を設定する場合

本機を電源オンまたは電源オフ時に、電源ボタン操作音の有効 / 無効を設定します。

1)　▲▼ ボタンで［音声設定］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［音声設定］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［電源ボタン操作音］を選択する

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	電源オン / 電源オフ時の電源ボタン操作音を有効にします。
［オフ］	電源オン / 電源オフ時の電源ボタン操作音を無効にします。

お知らせ

- 電源ボタン操作音の音量は調整することはできません。

接続機器からの音声入力を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［音声設定］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す

- **［音声設定］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［音声入力選択］の設定したい項目を選択する

［COMPUTER］	COMPUTER 入力時に出力する音声を設定します。
［HDMI1］	HDMI1 入力時に出力する音声を設定します。
［HDMI2］	HDMI2 入力時に出力する音声を設定します。
［DIGITAL LINK］	DIGITAL LINK 入力時に出力する音声を設定します。
［MEMORY VIEWER］	MEMORY VIEWER 入力時に出力する音声を設定します。
［NETWORK］	NETWORK 入力時に出力する音声を設定します。

4)　◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［AUDIO IN］	設定した入力端子からの映像投写時に、〈AUDIO IN〉端子に接続した音声を出力します。

［HDMI1 AUDIO IN］*1	HDMI1 の音声を出力します。
［HDMI2 AUDIO IN］*2	HDMI2 の音声を出力します。
［DIGITAL LINK AUDIO IN］*3	DIGITAL LINK の音声を出力します。
［NETWORK AUDIO IN］*4	NETWORK の音声を出力します。

*1　入力が HDMI1 の場合のみ
*2　入力が HDMI2 の場合のみ
*3　入力が DIGITAL LINK の場合のみ
*4　入力が NETWORK の場合のみ

［テストパターン］

本機内蔵のテストパターンを表示します。
［コントラスト］や［明るさ］などの［映像調整］メニューの設定内容は、テストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

1)　▲▼ ボタンで［テストパターン］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- 全白のテストパターンが表示されます。

3)　◀▶ ボタンでテストパターンを切り換える
- ボタンを押すごとに、テストパターンが切り換わります。

全白	［パターン切換］の操作ガイドとともにテストパターンが表示されます。お好みのテストパターンを選択してください。
カラーバー（縦）	
カラーバー（横）	
十字	
十字（反転）	
クロスハッチ	
スクリーンアスペクト枠	

お知らせ

- リモコンの〈ファンクション〉ボタンに［テストパターン］を割り当てている場合、〈ファンクション〉ボタンを押すと全白のテストパターンが表示されます。

［フィルターカウンター］

フィルターの使用時間を確認したり、フィルターのお手入れ / 交換の周期を設定したりします。また、フィルターの使用時間をリセットできます。

1)　▲▼ ボタンで［フィルターカウンター］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［フィルターカウンター］**画面が表示されます。

［フィルターカウンター］	フィルターの使用時間を表示します。
［タイマー］	フィルターのお手入れ / 交換の周期を設定します。
［フィルターカウンターリセット］	フィルターの使用時間をリセットします。

［タイマー］を設定する場合

定期的にフィルターのお手入れ / 交換を行いたい場合に、その周期を時間で設定します。フィルターの使用時間が設定した時間に到達すると、投写画面上にフィルターのお手入れ / 交換を促すメッセージ［フィルターカウターが設定時間に到達しました］が表示されます。

1)　▲▼ ボタンで［フィルターカウンター］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［フィルターカウンター］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［タイマー］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	メッセージを表示しない場合に選択します。
［1000 時間］～［20000 時間］	メッセージを表示する場合に選択します。フィルターのお手入れ / 交換周期を設定できます。

［フィルターカウンター］をリセットする場合

フィルターの使用時間をリセットします。

1) ▲▼ ボタンで［フィルターカウンター］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［フィルターカウンター］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［フィルターカウンターリセット］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- ［フィルターカウンター］の表示が［0 時間］になります。

［スケジュール］

コマンドの実行スケジュールを曜日ごとに設定します。
Web 制御画面からスケジュールを設定する手順については、“［スケジュール］”（☞ 151 ページ）をご覧ください。

スケジュール機能の有効 / 無効を設定する

1) ▲▼ ボタンで［スケジュール］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	スケジュール機能を無効にします。
［オン］	スケジュール機能を有効にします。スケジュールの設定方法については、“プログラムの割り当て方法”（☞ 97 ページ）または“各プログラムの設定方法”（☞ 97 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- ［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］→ ［スタンバイモード］を［ECO］に設定した状態で［スケジュール］を［オン］に設定すると、［スタンバイモード］の設定は強制的に［ノーマル］となり、［ECO］への設定変更はできなくなります。この状態で［スケジュール］を［オフ］にしても、［スタンバイモード］の設定は元に戻りません。

プログラムの割り当て方法

1) ▲▼ ボタンで［スケジュール］を選択する

2) ◀▶ ボタンで［オン］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **［スケジュール］**画面が表示されます。

3) 曜日ごとにプログラムを選択し、割り当てる

- ▲▼ ボタンで曜日を選択し、◀▶ ボタンでプログラム番号を選択します。
- プログラムは、プログラム番号 1 ～ 7 まで設定できます。“- - - -”は未設定を表します。

各プログラムの設定方法

1 プログラムにつき 16 コマンドまでの設定ができます。

1) ▲▼ ボタンで［スケジュール］を選択する

2) ◀▶ ボタンで［オン］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **［スケジュール］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［プログラム編集］を選択する

4) ◀▶ ボタンで設定したいプログラム番号を選択し、〈決定〉ボタンを押す

5) ▲▼ ボタンでコマンド番号を選択し、〈決定〉ボタンを押す

6) ▲▼ ボタンで［時刻］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 調整モード（時刻が点滅している状態）になります。

7) ◀▶ ボタンで［時］または［分］を選択して、▲▼ ボタンで時刻を設定し、〈決定〉ボタンを押す

8) ▲▼ ボタンで設定したい［コマンド］を選択する
- 詳細設定が必要な［コマンド］については、◀▶ ボタンを押すごとに、その詳細設定の項目が切り換わります。
- ［入力］を選択した場合は、続けて〈決定〉ボタンを押して、▲▼ ボタンで設定したい入力を選択します。

［コマンド］	［コマンド］の詳細設定	説明
［電源オン］	—	電源を入れます。
［スタンバイ］	—	スタンバイ状態にします。
［高速スタートアップ］	［オン］	［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］ → ［高速スタートアップ］の機能を有効にします。
	［オフ］	［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］ → ［高速スタートアップ］の機能を無効にします。
［シャッター］	［オープン］	シャッター機能を無効（シャッター：オープン）にします。
	［クローズ］	シャッター機能を有効（シャッター：クローズ）にします。
［入力］	［COMPUTER］	COMPUTER に入力を切り換えます。
	［HDMI1］	HDMI1 に入力を切り換えます。
	［HDMI2］	HDMI2 に入力を切り換えます。
	［MEMORY VIEWER］	MEMORY VIEWER に入力を切り換えます。
	［NETWORK］	NETWORK に入力を切り換えます。
	［DIGITAL LINK］	DIGITAL LINK に入力を切り換えます。
	［入力 1］～［入力 10］*1	DIGITAL LINK に入力を切り換え、さらに当社製ツイストペアケーブル伝送器の入力を指定入力に切り換えます。
［光源電力］	［ノーマル］	輝度を優先します。
	［ECO］	輝度は［ノーマル］より低下しますが、光源の寿命を延ばすように電力を制御します。
	［静音 1］	低騒音での運用を優先します。光源電力は 85 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間です。
	［静音 2］	低騒音での運用を優先します。光源電力は 70 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間です。
	［ユーザー］	［ユーザー］に設定した内容で電力を制御します。
［スタンバイ時動作（音声）］	［オフ］	スタンバイ時の音声出力を停止します。
	［オン］	スタンバイ時に音声を出力します。
［音量］	［0］～［63］	音量を設定します。

*1 DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を本機に接続している場合、その入力名が［入力 1］～［入力 10］に自動的に反映されます。入力名が反映されていない項目を選択した場合は無効になります。

9) 〈決定〉ボタンを押す
- コマンドが確定し、選択しているコマンドの左側に ● が表示されます。

10) ▲▼ ボタンで［保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お願い

- 本機能を使用して投写を開始する前に、投写レンズとスクリーンの間の投写範囲内に人がいないことを必ず確認してください。投写範囲内に人がいる状態で投写を開始すると、突然光が入り、目を傷めるおそれがあります。

お知らせ

- すでに設定されているコマンドを削除する場合は、手順 **5)** の画面を表示中にリモコンの〈デフォルト〉ボタンを押すか、手順 **6)** の画面で［削除］を選択し、〈決定〉ボタンを押してください。
- 同じ時刻に設定されたコマンドは、コマンド番号の若い順に実行されます。
- 時刻はローカル時刻で動作します。（☞ 99 ページ）
- ［スケジュール］で設定されたコマンドの実行前に、リモコンや本体操作部での操作、制御コマンドによる操作を実行した場合、スケジュール機能で設定したコマンドが実行されないことがあります。

［日付と時刻］

本機内蔵時計のタイムゾーンと日時を設定します。

タイムゾーンを設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［日付と時刻］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［日付と時刻］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［タイムゾーン］を選択する

4)　◀▶ ボタンで［タイムゾーン］を切り換える

手動で日時を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［日付と時刻］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［日付と時刻］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［時刻設定］を選択する

4)　〈決定〉ボタンを押す
- **［時刻設定］**画面が表示されます。

5)　▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンでローカル日時を設定する

6)　▲▼ ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 日時設定が完了します。

自動で日時を設定する場合

1)　▲▼ ボタンで［日付と時刻］を選択する

2)　〈決定〉ボタンを押す
- **［日付と時刻］**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［時刻設定］を選択する

4)　〈決定〉ボタンを押す
- **［時刻設定］**画面が表示されます。

5)　▲▼ ボタンで［NTP 同期］を選択し、◀▶ ボタンで［オン］に切り換える

6)　▲▼ ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 日時設定が完了します。

お知らせ

- 自動で日時を設定するには、ネットワークへの接続が必要です。
- ［NTP 同期］を［オン］にした直後の NTP サーバーとの同期に失敗したときは、［NTP 同期］は［オフ］に戻ります。NTP サーバーの設定がされていない状態で［NTP 同期］を［オン］にした場合も、画面上にエラーメッセージが表示され［NTP 同期］は［オフ］に戻ります。
- NTP サーバーの設定は Web ブラウザーから本機にアクセスして実行してください。詳しくは、“［時刻設定］”（☞ 156 ページ）をご覧ください。
- ［プロジェクター設定］メニュー →［全設定初期化］を実行すると、［タイムゾーン］の設定は工場出荷時の状態に戻ります。しかし、ローカル日時の設定に基づく日付と時刻（協定世界時、UTC、Universal Time, Coordinated）は初期化されずに保持されます。

［HDMI CEC］

HDMI の CEC（Consumer Electronics Control）機能の設定をします。
CEC は、HDMI ケーブルで接続された外部機器との間で機器制御信号をやりとりすることで実現している機能で、本機のリモコンを使用して CEC 対応の外部機器（以下「CEC 対応機器」という。）の操作を行ったり、本機と CEC 対応機器との間で電源入 / 切の状態を連動させたりすることができます。
CEC 機能の使い方について、詳しくは“HDMI CEC 機能を使う”（☞ 170 ページ）をご覧ください。

1) ▲▼ ボタンで［HDMI CEC］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	CEC 機能を有効にします。
［オフ］	CEC 機能を無効にします。

CEC 対応機器を操作する場合

〈HDMI IN 1〉端子または〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器を操作します。
［HDMI-CEC 操作］は、HDMI1 入力または HDMI2 入力を選択している場合に操作できます。あらかじめ操作したい機器が接続されている入力に切り換えてください。

1) ▲▼ ボタンで［HDMI CEC］を選択する

2) ◀▶ ボタンで［オン］を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **［HDMI CEC］** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［HDMI1］または［HDMI2］を選択する

- 操作したい CEC 対応機器が接続されている入力に合わせて選択してください。
- 操作したい機器が表示されている場合は手順 **6)** に進んでください。

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- 一つの入力に複数の CEC 対応機器が接続されている場合に切り換えできます。
- 操作したい機器を選択してください。

6) ▲▼ ボタンで［HDMI-CEC 操作］を選択する

7) 〈決定〉ボタンを押す

- HDMI CEC 操作画面が表示されます。

8) HDMI CEC 操作画面の表示項目を選択して機器を操作する

- 操作について、詳しくは“HDMI CEC 機能を使う”（☞ 170 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 〈HDMI IN 1〉端子および〈HDMI IN 2〉端子に CEC 対応機器が接続されていない場合は、[HDMI1] および [HDMI2] に機器は表示されず、[----] と表示されます。
- HDMI CEC 操作画面は、〈戻る〉ボタンまたは〈メニュー〉ボタンを押すと消えます。

メニューコードを変更する場合

CEC 対応機器の操作メニューを呼び出すメニューコードは、機器のメーカーによって異なります。本機の HDMI CEC 操作画面から CEC 対応機器の操作メニューを呼び出せない場合は、メニューコードの設定を変更してください。

1) ▲▼ ボタンで［HDMI CEC］を選択する

2) ◀▶ ボタンで［オン］を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **［HDMI CEC］** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［メニューコード］を選択する

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに項目が切り換わります。
- ［1］～［6］の中から選択してください。

電源連動を設定する場合

本機と CEC 対応機器との間の電源連動の動作について設定します。

[プロジェクター -> 機器]

本機から CEC 対応機器に対して行う電源連動の動作について設定します。

1) ▲▼ ボタンで [HDMI CEC] を選択する

2) ◀▶ ボタンで [オン] を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **[HDMI CEC]** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで [プロジェクター -> 機器] を選択する

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[無効]	電源連動の動作を無効にします。 CEC 対応機器の電源状態を本機に反映せず、連動させない場合に選択します。
[電源オフ]	電源オフ連動の動作を有効にします。 本機の電源を切ってスタンバイ状態にすると、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に接続されているすべての CEC 対応機器がスタンバイ状態になります。 電源オン連動の動作は無効です。
[電源オン / オフ]	電源オン連動と電源オフ連動の動作を有効にします。 本機の電源を入れて投写を開始すると、〈HDMI IN 1〉端子または〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器の電源が入ります。 本機の電源を切ってスタンバイ状態にすると、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に接続されているすべての CEC 対応機器がスタンバイ状態になります。

[機器 -> プロジェクター]

CEC 対応機器から本機に対して行う電源連動の動作について設定します。

1) ▲▼ ボタンで [HDMI CEC] を選択する

2) ◀▶ ボタンで [オン] を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す

- **[HDMI CEC]** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで [機器 -> プロジェクター] を選択する

5) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[無効]	電源連動の動作を無効にします。 本機の電源状態を CEC 対応機器に反映せず、連動させない場合に選択します。
[電源オン]	電源オン連動の動作を有効にします。 本機がスタンバイ状態のとき、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器の電源を入れると、本機の電源が入って投写を開始するとともに、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。 本機がスタンバイ状態のとき、CEC 対応機器が再生動作を始めると、本機の電源が入って投写を開始するとともに、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。 本機が電源オン状態のとき、CEC 対応機器が再生動作を始めると、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。 電源オフ連動の動作は無効です。
[電源オン / オフ]	電源オン連動と電源オフ連動の動作を有効にします。 本機がスタンバイ状態のとき、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器の電源を入れると、本機の電源が入って投写を開始するとともに、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。 本機がスタンバイ状態のとき、CEC 対応機器が再生動作を始めると、本機の電源が入って投写を開始するとともに、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。 本機が電源オン状態のとき、CEC 対応機器が再生動作を始めると、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。 本機が電源オン状態のとき、〈HDMI IN 1〉端子または〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器の電源を切ると、本機の電源が切れてスタンバイ状態になります。 なお、これらの連動動作は、CEC 対応機器がそれぞれの動作に対応している場合に限ります。

お知らせ

- 接続された CEC 対応機器によっては、記載されている電源連動の動作に対応していないことがあります。CEC 対応機器について、すべての動作を保証するものではありません。

[ユーザーイメージ]

お好みのイメージ画像をプロジェクターに登録して、バックカラー（☞ 81 ページ）またはスタートアップロゴ（☞ 80 ページ）として使用できます。

登録できるイメージ画像ファイル

本機に登録できるイメージ画像ファイルは、次の条件を満たす静止画データです。

拡張子	フォーマット	制限事項
.jpg/.jpeg/.jpe	JPEG	画素数： 最大 1 920 x 1 200 ファイル形式：ベースライン形式、プログレッシブ形式対応 YUV フォーマット：YUV444、YUV422(水平ダウンサンプリング)、YUV420 カラーモード：RGB のみ
.bmp	Windows Bitmap	画素数： 最大 1 920 x 1 200 8/24 ビット
.png	PNG	画素数： 最大 1 920 x 1 200 1/8/16/24/32/48/64 ビット（ただし、αブレンディングは無効になり、後景画像は透過されません。）

ユーザーイメージを登録する場合

1) 本機に登録するイメージ画像のファイルを USB メモリーに保存する

2) USB メモリーを〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に挿す

3) ▲▼ ボタンで［ユーザーイメージ］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［ユーザーイメージ］** 画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［ユーザーイメージ保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［ユーザーイメージ保存］** 画面が表示されます。
- 登録するイメージ画像のファイルが USB メモリーのルートに保存されている場合は手順 **6)** に進んでください。

5) ▲▼ ボタンでファイルが保存されているフォルダーを選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 登録するイメージ画像のファイルが表示されるまで、フォルダー選択の操作を繰り返します。

6) ▲▼ ボタンでファイルを選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

7) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 完了率が 100%になるまで待ちます。

8) 〈決定〉ボタンを押す
- ユーザーイメージの登録が完了します。

お知らせ

- 本機で使用できる USB メモリーや、USB メモリーの取り扱いについては、“USB メモリーを使う”（☞ 47 ページ）をご覧ください。
- ［プロジェクター設定］メニュー → ［全設定初期化］で初期化した場合、［ユーザーイメージ］に登録されているイメージ画像は消去されます。

ユーザーイメージを削除する場合

1) ▲▼ ボタンで［ユーザーイメージ］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［ユーザーイメージ］**画面が表示されます。

2) ▲▼ ボタンで［ユーザーイメージ削除］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［ユーザーイメージ削除］**確認画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- ユーザーイメージの削除が完了します。

お知らせ

- ユーザーイメージが次のいずれかのメニューで使用されている場合、ユーザーイメージを削除すると、コンテンツは表示されません。
  - ［表示オプション］メニュー → ［バックカラー］
  - ［表示オプション］メニュー → ［スタートアップロゴ］

［ユーザーアップデート］

USB メモリーを使用してファームウェアの書き換えができます。
操作について、詳しくは“ファームウェアをアップデートする”（☞ 172 ページ）をご覧ください。

［データクローニング］

データクローニング機能の操作を行います。本機の設定や調整値などのデータを、LAN を経由して、または USB メモリーを使用して、複数台のプロジェクターにコピーできます。
操作について、詳しくは“データクローニング機能を使用する”（☞ 166 ページ）をご覧ください。

［全設定初期化］

各種設定値を工場出荷時の値に戻します。

1) ▲▼ ボタンで［全設定初期化］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

3) ［全設定初期化］画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

4) しばらくして電源切の確認画面が表示されたら、〈決定〉ボタンを押す
- 電源を切る操作以外は無効です。

お知らせ

- ［セキュリティー］メニュー → ［パスワード設定］を［オン］に設定している場合、［全設定初期化］を選択して〈決定〉ボタンを押すと、**［パスワード設定］**画面が表示されます。本機に設定したセキュリティーパスワードを入力してから操作を続けてください。
  セキュリティーパスワードは、［セキュリティー］メニュー → ［パスワード変更］で設定したパスワードです。
  工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- ［全設定初期化］を実行すると、設定値を反映させるためにプロジェクターはスタンバイ状態になります。
- ［全設定初期化］を実行しても、次の設定値は初期化されません。
  - ［スタンバイモード］
  - ［RS-232C］ → ［エミュレート］
  - ［フィルターカウンター］
  - ［ネットワーク］
- ［ネットワーク］の設定値を初期化する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［初期化］を実行してください。
- ［全設定初期化］を実行した場合、次回投写開始時に **［初期設定］**画面が表示されます。

[セキュリティー] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから［セキュリティー］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

- 初めてご使用になる場合
  初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀ ボタンの順に押し、〈決定〉ボタンを押してください。

お願い

- ［セキュリティー］メニューを選択し、〈決定〉ボタンを押すと、パスワードの入力が求められます。設定したセキュリティーパスワードを入力してから［セキュリティー］メニューの操作を続けてください。
- 以前にパスワードを変更した場合、変更後のパスワードを入力し、〈決定〉ボタンを押してください。

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、* 印で表示されます。
- パスワードを間違えると、画面上にエラーメッセージが表示されます。再度正しいパスワードを入力してください。

[パスワード設定]

セキュリティーパスワード入力を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［パスワード設定］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	セキュリティーパスワード入力を無効にします。
[オン]	セキュリティーパスワード入力を有効にします。

お知らせ

- 工場出荷時、または［プロジェクター設定］メニュー →［全設定初期化］を実行したあとの設定は、［オフ］になっています。必要に応じて［オン］に設定してください。
- 電源を入れたときのセキュリティーパスワード入力は、［オン］に設定したあと、一度電源を切って電源プラグをコンセントに差し直すまで有効になりません。電源を入れたときのセキュリティーパスワード入力を誤ると、電源〈⏻/I〉ボタンでの操作に限定されます。

[パスワード変更]

セキュリティーパスワードを変更します。

1) ▲▼ ボタンで［パスワード変更］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［パスワード変更］**画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンや、数字（〈0〉～〈9〉）ボタンでパスワードを設定する

- 最大 8 つのボタン操作を設定できます。

4) 〈決定〉ボタンを押す

5) 確認のため、再度パスワードを入力する

6) 〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、* 印で表示されます。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。
- セキュリティーパスワードに数字を用いた場合、リモコンを紛失すると、セキュリティーパスワードの初期化が必要になります。初期化方法については、販売店にご相談ください。

[テキスト設定]

投写中の映像に、セキュリティーメッセージ（文字）を重ねて表示させます。

1) ▲▼ ボタンで［テキスト設定］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	セキュリティーメッセージを表示しません。
［オン］	［セキュリティー］メニュー → ［テキスト変更］で設定したテキストを表示します。

［テキスト変更］

［テキスト設定］で［オン］を選択したときに表示する文字を登録、変更します。

1) ▲▼ ボタンで［テキスト変更］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［テキスト変更］**画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する

4) ▲▼◀▶ ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- テキストが変更されます。
- 最大 22 文字まで入力できます。

［操作設定］

本体操作部とリモコンのボタン操作の有効 / 無効を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［操作設定］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［操作設定］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［本体操作部］または［リモコン］を選択する

［本体操作部］	本体操作部からの制御の制限を設定できます。
［リモコン］	リモコンからの制御の制限を設定できます。

4) 〈決定〉ボタンを押す

- **［本体操作部］**画面、または **［リモコン］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで［本体操作部］または［リモコン］を選択する

6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- 本体操作部またはリモコンからの制御の制限を設定できます。

［有効］	すべてのボタン操作を有効にします。
［無効］	すべてのボタン操作を無効にします。
［ユーザー］	各ボタンに対して操作有効 / 操作無効を個別に設定できます。 詳しくは、“任意のボタンの有効 / 無効を設定する場合”（☞ 105 ページ）をご覧ください。

7) ▲▼ ボタンで［保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

8) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

任意のボタンの有効 / 無効を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで［操作設定］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［操作設定］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［本体操作部］または［リモコン］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- **［本体操作部］**画面、または **［リモコン］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで［本体操作部］または［リモコン］を選択する

6) ◀▶ ボタンで［ユーザー］に切り換える

7) ▲▼ ボタンで設定したいボタンの項目を選択する

- ［リモコン］の［入力切換ボタン］を選択した場合は、続けて〈決定〉ボタンを押して、▲▼ ボタンで設定したいボタンを選択します。

	設定できるボタン	
	［本体操作部］	［リモコン］
［電源ボタン］	電源〈⏻/I〉ボタン	
［入力切換ボタン］	〈INPUT SELECT〉ボタン	〈COMPUTER〉ボタン、〈HDMI 1〉ボタン、〈HDMI 2〉ボタン、〈DIGITAL LINK〉ボタン
［メニューボタン］	〈MENU〉ボタン	〈メニュー〉ボタン
［その他のボタン］	▲▼◀▶ ボタン、〈ENTER〉ボタン、〈AUTO SETUP〉ボタン、〈SHUTTER〉ボタン	上記以外のボタン

8) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

［有効］	ボタン操作を有効にします。
［無効］	ボタン操作を無効にします。

9) ▲▼ ボタンで［保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

10) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- ［無効］に設定した側のボタンで操作すると、**［操作設定パスワード］**画面が表示されます。
  操作設定パスワードを入力してください。
- **［操作設定パスワード］**画面は約 10 秒何も操作しなければ消えます。
- リモコンのボタン操作を無効にしても、リモコンの〈ID SET〉ボタン、〈ID ALL〉ボタンの操作は有効です。

［操作設定パスワード変更］

操作設定パスワードを変更できます。

1) ▲▼ ボタンで［操作設定パスワード変更］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［操作設定パスワード変更］**画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する

4) ▲▼◀▶ ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- 中止する場合は［キャンセル］を選択してください。

お願い

- 工場出荷時、または［プロジェクター設定］メニュー →［全設定初期化］を選択して初期化したあと、初期のパスワードは「AAAA」です。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。
- パスワードを初期設定に戻す場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

[ネットワーク] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから［ネットワーク］を選択し、サブメニューから項目を選択してください。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（☞ 56 ページ）をご覧ください。

- 本機で無線 LAN 機能を使用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付ける必要があります。

[イーサネットタイプ]

イーサネット信号の伝送経路を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［イーサネットタイプ］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[LAN]	イーサネット信号の伝送に、〈LAN〉端子のみを使用する場合に選択します。
[DIGITAL LINK]	イーサネット信号の伝送に、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子のみを使用する場合に選択します。
[LAN & DIGITAL LINK]	イーサネット信号の伝送に、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子を使用する場合に選択します。

お知らせ

- ［イーサネットタイプ］を［LAN］に設定した場合、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続した DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を経由してのイーサネット・シリアル制御信号の伝送はできません。
- ［イーサネットタイプ］を［LAN & DIGITAL LINK］に設定すると、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子が本機の内部で接続された状態になります。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子を直接 LAN ケーブルで接続しないでください。また、スイッチングハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。

[DIGITAL LINK]

DIGITAL LINK に関する設定や操作を行います。

[DIGITAL LINK モード]

本機の〈DIGITAL LINK/LAN〉端子の通信方式を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[DIGITAL LINK]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［DIGITAL LINK モード］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	通信方式が DIGITAL LINK、ロングリーチ、イーサネットのいずれかに自動的に切り換わります。
[DIGITAL LINK]	通信方式が DIGITAL LINK に固定されます。
[ロングリーチ]	通信方式がロングリーチに固定されます。
[イーサネット]	通信方式がイーサネットに固定されます。

通信可能なモードについて

✓：通信可能
—：通信不可

設定		通信可否			
		映像伝送（100 m）	映像伝送（150 m）	イーサネット	RS-232C
[オート]	DIGITAL LINK の場合	✓	—	✓	✓
	ロングリーチの場合	—	✓	✓	✓
	イーサネットの場合	—	—	✓[*1]	—
[DIGITAL LINK]		✓	—	✓	✓
[ロングリーチ]		—	✓	✓	✓

設定	通信可否			
	映像伝送（100 m）	映像伝送（150 m）	イーサネット	RS-232C
[イーサネット]	—	—	✓*1	—

*1 ツイストペアケーブル伝送器を経由しての通信はできません。本機を直接ネットワークに接続してください。

お知らせ

- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、DIGITAL LINK の通信方式で接続した場合の最長伝送距離は 100 m です。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。
- ロングリーチの通信方式で接続した場合の最長伝送距離は 150 m です。ただし、その場合に本機が受像できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。
- ツイストペアケーブル伝送器側の通信方式がロングリーチに設定されている場合、[DIGITAL LINK モード] を [オート] に設定すると、ロングリーチの通信方式で接続します。デジタルリンクスイッチャー（品番：ET-YFB200）との間をロングリーチの通信方式で接続する場合は、[DIGITAL LINK モード] を [ロングリーチ] に設定してください。
- [DIGITAL LINK モード] を [ロングリーチ] に設定しても、ツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応していない場合は正常に接続できません。

[DIGITAL LINK ステータス]

DIGITAL LINK の接続環境を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[DIGITAL LINK]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK ステータス] を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- **[DIGITAL LINK ステータス]** 画面が表示されます。

[リンク状態]	表示内容は次のとおりです。 [DIGITAL LINK]：DIGITAL LINK の方式で通信しています [ロングリーチ]：ロングリーチの方式で通信しています [イーサネット]：イーサネットの方式で通信しています [NO LINK]：通信が確立していない場合
[HDCP ステータス]	表示内容は次のとおりです。 [オン]：HDCP で保護されている場合 [オフ]：HDCP で保護されていない場合 [NO SIGNAL]：無信号の場合
[信号品質]	[信号品質] はエラー発生量を数値化したもので、その数値によって表示色が緑色 / 黄色 / 赤色に変わります。 ツイストペアケーブル伝送器からの信号を受信した状態で信号品質レベルを確認してください。 • [最大] / [最小]：エラー発生量の最大値 / 最小値 • 緑色（−12 dB 以下）→ 正常な信号品質レベルです。 • 黄色（−11 ～ −8 dB）→ 画面にノイズが出る可能性がある注意レベルです。 • 赤色（−7 dB 以上）→ 同期が乱れる、または受信不可能な異常レベルです。

[DIGITAL LINK メニュー]

DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、その DIGITAL LINK 出力対応機器のメインメニューが表示されます。詳しくは、DIGITAL LINK 出力対応機器の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- [ネットワーク] メニュー → [DIGITAL LINK] → [EXTRON XTP] を [オン] に設定している場合、[DIGITAL LINK メニュー] は設定できません。

[EXTRON XTP]

Extron 社製「XTP トランスミッター」の接続設定をします。

1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[DIGITAL LINK]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［EXTRON XTP］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に、DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を接続する場合に選択します。
［オン］	〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に、Extron 社製の「XTP トランスミッター」を接続する場合に選択します。

お知らせ

- 「XTP トランスミッター」の詳細については、次の Extron 社の Web サイトをご覧ください。
  https://www.extron.co.jp/

［有線 LAN］

有線 LAN を利用するための接続設定をします。

1) ▲▼ ボタンで［有線 LAN］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **［有線 LAN］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［IP バージョン］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- **［IP バージョン］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで設定したい項目を選択し、〈決定〉ボタンを押す

［IPv4］	プロトコル「IPv4」のみを使用します。
［IPv6］	プロトコル「IPv6」のみを使用します。
［IPv4 & IPv6］	「IPv4」と「IPv6」の両プロトコルを使用できます。

6) 〈メニュー〉ボタンを押す

- **［有線 LAN］**画面が表示されます。
- ［IPv6］を選択した場合は、手順 **10)** に進んでください。

7) ▲▼ ボタンで［IPv4 設定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **［IPv4 設定］**画面が表示されます。

8) ▲▼ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

［DHCP］	［オン］	プロジェクターを接続するネットワークに存在する DHCP サーバーを利用する場合に選択します。自動的に IPv4 アドレスを取得します。
	［オフ］	IPv4 アドレスを手動で設定する場合に選択します。［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［デフォルトゲートウェイ］、［DNS1］、［DNS2］を設定してください。
［IP アドレス］	IP アドレスを入力します。	
［サブネットマスク］	サブネットマスクを入力します。	
［デフォルトゲートウェイ］	デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。	
［DNS1］	優先 DNS サーバーのアドレスを入力します。	
［DNS2］	代替 DNS サーバーのアドレスを入力します。	

9) ▲▼ ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- IPv4 アドレスの設定が保存され、**［有線 LAN］**画面が表示されます。

10) ▲▼ ボタンで［IPv6 設定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **［IPv6 設定］**画面が表示されます。

11) ▲▼ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

[自動構成]	[オン]	自動的に IPv6 アドレスを割り当てる場合に選択します。 [一時アドレス] を設定してください。
	[オフ]	IPv6 アドレスを手動で設定する場合に選択します。 [IP アドレス]、[プレフィックス長]、[デフォルトゲートウェイ]、[DNS1]、[DNS2] を設定してください。
[一時アドレス]	[オン]	一時 IPv6 アドレスを利用する場合に選択します。
	[オフ]	一時 IPv6 アドレスを利用しない場合に選択します。
[IP アドレス]	IP アドレスを入力します。	
[プレフィックス長]	[1] ～ [128]	プレフィックス長を選択します。(工場出荷時の値：[64])
[デフォルトゲートウェイ]	デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。	
[DNS1]	優先 DNS サーバーのアドレスを入力します。	
[DNS2]	代替 DNS サーバーのアドレスを入力します。	

12) 設定変更を完了後、[確定] を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- DHCP サーバーを利用する場合、DHCP サーバーが立ち上がっていることを確認してください。
- IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、プレフィックス長は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 次の場合、[IP バージョン] の [IPv6] は設定できません。
  – [ネットワーク] メニュー → [ネットワークコントロール] → [Crestron Connected™] を [オン] に設定している場合
- 〈LAN〉端子と〈DIGITAL LINK/LAN〉端子のネットワーク設定は共通です。
- 有線 LAN と無線 LAN を同一セグメントで使用することはできません。

[プロジェクター名]

プロジェクター名を変更できます。DHCP サーバーを利用する場合などにプロジェクター名を変更してください。

1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター名] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[プロジェクター名]** 画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する

- 最大 8 文字を入力できます。

4) プロジェクター名の入力を完了後、▲▼ ボタンで [確定] を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- 中止する場合は [キャンセル] を選択してください。

お知らせ

- プロジェクター名の工場出荷時の設定は、「Namexxxx」です。xxxx は、製品ごとに付与されている固定値です。

[ネットワークステータス]

本機のネットワーク状態を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [ネットワークステータス] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[ネットワークステータス]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで表示画面を切り換える

- ボタンを押すごとに、ページが切り換わります。
  [有線 LAN（IPv4)]（1/5 ページ)、[有線 LAN（IPv6)]（2/5 ページ、3/5 ページ)、[無線 LAN]（4/5 ページ)、[Presenter Light]（5/5 ページ）

[有線 LAN（IPv4)]	[DHCP]	[DHCP] の設定を表示します。
	[IP アドレス]	[IP アドレス] を表示します。
	[サブネットマスク]	[サブネットマスク] を表示します。
	[デフォルトゲートウェイ]	[デフォルトゲートウェイ] を表示します。
	[DNS1]	優先 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[DNS2]	代替 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[MAC アドレス]	有線 LAN の [MAC アドレス] を表示します。

[有線 LAN（IPv6)]	[自動構成]	[自動構成] の設定を表示します。
	[リンクローカルアドレス]	[リンクローカルアドレス] と [プレフィックス長] を表示します。
	[ステートフルアドレス]	[ステートフルアドレス] と [プレフィックス長] を表示します。
	[ステートレスアドレス]	[ステートレスアドレス] と [プレフィックス長] を表示します。
	[一時アドレス]	[一時アドレス] と [プレフィックス長] を表示します。
	[IP アドレス]	[IP アドレス] と [プレフィックス長] を表示します。
	[デフォルトゲートウェイ]	[デフォルトゲートウェイ] を表示します。
	[DNS1]	優先 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[DNS2]	代替 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[MAC アドレス]	有線 LAN の [MAC アドレス] を表示します。
[無線 LAN]	[SSID]	SSID の文字列を表示します。
	[IP アドレス]	[IP アドレス] を表示します。
[Presenter Light]	[LOGIN PASSWORD]	Presenter Light で使用するログインパスワードを表示します。

お知らせ

- [有線 LAN（IPv6)] のページには、[ネットワーク] メニュー → [有線 LAN] → [IPv6 設定] → [自動構成] の設定によって表示される項目と表示されない項目があります。
- [有線 LAN（IPv6)]（2/5 ページ）を表示中に〈決定〉ボタンを押すと **[ステートレスアドレス]** 画面が表示され、ステートレスアドレスの詳細を確認できます。さらに ▲▼ ボタンで **[一時アドレス]** 画面に切り換わり、一時アドレスの詳細を確認できます。
- [ネットワーク] メニュー → [有線 LAN] → [IP バージョン] を [IPv6] に設定している場合、**[ネットワークステータス]** 画面の [有線 LAN（IPv4)] のページは表示されません。
- [ネットワーク] メニュー → [有線 LAN] → [IP バージョン] を [IPv4] に設定している場合、**[ネットワークステータス]** 画面の [有線 LAN（IPv6)] のページは表示されません。
- 本機のオンスクリーンメニュー（メニュー画面）には、無線 LAN のネットワーク設定をする項目はありません。本機に別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を装着したうえで、コンピューターから本機にアクセスして無線 LAN の設定をしてください。詳しくは、“Web 制御機能を使用する” → “[LAN 設定] ページ” → “無線 LAN 接続の場合”（☞ 155 ページ）をご覧ください。
- 次の場合、[無線 LAN]（4/5 ページ）には SSID、IP アドレス（無線 LAN)、QR コードは表示されません。
  – 〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けていない場合
- [無線 LAN]（4/5 ページ）には、スマートフォンとの接続設定を容易にする QR コードが表示されています。QR コードを使用してスマートフォンを本機に直接接続する場合は、“QR コードを使用する場合”（☞ 127 ページ）をご覧ください。

[管理者アカウント]

管理者アカウントのユーザー名とパスワードを設定します。

[パスワード入力に関する注意点]

管理者アカウントのパスワードに関する注意点を表示します。

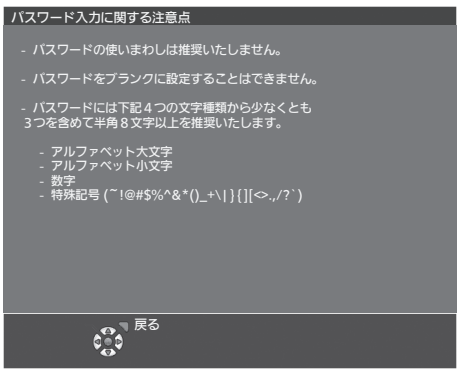
1) ▲▼ボタンで [管理者アカウント] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ボタンで [パスワード入力に関する注意点] を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **[パスワード入力に関する注意点]** 画面が表示されます。



はじめて管理者アカウントを設定する場合

管理者権限を持つアカウントのユーザー名とパスワードを設定します。

1) ▲▼ボタンで [管理者アカウント] を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ボタンで［ユーザー名］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[ユーザー名]** 画面が表示されます。
- 工場出荷時、管理者アカウントのユーザー名は「dispadmin」に設定されています。

4) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 最大 16 文字を入力できます。

5) ユーザー名の入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

6) ▲▼ボタンで［パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[パスワード]** 画面が表示されます。

7) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 最大 16 文字を入力できます。
- ブランクには設定できません。

8) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

9) ▲▼ボタンで［パスワード確認］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[パスワード確認]** 画面が表示されます。

10) 手順 7) で入力したパスワードを入力する

11) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

12) ▲▼ボタンで［保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

13) ◀▶ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- パスワードに設定できる文字列の制約については、“[パスワード入力に関する注意点]”（☞ 111 ページ）をご覧ください。
- 管理者アカウントのパスワードを設定していない場合（ブランクの状態になっている場合）、本機のネットワーク機能は使用できません。Web 制御機能を使用したり、LAN 経由で通信制御（アプリケーションソフトでの操作を含む）をしたりする場合は、パスワードを設定してください。
- 管理者権限を持たない標準ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードは、Web 制御画面の“[アカウント設定]（管理者アカウントでアクセスした場合）”（☞ 134 ページ）で設定できます。

管理者アカウントの設定を変更する場合

管理者権限を持つアカウントのユーザー名およびパスワードの設定を変更します。

1) ▲▼ボタンで［管理者アカウント］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ボタンで［変更前］の［ユーザー名］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[ユーザー名]** 画面が表示されます。

4) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 現在のユーザー名を入力してください。

5) ユーザー名の入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

6) ▲▼ボタンで［変更前］の［パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **[パスワード]** 画面が表示されます。

7) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 現在のパスワードを入力してください。

8) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［管理者アカウント］**画面が表示されます。

9) ▲▼ボタンで［変更後］の［ユーザー名］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［ユーザー名］**画面が表示されます。

10) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 変更後のユーザー名を入力してください。
- ユーザー名を変更しない場合は、現在のユーザー名を入力してください。
- 最大 16 文字を入力できます。

11) ユーザー名の入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［管理者アカウント］**画面が表示されます。

12) ▲▼ボタンで［変更後］の［パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード］**画面が表示されます。

13) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 変更後のパスワードを入力してください。
- パスワードを変更しない場合は、現在のパスワードを入力してください。
- 最大 16 文字を入力できます。

14) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［管理者アカウント］**画面が表示されます。

15) ▲▼ボタンで［変更後］の［パスワード確認］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード確認］**画面が表示されます。

16) 手順 13) で入力したパスワードを入力する

17) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［管理者アカウント］**画面が表示されます。

18) ▲▼ボタンで［保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

19) ◀▶ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- パスワードに設定できる文字列の制約については、”［パスワード入力に関する注意点］”（☞ 111 ページ）をご覧ください。
- 管理者アカウントのユーザー名とパスワードは、Web 制御画面の“［アカウント設定］（管理者アカウントでアクセスした場合）”（☞ 134 ページ）でも変更できます。
- 管理者権限を持たない標準ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードは、Web 制御画面の“［アカウント設定］（管理者アカウントでアクセスした場合）”（☞ 134 ページ）で設定できます。

［ネットワークセキュリティー］

LAN を介した外部からの攻撃や不正利用から本機を保護するための設定を行います。
［ネットワークセキュリティー］メニューの設定を行うためには、管理者アカウントのパスワードを設定する必要があります。（☞ 111 ページ）

［コマンドプロテクト］

コマンドコントロール機能を使用する際の接続認証について設定します。

1) ▲▼ ボタンで［ネットワークセキュリティー］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［ネットワークセキュリティー］**画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで［コマンドプロテクト］の設定を切り換える

［有効］	プロテクトモードで本機に接続します。 管理者アカウントのユーザー名とパスワードを使用して接続認証を行います。
［無効］	非プロテクトモードで本機に接続します。 接続認証を行いません。

- 設定を切り換えると、確認画面が表示されます。

4) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［コマンドプロテクト］**確認画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで［パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード］**画面が表示されます。

6) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 管理者アカウントのパスワードを入力してください。

7) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［コマンドプロテクト］**画面が表示されます。

8) ▲▼◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- ［コマンドプロテクト］を［無効］に設定すると、接続認証を行わないためネットワーク上の脅威に対して脆弱になります。リスクを認識のうえ運用してください。
- コマンドコントロール機能の使い方について詳しくは、”LAN 経由の制御コマンドについて”をご覧ください。（☞ 191 ページ）

［ネットワークコントロール］

ネットワーク経由での本機の制御について設定します。
本機でネットワーク機能を使用するためには、管理者アカウントのパスワードを設定する必要があります。
（☞ 111 ページ）

1) ▲▼ ボタンで［ネットワークコントロール］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［ネットワークコントロール］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで各項目を選択し、◀▶ ボタンで設定を変更する

［WEB 制御］	Web 制御したい場合、［オン］に設定します。
［コマンドコントロール］	〈SERIAL IN〉端子の制御コマンド形式（☞ 194 ページ）で制御したい場合、［オン］に設定します。”LAN 経由の制御コマンドについて”（☞ 191 ページ）をご覧ください。
［コマンドポート］	コマンドコントロールで使用するポート番号を設定します。
［Crestron Connected™］	Crestron 社の Crestron Connected で制御したい場合、［オン］に設定します。
［AMX D.D.］	AMX 社のコントローラーで制御したい場合、［オン］に設定します。 この機能を［オン］に設定すると、「AMX デバイスディスカバリー」による検知を有効にすることができます。詳細については、次の AMX 社の Web サイトをご覧ください。 https://www.amx.com/

4) ▲▼ ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- 管理者アカウントのパスワードを設定していない場合（ブランクの状態になっている場合）、本機のネットワーク機能は使用できません。Web 制御機能を使用したり、LAN 経由で通信制御（アプリケーションソフトでの操作を含む）をしたりする場合は、パスワードを設定してください。
- ［ネットワーク］メニュー → ［有線 LAN］→ ［IP バージョン］を［IPv6］に設定している場合、［Crestron Connected™］は設定できません。

［PJLink］

PJLink プロトコルを使用して本機を制御・監視する PJLink 機能について設定します。
本機で PJLink 機能を使用するためには、管理者アカウントのパスワードを設定する必要があります。（☞ 111 ページ）

お知らせ

- 管理者アカウントのパスワードを設定していない場合（ブランクの状態になっている場合）、本機のネットワーク機能は使用できません。Web 制御機能を使用したり、LAN 経由で通信制御（アプリケーションソフトでの操作を含む）をしたりする場合は、パスワードを設定してください。

［PJLink パスワード］

本機への接続時に要求するセキュリティー認証用パスワードを設定します。

1) ▲▼ボタンで［PJLink］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［PJLink］**画面が表示されます。

3) ▲▼ボタンで［PJLink パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［PJLink パスワード］**画面が表示されます。

4) ▲▼ボタンで［変更前］の［パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード］**画面が表示されます。

5) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 現在の PJLink パスワードを入力してください。
- 工場出荷時、パスワードはブランクに設定されています。

6) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［PJLink パスワード］**画面が表示されます。

7) ▲▼ボタンで［変更後］の［パスワード］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード］**画面が表示されます。

8) ▲▼◀▶ボタンで文字を選択し、〈決定〉ボタンを押して入力する
- 変更後のパスワードを入力してください。
- 最大 32 文字の英数記号を入力できます。

9) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［PJLink パスワード］**画面が表示されます。

10) ▲▼ボタンで［パスワード確認］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード確認］**画面が表示されます。

11) 手順 8) で入力したパスワードを入力する

12) パスワードの入力を完了後、▲▼◀▶ボタンで［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- **［PJLink パスワード］**画面が表示されます。

13) ▲▼ボタンで［保存］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

14) ◀▶ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- PJLink パスワードは、Web 制御画面の“[PJLink 設定]”（☞ 161 ページ）でも変更できます。

［PJLink コントロール］

PJLink プロトコルを使用した制御機能の有効 / 無効を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［PJLink］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［PJLink］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［PJLink コントロール］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オン］	PJLink プロトコルで制御する場合に選択します。
［オフ］	PJLink プロトコルで制御しない場合に選択します。

［PJLink 通知］

PJLink の通知機能の有効 / 無効を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［PJLink］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

- **[PJLink]** 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで［PJLink 通知］を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	PJLink の通知機能を使用しない場合に選択します。
［オン］	PJLink の通知機能を使用する場合に選択します。

- ［オン］を選択した場合は、手順 **5)** に進んでください。

5) ▲▼ ボタンで［通知先 IP アドレス 1］、［通知先 IP アドレス 2］、［通知先 IP アドレス 1（IPv6)］、［通知先 IP アドレス 2（IPv6)］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- **［通知先 IP アドレス 1］、［通知先 IP アドレス 2］、［通知先 IP アドレス 1（IPv6)］**、または **［通知先 IP アドレス 2（IPv6)］** 画面が表示されます。
- 本機のステータスを通知するコンピューターの IP アドレスを入力してください。

6) IP アドレスを入力し、▲▼◀▶ で［確定］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

［メモリービューワー］

メモリービューワーの動作について設定します。

お知らせ

- ［メモリービューワー］メニューは、MEMORY VIEWER 入力を選択している場合のみに操作や設定ができます。
- メモリービューワー機能の使い方については、“MEMORY VIEWER 入力で表示する”（☞ 120 ページ）をご覧ください。

［セットスライド］

スライドショーを開始します。スライドショーについて詳しくは、”スライドショーを実行する”（☞ 121 ページ）をご覧ください。

［スライド効果］

スライドショーで画像が切り換わるときの画面切換効果を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［スライド効果］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［右にスライド］	左から右に向けて画像が切り換わります。
［下にスライド］	上から下に向けて画像が切り換わります。

3) ▲▼ボタンで［適用］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

［ソート順］

スライドショーで再生する画像の順序を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［ソート順］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［名前順］	ファイルまたはフォルダーの名前の昇順で再生します。
［時間順］	ファイルまたはフォルダーの保存日時の古いものから順に再生します。
［サイズ順］	ファイルまたはフォルダーのデータサイズが小さいものから順に再生します。
［拡張子順］	ファイルの拡張子の種類ごとに名前の昇順で再生します。

3) ▲▼ボタンで［適用］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

［回転］

画像の回転方向を設定します。

1) ▲▼ ボタンで［回転］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［回転なし］	画像を回転させません。
［90 °］	画像を時計方向に 90° 回転させます。
［180 °］	画像を時計方向に 180° 回転させます。
［270 °］	画像を時計方向に 270° （反時計方向に 90° ）回転させます。

3) ▲▼ボタンで［適用］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

［ベストフィット］

画像を投写画面に合わせて表示するかどうかを設定します。

1) ▲▼ ボタンで［ベストフィット］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	画像の画素数のままで表示します。
［オン］	［表示オプション］メニュー →［スクリーン設定］で設定したスクリーンに合わせて画像を表示します。

3) ▲▼ボタンで［適用］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

［リピート］

スライドショーで繰り返し再生するかどうかを設定します。

1) ▲▼ ボタンで［リピート］を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	最後のファイルを再生後、スライドショーを終了してサムネイル表示に戻ります。
［オン］	最後のファイルを再生後、先頭のファイルに戻って再生を繰り返します。

3) ▲▼ボタンで［適用］を選択する

4) 〈決定〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

［初期化］

［ネットワーク］の各種設定値を工場出荷時の値に戻します。

1) ▲▼ ボタンで［初期化］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す

3) [初期化] 画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈決定〉ボタンを押す

お知らせ

- [セキュリティー] メニュー → [パスワード設定] を [オン] に設定している場合、[初期化] を選択して〈決定〉ボタンを押すと、**[パスワード設定]** 画面が表示されます。本機に設定したセキュリティーパスワードを入力してから操作を続けてください。
  セキュリティーパスワードは、[セキュリティー] メニュー → [パスワード変更] で設定したパスワードです。
  工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- [初期化] を実行した場合、次回投写開始時に **[管理者アカウント]** 画面が表示されます。

第５章　機能の操作

各種機能の使い方について説明しています。

MEMORY VIEWER 入力で表示する

メモリービューワーは、USB メモリーに記録されている静止画を投写映像として表示する機能です。
プロジェクターで使える USB メモリーと USB メモリーの取り付け / 取り外し方については、“USB メモリーを使う”（☞ 47 ページ）をご覧ください。

メモリービューワー機能で投写できる画像

本機のメモリービューワー機能では、以下の画像ファイルを再生できます。

	拡張子	フォーマット	説明
静止画	jpg / jpeg	Baseline coding 24 bits プログレッシブ RGB 24 bits	解像度：8 x 8 ～ 10 000 x 10 000 解像度：8 x 8 ～ 1 920 x 1 200
	bmp	Palette-based 1, 4, 8 bits RGB 24, 32 bits	最大解像度：1 920 x 1 200
	png	True color 24 bits/48 bits	最大解像度：1 920 x 1 200
	gif	Palette-based 1, 4, 8 bits	Palette - 24 bits color spaces 最大解像度：1 920 x 1 200
	tif / tiff	—	最大解像度：1 920 x 1 200

お知らせ

- 再生できるファイルのサイズは最大 2 GB です。
- 本機で認識できるフォルダー / ファイルの数は、合計 1 000 までです。
- DRM（Digital Rights Management、デジタル著作権管理）で保護されたファイルは再生できません。
- 対応フォーマットのファイルでも再生できない場合があります。

USB メモリーを取り付ける

1)　〈USB(VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に USB メモリーをしっかりと奥まで挿す

お願い

- USB メモリーを挿す際は、端子の向きに注意して傷めないようにしてください。
- USB 延長ケーブルや USB ハブを使用せずに、USB メモリーを本機の〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子に直接挿してください。

USB メモリーを取り外す

1)　USB メモリー上のインジケーターが点滅していないことを確認して取り外す

お願い

- USB メモリーを取り外すときは以下の点に注意してください。
  - 装着した USB メモリーのインジケーターが点滅しているときは、本機がデータを読み出していること示します。点滅中は USB メモリーを取り外さないでください。
  - インジケーターなどのモニター機能を備えていない USB メモリーを使用している場合、データの読み出し状況が把握できません。そのため、メモリービューワーを終了する、または本機の電源を切ってから、取り外してください。
  - USB メモリーの取り付けと取り外しを短時間で行わないでください。取り付けてから少なくとも 5 秒待ってから取り外し、再び取り付ける場合は、取り外してから少なくとも 5 秒待ってください。本機が USB メモリーの取り付け有無を認識するには約 5 秒を要します。
-

メモリービューワー画面を表示する

1)　リモコンの〈NETWORK/USB〉 ボタンを押して、入力を MEMORY VIEWER に切り換える
- 本体操作部の〈INPUT SELECT〉 ボタンを押して入力選択メニューから選択することもできます。

2)　〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉 端子に USB メモリーをしっかりと挿入する
- 待機画面「please press ENTER」が表示され、画面左下に USB メモリーのアイコンが表示されます。

3)　リモコンの〈決定〉ボタンを押す
- 画面に USB メモリーのルートディレクトリーがサムネイル表示されます。

静止画を再生する

1)　リモコンの ▲▼◀▶ ボタンでメモリービューワー画面上の再生したいファイル選択する

2)　リモコンの〈決定〉ボタンを押す
- 全画面に静止画が表示されます。

3)　▶ ボタンで次の画像、◀ ボタンで前の画像に切り換える

4)　リモコンの〈決定〉ボタンを押す
- サムネイル表示に戻ります。

お知らせ

- 記録画素数が 1 920 x 1 200 よりも小さい場合は、アスペクト比を維持したまま拡大表示されます。
- 記録画素数が 1 920 x 1 200 よりも大きい場合は、アスペクト比を維持したまま縮小表示されます。
- 記録画素数が 1 920 x 1 200 の場合は、拡大表示または縮小表示されないため、画質の劣化を低減できます。

スライドショーを実行する

同一フォルダー内のすべての静止画を、［メモリービューワー］メニューの［スライド効果］、［ソート順］などで設定された仕様で連続投写されます。

1)　リモコンの ▲▼◀▶ ボタンで投写したいファイルを選択する

2)　〈メニュー〉ボタンで［メモリービューワー］ → ［セットスライド］を選択する

3)　リモコンの〈決定〉ボタンを押す
- スライドショーが開始されます。
- 再生中に〈決定〉ボタンを押すと、サムネイル表示に戻ります。

お知らせ

- スライドショー再生中に〈メニュー〉ボタンを押すと、再生を終了し、メニューが表示されます。メニュー表示が消えると続けて再生されます。

メモリービューワーを終了する

1)　リモコンの ▲▼◀▶ ボタンでサムネイル表示左上の  を選択する

2)　リモコンの〈決定〉ボタンを押す
- 待機画面「please press ENTER」に戻ります。
  再生している画像ファイルが保存されているフォルダーの階層によっては、待機画面に戻るまで手順 **1)** と **2)** の操作を繰り返す必要があります。

お知らせ

- MEMORY VIEWER 以外の入力に切り換えることでも、メモリービューワーを終了できます。

NETWORK 入力で表示する

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社のアプリケーションソフトを使用して、LAN 接続した端末から送信された画像を投写映像として表示することができます。
無線 LAN で接続する場合は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）が必要です。

使用できるアプリケーションソフト

NETWORK 入力で使用する画像転送用アプリケーションソフトは次のとおりです。
- Presenter Light ソフトウェア (Windows コンピューター対応)
- Wireless Projector for iOS、Wireless Projector for Android

お知らせ

- 画像転送用のアプリケーションソフト「Presenter Light ソフトウェア」、「Wireless Projector」については、次の Web サイトを参照してください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector

端末を接続する

1) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押し、NETWORK に入力を切り換える
- 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER 入力と NETWORK 入力が切り換わります。
- 入力が NETWORK に切り換わると、待ち受け画面が表示されます。

2) 画像転送用アプリケーションソフトを起動した端末で本機に接続する
- 端末側の操作で本機に送信された画像が投写映像として表示されます。

お知らせ

- アプリケーションソフトを使用した本機への接続方法については、各アプリケーションソフトの説明書などをご覧ください。
- 待ち受け画面の説明について、“無線 LAN で接続する場合”（☞ 125 ページ）を参照してください。

端末との接続を終了する

1) 端末側で切断処理をする
- 接続終了後は待ち受け画面が表示されます。

お知らせ

- 端末の電源を切るなど、適切な切断処理を行わずに強制的に接続を終了した場合、待ち受け画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。

ネットワーク接続について

本機はネットワーク機能を備えており、コンピューターと接続することにより次のようなことができます。

- **Web 制御**
  コンピューターから本機にアクセスすることで、本機の設定や調整、状態表示などができます。
  詳しくは、“Web 制御機能を使用する”（☞ 130 ページ）をご覧ください。
- **PJLink**
  PJLink プロトコルを使用して、コンピューターから本機に対する操作や状態の問い合わせができます。
  詳しくは、“PJLink 機能を使用する”（☞ 190 ページ） をご覧ください。
- **コマンドコントロール**
  制御コマンドを使用して、コンピューターから本機に対する操作や状態の問い合わせができます。
  詳しくは、“LAN 経由の制御コマンドについて”（☞ 191 ページ）をご覧ください。
- **アプリケーションソフト**
  LAN 経由で通信を行うアプリケーションソフトを使用できます。
  本機が対応するアプリケーションソフトについては、“本機が対応するアプリケーションソフトについて”（☞ 18 ページ）をご覧ください。

お願い

- プロジェクターの電源を入れる、またはシャッターを開けて投写を開始する際は、投写レンズとスクリーンの間の投写範囲内に人がいないことを必ず確認してください。投写範囲内に人がいる状態で投写を開始すると、突然光が入り、目を傷めるおそれがあります。特に、コマンドやアプリケーションソフトによる遠隔制御を行う場合は、投写範囲内に人がいないことを確認してから操作してください。

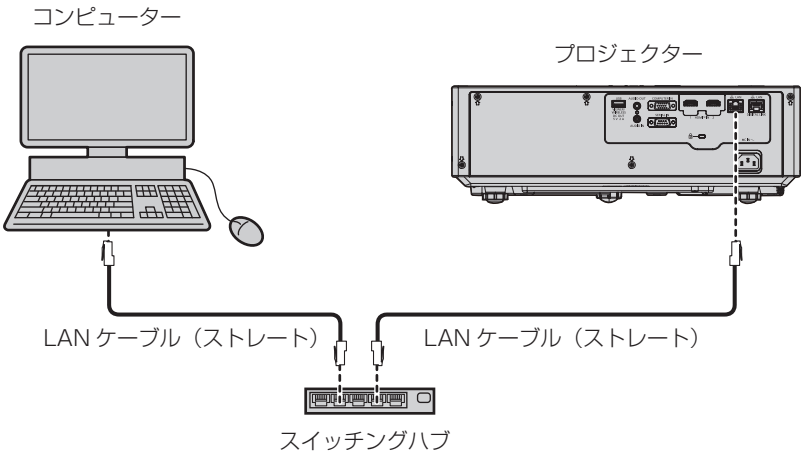
お知らせ

- 本機でネットワーク機能を使用するためには、管理者アカウントのパスワードを設定する必要があります。（☞ 111 ページ）
- 管理者アカウントのパスワードを設定していない場合（ブランクの状態になっている場合）、本機のネットワーク機能は使用できません。Web 制御機能を使用したり、LAN 経由で通信制御（アプリケーションソフトでの操作を含む）をしたりする場合は、パスワードを設定してください。

有線 LAN で接続する

本機は、ツイストペアケーブル伝送器からのイーサネット信号を、LAN ケーブルを介して受信できます。

一般的なネットワーク接続例



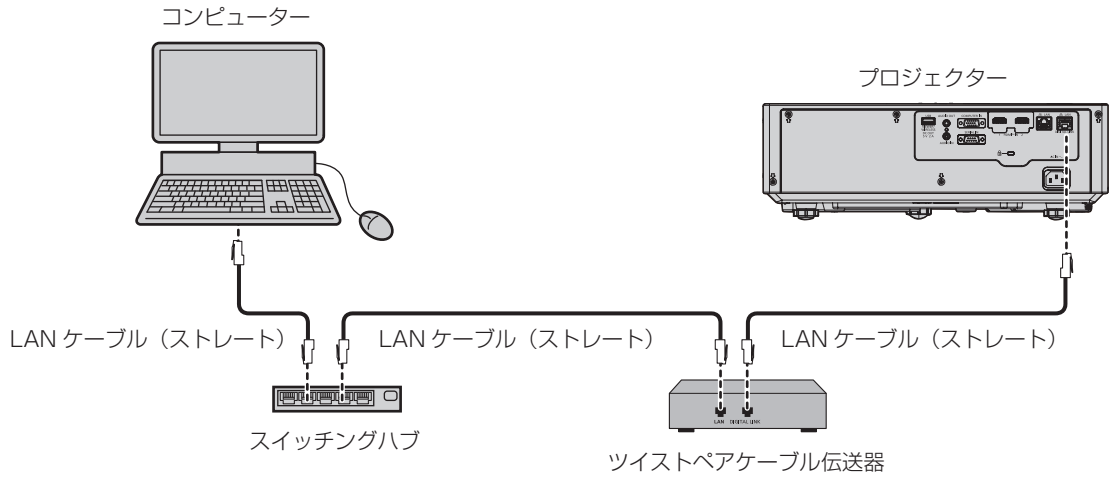
お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- 有線 LAN 接続でネットワーク機能を使用する場合は、LAN ケーブルが必要です。
- LAN ケーブルはストレートまたはクロス結線で、CAT5 以上対応のものをご使用ください。システムの構成によってストレート / クロスのいずれか、または両方のケーブルを使用可能かが異なりますので、ネットワーク管理者にご確認ください。本機については、ケーブルの種類（ストレート / クロス）を自動的に判別します。
- LAN ケーブル長は 100 m 以下のものをご使用ください。

ツイストペアケーブル伝送器経由のネットワーク接続例



お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
  - CAT5e 以上の規格に適合
  - シールドタイプ（コネクターを含む）
  - ストレート結線
  - 単線
  - 芯線の直径が AWG24 以上の太さ（AWG24、AWG23 など）
- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。ただし、ロングリーチの通信方式の場合に本機が受像できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。これらを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。
  途中に中継コネクターを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にスイッチングハブを使用しないでください。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子を使用してイーサネット・シリアル制御信号を伝送する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［DIGITAL LINK］または［LAN & DIGITAL LINK］に設定してください。
- 〈LAN〉端子を使用してイーサネット信号を伝送する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［LAN］または［LAN & DIGITAL LINK］に設定してください。
- ［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［LAN & DIGITAL LINK］に設定すると、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子が本機の内部で接続された状態になります。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子を直接 LAN ケーブルで接続しないでください。また、スイッチングハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないようにしてください。
- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かずに引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後に［ネットワーク］メニュー → ［DIGITAL LINK］ → ［DIGITAL LINK ステータス］で［信号品質］の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。
- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、次の Web サイトをご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector
  他社製機器の動作確認は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が独自に取り決めた項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

本機の設定

1)　本機とコンピューターを LAN ケーブルで接続する

2)　本機の電源を入れる

3)　メインメニューから［ネットワーク］メニュー → ［有線 LAN］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

4)　［有線 LAN］の設定を行う

- 詳細については［有線 LAN］（☞ 109 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 既存のネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[DHCP]	オフ
[IP アドレス]	192.168.10.100
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1
[DNS1] / [DNS2]	なし

コンピューターの操作

1)　コンピューターの電源を入れる

2)　ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行う

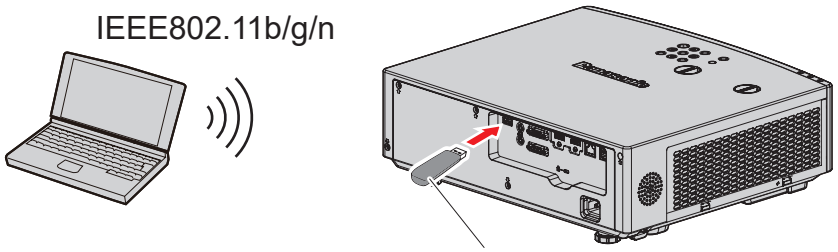
- 本機の設定が工場出荷の状態であれば、コンピューター側のネットワーク設定を次のようにすると、そのままお使いになれます。

[IP アドレス]	192.168.10.101
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1

無線 LAN で接続する

無線 LAN でネットワーク機能を使用する場合は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）が必要です。

接続例



別売品ワイヤレスモジュール
（品番：AJ-WM50GT）

本機の準備と確認

1)　本機の電源を入れる

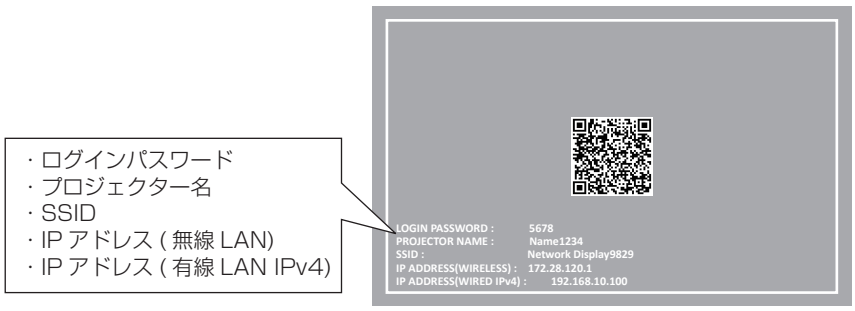
2)　別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子にしっかりと奥まで挿す

3)　リモコンの〈NETWORK/USB〉ボタンを押して NETWORK に入力を切り換える

- NETWORK 入力の待ち受け画面が表示されます。待ち受け画面には、QR コード、ログインパスワード（自動生成される 4 桁の数字）、プロジェクター名、SSID、IP アドレス（無線 LAN）、IP アドレス（有線 LAN）が表示されます。

- 本体操作部の〈INPUT SELECT〉 ボタンを押して入力ガイドを表示したうえで、▲▼ ボタンで NETWORK に切り換えることもできます。

NETWORK 入力待ち受け画面



お願い

- ワイヤレスモジュールを装着した状態で本機を移動したり運搬したりしないでください。ワイヤレスモジュールが破損するおそれがあります。
- ワイヤレスモジュールのインジケーターは、本機がスタンバイ状態では消灯し、電源オン時は青色点灯し、無線通信中は青色点滅します。インジケーターが点滅中は取り外さないでください。
- 本機の電源を入れてもワイヤレスモジュールのインジケーターが点灯 / 点滅しない場合は、一度ワイヤレスモジュールを取り外し、再びワイヤレスモジュールを〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉 端子に挿入してください。
- 本機の電源を入れたあと、待ち受け画面に IP アドレス（無線 LAN）が表示されてから、本機にネットワーク接続してください。

お知らせ

- NETWORK 入力待ち受け画面には、スマートフォンとの接続設定を容易にする QR コードが表示されています。QR コードを使用してスマートフォンを本機に直接接続する場合は、“QR コードを使用する場合”（☞ 127 ページ）をご覧ください。
- ［ネットワーク］メニュー → ［有線 LAN］ → ［IP バージョン］を ［IPv6］ に設定している場合、待ち受け画面に有線 LAN の IPv4 アドレスが表示されません。
- 無線 LAN と有線 LAN を同一セグメントで使用することはできません。
- ワイヤレスモジュールは、次の設定がされています。［キー］の設定は Web ブラウザーから本機にアクセスして実行してください。（☞ 155 ページ）

［SSID］	Network Displayxxxx (xxxx は、製品ごとに付与されている固定値です。)
［チャンネル］	1
［IP アドレス］	172.28.120.1
［サブネットマスク］	255.255.255.0
［デフォルトゲートウェイ］	0.0.0.0
［暗号化］	WPA2-PSK(AES)
［キー］	panasonic

コンピューターの設定

1)　コンピューターの電源を入れる

2)　ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行う

- ネットワーク管理者の指示に従って、コンピューターと本機の各ネットワーク項目の設定を行ってください。

3)　本機に設定されているネットワークに接続する

- コンピューターの場合、タスクトレイ（コンピューター画面の右下）のネットワークアイコンをクリックして、本機に設定されている［SSID］と同じ名前を選択し、ワイヤレス接続用のパスワードを入力します。
- 工場出荷時のワイヤレス接続用パスワードは「panasonic」です。

お知らせ

- OS 標準の無線 LAN 接続ユーティリティーを使用する場合は、使用するユーティリティーの操作手順に従って接続してください。

QR コードを使用する場合

本機が表示する QR コードをスマートフォンのカメラで読み取るだけで、スマートフォンを本機に無線 LAN 接続できます。

■ 対応端末

iPhone：iOS 16 以降
Android 端末：Android 10.0 以降

お知らせ

- QR コードの読み取りに対応した端末、QR コードの読み取りに対応したカメラのアプリケーションソフトが必要です。
- 本機で動作確認済みの端末については、次の Web サイトをご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector
  他社製機器の動作確認は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が独自に取り決めた項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。
- この QR コードは、「Wireless Projector」を使用してプロジェクターに接続する際に使用する QR コードではありません。

■ QR コードを OSD に表示する場合

オンスクリーンメニュー（OSD）に表示された QR コードを読み取る場合の本機の操作です。

1) 〈メニュー〉ボタンを押して、メインメニューの［ネットワーク］メニューを開く

- **［ネットワーク］**画面が表示されます。

2) ▲▼ ボタンで［ネットワークステータス］を選択して〈決定〉ボタンを押す

- **［ネットワークステータス］**画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで表示画面を切り換えて［無線 LAN］（4/5 ページ）を表示する

- QR コードが表示されます。



お知らせ

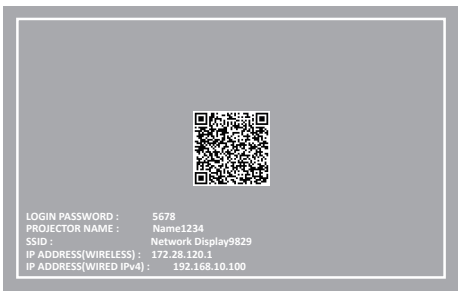
- 次の場合、SSID、IP アドレス（無線 LAN）、QR コードは表示されません。
  –〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子に、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けていない場合

■ QR コードを NETWORK 入力待ち受け画面に表示する場合

NETWORK 入力待ち受け画面に表示された QR コードを読み取る場合の本機の操作です。

1) リモコンの〈NETWORK/USB〉ボタンを押して NETWORK に入力を切り換える

- 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力ガイドを表示したうえで、▲▼ ボタンで NETWORK に切り換えることもできます。
- QR コードが表示されます。



お知らせ

- 次の場合、SSID、IP アドレス（無線 LAN）、QR コードは表示されません。
  - 〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けていない場合

■ スマートフォンの操作

1)　QR コードの読み取りに対応したカメラのアプリケーションソフトを起動する

2)　OSD または NETWORK 入力待ち受け画面に表示されている QR コードをカメラで読み取る

3)　スマートフォンの画面に表示された通知をタップする

- 接続確認のメッセージが表示された場合は「接続」または「確認」をタップしてください。
- 本機と無線 LAN 接続されます。

「Presenter Light ソフトウェア」について

（無線 LAN で接続する場合は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）が必要です。）
Windows コンピューターに対応した画像転送用のアプリケーションソフト「Presenter Light ソフトウェア」を用いて、有線 LAN/ 無線 LAN を介して本機に画像・音声を転送できます *1。

*1 画像・音声転送時に音が途切れたり、雑音が入ったりすることがあります。そのような場合には、アプリケーションソフト側の音声設定で音声出力を［しない］に設定してください。

お知らせ

- 有線 LAN 接続の場合、［ネットワーク］メニュー →［有線 LAN］→［IP バージョン］が［IPv6］に設定されると、Presenter Light ソフトウェアは使用できません。

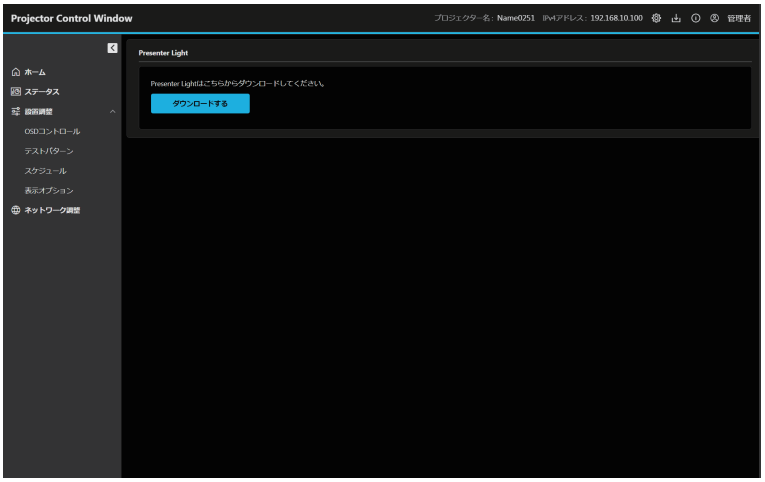
「Presenter Light」をコンピューターにダウンロードする

1) コンピューターの Web ブラウザからプロジェクターにアクセスします。

- 詳しくは“Web ブラウザーからのアクセスのしかた”（☞ 130 ページ）をご覧ください。

2) 画面右上の［ダウンロード］ボタン（⬇）→「Presenter Light」をクリックする

- 「Presenter Light」のダウンロード画面が表示されます。



3) ［ダウンロード］をクリックする

- 圧縮ファイル「Presenter Light.zip」のダウンロード確認画面が表示されます。

4) 「Presenter Light.zip」を保存して解凍する

- 解凍すると「Presenter Light」フォルダーが生成され、その下に実行ファイル「Presenter Light.exe」と、Presenter Light ソフトウェアが使用しているオープンソースソフトウェアのライセンスを収録した「License」フォルダーが展開されます。
- Presenter Light ソフトウェアを使用の際は直接「Presenter Light.exe」を実行するので、起動に便利な所に保存したり、ショートカットを作成したりしてください。コンピューターへのインストールは不要です。

お知らせ

- Presenter Light ソフトウェアの使用方法と最新バージョンのダウンロードについては、次の Web サイトをご覧ください。
  https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector

Web 制御機能を使用する

Web 制御機能を使用して、コンピューターから下記のような操作ができます。
- プロジェクターの設定と調整
- プロジェクターの状態表示
- プロジェクターが異常時に E メールメッセージを送信

また、本機は「Crestron Connected」に対応しており、Crestron Electronics, Inc. の以下のアプリケーションソフトを使用できます。
- Crestron Fusion

お知らせ

- E メール機能をご使用になる場合は、E メールサーバーと通信する必要があります。あらかじめ E メールが利用できることを確認してください。
- 「Crestron Connected」はネットワークに接続された複数のシステムの様々な機器を、コンピューターで一括して管理・制御する Crestron Electronics, Inc. 製のシステムです。
- 「Crestron Connected」の詳細については、Crestron Electronics, Inc. の Web サイトをご覧ください。
  https://www.crestron.com

設定に使用できるコンピューター

Web 制御機能を使用するには、Web ブラウザーが必要です。あらかじめ Web ブラウザーが使用できることを確認してください。

OS	対応ブラウザー
Windows	Microsoft Edge
Mac OS	Safari 18.0
iOS	Safari（iOS 16、iOS 17、iOS 18 搭載版）
iPadOS	Safari（iPadOS18 搭載版）
Android	Google Chrome（Android 10.0/11.0/12.0/13.0/14.0/15.0 搭載版）

Web ブラウザーからのアクセスのしかた

1)　コンピューターの Web ブラウザーを起動する

2)　Web ブラウザーの URL 入力欄に本機で設定した IP アドレスを入力する
- 初期設定画面（☞ 38 ページ）または［ネットワーク］メニュー → ［管理者アカウント］（☞ 111 ページ）で、すでに管理者アカウントのユーザー名とパスワードを設定している場合は手順 8) に進んでください。
- 管理者アカウントがまだ設定されていない場合は、**［言語・カラーモード設定］**画面が表示されます。



3)　Web 言語およびカラーモードを設定し、［次へ］をクリックする
- **［新規管理者アカウント設定］**画面が表示されます。



4)　［新規ユーザー名］に、管理者アカウントとして使用するユーザー名を入力する

- 工場出荷時、管理者アカウントのユーザー名は「dispadmin」に設定されています。

5)　［新規パスワード］に、管理者アカウントに設定するパスワードを入力する

- パスワードをブランクに設定することはできません。
- 半角 8 文字以上のパスワードを推奨します。
- パスワードには、次の 4 つの文字種類のうち少なくとも 3 つを含めることを推奨します。
  - アルファベット大文字
  - アルファベット小文字
  - 数字
  - 特殊記号 (~!@#$%^&*()_+|}{][<>.,/?`)

6)　［新規パスワード（再入力）］に、手順 5) で入力したパスワードを入力する

7)　［登録する］をクリックする

- 管理者アカウントの設定が完了します。

8)　表示されたログイン画面で、ユーザー名とパスワードを入力する



- 管理者権限を持つアカウントのユーザー名とパスワード、または管理者権限を持たない標準ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力してください。
- 標準ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードは、管理者アカウントでログインしたのちに［アカウント設定］で設定してください。詳しくは、“［アカウント設定］（管理者アカウントでアクセスした場合）”（☞ 134 ページ）をご覧ください。

9)　［サインイン］または［OK］をクリックする

お願い

- ユーザー名やパスワードを入力する画面が、すでに開いている他のウィンドウで見えないことがあります。その場合は、手前にあるウィンドウを最小化して入力画面を表示してください。

お知らせ

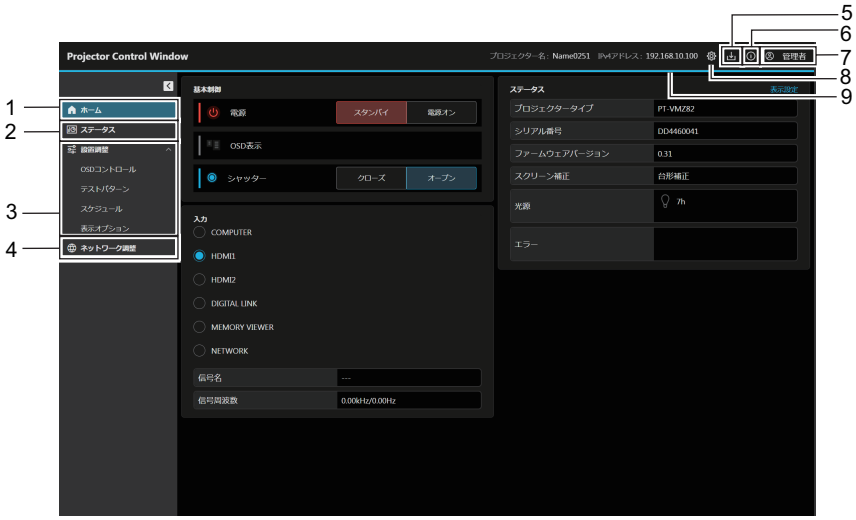
- Web ブラウザーで制御する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークコントロール］で［WEB 制御］を［オン］に設定してください。
- Web ブラウザーを同時に複数立ち上げて、設定や制御をすることは避けてください。また、複数台のコンピューターから同一のプロジェクターに対して設定や制御をすることも避けてください。
- パスワードを 3 回続けて間違えると、数分間ロックされます。
- 本機の設定ページには、Web ブラウザーの JavaScript 機能を利用している項目があります。Web ブラウザーがこの機能を使用していない設定になっている場合には、正常にコントロールできないことがあります。
- Web 制御の画面が表示されない場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
- ［ライセンスをダウンロード］をクリックすると、オープンソースソフトウェアライセンスをダウンロードできます。また、ログインした後に Web 制御画面右上の Web 情報（ⓘ）ボタンをクリックすることでもライセンスをダウンロードすることができます。（☞ 145 ページ）
- コンピューターの画面イラストについて
  お客様がお使いの OS や Web ブラウザー、コンピューターの種類によっては画面の大きさや表示が本書と異なることがあります。

アカウントごとの権限

管理者アカウントは、全機能を使用できます。標準ユーザーアカウントは、使用できる機能に制限があります。目的に応じて、使用するアカウントを選択してください。
管理者 / 標準ユーザーの欄に ✓ がある機能は、それぞれのアカウントで操作できることを示しています。

項目	機能		管理者	標準ユーザー	ページ
Web 設定	[アカウント]	[管理者アカウント]	✓	—	134
		[ユーザーアカウント]	✓	✓	135
	[Web セキュア]	[証明書]	✓	—	136
		[HTTPS]	✓	—	142
		[アクセスエラーログ]	✓	—	143
	[言語 / カラーモード設定]		✓	✓	143
	[メニューバー設定]		✓	✓	144
ダウンロード	Presenter Light ダウンロード		✓	✓	144
Web 情報	ライセンスダウンロード		✓	✓	145
[ホーム]	[基本制御]		✓	✓	146
	[入力]		✓	✓	147
	[ステータス]		✓	✓	147
[ステータス]	[基本情報]		✓	✓	149
	[光源]		✓	✓	149
	[温度]		✓	✓	149
	[ネットワークステータス]		✓	✓	149
	[本体情報]		✓	✓	149
	[角度モニター]		✓	✓	149
	[入力]		✓	✓	149
	[エラー]		✓	✓	149
[設置調整]	[OSD コントロール]		✓	—	150
	[テストパターン]		✓	—	150
	[スケジュール]		✓	—	151
	[表示オプション]		✓	—	152
[ネットワーク調整]	[LAN 設定]		✓	—	154
	[時刻設定]		✓	—	156
	[ネットワークセキュア設定]		✓	—	156
	[メール設定]		✓	—	157
	[PJLink 設定]		✓	—	161
	[Crestron 設定]		✓	—	162

各項目の説明



1　［ホーム］
プロジェクターの基本操作や基本状態を操作・確認できます。

2　［ステータス］
プロジェクターの各種ステータス情報を一覧で確認できます。

3　［設置調整］
プロジェクターのさまざまな機能を設定および調整できます。

4　［ネットワーク調整］
プロジェクターのネットワーク機能を設定できます。

5　ダウンロード（ ）ボタン
クリックすると、Presenter Light ソフトウェアライセンスのダウンロードページが表示されます。

6　Web 情報（ ）ボタン
クリックすると、オープンソースソフトウェアライセンスのダウンロードページが表示されます。

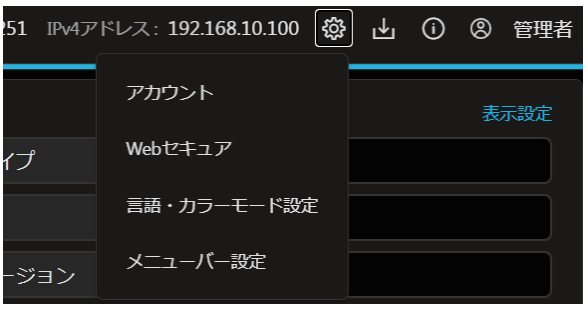
7　アカウントタイプ
現在ログインしているアカウントの種類（管理者アカウントまたは標準ユーザーアカウント）を表示します。

8　Web 設定（ ）ボタン
Web アカウントと Web セキュリティの設定を行ったり、Web インターフェイスをカスタマイズしたりできます。

9　メニューバー

Web 設定について

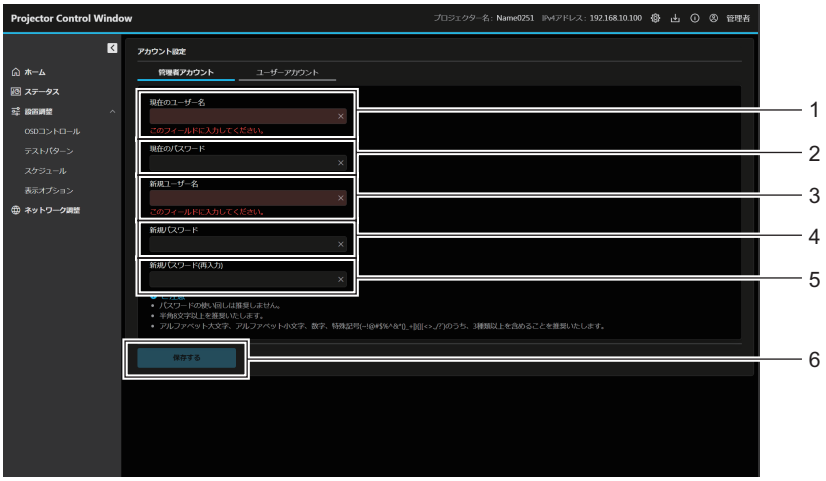
Web 設定（⚙）ボタンをクリックして、[アカウント]（☞ 134 ページ）、[Web セキュア]（☞ 136 ページ）、[言語・カラーモード設定]（☞ 143 ページ）、[メニューバー設定]（☞ 144 ページ）から設定したい項目を選択したのちに項目ごとの設定画面に移ります。



[アカウント設定]（管理者アカウントでアクセスした場合）

[管理者アカウント]

管理者アカウントのユーザー名とパスワードの設定ができます。
[管理者アカウント] をクリックします。



1　[現在のユーザー名]
現在のユーザー名を入力します。

2　[現在のパスワード]
現在のパスワードを入力します。

3　[新規ユーザー名]
新規ユーザー名を入力します。（半角で 16 文字まで）

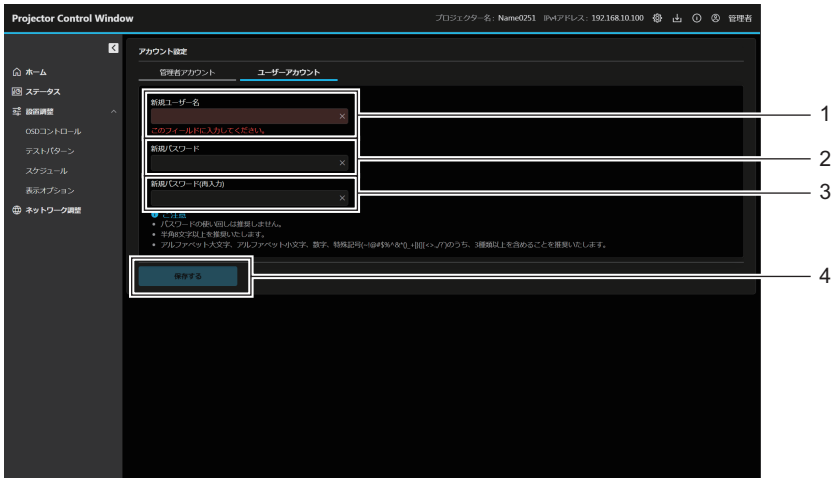
4　[新規パスワード]
新規パスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）

5　[新規パスワード（再入力）]
新規パスワードを再度入力します。

6　[保存する]
管理者アカウントの設定を保存します。

［ユーザーアカウント］

管理者権限を持たない標準ユーザーアカウントのユーザー名とパスワード、およびリモートプレビュー機能の表示の設定ができます。
［ユーザーアカウント］をクリックします。



1　［新規ユーザー名］
新規ユーザー名を入力します。（半角で 16 文字まで）

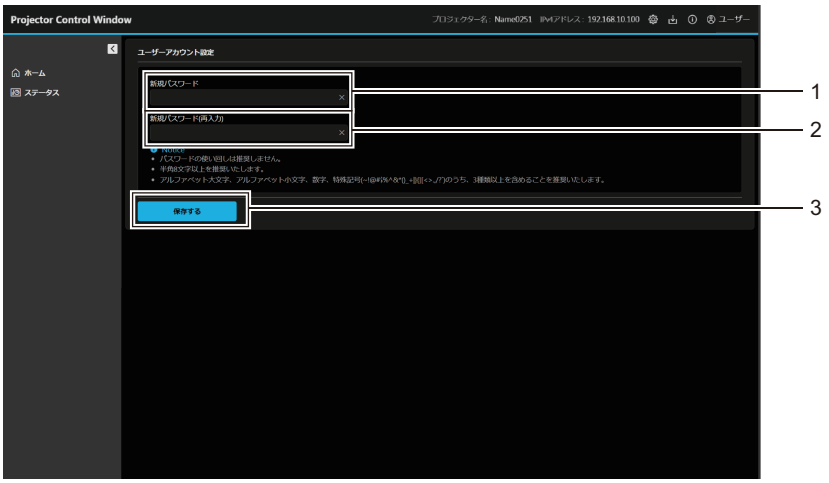
2　［新規パスワード］
新規パスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）

3　［新規パスワード（再入力）］
新規パスワードを再度入力します。

4　［保存する］
標準ユーザーアカウントの設定を保存します。

［アカウント設定］（標準ユーザーアカウントでアクセスした場合）

標準ユーザーアカウントのパスワードの変更ができます。



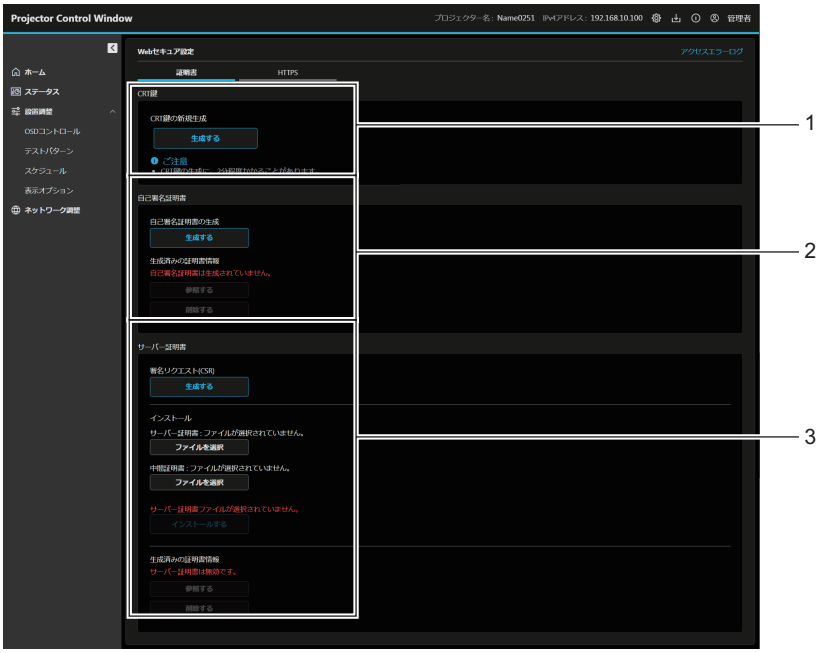
1　［新規パスワード］
新規パスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）

2　［新規パスワード（再入力）］
新規パスワードを再度入力します。

3　［保存する］
パスワードの変更を確定します。

[Web セキュア設定]（証明書）

HTTPS 通信を行う場合や、Crestron 社のコントロールシステムやアプリケーションソフトを使用する場合は、認証のための証明書をプロジェクターにインストールする必要があります。
[証明書] をクリックします。



1　[CRT 鍵]
CRT（Certificate）鍵を生成します。
[生成する] をクリックすると、CRT 鍵生成の画面が表示されます。詳しくは、“CRT 鍵を新規生成する”（☞ 137 ページ）をご覧ください。

2　[自己署名証明書]
[自己署名証明書の生成]：
自己署名証明書を本機自身で生成します。
[生成する] をクリックすると、自己署名証明書生成の画面が表示されます。
詳しくは、“自己署名証明書を生成する”（☞ 141 ページ）をご覧ください。
[生成済みの証明書情報]：
自己署名証明書の状態を表示します。
[参照する] をクリックすると、生成済みの自己署名証明書の情報が表示されます。
[削除する] をクリックすると、生成済みの自己署名証明書を削除できます。
詳しくは、“自己署名証明書の情報を確認する”（☞ 142 ページ）をご覧ください。

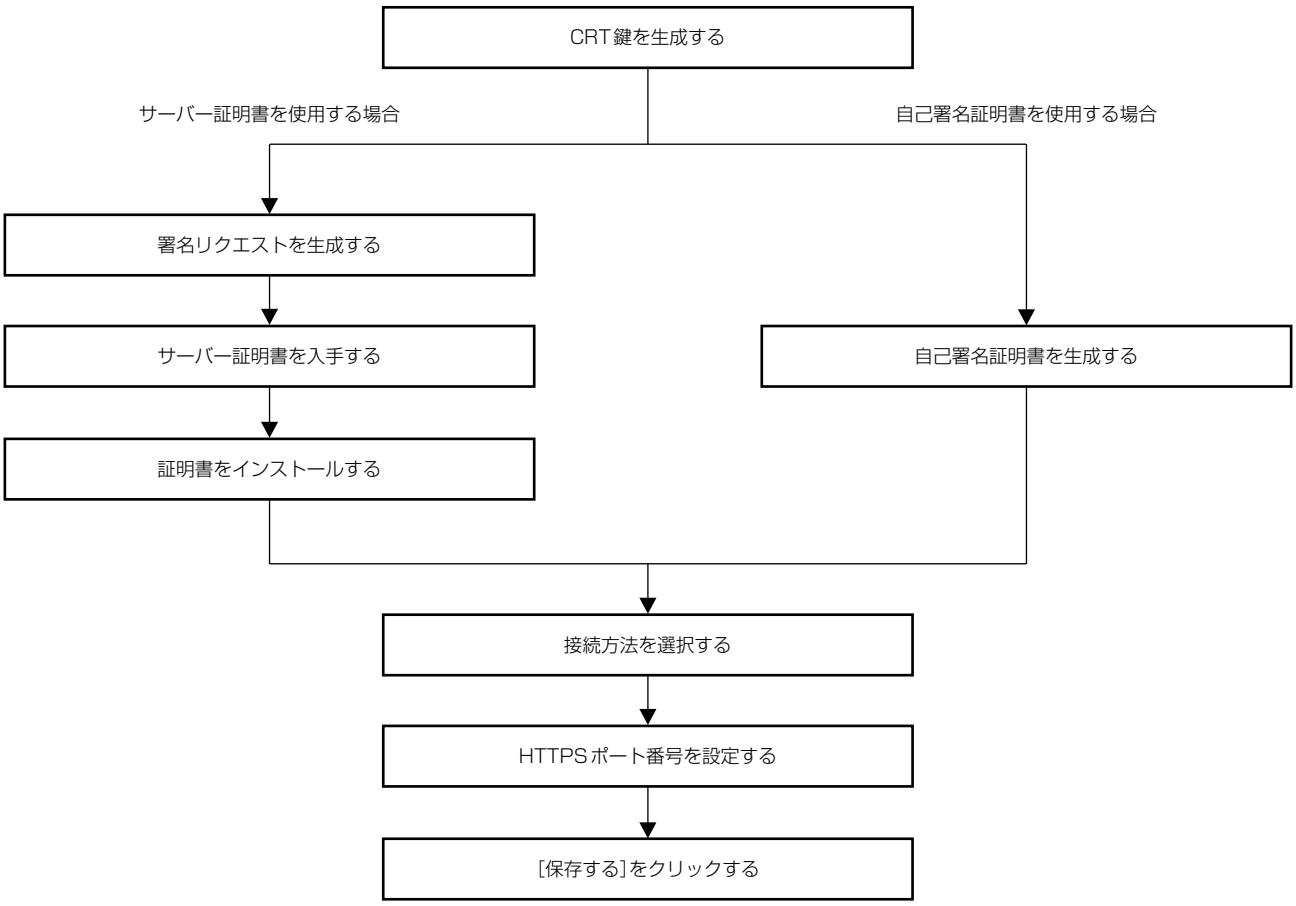
3　[サーバー証明書]
[署名リクエスト（CSR)]：
署名リクエスト（Certificate Signing Request）を生成します。
[生成する] をクリックすると、署名リクエスト生成の画面が表示されます。
詳しくは、“署名リクエストを生成する”（☞ 139 ページ）をご覧ください。
[インストール]：
サーバー証明書および中間証明書をインストールします。
証明書のファイルを指定して [インストールする] をクリックすると、本機に証明書をインストールします。
詳しくは、“証明書をインストールする”（☞ 140 ページ）をご覧ください。
[生成済みの証明書情報]：
サーバー証明書の状態を表示します。
[参照する] をクリックすると、インストール済みのサーバー証明書の情報が表示されます。
[削除する] をクリックすると、インストール済みのサーバー証明書と中間証明書を削除できます。
詳しくは、“サーバー証明書の情報を確認する”（☞ 140 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- お使いのコンピューターや Web ブラウザーによっては、証明書のインストール操作ができないことがあります。

■ 設定のフロー

セキュリティー証明書として、サーバー証明書と自己署名証明書のどちらの証明書を使用するかによって設定のフローが異なります。



お知らせ

- サーバー証明書を使用する場合は、認証機関への申請からサーバー証明書の発行までの手続きは、お客様と認証機関の間で行っていただく必要があります。申請方法などにつきましては、認証機関へお問い合わせください。

CRT 鍵を新規生成する

RSA（Rivest-Shamir-Adleman cryptosystem）公開鍵暗号方式による暗号化に使用する CRT 鍵を生成します。CRT 鍵は、秘密鍵の一種です。



1)　［証明書］→［CRT 鍵］→［生成する］をクリックする

- 次の確認メッセージが表示されます。
  「CRT 鍵を新規生成します。よろしいですか。」

2) **［実行する］をクリックする**



- ［現在の CRT 鍵］の［更新日時］と［RSA 鍵長］で、現在の CRT 鍵の生成日時とその鍵長を確認できます。
- 再度 CRT 鍵を生成する場合、“CRT 鍵を再生成する”（☞ 138 ページ）をご覧ください。

CRT 鍵を再生成する

1) **［証明書］→［CRT 鍵］→［CRT 鍵を生成する］をクリックする**

- 次の確認メッセージが表示されます。
  「CRT 鍵を再生成します。よろしいですか。」

2) **［実行する］をクリックする**

- ［現在の CRT 鍵］の［更新日時］と［RSA 鍵長］で、現在の CRT 鍵の生成日時とその鍵長を確認できます。
- 前回生成した CRT 鍵は履歴に移動します。前回生成した CRT 鍵に戻したい場合は、“CRT 鍵を履歴から生成する”（☞ 138 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- ［RSA 鍵長］は［2048bit］固定です。申請先の認証機関によっては、2048bit の鍵長ではサーバー証明書を発行できない場合があります。
- CRT 鍵の生成には、2 分程度の時間を要することがあります。
- CRT 鍵を更新した場合は、その CRT 鍵を使用して改めてサーバー証明書の申請または自己署名証明書の生成を行ってください。CRT 鍵にひも付いた証明書が必要です。

CRT 鍵を履歴から生成する

CRT 鍵を更新しても、一度だけ前回生成した CRT 鍵に戻すことができます。

1) **［証明書］→［CRT 鍵］→［CRT 鍵を生成する］をクリックする**

- **［CRT 鍵生成］**画面が表示されます。



2) **［履歴から復元して生成］を選択する**

- 元に戻す CRT 鍵の［更新日時］と［RSA 鍵長］を確認します。

3) **［実行する］をクリックする**

- 前回生成した CRT 鍵が、現在の CRT 鍵として反映されます。

お知らせ

- 前回生成した CRT 鍵に戻した場合は、その CRT 鍵にひも付いた証明書が必要です。

署名リクエストを生成する

セキュリティー証明書として、認証機関から発行されたサーバー証明書を使用する場合に、認証機関への発行申請に必要な署名リクエストを生成します。CRT 鍵を生成したあとで署名リクエストを生成してください。

1)　［証明書］→［サーバー証明書］→［署名リクエスト（CSR）］→［生成する］をクリックする

- 署名リクエスト生成の画面が表示されます。



2)　申請に必要な情報を入力する

- 各項目の内容は次のとおりです。申請先の認証機関の要求に従って入力してください。

項目	内容		文字数制限
［ホスト名］	プロジェクターに設定されているプロジェクター名または IP アドレスを入力します。		64 文字
［国名コード］	ISO 3166-1 alpha-2 で定義されている国名コード（大文字アルファベット 2 文字）を入力します。		—
［都道府県名］	都道府県名を入力します。		128 文字
［市区町村名］	市区町村名を入力します。		128 文字
［組織名］	組織名を入力します。		64 文字
［部署名］	部署名を入力します。		64 文字
［CRT 鍵］	［更新日時］	現在の CRT 鍵の生成日時が表示されます。	—
	［RSA 鍵長］	現在の CRT 鍵の鍵長が表示されます。	—

3)　［実行する］をクリックする

- 署名リクエストのファイルが生成されます。ファイルに名前を付けて任意のフォルダーに保存してください。

4)　ファイル名を入力して［保存］をクリックする

- 指定したフォルダーに署名リクエストのファイルが保存されます。

お知らせ

- 入力できる文字は次のとおりです。
  - 半角数字：0 ～ 9
  - 半角アルファベット：A ～ Z、a ～ z
  - 半角記号：- . _ , + / ( )
- 本機で生成する署名リクエストは、PEM 形式（拡張子：pem）です。
- 保存した署名リクエストのファイル（PEM 形式）を使用して、認証機関に対してサーバー証明書の発行を申請してください。

証明書をインストールする

認証機関から発行されたサーバー証明書および中間証明書を本機にインストールします。

1)　［証明書］→［サーバー証明書］→［インストール］→［サーバー証明書］の［ファイルを選択］をクリックする

- ファイルを選択するダイアログが表示されます。

2)　サーバー証明書ファイルを選択し、［開く］をクリックする

- 認証機関からサーバー証明書とともに中間証明書が発行されている場合は手順 **3)** に進んでください。
- 認証機関からサーバー証明書のみが発行されている場合は手順 **5)** に進んでください。

3)　［中間証明書］の［ファイルを選択］をクリックする

- ファイルを選択するダイアログが表示されます。

4)　中間証明書ファイルを選択し、［開く］をクリックする

5)　［インストールする］をクリックする

- サーバー証明書および中間証明書が本機にインストールされます。

お知らせ

- インストールしたサーバー証明書の情報を確認する場合は、“サーバー証明書の情報を確認する”（☞ 140 ページ）をご覧ください。

サーバー証明書の情報を確認する

本機にインストールしたサーバー証明書の情報を確認します。

1)　［証明書］→［サーバー証明書］→［生成済みの証明書情報］→［参照する］をクリックする

- インストールしたサーバー証明書の情報が表示されます。各項目の内容は次のとおりです。

項目	内容	
［ホスト名］	プロジェクター名または IP アドレスが表示されます。	
［国名コード］	ISO 3166-1 alpha-2 で定義されている国名コード（大文字アルファベット 2 文字）が表示されます。	
［都道府県名］	都道府県名が表示されます。	
［市区町村名］	市区町村名が表示されます。	
［組織名］	組織名が表示されます。	
［部署名］	部署名は表示されません。アスタリスクで表示されます。	
［有効期間の開始］	サーバー証明書の発行日時が表示されます。	
［有効期間の終了］	サーバー証明書の失効日時が表示されます。	
［CRT 鍵］	［更新日時］	CRT 鍵の生成日時が表示されます。
	［RSA 鍵長］	CRT 鍵の鍵長が表示されます。

お知らせ

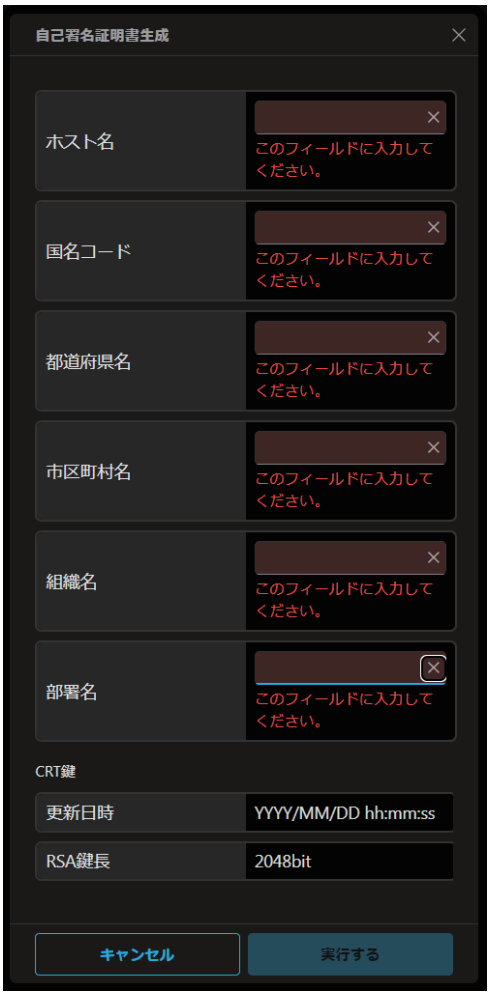
- ［証明書］→［サーバー証明書］→［生成済みの証明書情報］→［削除する］をクリックすると、インストール済みのサーバー証明書と中間証明書を削除できます。
  ただし、［HTTPS］→［接続方法］が［HTTPS］に設定されている状態では削除できません。HTTP 通信ができる状態に設定を変更したうえで削除してください。
  また、有効期間内のサーバー証明書を削除する場合は、インストールに使用した証明書ファイルをお手元に準備できることを確認してください。再度サーバー証明書をインストールする場合に必要になります。

自己署名証明書を生成する

セキュリティー証明書として、認証機関から発行されたサーバー証明書を使用しない場合は、本機自身で生成した自己署名証明書を使用することができます。CRT 鍵を生成したあとで自己署名証明書を生成してください。

1) ［証明書］→［自己署名証明書］→［自己署名証明書の生成］→［生成する］をクリックする

- 自己署名証明書生成の画面が表示されます。



2) 生成に必要な情報を入力する

- 各項目の内容は次のとおりです。

項目	内容		文字数制限
［ホスト名］	プロジェクターに設定されているプロジェクター名または IP アドレスを入力します。		64 文字
［国名コード］	ISO 3166-1 alpha-2 で定義されている国名コード（大文字アルファベット 2 文字）を入力します。		—
［都道府県名］	都道府県名を入力します。		128 文字
［市区町村名］	市区町村名を入力します。		128 文字
［組織名］	組織名を入力します。		64 文字
［部署名］	部署名を入力します。		64 文字
［CRT 鍵］	［更新日時］	現在の CRT 鍵の生成日時が表示されます。	—
	［RSA 鍵長］	現在の CRT 鍵の鍵長が表示されます。	—

3) ［実行する］をクリックする

- 自己署名証明書が生成されます。

お知らせ

- 入力できる文字は次のとおりです。
  - 半角数字：0 ～ 9
  - 半角アルファベット：A ～ Z、a ～ z
  - 半角記号：- . _ , + / ( )

自己署名証明書の情報を確認する

本機で生成した自己署名証明書の情報を確認します。

1) ［証明書］→［自己署名証明書］→［生成済みの証明書情報］→［参照する］をクリックする

- 生成済みの自己署名証明書の情報が表示されます。各項目の内容は次のとおりです。

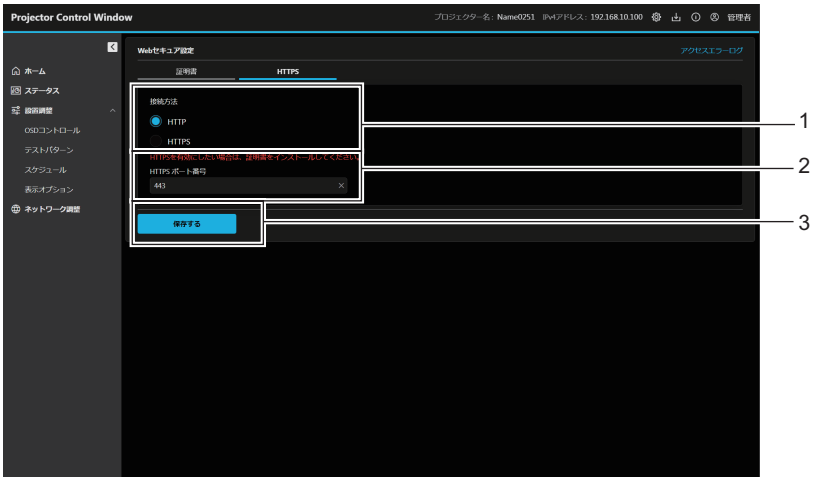
項目	内容	
［ホスト名］	プロジェクター名または IP アドレスが表示されます。	
［国名コード］	ISO 3166-1 alpha-2 で定義されている国名コード（大文字アルファベット 2 文字）が表示されます。	
［都道府県名］	都道府県名が表示されます。	
［市区町村名］	市区町村名が表示されます。	
［組織名］	組織名が表示されます。	
［部署名］	部署名が表示されます。	
［有効期間の開始］	自己署名証明書の発行日時が表示されます。	
［有効期間の終了］	自己署名証明書の失効日時（グリニッジ標準時 2063 年 12 月 31 日 23 時 59 分に相当するローカル日時）が表示されます。	
［CRT 鍵］	［更新日時］	CRT 鍵の生成日時が表示されます。
	［RSA 鍵長］	CRT 鍵の鍵長が表示されます。

お知らせ

- ［証明書］→［自己署名証明書］→［生成済みの証明書情報］→［削除する］をクリックすると、生成済みの自己署名証明書を削除できます。ただし、［HTTPS］→［接続方法］が［HTTPS］に設定されている状態では削除できません。HTTP 通信ができる状態に設定を変更したうえで削除してください。

［Web セキュア設定］（HTTPS）

Web 制御機能を使用する際に、コンピューターとプロジェクターとの間で SSL/TLS プロトコルによって暗号化された HTTPS（Hypertext Transfer Protocol Secure）通信を行う場合に設定します。
なお、HTTPS 通信を行うには、認証のための証明書をあらかじめプロジェクターにインストールしておく必要があります。証明書のインストールについて、詳しくは“［Web セキュア設定］（証明書）”（☞ 136 ページ）をご覧ください。
［HTTPS］をクリックします。



1　［接続方法］
プロジェクターとの接続方法を設定します。
- **［HTTP］**：HTTP 通信を使用します。（工場出荷時の値）
- **［HTTPS］**：HTTPS 通信を使用します。

2　［HTTPS ポート番号］
HTTPS 通信で使用するポート番号を設定します。
設定できるポート番号：1 ～ 65535
工場出荷時の値：443

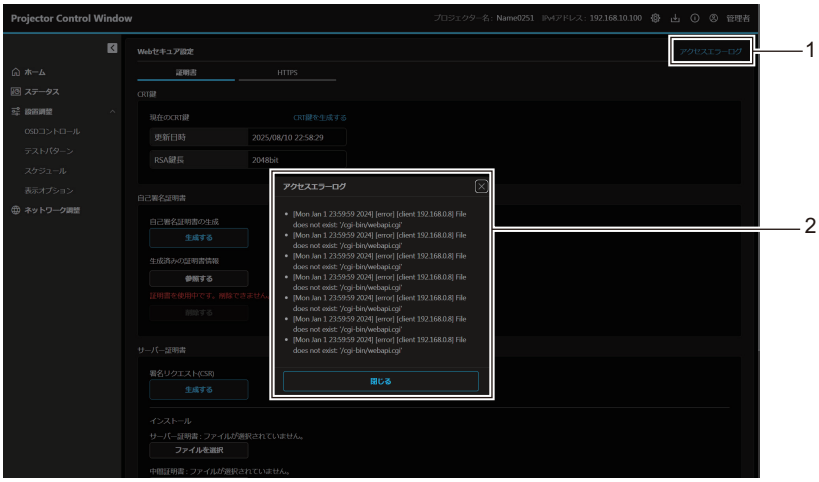
3　［保存する］
設定を有効にします。

お知らせ

- ［接続方法］の設定を［HTTPS］から［HTTP］に変更すると、Web 制御画面の操作や更新を行ったときに画面が表示されないことがあります。その場合は、Web ブラウザーのキャッシュを削除してください。

[Web セキュア設定]（アクセスエラーログ）

存在しないページへのアクセスや不正なユーザー名、パスワードでのアクセスなど、Web サーバーのエラー情報が表示されます。
[アクセスエラーログ] をクリックします。

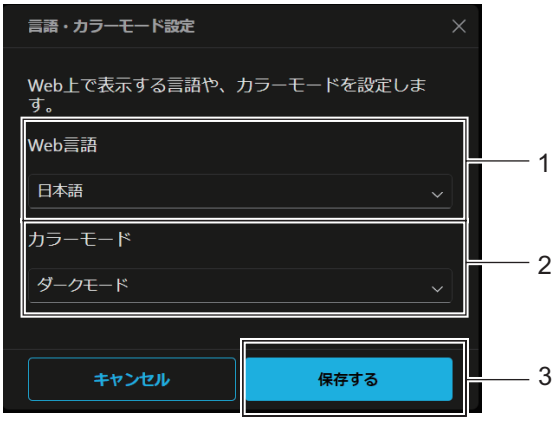


1　[アクセスエラーログ]
クリックすると、アクセスエラーログ画面が表示されます。

2　アクセスエラーログの表示例

[言語・カラーモード設定]

Web 上で表示する言語やカラーモードを設定します。



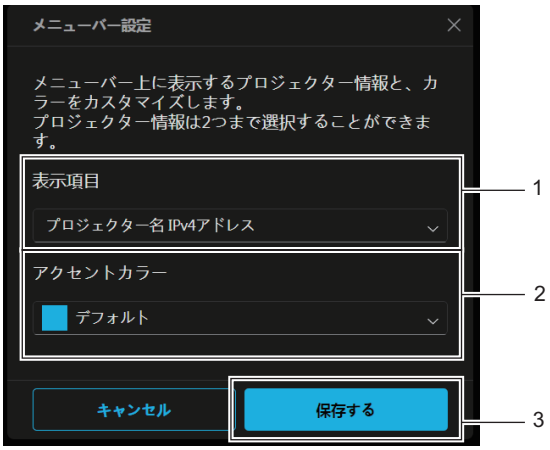
1　[Web 言語]
Web 表示言語（[日本語] / [English]）を設定します。

2　[カラーモード]
Web 画面のカラーモードを設定します。
[ダークモード]：暗い色の背景に明るい色の文字が表示されます。
[ライトモード]：明るい色の背景に暗い色の文字が表示されます。

3　[保存する]
設定を有効にします。

[メニューバー設定]

メニューバー上に表示するプロジェクター情報とアクセントカラーを設定します。



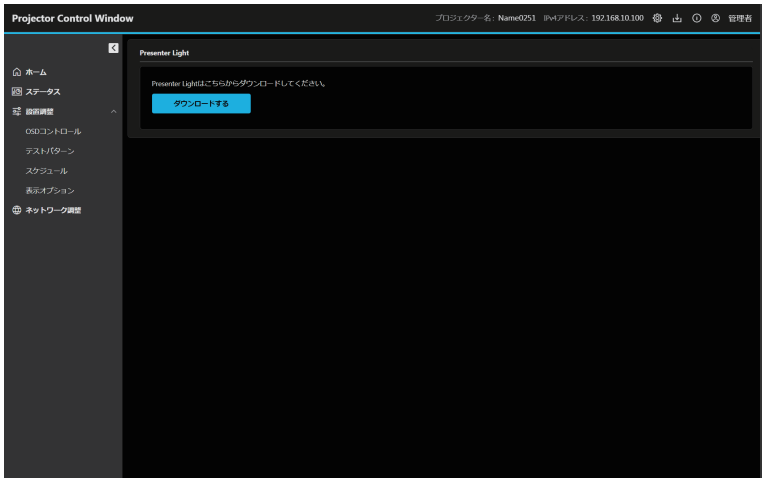
1　[表示項目]
次の表示項目から、メニューバー上に表示するプロジェクター情報（2 つまで）を設定します。
[プロジェクター名]、[IPv4 アドレス]、[無線 LAN アドレス]、[MAC アドレス]、[シリアル番号]、[プロジェクタータイプ]

2　[アクセントカラー]
次の 7 色から、メニューバーのアクセントカラーを設定します。
[デフォルト]、[ブルー]、[パープル]、[グリーン]、[イエロー]、[オレンジ]、[レッド]

3　[保存する]
設定を有効にします。

ダウンロード（Presenter Light ソフトウェアダウンロードページ）

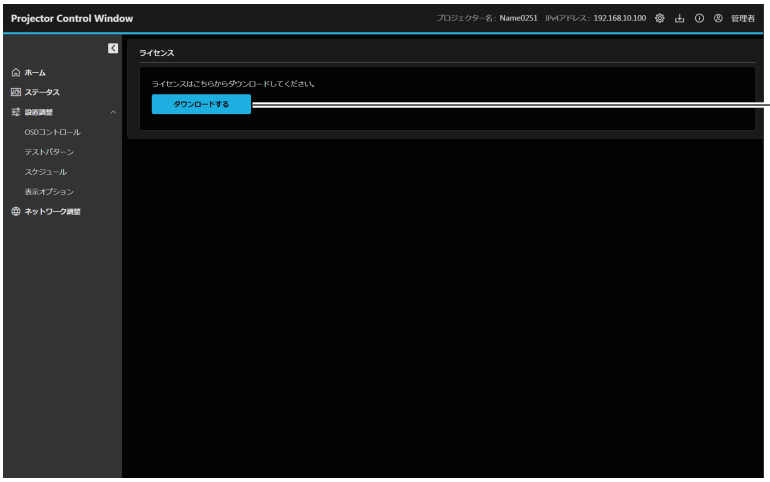
Presenter Light ソフトウェアのダウンロードページが表示されます。
ダウンロード（⬇）ボタン → [Presenter Light] をクリックします。



1　[ダウンロードする]
クリックすると、Presenter Light ソフトウェアをダウンロードできます。
詳しくは、“[Presenter Light ソフトウェア] について”（☞ 129 ページ）をご覧ください。

Web 情報（ライセンスダウンロードページ）

ライセンスダウンロードページが表示されます。
Web 情報（ⓘ）ボタン → ［ライセンス］をクリックします。



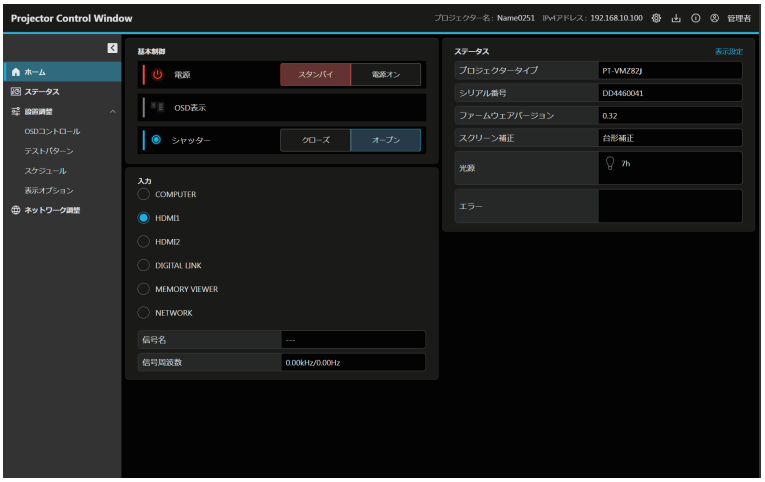
1　［ダウンロードする］
クリックすると、本機で使用しているオープンソースソフトウェアのライセンスをダウンロードできます。保存先を指定してダウンロードしてください。

お知らせ

- 提供するライセンスはテキストファイルで、本機のファームウェアに zip 形式の圧縮ファイルで格納されています。
  ファイル名：License.zip

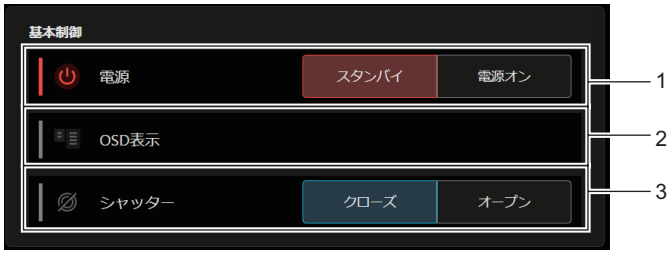
［ホーム］について

本機の基本操作や基本状態の確認ができます。
［ホーム］をクリックします。



■［基本制御］

電源の切 / 入、OSD 表示のオフ / オン、シャッターのクローズ / オープン切換操作ができます。



1　［電源］
プロジェクターの電源の切 / 入（［スタンバイ］/［電源オン］）を行います。

2　［OSD 表示］
OSD 表示の状態（［OFF］：非表示、［ON］：表示）を切り換えます。
プロジェクターがスタンバイ状態のときは、［OSD 表示］を操作できません。

3　［シャッター］
シャッターの状態（［クローズ］：シャッター機能有効、［オープン］：シャッター機能無効）を切り換えます。

状態表示アイコン

［電源］		電源が切れています。（スタンバイ状態です。）
		投写状態です。
［OSD 表示］		オンスクリーン表示をオン（表示）にしています。
		オンスクリーン表示をオフ（非表示）にしています。
［シャッター］		シャッター機能が有効（シャッター：クローズ）の状態です。
		シャッター機能が無効（シャッター：オープン）の状態です。

■［入力］

入力切換操作および入力信号情報の確認ができます。



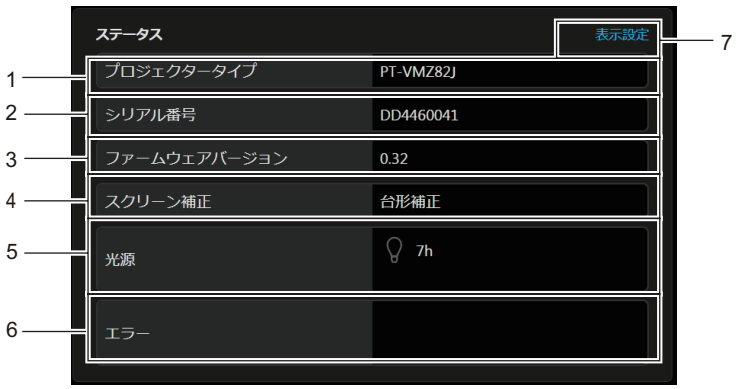
1　**［入力］**
映像を確認したい入力に切り換えます。

2　**［信号名］**
入力信号名を表示します。

3　**［信号周波数］**
入力信号の周波数を表示します。

■［ステータス］（カスタマイズ表示）

プロジェクターの状態を表示します。



1　**［プロジェクタータイプ］**
プロジェクターの種類を表示します。

2　**［シリアル番号］**
プロジェクターのシリアル番号を表示します。

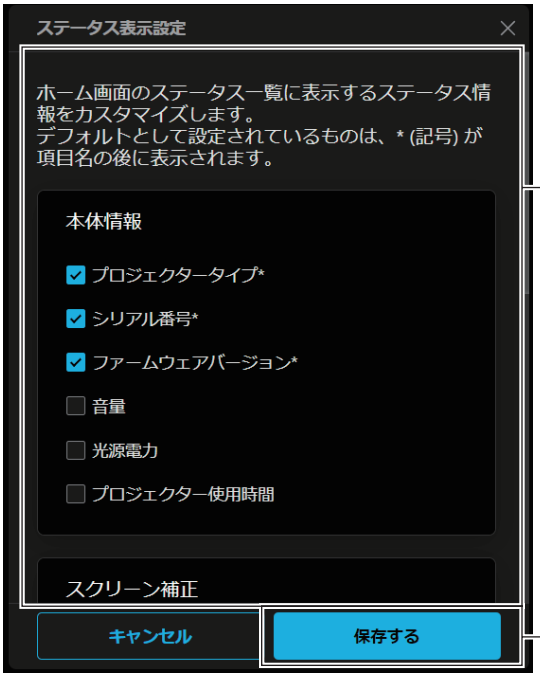
3　**［ファームウェアバージョン］**
本機のファームウェアバージョンを表示します。

4　**［スクリーン補正］**
［スクリーン補正］の設定状態を表示します。

5　**［光源］**
光源の点灯状態、使用時間を表示します。

6　**［エラー］**
発生しているエラー / 警告の記号と、その内容が表示されます。
表示内容の詳細については、“自己診断表示について”
（☞ 187 ページ）をご覧ください。

7　**［表示設定］**
クリックすると、**［ステータス表示設定］**画面が表示されます。



8　［ステータス表示設定］
ホーム画面のステータス一覧に表示するステータス情報をカスタマイズします。
デフォルトとして設定されているものは、*（記号）が項目名の後に表示されます。

9　［保存する］
設定を有効にします。

状態表示アイコン

［光源］		該当の光源が点灯しています。
		該当の光源が消灯しています。
［エラー］		光源が警告状態にあります。
		光源がエラー状態にあります。
		フィルターが警告状態にあります。
		フィルターがエラー状態にあります。
		温度が警告状態にあります。
		温度がエラー状態にあります。
		光源 / フィルター / 温度以外の警告が発生しています。
		光源 / フィルター / 温度以外のエラーが発生しています。

［ステータス］について

プロジェクターの状態を表示します。
［ステータス］をクリックします。



1　［基本情報］
［電源］
電源の状態（［スタンバイ］/［電源オン］）を表示します。
［OSD 表示］
OSD 表示機能の状態（［OFF］：非表示、［ON］：表示）を表示します。
［シャッター］
シャッターの状態（［クローズ］：シャッター機能有効、［オープン］：シャッター機能無効）を表示します。
アイコン
クリックすると、**［ホーム］**画面に移ります。電源の切 / 入、OSD 表示のオフ / オン、シャッターのクローズ / オープン切換操作ができます。

2　［光源］
［光源］
光源の点灯状態、使用時間を表示します。
［光出力］
［光出力］の設定状態を表示します。

3　［温度］
［吸気温度］
プロジェクターの吸気温度状態を表示します。
［排気温度］
プロジェクターの排気温度状態を表示します。
［光源温度 1］/［光源温度 2］
光源 1 と光源 2 の温度状態を表示します。
アイコン
クリックすると、温度詳細が表示されます。

4　［ネットワークステータス］
［有線 LAN(IPv4)］
有線 LAN（IPv4）の設定内容を表示します。
［有線 LAN(IPv6)］
有線 LAN（IPv6）の設定内容を表示します。
［有線 LAN 共通情報］
有線 LAN（IPv4）、有線 LAN（IPv6）共通の情報を表示します。
［無線 LAN］
別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けている場合に、無線 LAN の設定内容を表示します。
アイコン
クリックすると、**［LAN 設定］**画面に移ります。有線 LAN と無線 LAN の設定ができます。

5　［本体情報］
［プロジェクタータイプ］
プロジェクターの種類を表示します。
［シリアル番号］
プロジェクターのシリアル番号を表示します。
［ファームウェアバージョン］
プロジェクター本体のファームウェアバージョンを表示します。
［音量］
音量の状態を表示します。
［光源電力］
［光源電力］の設定状態を表示します。
［プロジェクター使用時間］
プロジェクターの稼働時間を表示します。

6　［角度モニター］
ロール角とピッチ角の角度を表示します。

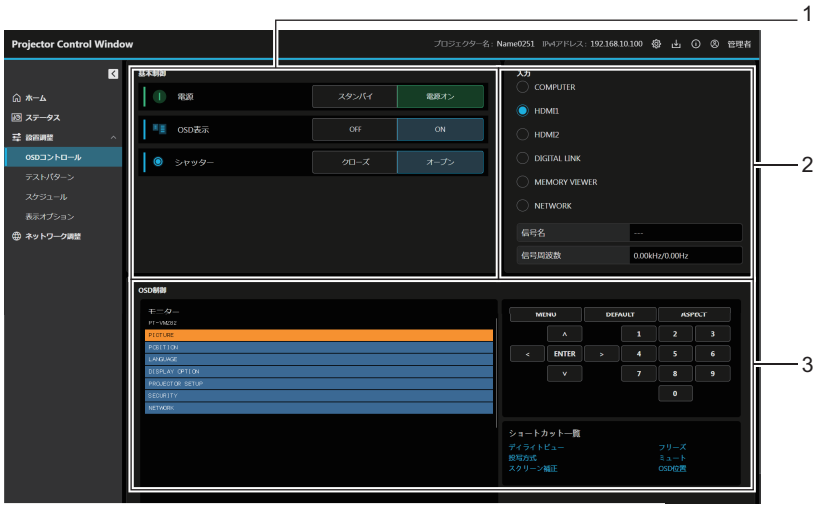
7　［入力］
［入力選択］
選択している入力を表示します。
［信号名］
入力信号名を表示します。
［信号周波数］
入力信号の周波数を表示します。
アイコン
クリックすると、**［ホーム］**画面に移ります。入力切換操作ができます。

8　［エラー］
発生しているエラー / 警告の記号と、その内容が表示されます。表示内容の詳細については、“自己診断表示について”（☞ 187 ページ）をご覧ください。
アイコン
クリックすると、エラーコードが表示されます。

[設置調整] について

[OSD コントロール]

[設置調整] → [OSD コントロール] をクリックします。



1　[基本制御]

[電源]

プロジェクターの電源の切 / 入（[スタンバイ] / [電源オン]）を行います。

[OSD 表示]

OSD 表示の状態（[OFF]：非表示、[ON]：表示）を切り換えます。プロジェクターがスタンバイ状態のときは、[OSD 表示] を操作できません。

[シャッター]

シャッターの状態（[クローズ]：シャッター機能有効、[オープン]：シャッター機能無効）を切り換えます。

2　[入力]

映像を確認したい入力に切り換えます。

3　[OSD 制御]

[モニター]

プロジェクターのオンスクリーン表示と同じ項目が表示されます。メニューの設定内容の確認や変更ができます。オンスクリーン表示機能がオフ（非表示）に設定されていても表示されます。

入力ボタン群

OSD を操作するために使用されるリモコンボタンのようなボタンです。

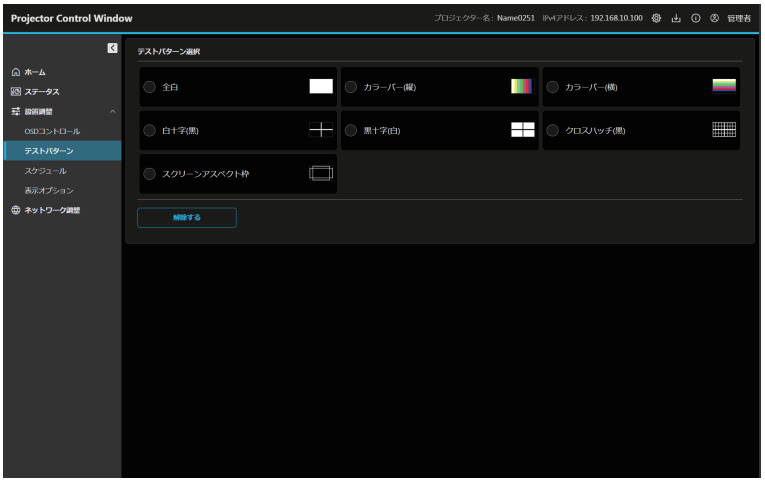
[ショートカット一覧]

クリックすることで特定の OSD が表示され、ファンクション機能を実行します。

[テストパターン]

表示されるパターンの中から、投写画面に表示したいテストパターンを選択します。[解除する] をクリックすると、テストパターンの表示が消えます。

[設置調整] → [テストパターン] をクリックします。

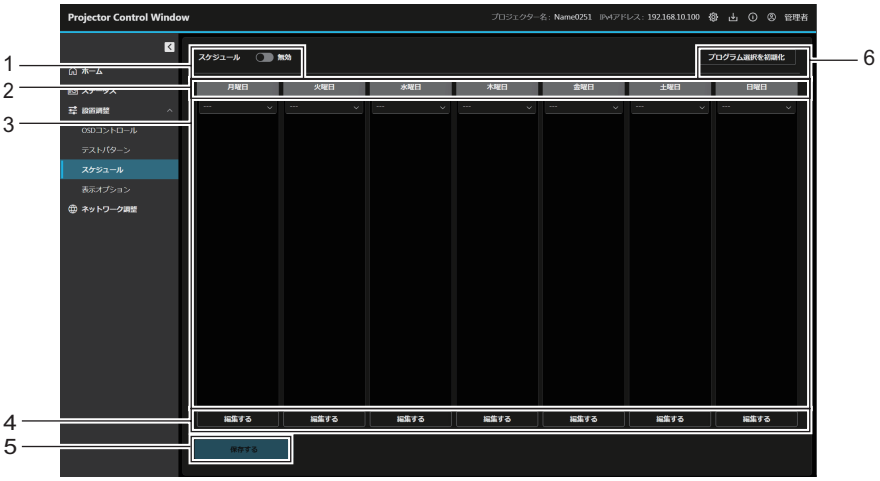


お知らせ

- プロジェクターがスタンバイ状態の場合、テストパターンの表示はを設定できません。

［スケジュール］

曜日ごとのスケジュールの確認と設定を行うことができます。
［設置調整］→［スケジュール］をクリックします。



1　［スケジュール］
スケジュール機能の有効 / 無効を設定します。

2　曜日

3　プログラム
曜日のプログラムと、そのプログラムのイベントリストを表示します。また、ドロップダウンリストからほかのプログラムを選択して［保存する］ボタンを押すと、プログラムを変更することができます。
プログラム番号 1 ～ 7 まで設定できます。“- - -”は未設定を表します。

4　［編集する］
クリックすると、曜日のスケジュール編集画面が表示されます。プログラムを選択し、編集することができます。

5　［保存する］
設定を更新します。

6　［プログラム選択を初期化］
全曜日のプログラム選択を初期化します。

■ スケジュール編集画面



1　［プログラム選択］
編集するプログラムを選択します。

2　［イベント一覧］
選択したプログラムのイベントを表示します。
イベントが一つもない場合、プログラム番号を選択し、［複製する］をクリックすると、選択したプログラムのイベント一覧を複製することができます。
［追加する］
プログラムにイベントを追加します。
1 プログラムにつき 16 コマンドまでの設定ができます。
ボタン
イベントをプログラムから削除します。

3　イベント編集
イベントのコマンドと実行時間を設定します。
［コマンド］
コマンドを選択します。
コマンドの詳細について、［プロジェクター設定］メニュー →［スケジュール］→“各プログラムの設定方法”（☞ 97 ページ）をご覧ください。
［オプション］
コマンドに合わせて［オプション］を設定します。
［時刻］
コマンドの実行時間を設定します。
テキストボックスに時刻を 1 分単位で入力して、［適用］をクリックします。また、矢印ボタンを押してドロップダウンリストから［00:00］～［23:30］までは 30 分単位で選択できます。

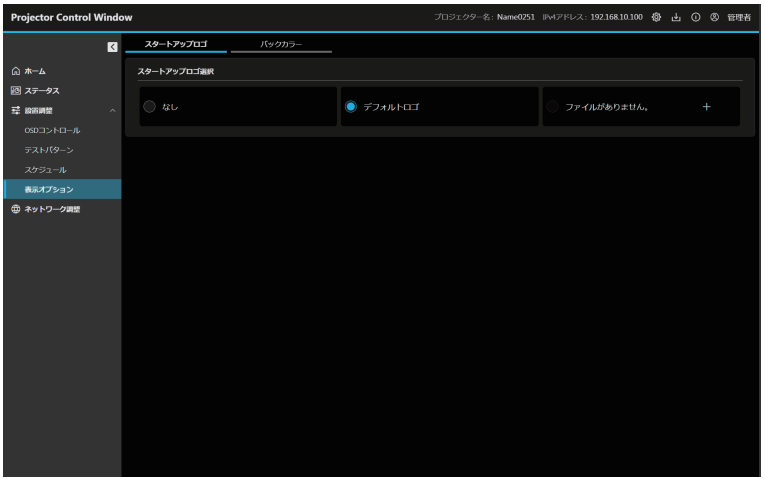
4　［保存する］
設定を更新します。

［表示オプション］

［設置調整］→［表示オプション］をクリックします。

［スタートアップロゴ］

スタートアップロゴの表示を設定します。また、ユーザーイメージを登録、削除することもできます。



■ユーザーイメージを登録する場合

1)　＋ ボタンをクリックする

- ファイル選択画面が表示されます。
  - ユーザーイメージが登録されていない場合は、［ファイルがありません。］と表示され、＋ ボタンが表示されています。
  - すでにユーザーイメージが登録されている場合は、［ユーザーイメージ］が表示され、🗑 ボタンが表示されています。

2)　登録するファイルを選び、［開く］をクリックする

- ［ユーザーイメージ］が表示され、登録が完了します。

■登録済みのユーザーイメージを削除する場合

1)　🗑 ボタンをクリックする

- 確認画面が表示されます。

2)　［削除する］をクリックする

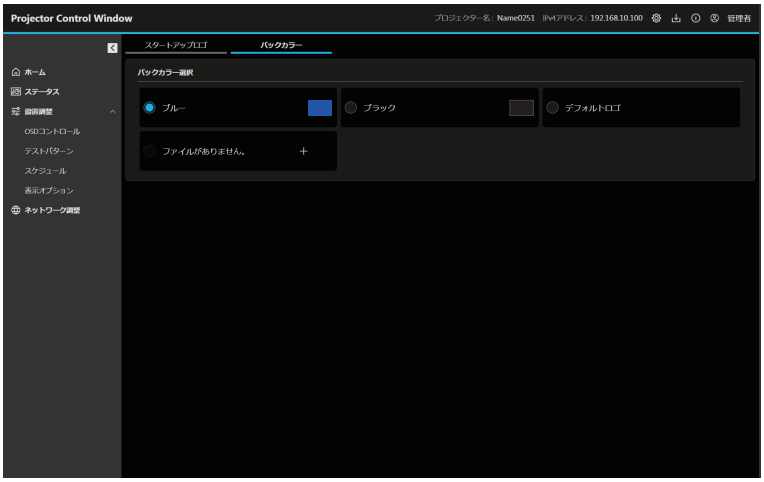
- ユーザーイメージの削除が完了します。

お知らせ

- ユーザーイメージが次のいずれかのメニューで使用されている場合、ユーザーイメージを削除すると、該当メニューの設定は工場出荷時の値に戻ります。
  - ［表示オプション］メニュー →［バックカラー］
  - ［表示オプション］メニュー →［スタートアップロゴ］

［バックカラー］

バックカラーの表示を設定します。また、ユーザーイメージを登録、削除することもできます。



■ユーザーイメージを登録する場合

1)　＋ ボタンをクリックする

- ファイル選択画面が表示されます。
  - ユーザーイメージが登録されていない場合は、［ファイルがありません。］と表示され、＋ ボタンが表示されています。
  - すでにユーザーイメージが登録されている場合は、［ユーザーイメージ］が表示され、🗑 ボタンが表示されています。

2)　登録するファイルを選び、［開く］をクリックする

- ［ユーザーイメージ］が表示され、登録が完了します。

■登録済みのユーザーイメージを削除する場合

1)　🗑 ボタンをクリックする

- 確認画面が表示されます。

2)　［削除する］をクリックする

- ユーザーイメージの削除が完了します。

お知らせ

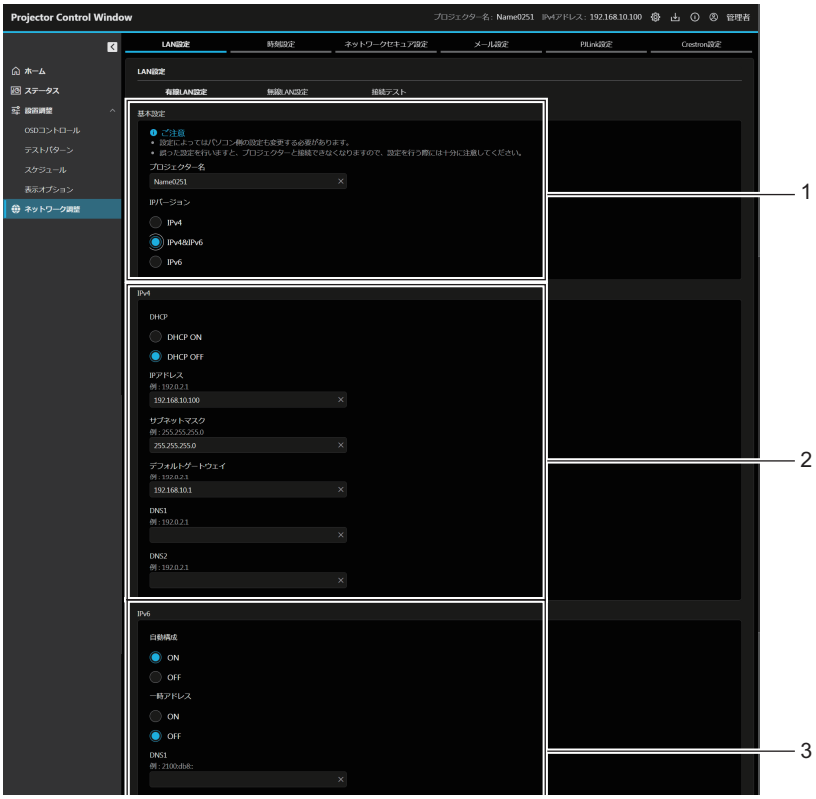
- ユーザーイメージが次のいずれかのメニューで使用されている場合、ユーザーイメージを削除すると、該当メニューの設定は工場出荷時の値に戻ります。
  - ［表示オプション］メニュー → ［バックカラー］
  - ［表示オプション］メニュー → ［スタートアップロゴ］

［ネットワーク調整］について

［LAN 設定］

［ネットワーク調整］→［LAN 設定］をクリックします。

有線 LAN 接続の場合



1　［基本設定］

［プロジェクター名］

プロジェクターの名前を入力します。DHCP サーバーを利用する場合などにホスト名が必要であれば入力してください。

［IP バージョン］

［IPv4］：プロトコル「IPv4」のみを使用します。

［IPv4 & IPv6］：「IPv4」と「IPv6」の両プロトコルを使用できます。

［IPv6］：プロトコル「IPv6」のみを使用します。

2　［IPv4］

［DHCP ON］、［DHCP OFF］

DHCP クライアント機能を有効にする場合は［DHCP ON］にします。

［IP アドレス］

DHCP サーバーを利用しない場合は IPv4 アドレスを入力します。

［サブネットマスク］

DHCP サーバーを利用しない場合はサブネットマスクを入力します。

［デフォルトゲートウェイ］

DHCP サーバーを利用しない場合は IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

［DNS1］

IPv4 の DNS1 サーバーアドレス（プライマリー）を入力します。

入力使用可能文字：

数字（0 ～ 9）、ピリオド（.）

［DNS2］

IPv4 の DNS2 サーバーアドレス（セカンダリー）を入力します。

入力使用可能文字：

数字（0 ～ 9）、ピリオド（.）

3　［IPv6］

［自動構成］

自動的に IPv6 アドレスを割り当てる場合は［ON］にします。

［一時アドレス］

一時 IPv6 アドレスを利用する場合は［ON］にします。

［IP アドレス］

自動的に IPv6 アドレスを割り当てない場合は IPv6 アドレスを入力します。

［プレフィックス長］

自動的に IPv6 アドレスを割り当てない場合はプレフィックス長を入力します。

［デフォルトゲートウェイ］

自動的に IPv6 アドレスを割り当てない場合は IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

［DNS1］

IPv6 の DNS1 サーバーアドレス（プライマリー）を入力します。

入力使用可能文字：16 進数字（0 ～ f）、コロン（:）

［DNS2］

IPv6 の DNS2 サーバーアドレス（セカンダリー）を入力します。

入力使用可能文字：16 進数字（0 ～ f）、コロン（:）

4　［保存する］

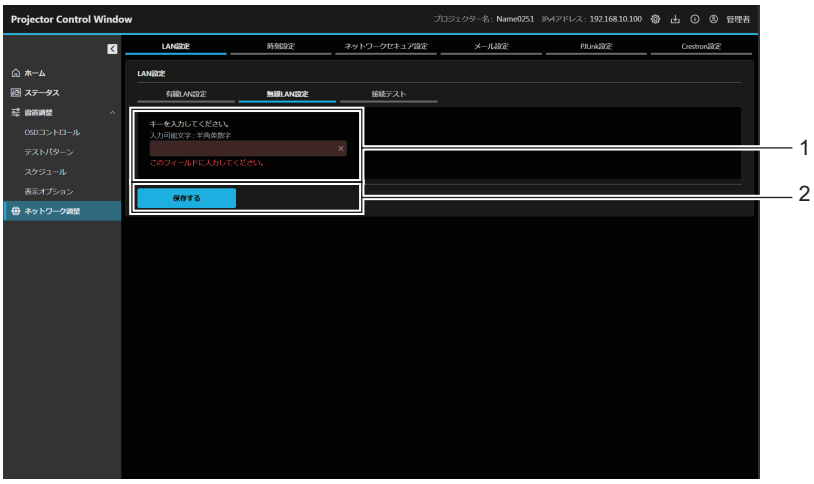
設定を更新します。

お知らせ

- ブラウザーの「戻る」または「進む」機能を使用した場合、「ページの有効期限切れ」という警告画面が表示されることがあります。その場合、以降の動作は保証されませんので、再度［LAN 設定］をクリックしてください。
- LAN で接続中に LAN 設定を変更すると、接続が切れる場合があります。

無線 LAN 接続の場合

（本機にワイヤレスモジュールを取り付けている場合のみ）

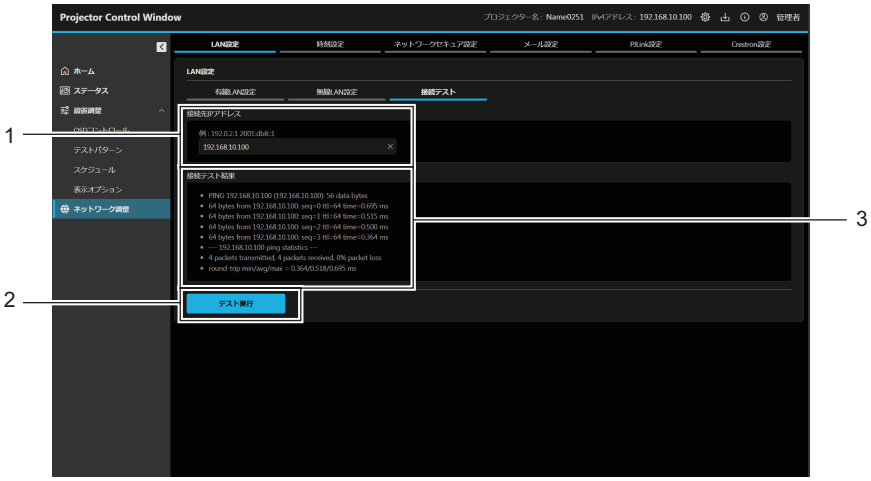


1　キー入力テキストボックス
接続キーを設定します。
8 ～ 15 文字の半角英数字で入力します

2　［保存する］
設定を更新します。

接続テスト

E メールサーバー、POP サーバー、DNS サーバーなどとネットワークが接続しているかを確認できます。



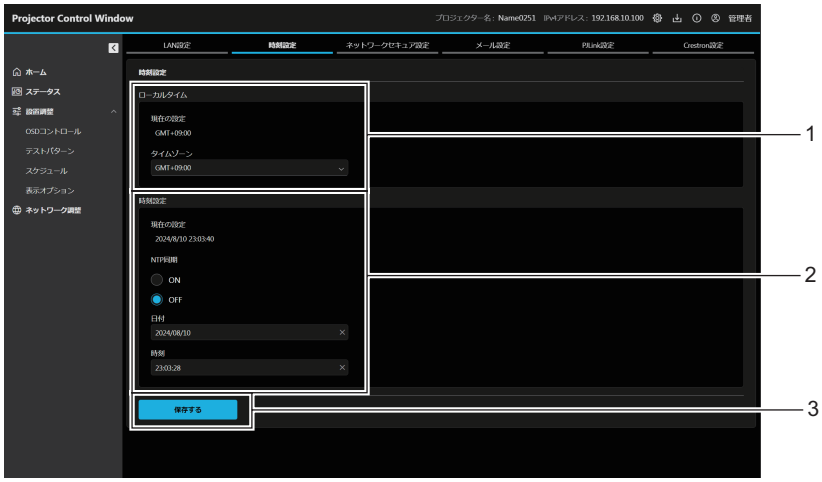
1　［接続先 IP アドレス］
テストするサーバーの IP アドレスを入力します。

2　［テスト実行］
接続テストを実行します。

3　［接続テスト結果］
テスト実行後の結果を表示します。
接続テスト結果は、テストの実行後にのみ表示されます。

[時刻設定]

[ネットワーク調整] → [時刻設定] をクリックします。



1　[ローカルタイム]
[現在の設定]
現在のタイムゾーン設定を表示します。設定を変更する場合、[保存する] を押す時に更新します。
[タイムゾーン]
タイムゾーンを選択します。
(日本は GMT+09:00)

2　[時刻設定]
[現在の設定]
現在の日付と時刻設定を表示します。設定を変更する場合、[保存する] を押す時に更新します。
[NTP 同期]
自動で日時を設定する場合は [ON] にします。
[NTP サーバー名]
自動で日時を設定する場合は NTP サーバーの IP アドレスかサーバー名を入力します。
(サーバー名を入力する場合は DNS サーバーの設定が必要です。)
[日付]
[NTP 同期] を [OFF] に設定している場合に、変更する日付を入力します。
[時刻]
[NTP 同期] を [OFF] に設定している場合に、変更する時刻を入力します。

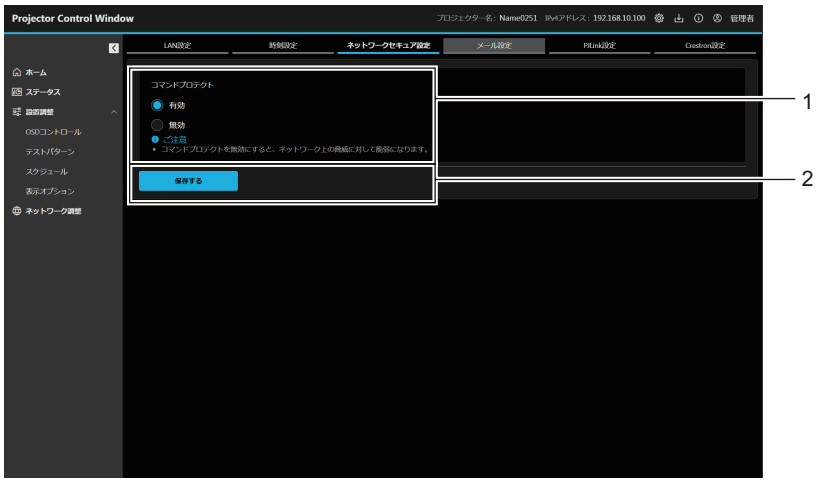
3　[保存する]
設定を更新します。

お知らせ

- 時刻を設定してもすぐに時刻が合わなくなる場合は、本機内部の電池交換が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

[ネットワークセキュア設定]

LAN を介した外部からの攻撃や不正利用から本機を保護するための設定を行います。
[ネットワーク調整] → [ネットワークセキュア設定] をクリックします。



1　[コマンドプロテクト]
コマンドコントロール機能を使用する際の接続認証について設定します。
[有効]：
プロテクトモードで本機に接続します。
管理者アカウントのユーザー名とパスワードを使用して接続認証を行います。
[無効]：
非プロテクトモードで本機に接続します。
接続認証を行いません。

2　[保存する]
設定を更新します。

お知らせ

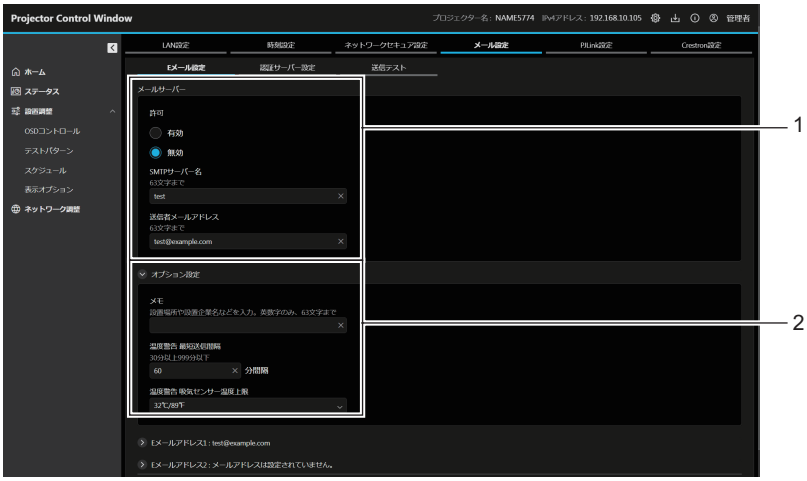
- ［コマンドプロテクト］を［無効］に設定すると、接続認証を行わないためネットワーク上の脅威に対して脆弱になります。リスクを認識のうえ運用してください。
- コマンドコントロール機能の使い方について詳しくは、“LAN 経由の制御コマンドについて”（☞ 191 ページ）をご覧ください。

［メール設定］

［ネットワーク調整］→［メール設定］をクリックします。

［E メール設定］

異常が発生した場合などに、あらかじめ設定しておいた E メールアドレス（最大 2 か所）にメールを送信できます。



1　［メールサーバー］

［許可］
E メール機能を使用する場合は［有効］を選択してください。

［SMTP サーバー名］
E メールサーバー（SMTP）の IP アドレスかサーバー名を入力してください。サーバー名を入力する場合は、DNS サーバーの設定が必要です。

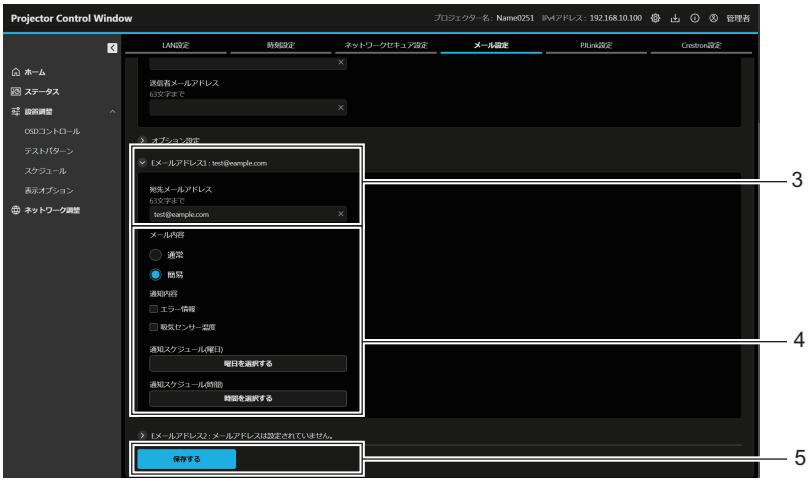
［送信者メールアドレス］
プロジェクターの E メールアドレスを入力してください。（半角で 63 文字まで）

2　［オプション設定］

［メモ］
E メールの発信元がわかりやすいように、プロジェクターの設置場所などを入力できます。（半角で 63 文字まで）

［温度警告 最短送信間隔］
温度警告メールの最短時間間隔を変更できます。初期値は 60 分です。この場合、温度警告メールを送信後 60 分間は、再び警告温度になってもメールを送信できません。

［温度警告 吸気センサー温度上限］
温度警告メール用の設定温度上限を変更できます。この値を超えた場合、温度警告メールを送信します。



3　［E メールアドレス 1］、［E メールアドレス 2］
送信する宛先の E メールアドレスを入力してください。2 つの E メールアドレスを使わない場合は、［E メールアドレス 2］を未記入にします。

4　E メールを送信する条件の設定
E メールを送信する条件を選択します。

［メール内容］：
［通常］か［簡易］を選択します。

- **［通常］**：本体の状態を含む詳細な情報を送信する場合に選択します。
- **［簡易］**：エラー情報などの必要最小限の情報を送信する場合に選択します。

［通知内容］：
次の項目をチェックして発生した場合に送信します。

［エラー発生時］：
自己診断でエラーが発生した場合に送信します。

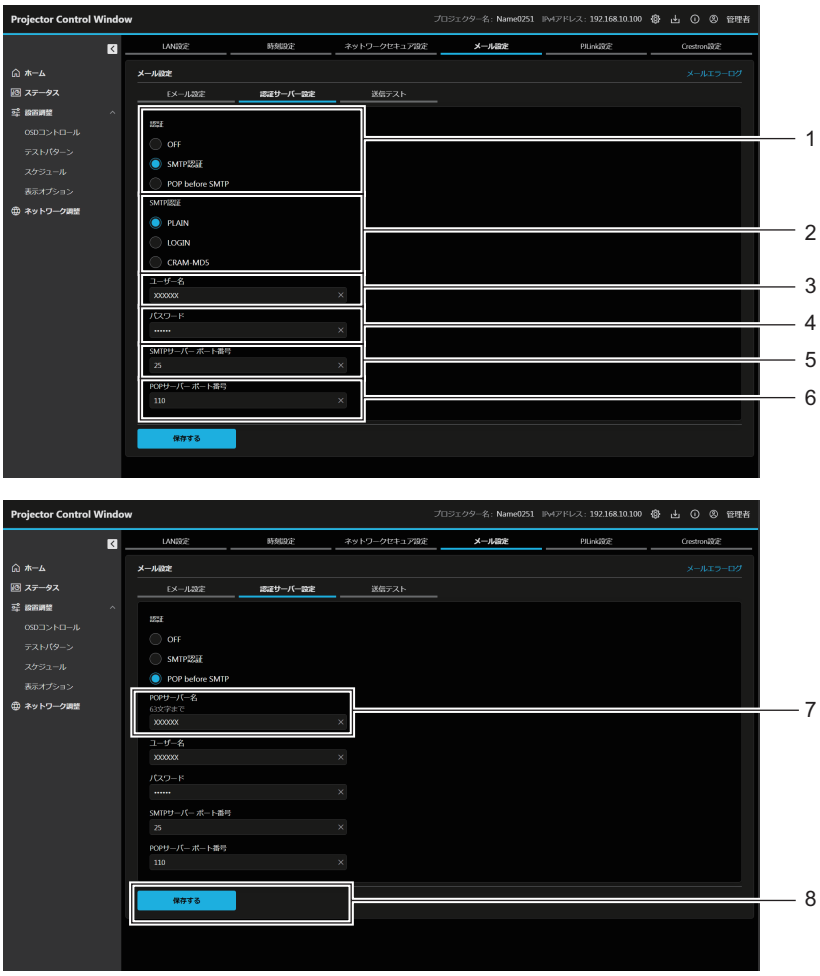
［吸気センサー温度］：
吸気温度が上欄に設定された値になった場合に送信します。

定期報告設定：
E メールを定期的に送信する場合は［通知スケジュール (曜日)］と［通知スケジュール (時間)］を設定します。
チェックの付いている曜日・時間にメールを送信します。

5　［保存する］
設定を更新するとともに、その内容をメール送信します。

[認証サーバー設定]

メール送信に POP 認証または SMTP 認証が必要な場合は認証項目を設定します。



1 **[認証]**
インターネットプロバイダー側が指示する認証方式を選択します。

2 **[SMTP 認証]**
SMTP 認証を選択した場合に設定します。

3 **[ユーザー名]**
POP サーバーまたは SMTP サーバーのユーザー名を入力します。

4 **[パスワード]**
POP サーバーまたは SMTP サーバーのパスワードを入力します。

5 **[SMTP サーバー ポート番号]**
SMTP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 25 番です）

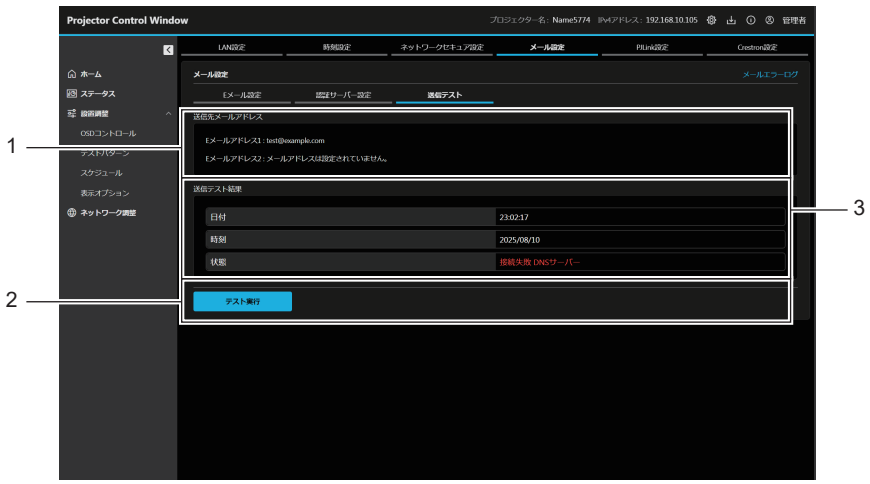
6 **[POP サーバー ポート番号]**
POP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 110 番です）

7 **[POP サーバー名]**
POP サーバー名を入力します。
使用可能文字：
英数字（A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9）
マイナス記号（-）ピリオド（.）コロン（:）

8 **[保存する]**
設定を更新します。

［送信テスト］

送信先メールアドレスに対してメール送信テストを実行します。



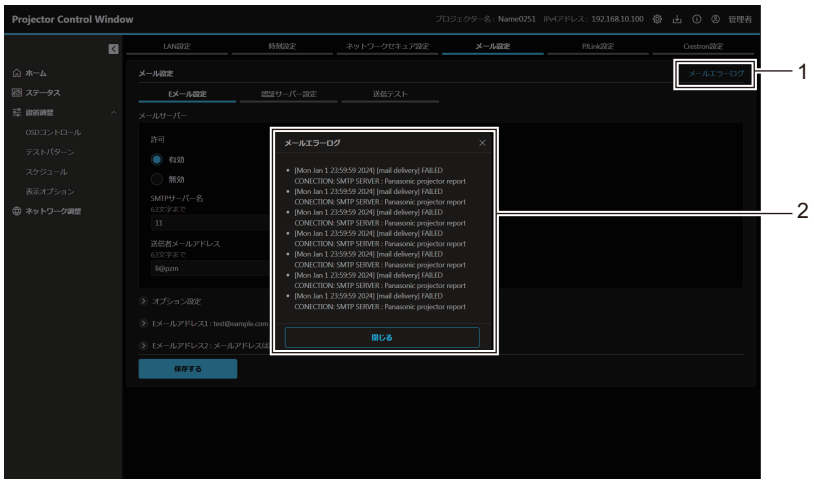
1　［送信先メールアドレス］
設定されている送信先メールアドレスが表示されます。

2　［テスト実行］
送信テストを実行します。

3　［送信テスト結果］
送信日時と送信状態が表示されます。
送信テスト結果は、テストの実行後にのみ表示されます。

［メールエラーログ］

E メールの送信に失敗した場合の、メールのエラー情報が表示されます。
［メール設定］画面右上の［メールエラーログ］をクリックします。



1　［メールエラーログ］
クリックすると、メールエラーログの画面が表示されます。

2　メールエラーログの表示例

お知らせ

- ［メールエラーログ］は、過去数千回分のアクセス / リクエストを表示します。一度に多量のアクセス / リクエストが発生した場合は、すべての情報を表示できない可能性があります。
- ［メールエラーログ］は、一定量を超えると古い情報から消えます。
- ［メールエラーログ］は、定期的に確認してください。

送信するメール内容

E メール設定時のメール送信例

E メール設定を行ったときはこのようなメールを発信します。

- 例）［メール内容］を［簡易］に設定した場合

```
=== Panasonic projector report(CONFIGURE) ===
Projector Type:
[PT-VMZ82J]
Serial No:
[PA1234567]

--- E-mail setup data
-TEMP. WARNING SETUP
MINIMUM TIME :
 at [ 60] minutes interval
INTAKE AIR TEMP. :
 Over [ 32degC / 89degF ]
-
ERROR       [ OFF ]
INTAKE TEMP. [ OFF ]

-PERIODIC REPORT
Sun[ OFF ]  Mon[ OFF ]
Tue[ OFF ]  Wed[ OFF ]
Thu[ OFF ]  Fri[ OFF ]
Sat[ OFF ]

00:00[ OFF ]  01:00[ OFF ]
02:00[ OFF ]  03:00[ OFF ]
04:00[ OFF ]  05:00[ OFF ]
06:00[ OFF ]  07:00[ OFF ]
08:00[ OFF ]  09:00[ OFF ]
10:00[ OFF ]  11:00[ OFF ]
12:00[ OFF ]  13:00[ OFF ]
14:00[ OFF ]  15:00[ OFF ]
16:00[ OFF ]  17:00[ OFF ]
18:00[ OFF ]  19:00[ OFF ]
20:00[ OFF ]  21:00[ OFF ]
22:00[ OFF ]  23:00[ OFF ]

--- Error information
FAN     [   OK   ]
LD      [   OK   ]
TEMP.   [   OK   ]
FILTER [   OK   ]
OTHER  [ FAILED ]
Error code :
 00 00 00 00
 00 00 00 02
 00 00 00 00
 00 00 00 00

--- Temperature
Intake air:
  27 degC /  80 degF
Exhaust air:
  28 degC /  82 degF
Light1:
  26 degC /  78 degF
Light2:
  26 degC /  78 degF

----- Memo -----
```

エラー時のメール送信例

エラーになったときはこのようなメールを発信します。

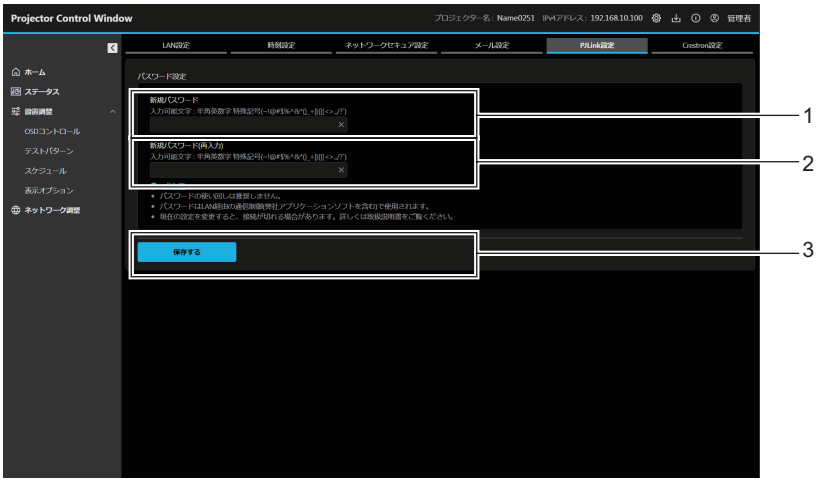
- 例）［メール内容］を［簡易］に設定した場合

```
=== Panasonic projector report(ERROR) ===
Projector Type:
[PT-VMZ82J]
Serial No:
[PA1234567]

--- Error information
FAN     [   OK   ]
LD      [   OK   ]
TEMP.   [   OK   ]
FILTER  [   OK   ]
OTHER   [ FAILED ]
Error code :
 00 00 00 00
 00 00 00 02
 00 00 00 00
 00 00 00 00

--- Temperature
Intake air:
  27 degC /  80 degF
Exhaust air:
  27 degC /  80 degF
Light1:
  26 degC /  78 degF
Light2:
  26 degC /  78 degF

----- Memo -----
```

［PJLink 設定］

PJLink パスワードを設定します。

［ネットワーク調整］→［PJLink 設定］をクリックします。



1　［新規パスワード］
新規パスワードを入力します。（半角で 32 文字まで）

2　［新規パスワード (再入力)］
新規パスワードを再度入力します。

3　［保存する］
設定を更新します。

[Crestron 設定]

Crestron 社のコントロールシステムをプロジェクターに接続するために必要な情報、および Crestron 社のコントロールシステムを用いてプロジェクターを監視 / 制御するための情報を設定します。
［ネットワーク］メニュー →［ネットワークコントロール］→［Crestron Connected™］を［オフ］に設定している場合、［Crestron 設定］は設定できません。
［ネットワーク調整］→［Crestron 設定］をクリックします。
設定が終了したら、［保存する］をクリックして設定を更新します。

[Host Type]



1 **[Control System]**
Crestron 社のコントロールシステムを使用する場合に選択します。

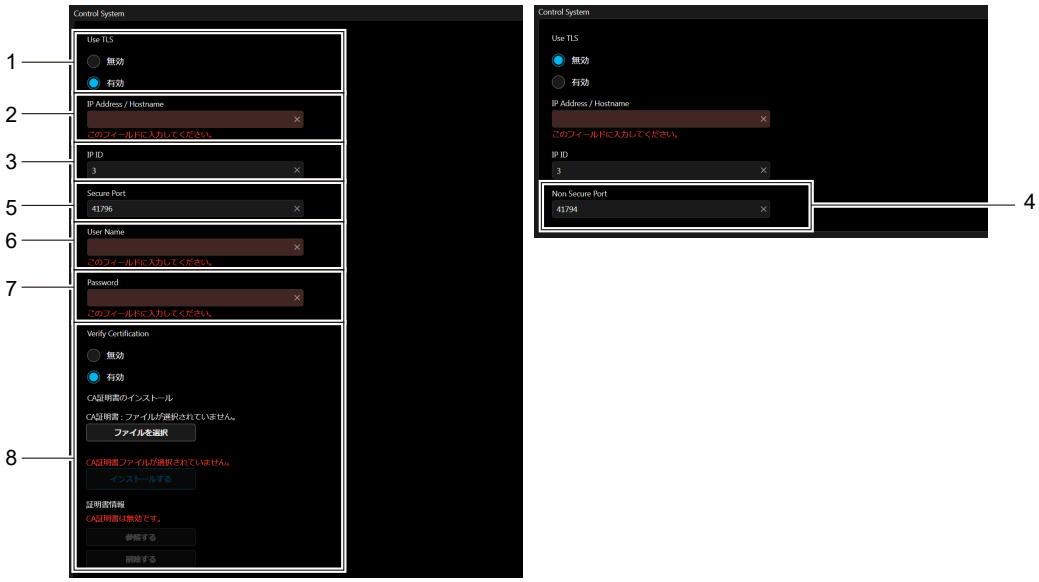
2 **[VC-4]**
VC-4 ソフトウェアコントロールプラットフォームを使用する場合に選択します。

3 **[Fusion On Prem]**
Crestron Fusion オンプレミスを使用する場合に選択します。

4 **[Fusion In The Cloud]**
Crestron Fusion クラウドを使用する場合に選択します。

■ [Control System]

コントロールシステムを、クライアントであるプロジェクターと接続するために必要な設定を行います。



1 **[Use TLS]**
セキュア通信について設定します。
[無効]：
セキュアではない通信を行います。
[有効]：
TLS（Transport Layer Security）を使用したセキュアな通信を行います。

2 **[IP Address / Hostname]**
接続先の IP アドレスはまたホスト名を入力します。

3 **[IP ID]**
ネットワーク上でプロジェクターを識別するための IP ID を設定します。（最大 4 桁までの数字）
初期値：3

4 **[Non Secure Port]**
セキュアではない通信に使用するポート番号を設定します。
初期値：41794

5 **[Secure Port]**
セキュア通信に使用するポート番号を設定します。
初期値：41796

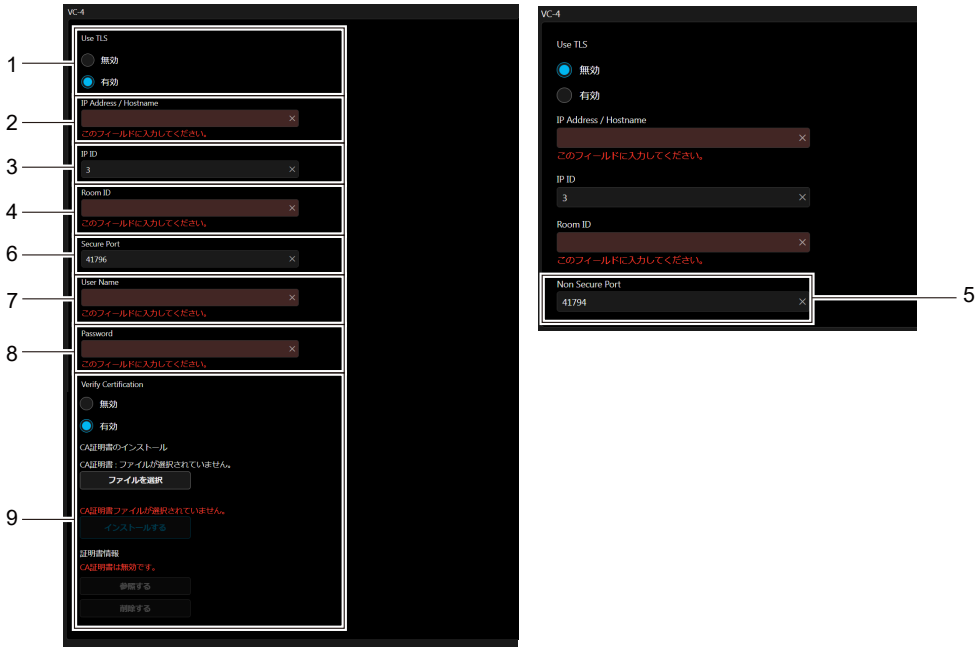
6 **[User Name]**
接続認証時に使用するユーザー名を入力します。（半角で 20 文字まで）

7 **[Password]**
接続認証時に使用するパスワードを入力します。（半角で 20 文字まで）

8 **[Verify Certification]**
セキュア通信に証明書の認証を有効にするかどうかを設定します。
[無効]：
証明書の認証を行いません。
[有効]：
証明書の認証を行います。
[ファイルを選択]：
証明書を選択します。
[インストールする]：
証明書をインストールします。
証明書のファイルを指定して［インストールする］をクリックすると、本機に証明書をインストールします。
[証明書情報]
証明書の状態を表示します。
［参照する］をクリックすると、インストール済みの証明書の情報が表示されます。
［削除する］をクリックすると、インストール済みの証明書を削除できます。

■ [VC-4]

VC-4 を、クライアントであるプロジェクターと接続するために必要な設定を行います。



1 **[Use TLS]**
セキュア通信について設定します。
[無効]：
セキュアではない通信を行います。
[有効]：
TLS（Transport Layer Security）を使用したセキュアな通信を行います。

2 **[IP Adress / Hostname]**
接続先の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

3 **[IP ID]**
ネットワーク上でプロジェクターを識別するための IP ID を設定します。（最大 4 桁までの数字）
初期値：3

4 **[Room ID]**
ネットワーク上でプロジェクターを識別するための Room ID を設定します。（半角で 32 文字まで）

5 **[Non Secure Port]**
セキュアではない通信に使用するポート番号を設定します。
初期値：41794

6 **[Secure Port]**
セキュア通信に使用するポート番号を設定します。
初期値：41796

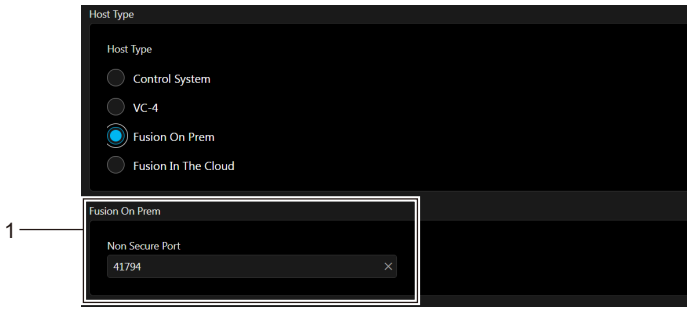
7 **[User Name]**
接続認証時に使用するユーザー名を入力します。（半角で 20 文字まで）

8 **[Password]**
接続認証時に使用するパスワードを入力します。（半角で 20 文字まで）

9 **[Verify Certification]**
セキュア通信に証明書の認証を有効にするかどうかを設定します。
[無効]：
証明書の認証を行いません。
[有効]：
証明書の認証を行います。
[CA 証明書のインストール]
[ファイルを選択]：
証明書を選択します。
[インストールする]：
証明書をインストールします。
証明書のファイルを指定して［インストールする］をクリックすると、本機に証明書をインストールします。
[証明書情報]
証明書の状態を表示します。
［参照する］をクリックすると、インストール済みの証明書の情報が表示されます。
［削除する］をクリックすると、インストール済みの証明書を削除できます。

■ [Fusion On Prem]

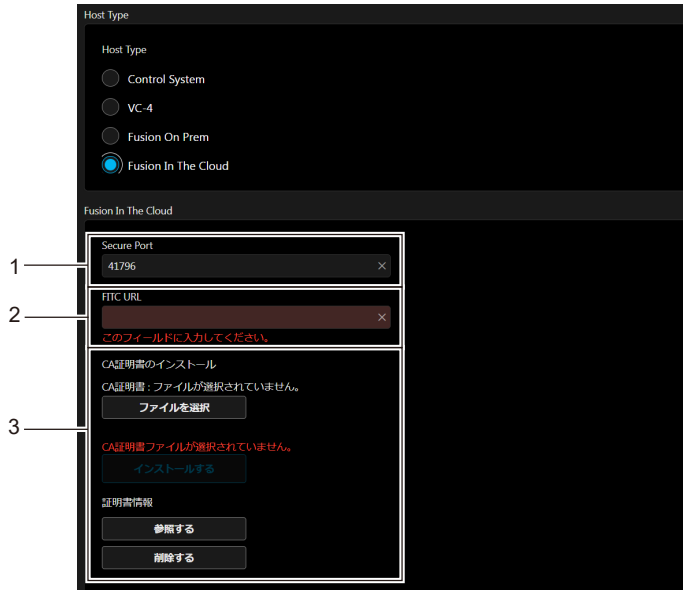
Crestron Fusion オンプレミスを使用して、サーバーに割り当てられたプロジェクターにアクセスするために必要な設定を行います。



1 **[Non Secure Port]**
セキュアではない通信に使用するポート番号を設定します。
初期値：41794

■ [Fusion In The Cloud]

Crestron Fusion クラウドを使用して、サーバーに割り当てられたプロジェクターにアクセスするために必要な設定を行います。



1 **[Secure Port]**
セキュア通信に使用するポート番号を設定します。
初期値：41796

2 **[FITC URL]**
クラウド上の Fusion サーバーの URL を入力します。

3 **[CA 証明書のインストール]**
[ファイルを選択]：
証明書を選択します。
[インストールする]：
証明書をインストールします。
証明書のファイルを指定して［インストールする］をクリックすると、本機に証明書をインストールします。
[証明書情報]
証明書の状態を表示します。
［参照する］をクリックすると、インストール済みの証明書の情報が表示されます。
［削除する］をクリックすると、インストール済みの証明書を削除できます。

お知らせ

- 本機は工場出荷時に FITC CA 証明書が内蔵されています。［インストールする］で新しい証明書をインストールすることで、FITC CA 証明書を置き換えることができます。
- FITC CA 証明書を削除した場合は、本機の電源を切って、もう一度電源を入れると再インストールされます。

[Auto Discovery]

コントロールシステムおよびアプリケーションソフトの検索プロトコルに対する待ち受け処理について設定を行います。



1 **[Auto Discovery]**
[無効]：
待ち受け処理を無効にします。
[有効]：
待ち受け処理を有効にして、プロジェクターの自動検出を可能にします。

[XiO Cloud]

XiO Cloud を利用して機器を管理する場合の設定を行います。



1 **[XiO Cloud]**
[無効]：
XiO Cloud 機能を無効にします。
[有効]：
XiO Cloud 機能を有効にします。

[Proxy]

プロキシサーバーの設定を行います。



1 **[Proxy]**
[無効]：
プロキシサーバーを使用しません。
[有効]：
プロキシサーバーを使用します。

2 **[Proxy Server Name]**
プロキシサーバー名、または IPv4 アドレスを入力します。

3 **[Proxy Server Port]**
プロキシサーバーのポート番号を入力します。

お知らせ

- ［Proxy Server Name］は、IPv6 アドレスには対応していません。

データクローニング機能を使用する

データクローニング機能の操作を行います。本機の設定や調整値などのデータを、LAN を経由して、または USB メモリーを使用して、複数台のプロジェクターにコピーできます。

■ コピーできないデータ

次の設定内容はコピーされません。プロジェクターごとに設定してください。

- ［プロジェクター設定］メニュー → ［プロジェクター ID］
- ［プロジェクター設定］メニュー → ［日付と時刻］→ ［時刻設定］
- ［プロジェクター設定］メニュー → ［ユーザーイメージ］で登録したイメージ画像
- ［プロジェクター設定］メニュー → ［データクローニング］→ ［LAN］→ ［ライトプロテクト］
- ［セキュリティー］メニュー → ［パスワード］
- ［セキュリティー］メニュー → ［操作設定］
- ［ネットワーク］メニュー → ［有線 LAN］
- ［ネットワーク］メニュー → ［プロジェクター名］
- ［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークセキュリティー］
- セキュリティーパスワード
- 操作設定パスワード
- Web 制御画面の“［アカウント設定］（管理者アカウントでアクセスした場合）”（☞ 134 ページ）で設定したパスワード
- Web 制御画面の“［Web セキュア設定］（証明書）”（☞ 136 ページ）で生成した CRT 鍵や自己署名証明書の情報、インストールしたサーバー証明書の情報
- Web 制御画面の“［ネットワークセキュア設定］”（☞ 156 ページ）
- Web 制御画面の“［E メール設定］”（☞ 157 ページ）
- Web 制御画面の“［認証サーバー設定］”（☞ 158 ページ）
- Web 制御画面の“［Crestron 設定］”（☞ 162 ページ）

■ 対応デバイスについて

- 市販の USB メモリーに対応しています。
  セキュリティー機能付きの USB メモリーには対応していません。
- FAT16 または FAT32 でフォーマットしたもの以外は使用できません。
- シングルパーティション構成にのみ対応しています。

お知らせ

- プロジェクターの機種が異なる場合、データクローニング機能は動作しません。たとえば、PT-VMZ82J のデータは他の PT-VMZ82J にコピーできますが、PT-VMZ72J にはコピーできません。同一機種間でのコピーに限られます。

LAN を経由して他のプロジェクターにデータをコピーする場合

あらかじめ、データのコピー先となるプロジェクターで、次の設定をしてください。詳しくは、“［ライトプロテクト］を設定する”（☞ 167 ページ）をご覧ください。

- ［プロジェクター設定］メニュー → ［データクローニング］→ ［LAN］→ ［ライトプロテクト］→ ［オフ］

お知らせ

- 本機でネットワーク機能を使用するためには、管理者アカウントのパスワードを設定する必要があります。（☞ 111 ページ）
  管理者アカウントのパスワードを設定していない場合（ブランクの状態になっている場合）、本機のネットワーク機能は使用できません。
  LAN を経由してデータをコピーする場合は、コピー元とコピー先のプロジェクターのパスワードを設定してください。

1)　すべてのプロジェクターを LAN ケーブルでスイッチングハブに接続する（☞ 123 ページ）

2)　すべてのプロジェクターの電源を入れる

3)　コピー元のプロジェクターで、▲▼ ボタンで［データクローニング］を選択する

4)　〈決定〉ボタンを押す

- **［パスワード］**画面が表示されます。

5)　セキュリティーパスワードを入力し、〈決定〉ボタンを押す

- **［データクローニング］**画面が表示されます。

6)　▲▼ ボタンで［LAN］を選択する

7) 〈決定〉ボタンを押す
- **［LAN データクローニング］**画面が表示されます。

8) ▲▼ ボタンで［プロジェクターを選択］を選択する

9) 〈決定〉ボタンを押す
- 同一ネットワーク内のプロジェクターが一覧で表示されます。

10) ▲▼ ボタンでコピー先のプロジェクターを選択する

11) 〈決定〉ボタンを押す
- 複数のプロジェクターを選択したい場合は、手順 **10)** ～ **11)** を繰り返してください。

12) リモコンの〈デフォルト〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

13) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- プロジェクター間でデータのコピーを開始します。
  コピーが終了すると**［LAN データクローニング］**画面に結果が一覧で表示されます。
  一覧に表示される印の意味は、次のとおりです。
  - 緑：データコピーに成功しています。
  - 赤：データコピーに失敗しています。LAN ケーブルの接続やコピー先のプロジェクターの電源状態を確認してください。
- コピー先のプロジェクターに対しては、スタンバイ状態でデータのコピーを行います。
  コピー先のプロジェクターが投写状態の場合は、LAN データクローニング要求メッセージを表示したのちに自動的にスタンバイ状態に移行して、データのコピーを行います。

14) コピー先のプロジェクターの電源を入れる
- コピーした内容がプロジェクターに反映されます。

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、［セキュリティー］メニュー →［パスワード変更］で設定したパスワードです。
  工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- データのコピー中は、コピー先のプロジェクターの光源インジケーター〈LIGHT〉・温度インジケーター〈TEMP〉が点滅します。インジケーターの点滅が終了していることを確認してから電源を入れてください。

［ライトプロテクト］を設定する

LAN 経由でのデータのコピーを、許可するかどうかを設定できます。

1) コピー先のプロジェクターで、▲▼ ボタンで［データクローニング］を選択する

2) 〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード］**画面が表示されます。

3) セキュリティーパスワードを入力し、〈決定〉ボタンを押す
- **［データクローニング］**画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［LAN］を選択する

5) 〈決定〉ボタンを押す
- **［LAN データクローニング］**画面が表示されます。

6) ▲▼ ボタンで［ライトプロテクト］を選択する

7) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

［オフ］	他のプロジェクターからの、LAN を経由した［データクローニング］の操作を許可します。
［オン］	他のプロジェクターからの、LAN を経由した［データクローニング］の操作を許可しません。 • ［オン］に設定すると、コピーができなくなります。コピーする必要がない場合は、誤ってデータが変更されないように、［オン］に設定してください。

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、［セキュリティー］メニュー → ［パスワード変更］で設定したパスワードです。
  工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀

USB を使用して他のプロジェクターにデータをコピーする場合

USB メモリーにプロジェクターのデータをコピーする

1) 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に USB メモリーを挿す

2) ▲▼ ボタンで［データクローニング］を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す
- **［パスワード］**画面が表示されます。

4) セキュリティーパスワードを入力し、〈決定〉ボタンを押す
- **［データクローニング］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで［USB メモリー］を選択する

6) 〈決定〉ボタンを押す
- **［コピータイプを選択］**画面が表示されます。

7) ▲▼ ボタンで［プロジェクター → USB メモリー］を選択する

8) 〈決定〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

9) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す
- USB メモリーへのデータのコピーが開始します。
  データのコピーが完了したら［データのコピーが完了しました。］が表示されます。

10) 〈決定〉ボタンを押す
- 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子から USB メモリーを抜きます。

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、［セキュリティー］メニュー → ［パスワード変更］で設定したパスワードです。
  工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- MEMORY VIEWER 入力を選択している場合、［USB メモリー］は設定できません。（☞ 44 ページ）
- 本機で使用できる USB メモリーや、USB メモリーの取り扱いについては、“USB メモリーを使う”（☞ 47 ページ）をご覧ください。
- USB メモリーへのデータの保存や読み出しに失敗すると、エラーメッセージが表示されます。

USB メモリーのデータをプロジェクターにコピーする

1) 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に USB メモリーを挿す

2) ▲▼ ボタンで［データクローニング］を選択する

3) 〈決定〉ボタンを押す
- **［セキュリティーパスワード］**画面が表示されます。

4) セキュリティーパスワードを入力し、〈決定〉ボタンを押す
- **［データクローニング］**画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで［USB メモリー］を選択する

6) 〈決定〉ボタンを押す
- **［コピータイプを選択］**画面が表示されます。

7) ▲▼ ボタンで［USB メモリー → プロジェクター］を選択する

8) 〈決定〉ボタンを押す
- 確認画面が表示されます。

9) ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- プロジェクターが自動的にスタンバイ状態になり、USB メモリーからプロジェクターへのデータのコピーを開始します。

10) データのコピーが完了したら〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子から USB メモリーを抜く

11) プロジェクターの電源を入れる

- コピーした内容がプロジェクターに反映されます。

お知らせ

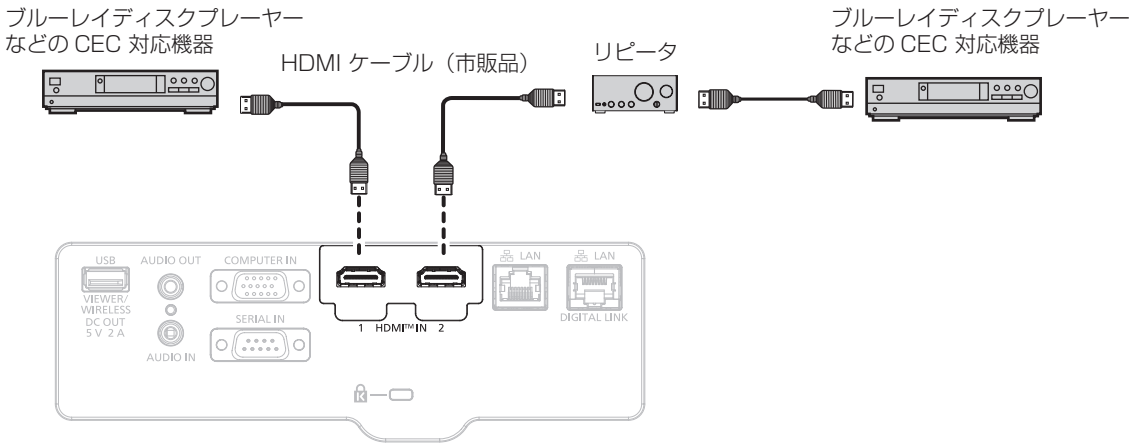
- セキュリティーパスワードは、［セキュリティー］メニュー → ［パスワード変更］で設定したパスワードです。
  工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- データのコピー中は、コピー先のプロジェクターの光源インジケーター〈LIGHT〉・温度インジケーター〈TEMP〉が点滅します。インジケーターの点滅が終了していることを確認してから電源を入れてください。

HDMI CEC 機能を使う

HDMI の CEC 機能は、本機のリモコンを使用して CEC 対応機器の操作を行ったり、本機と CEC 対応機器との間で電源入 / 切の状態を連動させたりすることができる機能です。

CEC 対応機器を接続する

〈HDMI IN 1〉端子または〈HDMI IN 2〉端子に CEC 対応機器を接続します。



CEC 対応機器との接続（例）

本機と CEC 対応機器の設定

HDMI CEC 機能を使用する前に、本機側と CEC 対応機器側で設定を行う必要があります。

- CEC 対応機器側：HDMI CEC 機能が動作するように設定します。
- 本機側：［プロジェクター設定］メニュー → ［HDMI CEC］を［オン］に設定します。（☞ 99 ページ）

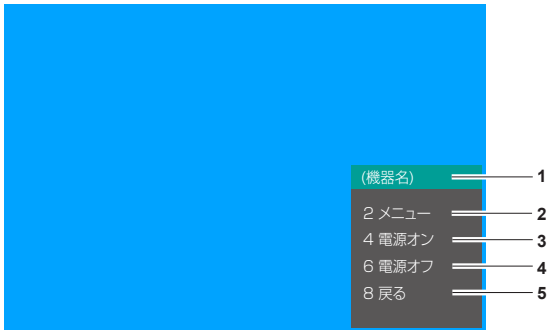
お知らせ

- CEC 対応機器の電源を入れたのちに本機の電源を入れ、HDMI1 入力または HDMI2 入力を選択して CEC 対応機器からの映像が正しく表示されることを確認してください。

本機のリモコンで CEC 対応機器を操作する

HDMI CEC 操作画面から CEC 対応機器の操作メニューを呼び出すことで、本機のリモコンを使用して機器操作ができます。リモコンの数字ボタン（<2>、<4>、<6>、<8>）で HDMI CEC 操作画面の表示項目を選択してください。

HDMI CEC 操作画面を表示させる手順については、“CEC 対応機器を操作する場合”（☞ 100 ページ）をご覧ください。



HDMI CEC 操作画面

1 **操作する機器名を表示します。**

2 **［メニュー］**
CEC 対応機器の操作メニューを呼び出します。

3 **［電源オン］**
機器の電源をオンにします。

4 **［電源オフ］**
機器の電源をオフにします。

5 **［戻る］**
CEC 対応機器の操作メニューを一つ前の表示に戻します。

お知らせ

- HDMI CEC 操作画面から CEC 対応機器の操作メニューを呼び出せない場合は、メニューコードの設定を変更してください。操作について、詳しくは“メニューコードを変更する場合”（☞ 100 ページ）をご覧ください。

- CEC 対応機器の操作メニューを操作できない場合は、［プロジェクター設定］メニュー → ［HDMI CEC］を［オフ］から［オン］に設定し直してみてください。改善される場合があります。
- HDMI CEC 操作画面を表示中は、リモコンの数字ボタンのみを使用でき、その他のボタン操作は無効になります。

CEC 対応機器のメニュー操作

CEC 対応機器の操作メニューが表示されている場合、本機のリモコンの▲▼◀▶ボタンおよび ＜決定＞ ボタンでメニュー操作が可能です。

電源連動の動作について

［プロジェクター設定］ メニュー → ［HDMI CEC］ → ［プロジェクター -> 機器］ / ［機器 -> プロジェクター］ を［無効］ 以外に設定することで、以下の動作を行います。

［プロジェクター -> 機器］ の連動

■ 設定が ［電源オフ］、［電源オン / オフ］ の場合

- 本機の電源を切ってスタンバイ状態にすると、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に接続されているすべての CEC 対応機器がスタンバイ状態になります。

■ 設定が ［電源オン / オフ］ の場合

- 本機の電源を入れて投写を開始すると、〈HDMI IN 1〉端子または〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器の電源が入ります。

［機器 -> プロジェクター］ の連動

■ 設定が ［電源オン］、［電源オン / オフ］ の場合

- 本機がスタンバイ状態のとき、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器の電源を入れると、本機の電源が入って投写を開始するとともに、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。
- 本機がスタンバイ状態のとき、CEC 対応機器が再生動作を始めると、本機の電源が入って投写を開始するとともに、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。
- 本機が電源オン状態のとき、CEC 対応機器が再生動作を始めると、その CEC 対応機器が接続されている入力に切り換わります。

■ 設定が ［電源オン / オフ］ の場合

- 本機が電源オン状態のとき、〈HDMI IN 1〉端子、〈HDMI IN 2〉端子に接続されている CEC 対応機器の電源を切ると、本機の電源が切れてスタンバイ状態になります。

お知らせ

- ［機器 -> プロジェクター］ を ［電源オン / オフ］ に設定した場合の連動動作は、CEC 対応機器がそれぞれの動作に対応している場合に限ります。
- 本機または CEC 対応機器が起動中の場合など、機器の状態によっては正しく動作しないことがあります。
- 接続された CEC 対応機器によっては、記載されている電源連動の動作に対応していないことがあります。CEC 対応機器について、すべての動作を保証するものではありません。

ファームウェアをアップデートする

本機は、LAN を経由して、または USB メモリーを使用して、ファームウェアをアップデートできます。
アップデートできるファームウェアについては、次の「パナソニック 業務用ディスプレイ / プロジェクター テクニカルサポートサイト」からダウンロードできます。現在のファームウェアバージョンよりも新しいものが公開されている場合に、お客様ご自身でファームウェアをアップデートできます。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector/pass
なお、アップデートできるファームウェアの有無を確認したり、ファームウェアをダウンロードしたりするには、PASS*1 へ会員登録いただいたうえでログインする必要があります。
*1 「PASS」とは、パナソニック 業務用ディスプレイ / プロジェクター テクニカルサポートサイトの名称です。

■ アップデートできるファームウェア

- メインバージョン

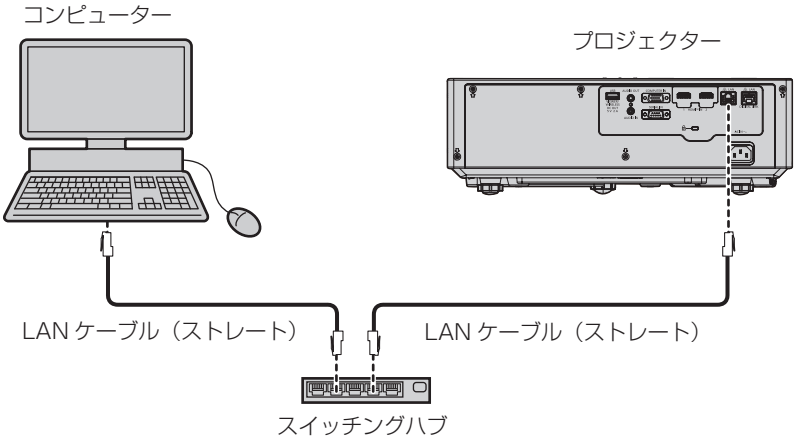
■ ファームウェアバージョンの確認方法

現在のファームウェアバージョンは、リモコンの〈ステータス〉ボタンを押して **[ステータス]** 画面を表示することで確認できます。
［プロジェクター設定］メニュー → ［ステータス］でも確認できます。



LAN を経由してファームウェアをアップデートする場合

ネットワーク接続例



お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- 有線 LAN 接続でネットワーク接続する場合は、LAN ケーブルが必要です。
- LAN ケーブルは、本機の〈LAN〉端子または〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続してください。
- 〈LAN〉端子を使用してネットワーク接続する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［LAN］または［LAN & DIGITAL LINK］に設定してください。
- プロトコル「IPv6」を使用してアップデートすることはできません。［ネットワーク］メニュー → ［有線 LAN］ → ［IP バージョン］を［IPv4］または［IPv4 & IPv6］のいずれかに設定し、「IPv4」の IP アドレスを付与してください。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子を使用してネットワーク接続する場合は、［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［DIGITAL LINK］または［LAN & DIGITAL LINK］に設定してください。

- ［ネットワーク］メニュー → ［イーサネットタイプ］を［LAN & DIGITAL LINK］に設定すると、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子が本機の内部で接続された状態になります。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子を直接 LAN ケーブルで接続しないでください。また、スイチングハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。
- 〈LAN〉端子に接続する LAN ケーブルは、ストレートまたはクロス結線で、CAT5 以上対応のものをご使用ください。システムの構成によってストレート / クロスのいずれか、または両方のケーブルを使用可能かが異なりますので、ネットワーク管理者にご確認ください。本機については、ケーブルの種類（ストレート / クロス）を自動的に判別します。
- 〈LAN〉端子に接続する LAN ケーブルは 100 m 以下のものをご使用ください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
  - CAT5e 以上の規格に適合
  - シールドタイプ（コネクターを含む）
  - ストレート結線
  - 単線
  - 芯線の直径が AWG24 以上の太さ（AWG24、AWG23 など）
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。ツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にスイチングハブを使用しないでください。

アップデートに使用するコンピューター

次の OS が動作する、LAN 端子を有するコンピューターを準備してください。

- Microsoft Windows 11
  Windows 11 Pro 64 bit、Windows 11 Home 64 bit
- Microsoft Windows 10
  Windows 10 Pro 32 bit/64 bit、Windows 10 32 bit/64 bit

お知らせ

- 本項に記載の条件を満たす環境以外で使用した場合、および自作コンピューターで使用した場合の動作は保証できません。
- 本項に記載の条件を満たす環境で使用した場合であっても、すべてのコンピューターで動作を保証するものではありません。
- 次の場合、プロジェクターとの接続に失敗したり、ファームウェアのデータ転送に失敗したりすることがあります。失敗した場合は、ソフトウェアの設定を変更したうえで、または Windows OS の［電源オプション］の設定を変更したうえで、再度アップデートを試みてください。
  - ファイヤーウォールなどのセキュリティーソフトや、LAN アダプターのユーティリティーソフトがインストールされている場合
  - 他のソフトウェアが起動または動作している場合
  - コンピューターがスリープ / 休止状態になった場合

ファームウェアを入手する

次の Web サイトから、本機に対応したファームウェアアップデートツール（zip 形式の圧縮ファイル）をダウンロードしてください。

https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector/pass

- ファイル名（例）：FirmUpdateTool_VMZ82_101.zip
  （バージョン 1.01 の PT-VMZ82J/VMZ72J/VMZ62J シリーズ用アップデートツール）

プロジェクターの設定内容を確認する

アップデート対象のプロジェクターの設定内容を事前に確認してください。

- ［プロジェクター設定］メニュー → ［ECO マネージメント］→ ［スタンバイモード］→ ［ノーマル］に設定してください。
- ［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークコントロール］→ ［コマンドポート］
- ［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークステータス］→ ［有線 LAN（IPv4）］
  - ［DHCP］
  - ［IP アドレス］
  - ［サブネットマスク］
  - ［デフォルトゲートウェイ］
- 管理者アカウントの［ユーザー名］と［パスワード］

コンピューターの設定を確認する

アップデートに使用するコンピューターのネットワーク設定を確認し、アップデート対象のプロジェクターとネットワーク接続できるようにしてください。

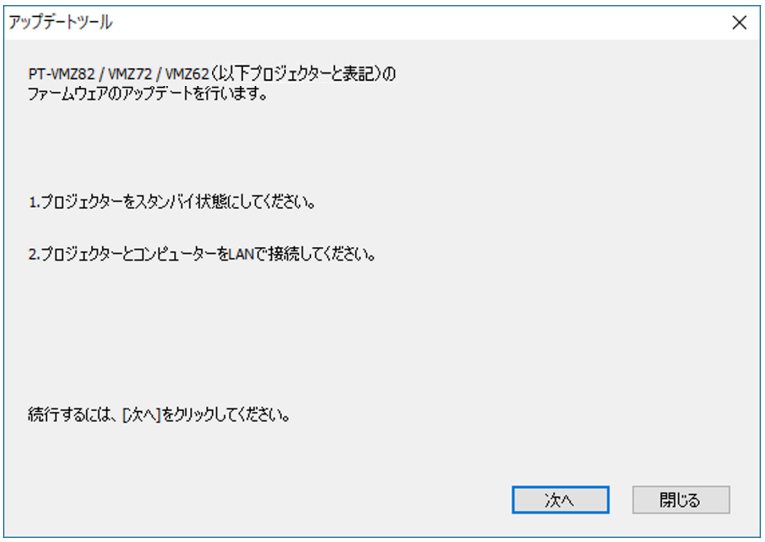
ファームウェアをアップデートする

1)　Web サイトからダウンロードした圧縮ファイルを解凍する

- ファームウェアアップデートツール（exe 形式の実行ファイル）が生成されます。
  ファイル名（例）：FirmUpdateTool_VMZ82_101.exe
  （バージョン 1.01 の PT-VMZ82J/VMZ72J/VMZ62J シリーズ用アップデートツール）

2)　解凍して得られた実行ファイルをダブルクリックする

- アップデートツールが起動して、確認画面が表示されます。



3)　プロジェクターの状態を確認する

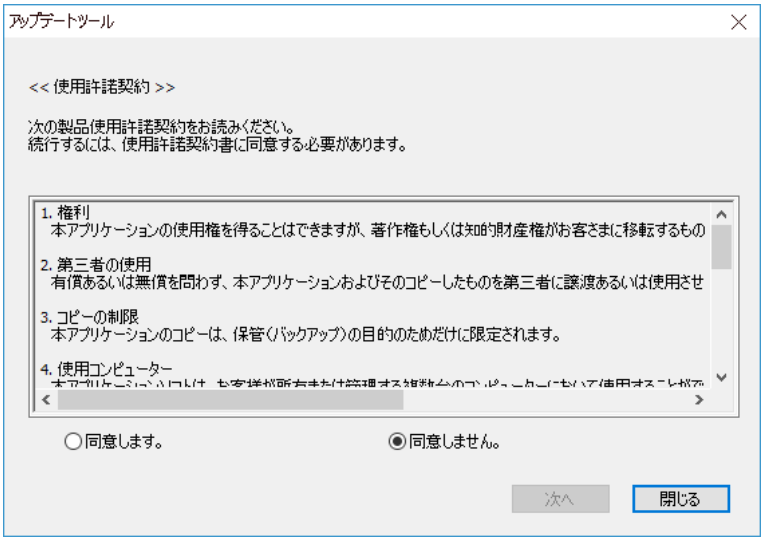
- アップデート対象のプロジェクターがスタンバイ状態になっていることを確認してください。

4)　接続状態を確認する

- アップデート対象のプロジェクターとアップデートに使用するコンピューターが、正しく LAN に接続されていることを確認してください。

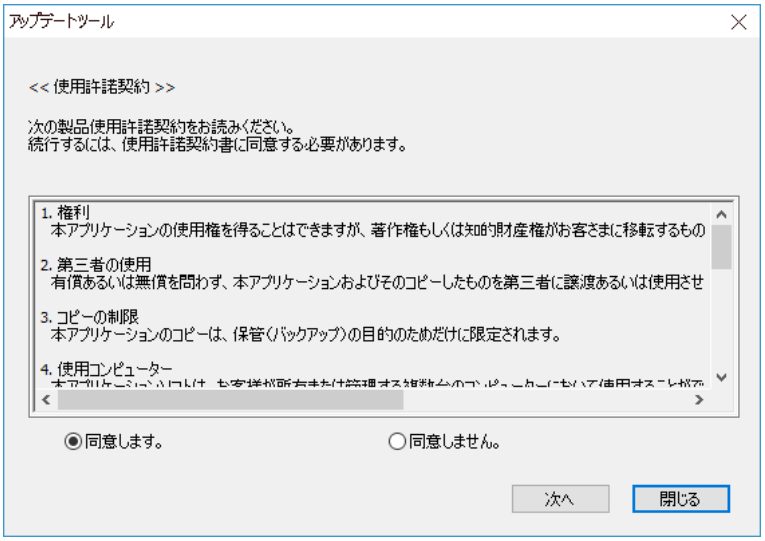
5)　［次へ］をクリックする

- 使用許諾契約の画面が表示されます。
- 使用許諾契約の内容を確認してください。



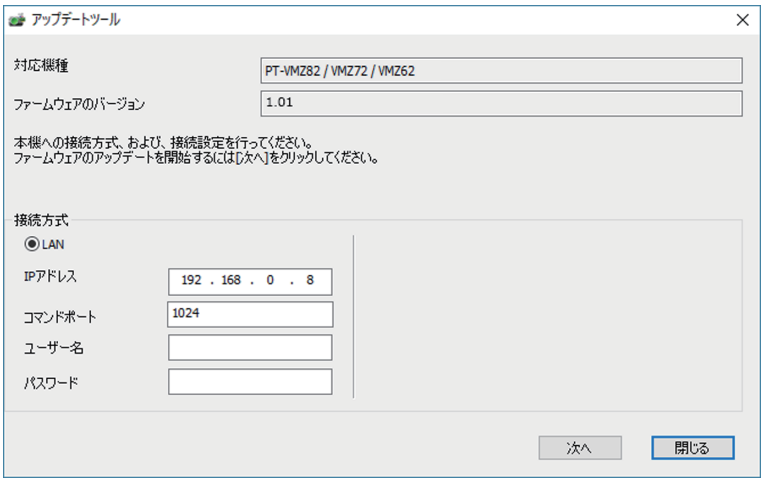
- ［閉じる］をクリックすると、アップデートツールが終了します。

6) ［同意します］にチェックを入れる



7) ［次へ］をクリックする

- 接続設定画面が表示されます。



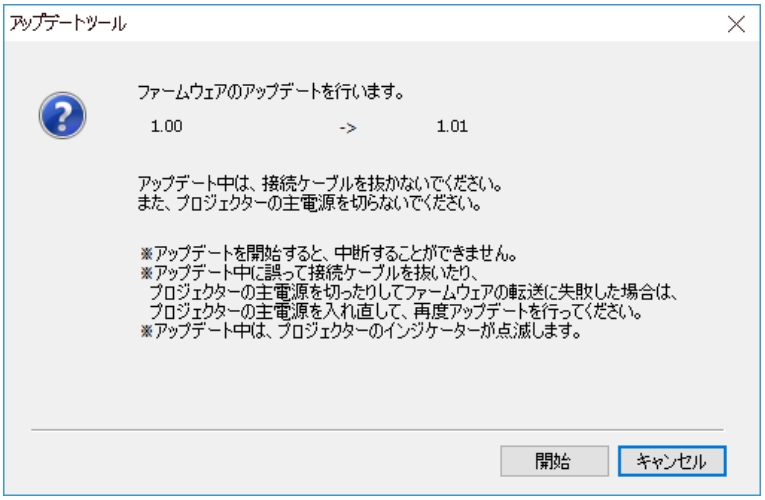
8) プロジェクターの設定内容を入力する

- アップデート対象のプロジェクターに設定されている内容を入力してください。

項目	内容
［IP アドレス］	［ネットワーク］メニュー →［ネットワークステータス］→［有線 LAN（IPv4）］→［IP アドレス］
［コマンドポート］	［ネットワーク］メニュー →［ネットワークコントロール］→［コマンドポート］
［ユーザー名］	管理者アカウントの［ユーザー名］
［パスワード］	管理者アカウントの［パスワード］

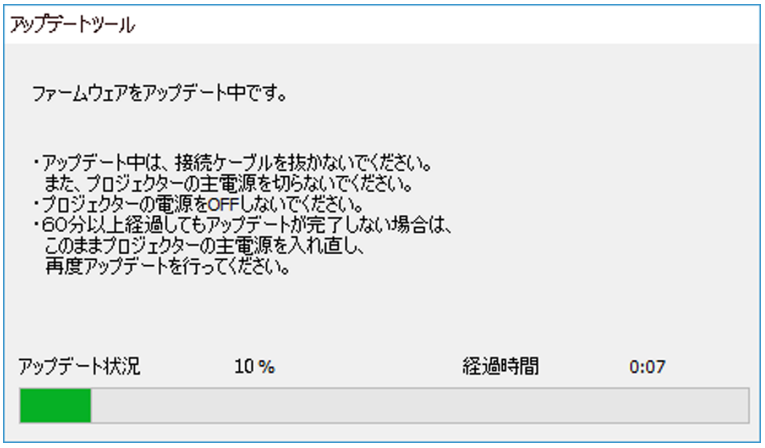
9) ［次へ］をクリックする

- アップデート確認画面が表示されます。



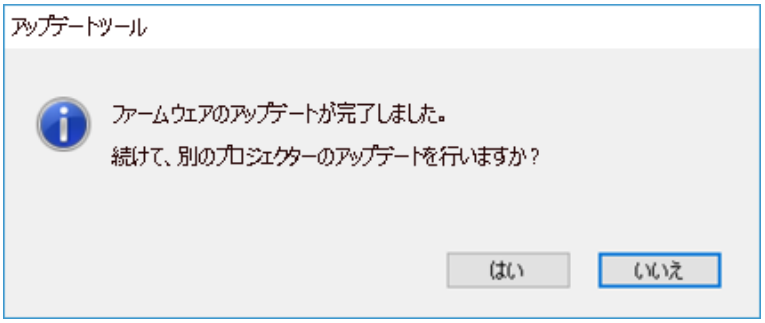
10) ［開始］をクリックする

- アップデートを開始します。
- アップデート中は、プロジェクターの温度インジケーター〈TEMP〉と光源インジケーター〈LIGHT〉が交互に赤色点滅します。
- アップデート状況表示画面で、経過時間やおおよその進捗を確認できます。所要時間は約 20 分です。



11) アップデートの完了を確認する

- アップデートが完了すると、完了確認画面が表示されます。



- 引き続き別のプロジェクターのファームウェアをアップデートする場合は［はい］をクリックしてください。手順 **7)** の接続設定画面が表示されます。
- 終了する場合は［いいえ］をクリックして、アップデートツールを終了します。

12) ファームウェアバージョンを確認する

- プロジェクターの電源を入れ、**［ステータス］**画面でファームウェアバージョンを確認してください。

お願い

- アップデート中にプロジェクターの主電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。

お知らせ

- 60 分以上経過してもアップデートが完了しない場合は、プロジェクターの電源を入れ直して、アップデートを最初からやり直してください。
- アップデート中に停電などでプロジェクターの電源が切れた場合、電源復旧後またはプロジェクターの電源を入れ直した直後に自動的にアップデートを再開します。

USB メモリーを使用してファームウェアをアップデートする場合

対応デバイスについて

- 市販の USB メモリーに対応しています。
  セキュリティー機能付きの USB メモリーには対応していません。
- FAT16 または FAT32 でフォーマットしたもの以外は使用できません。
- シングルパーティション構成にのみ対応しています。

ファームウェアを入手する

次の Web サイトから、本機に対応したファームウェアアップデートツール（zip 形式の圧縮ファイル）をダウンロードしてください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector/pass

- ファイル名（例）
  - VMZ82_USER_101.zip
    （バージョン 1.01 の PT-VMZ82J/VMZ72J/VMZ62J シリーズ用ファームウェアデータ）

USB メモリーを準備する

アップデートに使用する USB メモリーを準備します。

1) Web サイトからダウンロードした圧縮ファイルを解凍する

- ファームウェアデータ（rom 形式のファイル）が生成されます。
  ファイル名（例）
  - VMZ82_USER_101.rom
    （バージョン 1.01 の PT-VMZ82J/VMZ72J/VMZ62J シリーズ用ファームウェアデータ）

2) 解凍して得られたファームウェアデータを USB メモリーに保存する

- フォーマット済み USB メモリーのルートに保存してください。

お知らせ

- アップデートに使用するファームウェアデータ以外は USB メモリーから削除してください。
- USB メモリーの取り扱いについては、“USB メモリーを使う”（☞ 47 ページ）をご覧ください。

OSD を操作してアップデートする

1) プロジェクターの〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に、ファームウェアデータを保存した USB メモリーを挿す

2) プロジェクターの電源を入れる

3) リモコンの〈メニュー〉ボタンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- **［メインメニュー］**画面が表示されます。

4) ▲▼ ボタンで［プロジェクター設定］を選択する

5) 〈決定〉ボタンを押す

- **［プロジェクター設定］**画面が表示されます。

6) ▲▼ ボタンで［ユーザーアップデート］を選択する

7) 〈決定〉ボタンを押す

- **［パスワード］**画面が表示されます。

8) セキュリティーパスワードを入力し、〈決定〉ボタンを押す

- **［ユーザーアップデート］**画面が表示されます。

9)　メインバージョンを確認して、〈決定〉ボタンを押す

- アップデートを開始します。

10) アップグレード完了を確認したうえ、〈決定〉ボタンを押す

- プロジェクターはスタンバイ状態になります。

11) プロジェクターの電源を入れる

- **［ユーザーアップデート］**画面が表示され、メインバージョンを確認します。また、**［ステータス］**画面でもメインバージョンを確認することができます。

12) リモコンまたは本体操作部のいずれかのボタンを押す

お願い

- アップデート中にプロジェクターの主電源を切らないでください。

お知らせ

- セキュリティーパスワードは、［セキュリティー］メニュー → ［パスワード変更］で設定したパスワードです。
  工場出荷時の初期パスワード：▲▶▼◀▲▶▼◀
- 本機を電源を入れたとき、［セキュリティー］メニュー → ［パスワード］を［オフ］に設定した場合、ファームウェアデータを保存した USB メモリーを初めてプロジェクターに挿入すると、**［ユーザーアップデート］**画面が表示されます。画面の指示に従って、ユーザーアップデートを実行します。
- 次の場合は、プロジェクターの電源を入れ直して、アップデートを最初からやり直してください。
  - 60 分以上経過してもアップデートが完了しない場合
  - アップデート中に、停電などでプロジェクターの電源が切れた場合

第６章　点検とお手入れ

異常時の点検方法とお手入れ / 部品交換の方法について説明しています。

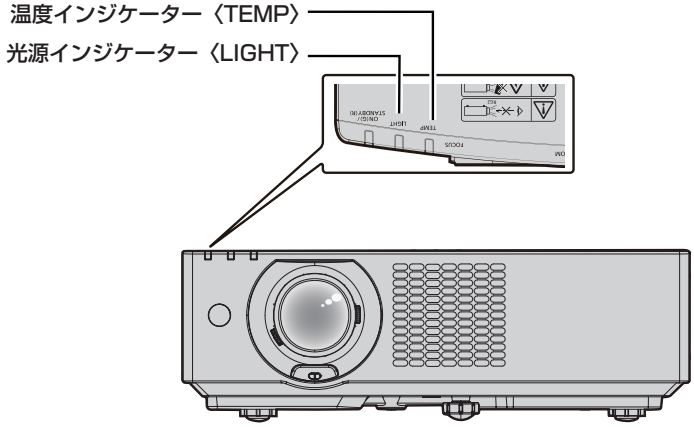
光源 / 温度インジケーター

インジケーターが点灯したら

本機内部に異常が発生すると、光源インジケーター〈LIGHT〉・温度インジケーター〈TEMP〉が点灯や点滅でお知らせします。インジケーターの状態を調べて、次の処置を行ってください。

お願い

- 処置を行う際に電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 43 ページ）の手順を必ずお守りください。



光源インジケーター〈LIGHT〉

点灯状況	赤色点滅 （1 回）	赤色点滅 （2 回）	赤色点滅 （3 回）
状態	光源の一部の素子が故障して、光出力が低下している	蛍光体ホイールが故障して、使用している途中に光源が消灯した、または光源が点灯しない	光源が点灯しない、または使用している途中に光源が消灯した
処置方法	電源プラグをコンセントから抜いて、もう一度電源を入れてください。光源インジケーター〈LIGHT〉が点灯や点滅をしなくなる可能性があります。		

お知らせ

- 処置をしても光源インジケーター〈LIGHT〉が点灯や点滅する場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。

温度インジケーター〈TEMP〉

点灯状況	赤色点滅 （3 回）		赤色点滅 （2 回）	
状態	フィルターが目づまりしている。 あるいは、内部が高温になっている（警告）	フィルターが目づまりしている あるいは、内部が高温になっている（スタンバイ状態）	光源ファン回転異常 内部が高温になっている（警告）	本機が異常を検出し、電源を入れることができません。
お調べください	• 吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。 • 気温の高い所で使用していませんか。 • エアフィルターユニットが汚れていませんか。		—	
処置方法	• 吸気口 / 排気口をふさいでいるものを取り除いてください。 • 適切な使用環境温度下 *1 でご使用ください。 • 海抜 2 700 m 以上の場所では使用しないでください。 • エアフィルターユニットのお手入れ、または交換をしてください。（☞ 184 ページ）		• 電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。	

*1　本機の使用環境温度について、詳しくは“使用温度”（☞ 199 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 処置をしても温度インジケーター〈TEMP〉が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。

お手入れ / 部品交換

お手入れ / 部品交換の前に

- お手入れや部品交換を行うときは、必ず電源を切ってください。
- 電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 43 ページ）の手順を必ずお守りください。

お手入れ

外装ケース

汚れやほこりはやわらかい乾いた布でふき取ってください。

- 汚れがひどいときは水にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤、または台所用洗剤を使用しないでください。使用すると外装ケースが変質するおそれがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

レンズの前面

レンズの前面に付着したごみやほこりは、清潔なやわらかい乾いた布でふき取ってください。

- 毛羽立った布、油分・水分を含んだ布、ほこりの付いた布でふかないでください。
- レンズは傷つきやすいため、強くこすらないでください。

お願い

- レンズに堅いものを当てたり、レンズの前面を強くふいたりすると傷つくおそれがあります。取り扱いにはご注意ください。



投写中にレンズをふかない
投写中にレンズの前面をふくと、レンズに異物が固着したり、レンズの表面を傷つけたりすることがあります。

エアフィルターユニット

本機に標準で取り付けられているエアフィルターユニットのお手入れのしかたです。
このエアフィルターユニットは、別売品の交換用フィルターユニット（品番：ET-RFV500）と同じものです。
次の場合は、エアフィルターユニットを取り外して、エアフィルターの目づまり状態を確認してください。エアフィルターが目づまりしている場合は、エアフィルターユニットのお手入れを行ってください。

- 投写画面上に「エアフィルター クリーニング」というメッセージが表示された場合
- 温度インジケーター〈TEMP〉が赤色点滅（3 回）（☞ 180 ページ）している場合
- 投写画面上にフィルターのお手入れを促すメッセージ［フィルターカウンターが設定時間に到達しました］が表示された場合

お願い

- フィルターのお手入れを行う前に、必ず電源を切ってください。（☞43 ページ）
- プロジェクター本体の安定を確保して、エアフィルターユニットなどが落下しても安全な場所で実施してください。
- エアフィルターユニットの短辺側の端面にあるスポンジ (図 1) が外れないようにご注意ください。

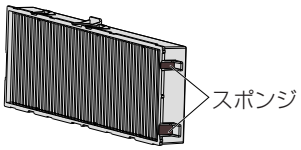


図 1

お知らせ

- フィルターの使用時間は、［プロジェクター設定］メニュー → ［フィルターカウンター］（☞ 96 ページ）で確認できます。
- 洗浄によるリサイクルは 2 回を目安に新品と交換することをお勧めします。
- 洗浄後のフィルターの性能は、初期に比べて低下することがあります。
- エアフィルターユニットが目づまりするまでの時間は、使用環境によって大きく異なります。

エアフィルターユニットを取り外す

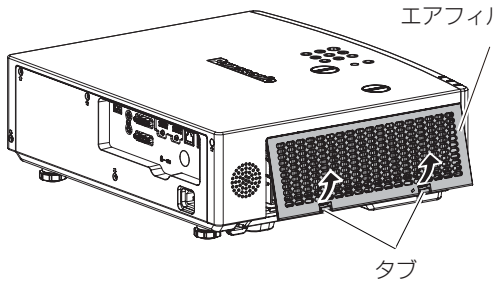


図 1

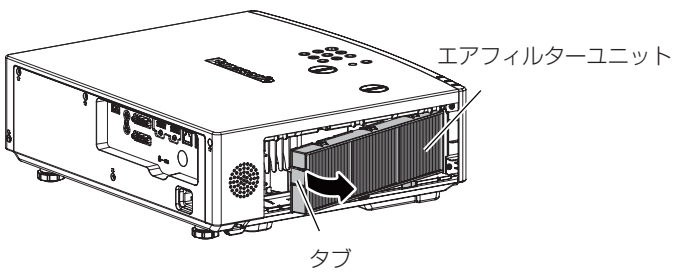


図 2

1)　プロジェクターの電源を切る

- 電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 43 ページ）の手順を必ずお守りください。

2)　エアフィルターカバーを取り外す（図 1）

- エアフィルターカバーのタブを図の上方向に押しながら本体のフックから外し、図の矢印方向に開けます。

3)　エアフィルターユニットを取り出す（図 2）

- エアフィルターユニットの左側のタブに指をかけて、図の矢印の方向に開け、取り出します。
- エアフィルターユニットを取り出したあと、本体側エアフィルターユニット収納部にごみやほこりがある場合は取り除いてください。
- エアフィルターユニットを取り外したら、次の“エアフィルターユニットをお手入れする”（☞ 182 ページ）に進んでください。

お知らせ

- プロジェクターを使用するときは、必ずエアフィルターユニットを取り付けてください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。

エアフィルターユニットをお手入れする

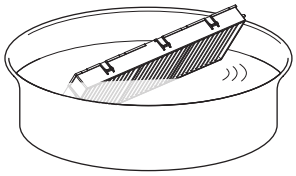


図1

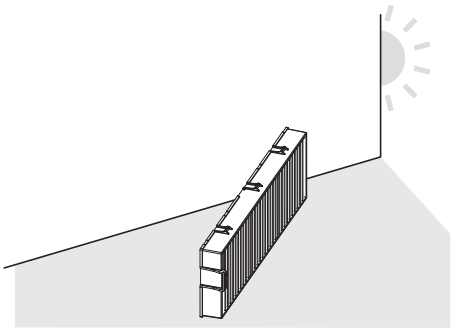


図2

1)　エアフィルターユニットを洗浄する（図 1）

i)　エアフィルターユニットを、水またはぬるま湯につけ、軽くゆすぎます。

- ブラシなどの洗浄器具は使用しないでください。
- ゆすぐ際は、エアフィルターユニットの枠を持ち、フィルター部に強い力をかけないようにしてください。

ii)　2 ～ 3 回、新しい水ですすぎ洗いをします。

- すすぎが不十分だとにおいの原因になります。

2)　エアフィルターユニットを乾燥させる（図 2）

- ほこりが少なく、直射日光の当たらない風通しの良い所で自然乾燥させます。
- ドライヤーなどの乾燥器具を用いて乾燥させないでください。
- エアフィルターユニットが乾燥したら、次の“エアフィルターユニットを取り付ける”（☞ 183 ページ）に進んでください。

お願い

- エアフィルターユニットを洗浄した際は、十分に乾燥させてから本体に取り付けてください。ぬれたまま取り付けると、感電や故障の原因になります。
- エアフィルターユニットを分解しないでください。

お知らせ

- エアフィルターユニットが破損した場合や洗っても汚れが目立つ場合は、別売品の新しい交換用フィルターユニット（品番：ET-RFV500）に交換してください。

エアフィルターユニットを取り付ける

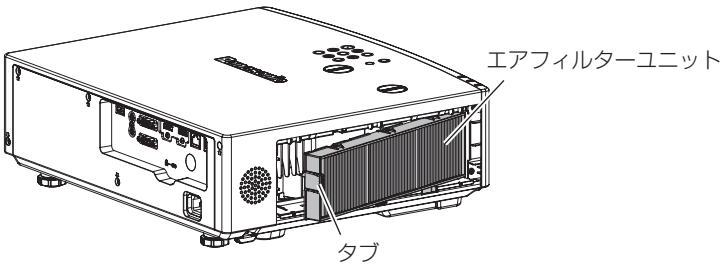


図 1

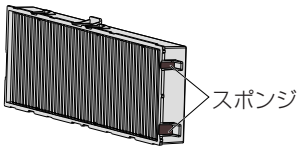


図 2

1)　エアフィルターユニットをプロジェクター本体に取り付ける（図 1）

- エアフィルターユニットのタブを図の左側になるように持ち、図の右側から先に入れた後、タブをカチッと音がするまで押し込みます。
- プロジェクター本体への取り付けの際に、エアフィルターユニットの短辺側の端面にあるスポンジ (図 2) が外れないようにご注意ください。
- 押し込む際は、フィルターのプリーツ（ひだ）を押さないようご注意ください。

2)　エアフィルターカバーを取り付ける

- “エアフィルターユニットを取り外す”（☞ 182 ページ）の手順 **2)** と逆の手順でエアフィルターカバーを閉じます。カチッと音がするまでしっかりと押し込んでください。
- エアフィルターユニットをプロジェクター本体に取り付けたら、次の“フィルターカウンターをリセットする”（☞ 183 ページ）に進んでください。

お知らせ

- プロジェクターを使用するときは、必ずエアフィルターユニットを取り付けてください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。

フィルターカウンターをリセットする

1)　プロジェクターの電源を入れる

2)　リモコンの〈メニュー〉ボタンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- **メインメニュー**画面が表示されます。

3)　▲▼ ボタンで［プロジェクター設定］を選択する

4)　〈決定〉ボタンを押す

- **［プロジェクター設定］**画面が表示されます。

5)　▲▼ ボタンで［フィルターカウンター］を選択する

6)　〈決定〉ボタンを押す

- **［フィルターカウンター］**画面が表示されます。

7)　▲▼ ボタンで［フィルターカウンターリセット］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

8)　確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで［はい］を選択し、〈決定〉ボタンを押す

- ［プロジェクター設定］メニュー → ［フィルターカウンター］ → ［フィルターカウンター］の表示が［0 時間］になります。

お知らせ

- フィルターカウンターをリセットせずに使用すると、実際のフィルター使用時間（カウンター数値）が確認できなくなります。

部品交換

エアフィルターユニット

エアフィルターユニットのお手入れをしても、汚れが目立つようになったら交換時期です。
交換用フィルターユニット（品番：ET-RFV500）は別売品です。ご購入の際は、販売店にご相談ください。

お願い

- フィルターの交換を行う前に、必ず電源を切ってください。（☞ 43 ページ）
- プロジェクター本体の安定を確保して、エアフィルターユニットなどが落下しても安全な場所で実施してください。

お知らせ

- エアフィルターユニットの交換サイクルは、使用環境によって大きく異なります。

エアフィルターユニットの交換手順

1) エアフィルターユニットを取り外す

- “エアフィルターユニットを取り外す”（☞ 182 ページ）をご覧ください。

2) 別売品の交換用フィルターユニット（品番：ET-RFV500）をプロジェクター本体に取り付ける

- “エアフィルターユニットを取り付ける”（☞ 183 ページ）をご覧ください。

3) フィルターカウンターをリセットする

- “フィルターカウンターをリセットする”（☞ 183 ページ）をご覧ください。

お願い

- プロジェクターの電源を入れるときは、必ずエアフィルターユニットを取り付けて使用してください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。
- フィルターカウンターをリセットせずに使用すると、実際のフィルター使用時間（カウンター数値）が確認できなくなります。

故障かな！？

もう一度次の点をお調べください。詳しくは、対応するページをご覧ください。

症状	ここをお調べください	ページ
電源が入らない	• 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか。	—
	• 電源プラグを差し込んでいるコンセントは通電していますか。	—
	• ブレーカーが落ちていませんか。	—
	• 光源インジケーター〈LIGHT〉、温度インジケーター〈TEMP〉が点灯または点滅していませんか。	180
映像がでない	• 外部機器との接続は正しく行われていますか。	32
	• 映像入力は正しく選択されていますか。	44
	• ［明るさ］の調整が最小になっていませんか。	60
	• 本機に接続している外部機器は、正常に動作していますか。	—
	• シャッター機能を使用していませんか。	48、84
映像がボヤけている	• レンズのフォーカスは合っていますか。	45
	• 投写距離は適切ですか。	28
	• レンズが汚れていませんか。	18
	• 本機がスクリーンに対して垂直に設置されていますか。	—
色が薄い / 色あいが悪い	• ［色の濃さ］または［色あい］は正しく調整されていますか。	61、61
	• 本機に接続している外部機器は正しく調整されていますか。	—
音声がでない	• 音声入力端子に外部機器が正しく接続されていますか。	32、33
	• 音量が最小になっていませんか。	49、94
	• シャッター機能を使用していませんか。	48、84
	• 消音機能を使用していませんか。	48、94
	• ［音声設定］の音声入力選択は正しく設定されていますか。	95
	• 〈AUDIO OUT〉端子にケーブルを接続していませんか。ケーブルを接続していると、内蔵スピーカーから音声はでません。	32
リモコンがはたらかない	• 乾電池が消耗していませんか。	—
	• 乾電池の極性は正しくセットされていますか。	25
	• リモコンと本体のリモコン受信部の間に障害物はありませんか。	22
	• リモコン操作有効範囲を超えた場所でリモコンを操作していませんか。	22
	• 蛍光灯などの影響を受けていませんか。	22
	• ［操作設定］の［リモコン］の設定が［無効］になっていませんか。	105
	• ID ナンバーの設定の操作を間違えていませんか。	53
メニュー画面がでない	• オンスクリーン表示機能をオフ（非表示）にしていませんか。	49
本体操作部のボタンがはたらかない	• ［操作設定］の［本体操作部］の設定が［無効］になっていませんか。	105
正常な映像が映らない	• 映像を出力する外部機器側に異常はありませんか。	—
	• 本機が対応できない信号を入力していませんか。	202
コンピューターからの映像がでない	• ケーブルが長くありませんか。（D-Sub ケーブルの場合は 10 m 以下にしてください。）	—
	• ノート型コンピューターの外部映像出力が、正しく設定されていますか。（例:「Fn」+「F3」あるいは「Fn」+「F10」キーを同時に押すと、外部出力設定が切り換わることがあります。コンピューターのモデルによって異なりますので、コンピューター付属の説明書をご覧ください。）	—
HDMI 対応機器の映像がでない、乱れる	• HDMI ケーブルが確実に接続されていますか。	32
	• 本機の電源および外部機器の電源を切 / 入してください。	—
	• 本機が対応できない信号を入力していませんか。	202
HDMI 対応機器の音声がでない	• 接続機器の音声をリニア PCM に設定してください。	—
DIGITAL LINK 入力の映像または音声がでない	• 本機の条件に適合したケーブルを使用していますか。	34
	• ツイストペアケーブル伝送器と外部機器、ツイストペアケーブル伝送器とプロジェクターとの接続は正しく行われていますか。	—
	• ［DIGITAL LINK モード］が［オート］、［DIGITAL LINK］、［ロングリーチ］になっていますか。［イーサネット］になっていませんか。	107
	• ツイストペアケーブル伝送器が対応していない信号を入力していませんか。	—

症状	ここをお調べください	ページ
給電できない	• ［ECO マネージメント］の［スタンバイモード］が［ECO］になっていませんか。	91
	• <USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)> 端子に定格（DC5 V、最大 2 A）を超える外部機器を接続していませんか。	24
動作音が大きくなった	本機内部の温度が高くなると、自動的に内蔵冷却ファンの回転数が上がり、動作音が大きくなります。内部温度が異常値に達した場合は、インジケーターが点灯・点滅します。	180
	• 周囲温度が高くなっていませんか。	13
	• エアフィルターユニットが汚れていませんか。	181
	• 吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。	14

お願い

• 表の内容を確認後、正常に動作しない場合は販売店にご相談ください。

自己診断表示について

エラーや警告が起きた場合、Web 制御画面の［ステータス］→［エラー］にその記号が表示されます。
エラーや警告が発生した場合に表示される記号とその内容は、次の表のとおりです。“対応番号”をご確認のうえ、“エラーや警告への対応”（☞ 188 ページ）の対応に従ってください。

エラー / 警告表示	内容	対応番号
U11	吸気温度警告	1
U13	排気温度警告	1
U21	吸気温度エラー	1
U23	排気温度エラー	1
FL5	光源バンク 1 警告	2
FL6	光源バンク 2 警告	2
FL7	光源バンク 3 警告	2
FH0	PW ERROR（SUB）	2
H01	内部時計用電池交換	5
H11	吸気温度センサーエラー	2
H13	排気温度センサーエラー	2
U04	フィルター目づまり警告	4
FL1	光源ユニットエラー	3
FE1	液晶パネル赤ファンエラー	2
FE2	液晶パネル緑ファンエラー	2
FE3	液晶パネル青ファンエラー	2
FE4	排気ファンエラー	2
FE5	光源ファンエラー	2
FE6	電源ファンエラー	2
FE7	モーターファンエラー	2
U25	光源温度 1 エラー	1
U27	光源温度 2 エラー	1
F16	角度センサーエラー	2
F19	レンズ遮蔽検知センサーエラー	2
H14	光源温度センサー 1 エラー	2
H16	光源温度センサー 2 エラー	2
U16	光源温度 1 警告	1
U18	光源温度 2 警告	1
F18	気圧センサーエラー	2
F50	液晶パネル赤ファン警告	1
F51	液晶パネル緑ファン警告	1
F52	液晶パネル青ファン警告	1
F53	排気ファン警告	1
F54	光源ファン警告	1
F55	電源ファン警告	1
F56	モーターファン警告	1
F61	光源ドライバ通信エラー	2
U78	フィルター目づまりエラー	4

お知らせ

- 自己診断表示と故障の内容が異なることがあります。
- 表に記載されていないエラー / 警告が表示された場合は、販売店にご相談ください。

■ エラーや警告への対応

対応番号	対応
1	使用環境温度が高すぎます。適切な使用環境温度下 *1 でご使用ください。
2	電源プラグをコンセントから抜いてもう一度電源を入れても表示が消えない場合は、販売店にご相談ください。
3	光源点灯に失敗しています。再び電源を入れても点灯しない場合は、販売店にご相談ください。
4	フィルターのお手入れまたは交換をしてください。（☞ 181 ページ）
5	電池交換が必要です。販売店にご相談ください。

*1　本機の使用環境温度については、“使用温度”（☞ 199 ページ）をご覧ください。

第７章 その他

本機の仕様やアフターサービスについて説明しています。

付録

PJLink 機能を使用する

本機のネットワーク機能はPJLink クラス 1、クラス 2 に対応しており、PJLink プロトコルを使用してコンピューターからプロジェクターの設定や、プロジェクターの状態問い合わせの操作ができます。

お知らせ

- 本機で PJLink 機能を使用するためには、管理者アカウントのパスワードを設定する必要があります。（☞ 111 ページ）

PJLink コマンド

本機が対応する PJLink コマンドです。
- 表内の x は任意の文字です。

クラス	コマンド	制御内容	パラメーター / 応答文字列	備考		
1	POWR	電源制御	0 1	スタンバイ 電源入		
1	POWR ?	電源状態問い合わせ	0 1 2	スタンバイ 電源入 電源を切る準備中		
1、2	INPT	入力切り換え	11 31 32 33 41 51	COMPUTER HDMI1 HDMI2 DIGITAL LINK MEMORY VIEWER NETWORK		
	INPT ?	入力切り換え問い合わせ				
1	AVMT	シャッター制御 / 音声出力制御	20 21 30 31	消音機能 無効 消音機能 有効（消音） シャッター機能 無効（シャッター：オープン）、消音機能 無効 シャッター機能 有効（シャッター：クローズ）、消音機能 有効（消音）		
	AVMT ?	シャッター状態 / 音声出力状態問い合わせ	21 30 31	シャッター機能 無効（シャッター：オープン）、消音機能 有効（消音） シャッター機能 無効（シャッター：オープン）、消音機能 無効 シャッター機能 有効（シャッター：クローズ）、消音機能 有効（消音）		
1	ERST ?	エラー状態問い合わせ	xxxxxx	1 バイト目	ファンエラーを意味し、0 または 2 で応答します	• 0= エラーを検知していない • 1= 警告 • 2= エラー
				2 バイト目	光源エラーを意味し、0 ～ 2 で応答します	
				3 バイト目	温度エラーを意味し、0 ～ 2 で応答します	
				4 バイト目	0 で応答します	
				5 バイト目	フィルターエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します	
				6 バイト目	その他のエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します	
1	LAMP ?	光源状態問い合わせ	AAAAA X	AAAAA：光源使用時間 X：0= 光源消灯、1= 光源点灯		
1、2	INST ?	入力切り換え一覧問い合わせ	11 31 32 33 41 51	—		
1	NAME ?	プロジェクター名問い合わせ	xxxxx	［ネットワーク］メニュー →［プロジェクター名］で設定した名称を応答します		
1	INF1 ?	メーカー名問い合わせ	Panasonic	メーカー名を応答します		
1	INF2 ?	機種名問い合わせ	PT-VMZ82J PT-VMZ72J PT-VMZ62J	機種名を応答します		
1	INF0 ?	その他情報問い合わせ	xxxxx	バージョン番号などを応答します		
1	CLSS ?	クラス情報問い合わせ	2	PJLink のクラスを応答します		

クラス	コマンド	制御内容	パラメーター / 応答文字列	備考
2	SNUM ?	シリアル番号問い合わせ	xxxxxxxxx	シリアル番号を応答します
2	SVER ?	ソフトウェアバージョン問い合わせ	xxxxxxxxx	バージョン番号を応答します
2	INNM ?	入力名称問い合わせ	COMPUTER HDMI1 HDMI2 DIGITAL LINK MEMORY VIEWER NETWORK	入力名称を応答します
2	IRES ?	入力信号解像度問い合わせ	AAAAxBBBB	AAAA：水平解像度 BBBB：垂直解像度
2	RRES ?	推奨解像度問い合わせ	1920 x 1200	—
2	FILT ?	フィルター使用時間問合せ	xxxxx	フィルターの使用時間を応答します
2	RFIL ?	フィルター交換型番問合せ	ET-RFV500	交換用フィルターユニットの品番を応答します
2	SVOL	スピーカー音量	0 1	音を小さくします 音を大きくします
2	FREZ	フリーズ制御	0 1	静止機能無効 静止機能有効（静止）
	FREZ ?	フリーズ状態問い合わせ		
2	LKUP	リンクアップ通知	xx:xx:xx:xx:xx:xx	PJLink の通信が可能になったときに、MAC アドレスを通知します
2	SRCH	プロジェクター検索	ACKN=xx:xx:xx:xx:xx:xx	同一ネットワーク内に接続されている、PJLink の通信が可能なプロジェクターが、その MAC アドレスを応答します

PJLink セキュリティー認証

PJLink コマンドの通信にはセキュリティー認証手続き用の PJLink パスワードが必要です。
PJLink パスワードは、［ネットワーク］メニュー → ［PJLink］→ ［PJLink パスワード］（☞ 114 ページ）、または Web 制御画面の“[PJLink 設定]”（☞ 161 ページ）から設定できます。
認証手続きをせずに PJLink コマンドの通信を行う場合は、PJLink パスワードをブランクに設定してください。
工場出荷時、PJLink パスワードはブランクに設定されています。

- PJLink に関する仕様については、次の（社）ビジネス機械・情報システム産業協会の Web サイトをご覧ください。
  https://pjlink.jbmia.or.jp/

LAN 経由の制御コマンドについて

〈SERIAL IN〉端子経由で制御するコマンド形式を用いて、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子または〈LAN〉端子で制御することができます。
使用できるコマンド例については、“制御コマンド”（☞ 196 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- LAN 経由でコマンドを送受信するためには、管理者アカウントのパスワードを設定する必要があります。（☞ 111 ページ）

プロテクトモードで接続する場合

接続方法

［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークセキュリティー］→ ［コマンドプロテクト］を［有効］に設定している場合の接続方法です。

1) プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 =1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレス、ポート番号は共にプロジェクター本体のメニュー画面から取得できます。

IP アドレス	［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークステータス］から取得
ポート番号	［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークコントロール］→ ［コマンドポート］から取得

2)　プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	空白	乱数部	終端記号
コマンド例	“NTCONTROL” （ASCII 文字列）	‘ ’ 0x20	‘1’ 0x31	‘ ’ 0x20	“zzzzzzzz” （ASCII コード 16 進数）	（CR） 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte	8 bytes	1 byte

- モード：1= プロテクトモード
- 例）プロテクトモード時の応答（乱数部は不定値）
  “NTCONTROL 1 23181e1e”（CR）

3)　MD5 アルゴリズムを用いて以下のデータから 32 バイトのハッシュ値を生成する

- “xxxxxx:yyyyy:zzzzzzzz”

xxxxxx	管理者アカウントのユーザー名
yyyyy	管理者アカウントのパスワード
zzzzzzzz	手順 **2)** で取得した 8 バイトの乱数

コマンドデータ形式

コマンドを送受信する際のデータ形式です。

■ 送信データ

	ヘッダー			データ部	終端記号
コマンド例	ハッシュ値 “接続方法”（☞ 191 ページ）	‘0’ 0x30	‘0’ 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	32 bytes	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例）電源状態取得コマンドの送信（ハッシュ値は管理者アカウントに設定したユーザー名、パスワードおよび取得した乱数より算出）
  “dbdd2dabd3d4d68c5dd970ec0c29fa6400QPW”（CR）

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	‘0’ 0x30	‘0’ 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例）プロジェクターの電源が入っている場合
  “00001”（CR）

■ エラー応答

	文字列	内容	終端記号
メッセージ	“ERR1”	未定義の制御コマンド	（CR） 0x0d
	“ERR2”	パラメーター範囲外	
	“ERR3”	ビジー状態または受け付け不可期間	
	“ERR4”	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	“ERR5”	データ長不正	
	“ERRA”	パスワード不一致	
データ長	4 bytes	—	1 byte

お知らせ

- 本機は、コマンドを送信した直後にネットワークとの接続を自動的に切断します。悪意の第三者による本製品の不正操作の防止など、セキュリティー上の観点からこのような仕様としています。連続してコマンドを送信する場合は、その都度ネットワーク接続の要求を行ったうえで送信してください。詳しくは、“サーバー－クライアント間の通信フロー”（☞ 194 ページ）をご覧ください。

非プロテクトモードで接続する場合

接続方法

［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークセキュリティー］ → ［コマンドプロテクト］を［無効］に設定している場合の接続方法です。

1) プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 =1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレス、ポート番号は共にプロジェクター本体のメニュー画面から取得できます。

IP アドレス	［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークステータス］から取得
ポート番号	［ネットワーク］メニュー → ［ネットワークコントロール］ → ［コマンドポート］から取得

2) プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	終端記号
コマンド例	"NTCONTROL" （ASCII 文字列）	' ' 0x20	'0' 0x30	（CR） 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte

- モード：0= 非プロテクトモード
- 例）非プロテクトモード時の応答
  "NTCONTROL 0"（CR）

コマンドデータ形式

コマンドを送受信する際のデータ形式です。

■ 送信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

•例）電源状態取得コマンドの送信
"00QPW"（CR）

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド （ASCII 文字列）	（CR） 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

•例）プロジェクターの電源がスタンバイ状態の場合
"00000"（CR）

■ エラー応答

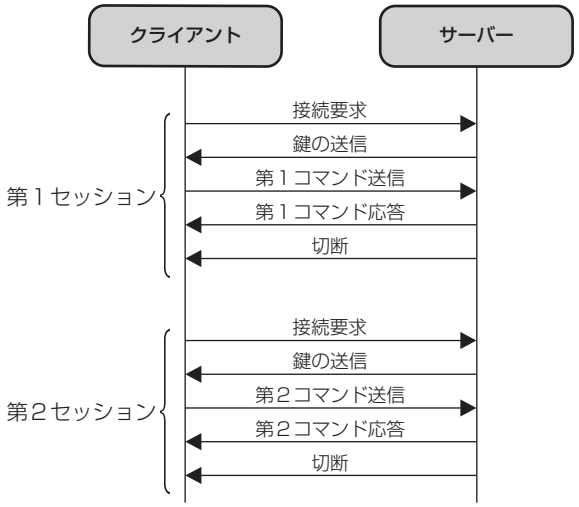
	文字列	内容	終端記号
メッセージ	"ERR1"	未定義の制御コマンド	（CR） 0x0d
	"ERR2"	パラメーター範囲外	
	"ERR3"	ビジー状態または受け付け不可期間	
	"ERR4"	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	"ERR5"	データ長不正	
データ長	4 bytes	—	1 byte

お知らせ

- 本機は、コマンドを送信した直後にネットワークとの接続を自動的に切断します。悪意の第三者による本製品の不正操作の防止など、セキュリティー上の観点からこのような仕様としています。連続してコマンドを送信する場合は、その都度ネットワーク接続の要求を行ったうえで送信してください。詳しくは、"サーバー－クライアント間の通信フロー"（☞ 194 ページ）をご覧ください。

サーバー−クライアント間の通信フロー

LAN 経由でコマンドを送受信する場合は、次に示す通信フローを参考にしてください。
サーバー：プロジェクター
クライアント：コンピューターなどの制御装置

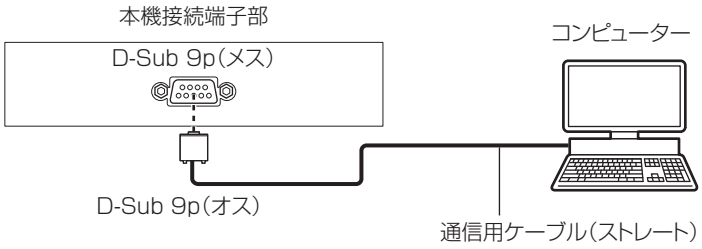


〈SERIAL IN〉端子について

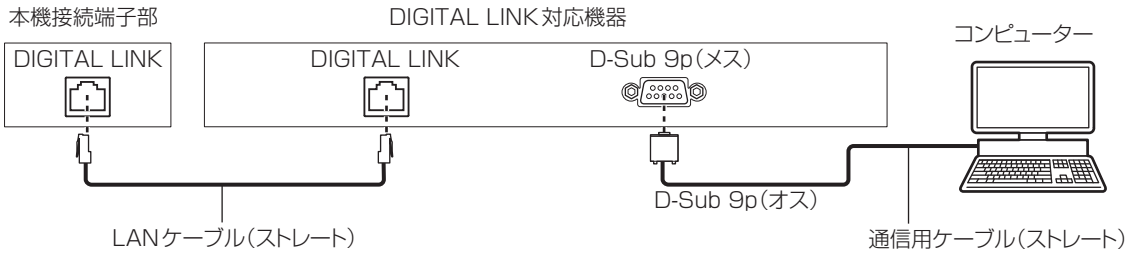
本機の接続端子部の〈SERIAL IN〉端子は RS-232C に準拠しており、コンピューターと接続して本機をコンピューターで制御できます。

接続

直接接続する場合



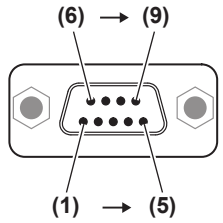
DIGITAL LINKを利用して接続する場合



お知らせ

- 接続方法に合わせて、［RS-232C］（☞ 92 ページ）の接続先を設定する必要があります。
- DIGITAL LINK 対応機器を利用して接続する場合、スタンバイ状態で本機を制御するには、［プロジェクター設定］メニュー →［ECO マネージメント］→［スタンバイモード］（☞ 91 ページ）を［ノーマル］に設定してください。
  ［スタンバイモード］を［ECO］に設定しているときは、スタンバイ状態での本機の制御はできません。

ピン配列と信号名

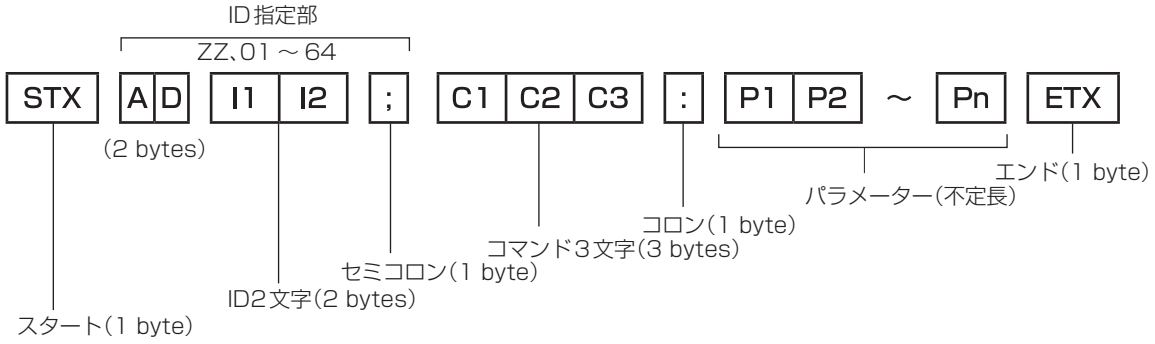
外側から見た図	ピン No.	信号名	内容
	**(1)**	—	NC
	(2)	TXD	送信データ
	(3)	RXD	受信データ
	(4)	—	NC
	(5)	GND	グラウンド
	(6)	—	NC
	(7)	CTS	内部で接続されています
	(8)	RTS	
	(9)	—	NC

通信条件（工場出荷時の状態）

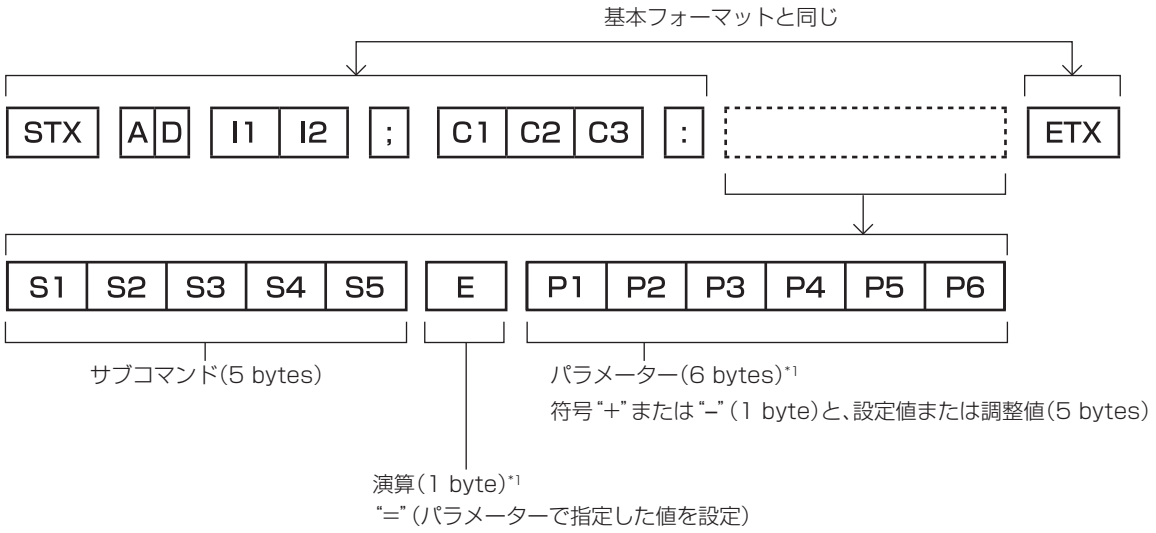
信号レベル	RS-232C 準拠
同期方式	調歩同期
ボーレート	9 600 bps
パリティー	なし
キャラクター長	8 ビット
ストップビット	1 ビット
X パラメーター	なし
S パラメーター	なし

基本フォーマット

コンピューターからの伝送は STX で開始され、続いて ID、コマンド、パラメーター、最後に ETX の順に送信します。パラメーターは制御内容の必要に応じて付加してください。



基本フォーマット（サブコマンドあり）



*1 パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、演算（E）とパラメーターは必要ありません。

お願い

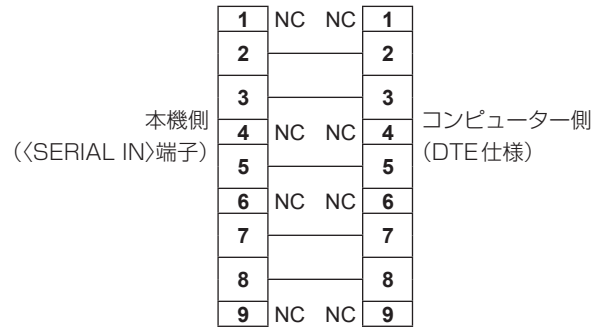
- 光源の点灯開始直後にコマンドを送信すると、応答が遅く返ってきたり、コマンドが実行できなかったりすることがあります。60 秒経過後に送受信してください。
- 複数のコマンドを送信する場合は、必ず本機からの応答を受け取ってから 0.5 秒以上経過後に次のコマンドを送信してください。パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、コロン（ : ）は必要ありません。

お知らせ

- コマンドが実行できない場合、本機から「ER401」という応答がコンピューター側に送信されます。
- 無効なパラメーターを送信すると、本機から「ER402」という応答がコンピューター側に送信されます。
- RS-232C での ID 送信は、ZZ（オール）と 01 ～ 64 の対応になっています。
- ID 指定でコマンドを送信した場合、以下のときのみコンピューターへの応答を返します。
  - 本機 ID と一致した場合
  - 本機の［プロジェクター ID］（☞ 87 ページ）が［オール］の場合
- STX と ETX はキャラクターコードです。STX は 16 進数で表すと 02、ETX は 16 進数で表すと 03 となります。

ケーブル仕様

コンピューターと接続する場合



制御コマンド

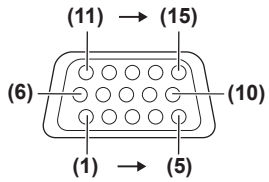
コンピューターで本機を制御する際のコマンドです。

■ 操作コマンド

コマンド	内容	パラメーター / 応答文字列	備考（パラメーター）
PON	電源入	—	電源が入っているかを確認する場合は、"電源問い合わせ" コマンドを使用してください。
POF	電源スタンバイ		
QPW	電源状態問い合わせ	000 001	スタンバイ 電源入

コマンド	内容	パラメーター / 応答文字列	備考（パラメーター）
IIS	入力信号切り換え	RG1	COMPUTER
		HD1	HDMI1
		HD2	HDMI2
		DL1	DIGITAL LINK
		MV1	MEMORY VIEWER
		NWP	NETWORK
OSH	シャッター制御	0	シャッター機能 オフ（シャッター：オープン）
QSH	シャッター状態問い合わせ	1	シャッター機能 オン（シャッター：クローズ）
Q$L	光源使用時間問い合わせ	—	応答は 0 ～ 99999
Q$S	光源点灯状態問い合わせ	0	スタンバイ
		1	光源点灯制御中
		2	光源点灯
		3	光源消灯制御中
VSE	アスペクト切り換え	1	ノーマル
		2	ワイド
		5	リアル
QS1	アスペクト設定問い合わせ	6	フル
		9	H フィット
		10	V フィット

〈COMPUTER IN〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
	**(1)**	R/P_R	**(9)**	+5 V
	(2)	G/Y	**(10)**	GND
	(3)	B/P_B	**(11)**	GND
	(4)	—	**(12)**	DDC データ
	(5)	GND	**(13)**	HD/SYNC
	(6)	GND	**(14)**	VD
	(7)	GND	**(15)**	DDC クロック
	(8)	GND		

仕様

本機の仕様は次のとおりです。

表示方式		透過型液晶パネル 3 枚　3 原色方式	
表示素子	**有効表示域サイズ**	0.64 型× 3（アスペクト比 16：10）	
	有効画素数	2 304 000 画素（1 920 x 1 200 ドット）	
投写レンズ	**レンズ仕様**	ズームレシオ 1.6x F=1.58 ～ 1.91 f=15.30 mm ～ 24.60 mm	
	ズーム	マニュアル	
	フォーカス	マニュアル	
	レンズシフト	マニュアル（水平 / 垂直）	
	レンズ交換	不可	
光源		レーザーダイオード	
投写画面サイズ		30 ～ 300 型	
光出力 *1		**PT-VMZ82J**	8 000 lm	[映像モード] を [ダイナミック]、 [光源電力] を [ノーマル]、 [デイライトビュー] を [オフ]、 [省エネ設定] を [オフ] に設定時
		PT-VMZ72J	7 300 lm	
		PT-VMZ62J	6 500 lm	
コントラスト比 *1		5 000 000：1		[映像モード] を [ダイナミック]、 [ダイナミックコントラスト] を [1] に設定時
周辺照度比 *1		85 %		
スピーカー		4.0 cm　円型　1 個 10 W（モノラル）		
対応走査周波数	**水平**	15.6 kHz ～ 95.5 kHz		
	垂直	24.0 Hz ～ 85.0 Hz		
対応信号	HDMI 信号入力	**ビデオ系信号解像度：** 480/60p、576/50p ～ 4 096 x 2 160/30p **コンピューター系信号解像度：** 640 x 480 ～ 3 240 x 1 080（ノンインターレース） **ドットクロック周波数：** 25.2 MHz ～ 297 MHz	
	DIGITAL LINK 信号入力	**ビデオ系信号解像度：** 480/60p、576/50p ～ 4 096 x 2 160/30p **コンピューター系信号解像度：** 640 x 480 ～ 3 240 x 1 080（ノンインターレース） **ドットクロック周波数：** 25.2 MHz ～ 297 MHz	
	COMPUTER 信号入力	**ビデオ系信号解像度：** 480i/576i ～ 1 920 x 1 080 **コンピューター系信号解像度：** 640 x 480 ～ 1 920 x 1 200（ノンインターレース） **ドットクロック周波数：** 13.5 MHz ～ 162 MHz	

*1　工場出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2021 データプロジェクタの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書 B に基づいています。

接続端子	〈HDMI IN 1〉端子 〈HDMI IN 2〉端子	計 2 系統　HDCP 対応、Deep Color 対応、CEC 対応 **音声信号**　リニア PCM（サンプリング周波数：48 kHz/44.1 kHz/32 kHz）		
	〈DIGITAL LINK/LAN〉端子	1 系統　RJ-45　ネットワーク、DIGITAL LINK 接続用　（HDBaseT™ 準拠） PJLink（クラス 2）対応　100Base-TX　HDCP 対応　Deep Color 対応		
	〈LAN〉端子	1 系統　RJ-45　ネットワーク接続用　PJLink（クラス 2）対応 10Base-T/100Base-TX		
	〈COMPUTER IN〉端子	1 系統　高密度 D-Sub 15 p（メス） 0.7 V [p-p] 75 Ω（SYNC ON GREEN 時　1.0 V [p-p] 75 Ω） **RGB 信号**　HD/SYNC　TTL ハイインピーダンス　正 / 負極性自動対応 VD　TTL ハイインピーダンス　正 / 負極性自動対応 **YP_BP_R 信号**　Y：1.0 V [p-p] 同期信号を含む、P_BP_R：0.7 V [p-p] 75 Ω		
	〈AUDIO IN〉端子	1 系統　M3 ステレオミニジャック　0.5 V [rms]、入力インピーダンス 22 k Ω以上		
	〈AUDIO OUT〉端子	1 系統　M3 ステレオミニジャック（モニター出力、ステレオ対応可） 0 V [rms] ～ 2.0 V [rms]（可変）、出力インピーダンス 2.2 k Ω以下		
	〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子	1 系統　USB コネクター（タイプ A）、メモリービューワー機能 / ワイヤレスモジュール（別売品：AJ-WM50GT）接続用、給電用（DC5 V、最大 2 A）		
	〈SERIAL IN〉端子	1 系統　D-Sub 9 p（メス）　RS-232C 準拠　コンピューター制御用		
騒音 *1		PT-VMZ82J	39 dB	[ECO マネージメント] の [光源電力] を [ノーマル] または [ECO] に設定時
		PT-VMZ72J	37 dB	
		PT-VMZ62J	35 dB	
		PT-VMZ82J	34 dB	[ECO マネージメント] の [光源電力] を [静音 1] に設定時
		PT-VMZ72J	32 dB	
		PT-VMZ62J	30 dB	
		PT-VMZ82J	29 dB	[ECO マネージメント] の [光源電力] を [静音 2] に設定時
		PT-VMZ72J	27 dB	
		PT-VMZ62J	25 dB	
使用環境条件	使用温度	0 ℃～ 45 ℃ *2*3		
	使用湿度	20 %～ 80 %（結露のないこと）		
投写方式		[フロント / 天つり]、[フロント / 床置き]、[リア / 天つり]、[リア / 床置き]		
使用電源		AC100 V　50 Hz/60 Hz		
定格電流		PT-VMZ82J	4.2 A	
		PT-VMZ72J	3.6 A	
		PT-VMZ62J	3.3 A	
最大消費電力		PT-VMZ82J	400 W	
		PT-VMZ72J	345 W	
		PT-VMZ62J	320 W	

*1　工場出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2021 データプロジェクタの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書 B に基づいています。

*2　海抜 2 700 m 以上の場所ではご使用いただけません。
次の使用環境では、プロジェクターを保護するために、光出力が低下することがあります。
- 海抜 700 m 未満、かつ使用環境温度が 36 ℃以上の場合
- 海抜 700 m 以上 ～ 1 400 m 未満、かつ使用環境温度が 34 ℃以上の場合
- 海抜 1 400 m 以上 ～ 2 100 m 未満、かつ使用環境温度が 32 ℃以上の場合
- 海抜 2 100 m 以上 ～ 2 700 m 未満、かつ使用環境温度が 30 ℃以上の場合

*3　別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けている場合の使用環境温度は、0 ℃～ 40 ℃ になります。

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="6">待機消費電力</td><td colspan="2">約 0.4 W</td><td>［スタンバイモード］を［ECO］に設定時</td></tr>
<tr><td colspan="2">約 15 W</td><td>［スタンバイモード］を［ノーマル］に設定時
• ［高速スタートアップ］の機能が無効
• ［音声設定］の［スタンバイ時動作］を［オフ］に設定
• 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子への機器接続なし
• 〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子による給電なし</td></tr>
<tr><td>PT-VMZ82J
PT-VMZ72J</td><td>約 51 W</td><td rowspan="2">［スタンバイモード］を［ノーマル］に設定時
• ［高速スタートアップ］の機能が無効
• ［音声設定］の［スタンバイ時動作］を［オン］に設定
• 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子への機器接続あり
• 〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子による給電あり</td></tr>
<tr><td>PT-VMZ62J</td><td>約 47 W</td></tr>
<tr><td>PT-VMZ82J
PT-VMZ72J</td><td>約 92 W</td><td rowspan="2">［スタンバイモード］を［ノーマル］に設定時
• ［高速スタートアップ］の機能が有効
• ［音声設定］の［スタンバイ時動作］を［オン］に設定
• 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子への機器接続あり
• 〈USB（VIEWER/WIRELESS/DC OUT）〉端子による給電あり</td></tr>
<tr><td>PT-VMZ62J</td><td>約 85 W</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外形寸法</td><td>横幅</td><td colspan="3">399 mm</td></tr>
<tr><td>高さ</td><td colspan="3">133 mm（脚最小時）</td></tr>
<tr><td>奥行</td><td colspan="3">348 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">質量 *1</td><td colspan="2">PT-VMZ82J</td><td>約 7.4 kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">PT-VMZ72J</td><td>約 7.0 kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">PT-VMZ62J</td><td>約 6.9 kg</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外装</td><td>材料</td><td colspan="3">樹脂成型品</td></tr>
<tr><td>色</td><td colspan="3">白</td></tr>
<tr><td colspan="2">電源コードの長さ</td><td colspan="3">2.0 m</td></tr>
<tr><td rowspan="2">レーザー
規格分類</td><td>レーザークラス</td><td colspan="3">クラス 1（IEC 60825-1:2014）</td></tr>
<tr><td>リスクグループ</td><td colspan="3">リスクグループ 2（IEC 62471-5:2015）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">無線 LAN*2</td><td>準拠規格</td><td colspan="3">IEEE802.11b/g/n</td></tr>
<tr><td>伝送方式</td><td colspan="3">DSSS、OFDM</td></tr>
<tr><td>周波数範囲（チャンネル）</td><td colspan="3">2 412 MHz ～ 2 462 MHz (1 ～ 11 ch)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">データ転送速度（規格値）</td><td>IEEE802.11n</td><td>最大 144 Mbps</td></tr>
<tr><td>IEEE802.11g</td><td>最大 54 Mbps</td></tr>
<tr><td>IEEE802.11b</td><td>最大 11 Mbps</td></tr>
<tr><td>暗号化方式</td><td colspan="3">WPA2-PSK(AES)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">リモコン</td><td>使用電源</td><td colspan="3">DC 3 V（単 4 形マンガンまたはアルカリ乾電池 2 本）</td></tr>
<tr><td>操作距離</td><td colspan="3">約 30 m 以内（受信部正面）</td></tr>
<tr><td>質量</td><td colspan="3">102 g（乾電池含む）</td></tr>
<tr><td>外形寸法</td><td colspan="3">横幅：48 mm　高さ：145 mm　奥行：27 mm</td></tr>
</table>

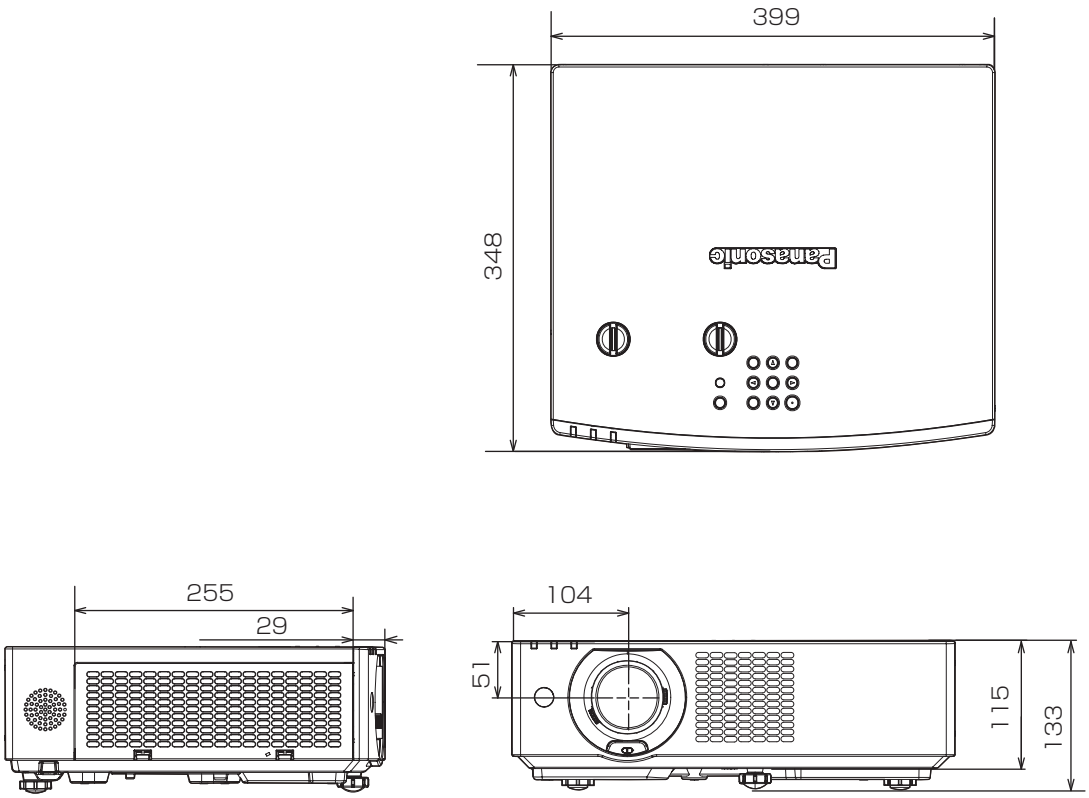
*1　平均値。各製品で質量が異なる場合があります。
*2　本機で無線 LAN 機能を使用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付ける必要があります。

お知らせ

- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみです。海外では使用しないでください。
  （This projector is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.）

外形寸法図

単位：mm



対応信号リスト

本機が投写できる映像信号です。
対応信号欄に ✓ がある信号に対応しています。

- 信号種欄の内容は次のとおりです。
  - V：ビデオ系信号
  - C：コンピューター系信号

信号種	信号名（信号フォーマット）	解像度（ドット）	走査周波数		ドットクロック周波数（MHz）	対応信号	
			水平（kHz）	垂直（Hz）		COMPUTER	HDMI/DIGITAL LINK
V	480i (525i)	712 x 483i	15.7	59.9	13.5	✓	—
	576i (625i)	702 x 575i	15.6	50.0	13.5	✓	—
	480/60p	720 x 480	31.5	59.9	27.0	✓	✓
	576/50p	720 x 576	31.3	50.0	27.0	✓	✓
	720/60p	1 280 x 720	45.0	60.0[*1]	74.3	✓	✓
	720/50p	1 280 x 720	37.5	50.0	74.3	✓	✓
	1080/60i	1 920 x 1 080i	33.8	60.0[*1]	74.3	✓	✓
	1080/50i	1 920 x 1 080i	28.1	50.0	74.3	✓	✓
	1080/24p	1 920 x 1 080	27.0	24.0[*1]	74.3	✓	✓
	1080/24sF	1 920 x 1 080i	27.0	48.0[*1]	74.3	✓	✓
	1080/25p	1 920 x 1 080	28.1	25.0	74.3	✓	✓
	1080/30p	1 920 x 1 080	33.8	30.0[*1]	74.3	✓	✓
	1080/60p	1 920 x 1 080	67.5	60.0[*1]	148.5	✓	✓
	1080/50p	1 920 x 1 080	56.3	50.0	148.5	✓	✓
	3840 x 2160/24p	3 840 x 2 160	54.0	24.0[*1]	297.0	—	✓
	3840 x 2160/25p	3 840 x 2 160	56.3	25.0	297.0	—	✓
	3840 x 2160/30p	3 840 x 2 160	67.5	30.0[*1]	297.0	—	✓
	4096 x 2160/24p	4 096 x 2 160	54.0	24.0[*1]	297.0	—	✓
	4096 x 2160/25p	4 096 x 2 160	56.3	25.0	297.0	—	✓
	4096 x 2160/30p	4 096 x 2 160	67.5	30.0[*1]	297.0	—	✓
C	640 x 480/60	640 x 480	31.5	59.9	25.2	✓	✓
	800 x 600/60	800 x 600	37.9	60.3	40.0	✓	✓
	1024 x 768/50[*2]	1 024 x 768	39.6	50.0	51.9	✓	✓
	1024 x 768/60	1 024 x 768	48.4	60.0	65.0	✓	✓
	1024 x 768/70	1 024 x 768	56.5	70.1	75.0	✓	✓
	1024 x 768/75	1 024 x 768	60.0	75.0	78.8	✓	✓
	1152 x 864/75	1 152 x 864	67.5	75.0	108.0	✓	✓
	1152 x 864/85	1 152 x 864	77.1	85.0	119.7	✓	✓
	1280 x 720/60	1 280 x 720	44.8	59.9	74.5	✓	✓
	1280 x 768/60	1 280 x 768	47.8	59.9	79.5	✓	✓
	1280 x 800/50	1 280 x 800	41.3	50.0	68.0	✓	✓
	1280 x 800/60	1 280 x 800	49.7	59.8	83.5	✓	✓
	1280 x 800/75	1 280 x 800	62.8	74.9	106.5	✓	✓
	1280 x 800/85	1 280 x 800	71.6	84.9	122.5	✓	✓
	1280 x 960/60	1 280 x 960	60.0	60.0	108.0	✓	✓
	1280 x 1024/60[*2]	1 280 x 1 024	64.0	60.0	108.0	✓	✓
	1280 x 1024/75	1 280 x 1 024	80.0	75.0	135.0	✓	✓
	1280 x 1024/85	1 280 x 1 024	91.1	85.0	157.5	✓	✓
	1366 x 768/60	1 366 x 768	47.7	59.8	85.5	✓	✓
	1400 x 1050/60	1 400 x 1 050	65.3	60.0	121.8	✓	✓
	1400 x 1050/75	1 400 x 1 050	82.2	75.0	155.9	✓	✓
	1440 x 900/60	1 440 x 900	55.9	59.9	106.5	✓	✓

信号種	信号名（信号フォーマット）	解像度（ドット）	走査周波数		ドットクロック周波数（MHz）	対応信号	
			水平（kHz）	垂直（Hz）		COMPUTER	HDMI/DIGITAL LINK
C	1600 x 900/60*2	1 600 x 900	55.9	60.0	119.0	✓	✓
	1600 x 1200/60	1 600 x 1 200	75.0	60.0	162.0	✓	✓
	1680 x 1050/60	1 680 x 1 050	65.3	60.0	146.3	✓	✓
	1920 x 1080/50	1 920 x 1 080	55.6	49.9	141.5	✓	✓
	1920 x 1200/50	1 920 x 1 200	61.8	49.9	158.3	✓	✓
	1920 x 1200/60RB	1 920 x 1 200*3	74.0	60.0	154.0	✓	✓
	1920 x 720/60	1 920 x 720	46.0	60.0	95.0	—	✓
	1920 x 810/60	1 920 x 810	51.7	60.0	107.0	—	✓
	2048 x 1536/60	2 048 x 1 536	95.5	60.0	267.3	—	✓
	2560 x 1080/60RB	2 560 x 1 080*3	66.6	60.0	181.3	—	✓
	3240 x 1080/60	3 240 x 1 080	69.0	60.0	237.1	—	✓

*1　1/1.001 倍の垂直走査周波数の信号にも対応しています。
*2　該当のアナログ信号を入力している場合、［映像調整］メニュー → ［RGB-SYSTEM］でその信号に合った設定にしたときに表示できます。デジタル信号の場合は、［RGB-SYSTEM］の設定は不要です。
*3　VESA CVT-RB（Reduced Blanking）準拠

お知らせ

- 解像度が異なる信号は表示ドット数に変換されて表示されます。表示ドット数は 1 920 x 1 200 です。
- 解像度のドット数の後ろにある「 i 」はインターレース信号を意味します。
- インターレース信号接続時は映像にちらつきが発生することがあります。
- ロングリーチの通信方式で DIGITAL LINK の接続をしている場合、本機が受像できる信号は 1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。
- 対応信号リストに掲載されている信号であっても、特殊な方式で映像信号が記録されている場合は、本機で表示できないことがあります。

プラグアンドプレイ対応信号リスト

プラグアンドプレイに対応する映像信号です。
プラグアンドプレイ対応信号欄に ✓ がある信号は、プロジェクターの EDID（拡張ディスプレイ識別データ）に記述している信号です。プラグアンドプレイ対応信号欄に ✓ がない信号は、プロジェクターが対応していてもコンピューター側で解像度の選択ができないことがあります。

信号名（信号フォーマット）	解像度（ドット）	走査周波数		ドットクロック周波数（MHz）	プラグアンドプレイ対応	
		水平（kHz）	垂直（Hz）		COMPUTER	HDMI/DIGITAL LINK
480i (525i)	712 x 483i	15.7	59.9	13.5	—	—
576i (625i)	702 x 575i	15.6	50.0	13.5	—	—
480/60p	720 x 480	31.5	59.9	27.0	—	✓
576/50p	720 x 576	31.3	50.0	27.0	—	✓
720/60p	1 280 x 720	45.0	60.0	74.3	—	✓
720/50p	1 280 x 720	37.5	50.0	74.3	—	✓
1080/60i	1 920 x 1 080i	33.8	60.0	74.3	—	✓
1080/50i	1 920 x 1 080i	28.1	50.0	74.3	—	✓
1080/24p	1 920 x 1 080	27.0	24.0	74.3	—	✓
1080/24sF	1 920 x 1 080i	27.0	48.0	74.3	—	—
1080/25p	1 920 x 1 080	28.1	25.0	74.3	—	—
1080/30p	1 920 x 1 080	33.8	30.0	74.3	—	—
1080/60p	1 920 x 1 080	67.5	60.0	148.5	—	✓
1080/50p	1 920 x 1 080	56.3	50.0	148.5	—	✓
3840 x 2160/24p	3 840 x 2 160	54.0	24.0	297.0	—	✓
3840 x 2160/25p	3 840 x 2 160	56.3	25.0	297.0	—	✓
3840 x 2160/30p	3 840 x 2 160	67.5	30.0	297.0	—	✓
4096 x 2160/24p	4 096 x 2 160	54.0	24.0	297.0	—	✓
4096 x 2160/25p	4 096 x 2 160	56.3	25.0	297.0	—	✓
4096 x 2160/30p	4 096 x 2 160	67.5	30.0	297.0	—	✓
640 x 480/60	640 x 480	31.5	59.9	25.2	✓	✓
800 x 600/60	800 x 600	37.9	60.3	40.0	✓	✓
1024 x 768/50	1 024 x 768	39.6	50.0	51.9	—	—
1024 x 768/60	1 024 x 768	48.4	60.0	65.0	✓	✓
1024 x 768/70	1 024 x 768	56.5	70.1	75.0	✓	✓
1024 x 768/75	1 024 x 768	60.0	75.0	78.8	✓	✓
1152 x 864/75	1 152 x 864	67.5	75.0	108.0	—	—
1152 x 864/85	1 152 x 864	77.1	85.0	119.7	—	—
1280 x 720/60	1 280 x 720	44.8	59.9	74.5	—	—
1280 x 768/60	1 280 x 768	47.8	59.9	79.5	—	—
1280 x 800/50	1 280 x 800	41.3	50.0	68.0	—	—
1280 x 800/60	1 280 x 800	49.7	59.8	83.5	✓	✓
1280 x 800/75	1 280 x 800	62.8	74.9	106.5	—	—
1280 x 800/85	1 280 x 800	71.6	84.9	122.5	—	—
1280 x 960/60	1 280 x 960	60.0	60.0	108.0	—	—
1280 x 1024/60	1 280 x 1 024	64.0	60.0	108.0	—	—
1280 x 1024/75	1 280 x 1 024	80.0	75.0	135.0	✓	✓
1280 x 1024/85	1 280 x 1 024	91.1	85.0	157.5	—	—
1366 x 768/60	1 366 x 768	47.7	59.8	85.5	—	—
1400 x 1050/60	1 400 x 1 050	65.3	60.0	121.8	—	—
1400 x 1050/75	1 400 x 1 050	82.2	75.0	155.9	—	—
1440 x 900/60	1 440 x 900	55.9	59.9	106.5	—	—
1600 x 900/60	1 600 x 900	55.9	60.0	119.0	—	—
1600 x 1200/60	1 600 x 1 200	75.0	60.0	162.0	✓	✓
1680 x 1050/60	1 680 x 1 050	65.3	60.0	146.3	—	—

信号名 （信号フォーマット）	解像度 （ドット）	走査周波数		ドット クロック 周波数 （MHz）	プラグアンドプレイ対応	
		水平 （kHz）	垂直 （Hz）		COMPUTER	HDMI/DIGITAL LINK
1920 x 1080/50	1 920 x 1 080	55.6	49.9	141.5	—	—
1920 x 1200/50	1 920 x 1 200	61.8	49.9	158.3	—	—
1920 x 1200/60RB	1 920 x 1 200*1	74.0	60.0	154.0	✓	✓
1920 x 720/60	1 920 x 720	46.0	60.0	95.0	—	—
1920 x 810/60	1 920 x 810	51.7	60.0	107.0	—	—
2048 x 1536/60	2 048 x 1 536	95.5	60.0	267.3	—	✓
2560 x 1080/60RB	2 560 x 1 080*1	66.6	60.0	181.3	—	✓
3240 x 1080/60	3 240 x 1 080	69.0	60.0	237.1	—	✓

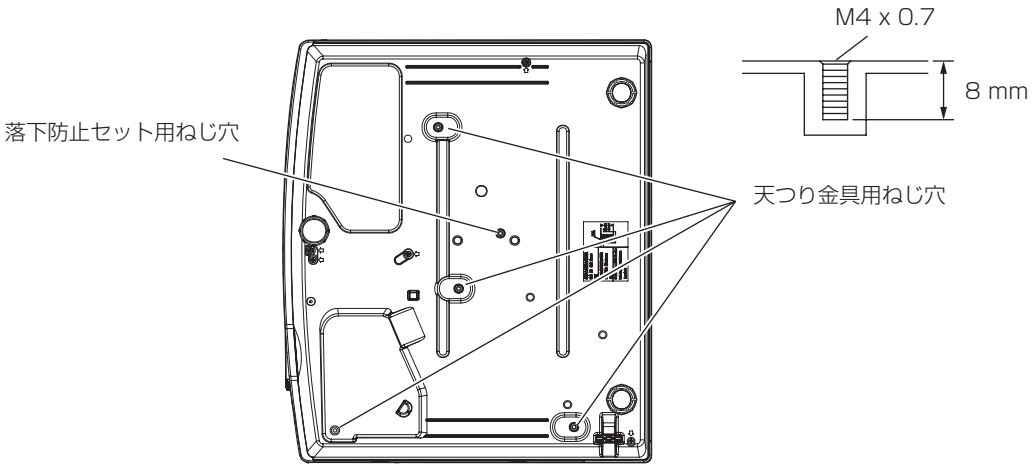
*1　1/1.001 倍の垂直走査周波数の信号にも対応しています。

天つり金具取り付け時の注意事項

- 本製品を天井に取り付ける場合は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社が指定した別売品の天つり金具（品番：ET-PKL100H（高天井用）または ET-PKL100S（低天井用））と、天つり金具（品番：ET-PKV400B（取付用ベース金具））を組み合わせて設置してください。
  品番：ET-PKL100H（高天井用）、ET-PKL100S（低天井用）、ET-PKV400B（取付用ベース金具）
- 取り付けの際は、天つり金具に付属の落下防止セットを取り付けてご使用ください。
- 天井取り付けなどの設置工事は、工事専門業者にご依頼ください。
- パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社製以外の天つり金具の使用、および天つり金具設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても責任を負いかねますのでご注意ください。
- ご使用を終了した製品は、工事専門業者にご依頼のうえ速やかに撤去してください。
- ねじ類の締めつけの際は、トルクドライバーまたは六角トルクレンチを使用し、規定値内のトルクで締めつけてください。電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。
  （ねじの締めつけトルク：1.25 ± 0.2 N·m）
- 詳しくは、天つり金具の施工説明書をお読みください。
- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。

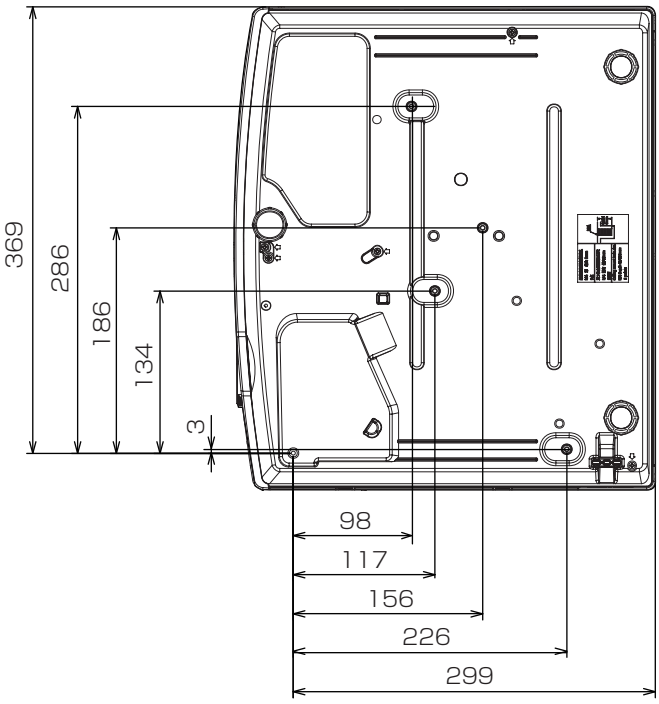
■ プロジェクター固定用ねじ穴仕様（本体底面）

単位：mm



■ プロジェクター固定用ねじ穴寸法図（本体底面）

単位：mm



さくいん

A
〈AC IN〉端子 23, 37
〈AUTO SETUP〉ボタン
　本体 24
　リモコン 21

C
〈CEC〉ボタン
　リモコン 21
〈COMPUTER〉ボタン
　リモコン 21

D
[DIGITAL LINK] 107
DIGITAL LINK 17
[DIGITAL LINK IN] 79
[DIGITAL LINK ステータス] 108
〈DIGITAL LINK〉ボタン
　リモコン 21
[DIGITAL LINK メニュー] 108
[DIGITAL LINK モード] 107

E
〈ECO〉ボタン
　リモコン 53
〈ENTER〉ボタン
　本体 24
EXTRON XTP 108

H
〈HDMI 1〉ボタン
　リモコン 21
〈HDMI 2〉ボタン
　リモコン 21
[HDMI CEC] 99
[HDMI IN] 78

I
〈ID ALL〉ボタン
　リモコン 21, 53
〈ID SET〉ボタン
　リモコン 21, 53
〈INPUT SELECT〉ボタン
　本体 24

M
〈MENU〉ボタン
　本体 24

N
〈NETWORK/USB〉ボタン
　リモコン 21

P
〈P-TIMER〉ボタン
　リモコン 21
[PJLink] 114
「Presenter Light ソフトウェア」について 129

R
[RGB/YC_BC_R] 64
[RGB/YP_BP_R] 64
[RGB システム] 64
[RS-232C] 92

S
〈SERIAL IN〉端子 194
〈SHUTTER〉ボタン
　本体 24

あ
[明るさ] 60
アジャスター脚の調整 46
[アスペクト] 73
〈アスペクト〉ボタン
　リモコン 21, 51
[アドバンスドメニュー] 62
アフターサービス 210
アプリケーションソフトについて 18
安全上のご注意 5

い
[イーサネットタイプ] 107
[位置調整] 66
[色あい] 61
[色温度設定] 61
[色の濃さ] 61

う
運搬上の留意点 13

え
エアフィルターユニット 184
[映像調整] 60
[映像モード] 60

お
[オートセットアップ設定] 80
[オーバースキャン] 73
お手入れ 181
〈オンスクリーン〉ボタン
　リモコン 49
オンスクリーンメニュー 56
[音声設定] 94
温度インジケーター 180
〈音量 +〉ボタン
　リモコン 21, 49
〈音量 -〉ボタン
　リモコン 21, 49

か
外形寸法図 201
[回転] 117
[ガンマ選択] 62
[管理者アカウント] 111

き
[起動方法] 87
[曲面スクリーン補正] 70

く
[クランプ位置] 74
[クロックフェーズ] 73

け
〈決定〉ボタン
　リモコン 21

こ
光源 / 温度インジケーター 180
[光源電力] 90
工場出荷時の状態に戻す 57
[高速スタートアップ] 91
[コーナー補正] 68
ご使用になる前に 13
[コントラスト] 60

さ
サブメニュー 57

し
[自己診断] の表示 187
[シフト] 72
[シャープネス] 61
〈シャッター〉ボタン
　本体 48
[シャッター設定] 80
〈シャッター〉ボタン
　リモコン 21, 48
修理のご依頼の前に 185
仕様 198
〈消音〉ボタン
　リモコン 21, 48
使用上の留意点 18
[初期化] 117
初期設定 38

す
[スクリーン設定] 79
[スクリーン補正] 66
〈スクリーン補正〉ボタン
　リモコン 21, 50
[スタートアップロゴ] 80
[ステータス] 86
〈ステータス〉ボタン
　リモコン 52
[スライド効果] 116

せ
〈静止〉ボタン
　リモコン 21, 49
[セキュリティー] 104
セキュリティーに関するお願い 15
接続 32
設置 27
設置形態 27
設置に関する留意点 13
[セットスライド] 116

そ
[操作設定] 105
[操作設定パスワード変更] 106
[ソート順] 116
[その他の機能] 84

た
対応信号リスト 202
[ダイナミックコントラスト] 63

て
[データクローニング] 103
[テキスト設定] 104
[テキスト変更] 105
[デジタルシネマリアリティー] 63
〈デジタルズーム +〉ボタン
　リモコン 50
デジタルズーム拡張 67
〈デジタルズーム -〉ボタン
　リモコン 50
[テストパターン] 96
〈テストパターン〉ボタン
　リモコン 52
〈デフォルト〉ボタン
　リモコン 21, 57
電源インジケーター 37
電源コード 37
電源コードの接続 37
電源ボタン
　本体 23
　リモコン 21
電源を入れる 38
電源を切る 43
天つり金具取り付け時の注意事項 206

と
投写する 44
投写する映像の選択 44
[投写方式] 88
[ドットクロック] 72

に
[入力検出] 81
入力信号切り換え 44

ね
[ネットワーク] 107
[ネットワークコントロール] 114
[ネットワークステータス] 110
[ネットワークセキュリティー] 113
ネットワーク接続 120

は
廃棄について 18
[パスワード設定] 104
[パスワード変更] 104
[バックカラー] 81

ひ
[表示オプション] 77
表示言語 76

ふ
〈ファンクション〉ボタン
　リモコン 21
付属品の確認 20
部品交換 184
[フレームロック] 74
[プレゼンテーションタイマー] 81
[プロジェクター ID] 87
[プロジェクター設定] 86
[プロジェクター名] 110

へ
[ベストフィット] 117

ほ
保証とアフターサービス 210
本体 22

む
無線 LAN で接続する 125

め
メインメニュー 57
メニュー画面の操作方法 56
メニュー項目 57

〈メニュー〉ボタン
　リモコン……21, 56
メモリービューワー……116

も
〈戻る〉ボタン
　リモコン……21

ゆ
[ユーザーアップデート]……103
[ユーザーイメージ]……102
[有線 LAN]……109
有線 LAN で接続する……123
[ユニフォーミティー]……82

ら
ランプインジケーター……180

り
[リアルタイム台形補正]……66
[リピート]……117
リモコン……21
リモコン操作……48

れ
[レンズ遮蔽検知]……93

ろ
6点補正……71

保証とアフターサービス

よくお読みください

故障・修理・お取扱い・メンテナンス
などのご相談は、まず、
お買い上げの販売店
へ、お申し付けください。

お買い上げの販売店がご不明の場合は、パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター（下記）までご連絡ください。

* 内容により、お近くの窓口をご紹介させていただく場合がありますのでご了承ください。

保証書

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ずお確かめのうえ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。
万一、保証期間内に故障を生じた場合には、保証書記載内容に基づき、「無料修理」させていただきます。

保証期間：お買い上げ日から本体３年間
ただしメンテナンス部品（合成ブロック）は除く

* 保証内容に関して、詳しくは次の Web サイトの「保証とアフターサービス」のページをご確認ください。
https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector

補修用性能部品の保有期間

８年

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社では、プロジェクターの補修用性能部品を、製造打ち切り後、８年間保有しています。

* 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理のご依頼について

この取扱説明書を再度ご確認のうえ、お買い上げの販売店までご連絡ください。

■ 保証期間中の修理は...

保証書の記載内容に従って、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は...

修理により、機能、性能の回復が可能な場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ ご連絡いただきたい内容

品名	液晶プロジェクター
品番	PT-VMZ82J PT-VMZ72J PT-VMZ62J
製造番号	
お買い上げ日	
故障の状況	

パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター

電話 フリーダイヤル **0120-872-601**
※携帯電話からもご利用になれます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9：00～17：30（12：00～13：00は受付のみ）

URL https://connect.panasonic.com/jp-ja/projector_support

* 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
* お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

【当サポートセンターにおけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社
〒571-8503　大阪府門真市松葉町2番15号

© Panasonic Projector & Display Corporation 2025